新幹線文化財調査事務所調査報告書　第11集

九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

ＸＩ

竹松遺跡（たけまついせき）Ⅳ

上　巻

旧石器・縄文編

２０１９

長崎県教育委員会

新幹線文化財調査事務所調査報告書　第11集

九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

ＸＩ

竹松遺跡（たけまついせき）Ⅳ

上　巻

旧石器・縄文編

調査区遠景　南から

手前はTAK201403調査区。中央右がTAK201404調査区。その先に、TAK201405調査区、TAK201407調査区、TAK201406調査区と続く。奥は大村湾。

発刊にあたって

本書は、九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)建設工事に伴って実施した、大村市竹松遺跡の発掘調査報告書です。

竹松遺跡は、かねてより原始・古代の遺跡として知られておりましたが、九州新幹線の車両整備のため、保守基地(後に車両基地に拡大)が建設されることになりましたので、やむなく発掘調査に至ったものです。

併せて新幹線の車両が走ります路線部の発掘調査も行いました。

調査面積は、約10万㎡にも及び、原始時代から、古代、中世に至る住居跡や墓地など、約700基の遺構が検出され、出土した遺物は約70万点にも上りました。

同遺跡の発掘調査は、平成23年度から着手し、同28年度に終了いたしましたが、これほどの広大な土地を発掘調査いたしましたのは、本県では、壱岐市にある国の特別史跡の原の辻遺跡ぐらいでしたので、本土部では初めての調査規模となりました。

本書は、平成26年度の発掘調査成果のうち、旧石器時代と縄文時代の成果を掲載しております。本書を含め、竹松遺跡の一連の発掘調査報告書が、郷土の歴史に新たな発見と展開をもたらすことを期待しております。

最後になりましたが、発掘調査を支援していただいた共同企業体の皆様や、暑さ寒さの厳しいなか、発掘調査に従事された外業作業員の方々をはじめ、さまざまな形でご協力いただいた大村市教育委員会や独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構の皆様など、関係者の皆様に厚く御礼申し上げまして、刊行のあいさつといたします。

令和元年７月31日

長崎県教育委員会教育長
池　松　誠　二

例　　言

1．本書は、九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)建設(事業主体：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構)に伴って実施した長崎県大村市に所在する竹松遺跡のTAK201403調査区(大村市竹松町676番地３ほか所在、調査面積6,320㎡)とTAK201404調査区(大村市竹松町1201番地１ほか所在、調査面積7,720㎡)、TAK201405調査区(大村市竹松町1101番地ほか所在、調査面積9,487㎡)、TAK201406調査区(大村市竹松町733番地ほか所在、調査面積4,920㎡)、TAK201407調査区(大村市竹松町1,093番１ほか所在、調査面積6,876㎡)の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

なお、本報告書である『竹松遺跡Ⅳ』上巻は、上記の各調査区から出土した旧石器および縄文時代の遺構、遺物の報告を掲載している。

2．調査は、長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所が主体となり、TAK201403調査区は㈱埋蔵文化財サポートシステムと扇精光コンサルタンツ㈱の共同企業体の支援を得た。また、TAK201404調査区は国際文化財㈱と㈱三基の共同企業体の支援を得、TAK201405調査区は大成エンジニアリング㈱と㈱創建の共同企業体の支援を得て行い、TAK201406調査区は㈱島田組と扇精光コンサルタンツ㈱の共同企業体の支援を得て行った。さらにTAK201407調査区は㈱大信技術開発と㈱プロレリックの共同企業体の支援を得て行った。調査期間は以下のとおりである。

(1)範囲確認調査(【　】は遺跡調査番号)

TAK201403調査区：平成25(2013)年１月10日(木)～同年２月20日(水)【TAK201217】

TAK201404調査区、TAK201405調査区，TAK201406調査区，TAK201407調査区

：平成25(2013)年10月21日(月)～同年12月２日(月)【TAK201309】

(2)本調査

TAK201403調査区：平成26年５月28日(水)～平成26年10月20日(月)

TAK201404調査区：平成26年５月30日(金)～平成27年２月10日(火)

TAK201405調査区：平成26年５月28日(水)～平成27年２月27日(金)

TAK201406調査区：平成26年７月３日(木)～平成27年２月９日(月)

TAK201407調査区：平成26年７月１日(火)～平成27年３月６日(金)

3．遺物写真撮影は一瀬勇二、新久保恒和が行った。デジタルトレースは縄文時代の石器を川道寛、縄文時代の遺構と遺物を村川逸朗、山﨑円が行った。また、一部を㈱九州文化財研究所に委託した。

4．本報告書の執筆担当者は本文目次に(　　)で示している。執筆・編集は川道寛、村川逸朗が分担した。

5．本書で用いた座標は、すべて世界測地系を用い、方位はすべて座標北である。

6．記録類および出土遺物は、長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所に保管している。

7．遺跡調査番号はTAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201406、TAK201407である。

8．本書で使用した遺構番号は以下のとおりである。

SC：竪穴建物跡　SD：溝　SK：土坑　SL：炉、焼土　SP：柱穴　ST：埋葬施設　SX：不明遺構
SS：集石　SU：遺物集積　TP：試掘坑

9．本書は紙幅の都合により「調査の経緯」「歴史的環境、地理的環境」を割愛した。『竹松遺跡Ⅰ』『竹松遺跡Ⅱ』を参照いただきたい。

総 目 次

※（　）内は執筆者

上巻

Ⅰ　調査組織と方法（古門）
1　調査組織……1
2　遺跡位置……3
3　調査方法……4
Ⅱ　層序（古門・川畑）
1　共通土層……5
2　TAK201403の基本層序……5
3　TAK201404の基本層序……5
4　TAK201405の基本層序……6
5　TAK201406の基本層序……6
6　TAK201407の基本層序……6
Ⅲ　遺構と遺物
1　旧石器時代（川道）
(1)TAK201404調査区の包含層出土の旧石器……23
(2)TAK201406調査区の包含層出土の旧石器……23
2　縄文時代（村川・川道）
(1)調査区（TAK201403・201404・201405・201406・201407）の概要…26
(2)主な遺構と遺物……26
(3)包含層出土の縄文土器……46
(4)遺物（石器）……75
(5)蛍光X線分析による黒曜石製石器の産地同定……166
(6)小結……173

中巻

3　弥生時代（中川）
(1)掘立柱建物（SB）……8
(2)竪穴建物（SC）……13
(3)溝（SD）……56
(4)土坑（SK）……71
(5)焼土（SL）……87
(6)柱穴（SP）……88
(7)集石（SS）……93
(8)墳墓（ST）……95
(9)不明遺構（SX）……134
(10)畦畔……144
(11)自然流路（NR）……149
(12)包含層出土遺物……151
4　古墳時代（中川）
(1)掘立柱建物（SB）……167
(2)竪穴建物（SC）……173
(3)溝（SD）……245
(4)土坑（SK）……249
(5)カマド・焼土（SL）……254
(6)柱穴（SP）……255
(7)遺物集積（SU）……260
(8)古墳周溝（SZ）……282
(9)畦畔……285
(10)包含層出土遺物……287
(11)まとめ……305

下巻

5　古代（川畑）
(1)欄列（SA）……6
(2)掘立柱建物跡（SB）……8
(3)竪穴建物跡（SC）……13
(4)溝・河川（SD）……18
(5)土坑（SK）……32
(6)焼土（SL）……38
(7)柱穴（SP）……39
(8)集石（SS）……49
(9)墓（ST）……50
(10)遺物集積（SU）……51
(11)不明遺構（SX）……54
(12)自然流路（NR）……56
(13)包含層（2層）出土の遺物……57
(14)包含層（3層）出土の遺物……65
(15)小結……88
6　中世（川畑）
(1)欄列（SA）……99
(2)掘立柱建物（SB）……103
(3)溝状遺構（SD）……136
(4)道路状遺構（SF）……211
(5)土坑（SK）……214
(6)畦畔……225
(7)柱穴（SP）……228
(8)集石（SS）……242
(9)墓（ST）……251
(10)不明遺構（SX）……252
(11)包含層（2層）出土の遺物……257
(12)包含層（3層）出土の遺物……278
(13)小結……300
7　その他（古門）
長崎県本土部における古代の土師器坏研究の現状整理と若干の考察－9世紀の彼杵郡・高来郡の土師器坏を中心に－……315

Ⅳ　附編（自然科学分析結果）……327

Ⅴ　まとめ（古門）……370

上巻本文目次

※（　）内は執筆者

Ⅰ　調査組織と方法（古門）
1　調査組織……1
2　遺跡位置……3
3　調査方法……4

Ⅱ　層序（古門・川畑）
1　共通土層……5
2　TAK201403の基本層序……5
3　TAK201404の基本層序……5
4　TAK201405の基本層序……6
5　TAK201406の基本層序……6
6　TAK201407の基本層序……6

Ⅲ　遺構と遺物
1　旧石器時代（川道）
(1)TAK201404調査区の包含層出土の旧石器……23
(2)TAK201406調査区の包含層出土の旧石器……23
2　縄文時代（村川・川道）
(1)調査区（TAK201403・201404・201405・201406・201407）の概要…26
(2)主な遺構と遺物……26
SC1……26
SC1・SK1……26
SC2……29
SC3……38
SK9……40
SX2……41
SX7……42
SD3内 SP98……43
SP101……43
土器集中№167、№170……44、45
(3)包含層出土の縄文土器……46
①Ⅰ群土器　縄文時代早期の土器……46
②Ⅱ群土器　縄文時代中期の土器……46
③Ⅲ群土器　縄文時代後期の土器……46
④Ⅳ群土器　縄文時代晩期～弥生時代早期の土器……46
⑤縄文時代土器小結……74
(4)遺物（石器）……75
①TAK201403調査区の包含層出土の石器……76
②TAK201404調査区の包含層出土の石器……81
第Ⅰ～Ⅲ層出土の石器……81
第Ⅳ層出土の石器……103
③TAK201405調査区の包含層出土の石器……111
④TAK201406調査区の包含層出土の石器……116
第Ⅰ～Ⅲ層出土の石器……116
第Ⅳ層出土の石器……130
⑤TAK201407調査区の包含層出土の石器……141
第Ⅰ～Ⅲ層出土の石器……141
第Ⅳ層出土の石器……150
(5)蛍光X線分析による黒曜石製石器の産地同定……166
(6)小結……173
①石器組成……173
②縄文時代晩期の剥片剥離技術……175
③縄文時代晩期の黒曜石にみられる被熱痕跡……177

上巻挿図目次(1)

第1図　遺跡位置図……3
第2図　保守・車両基地概略図……4
第3図　欠番
第4図　大調査区 TAK201403～07と小調査区区割図……7
第5図　グリッド配置図……9～10
第6図　新幹線大村車両基地調査区位置図(S＝1/5,000)……11
第7図　TAK201403調査区土層図－1(S＝1/80)……12
第8図　TAK201403調査区土層図－2(S＝1/80)……13
第9図　TAK201404調査区土層図－1(S＝1/80)……14
第10図　TAK201404調査区Ｋ土層図－2(S＝1/80)……15
第11図　TAK201404調査区Ｋ土層図－3(S＝1/80)……16
第12図　TAK201405調査区Ｋ土層図－1(S＝1/80)……17
第13図　TAK201405調査区Ｋ土層図－2(S＝1/80)……18
第14図　TAK201407調査区Ｋ土層図－1(S＝1/80)……19
第15図　TAK201407調査区Ｋ土層図－2(S＝1/80)……20
第16図　TAK201406調査区Ｋ土層図－1(S＝1/80)……21
第17図　TAK201406調査区Ｋ土層図－2(S＝1/80)……22
第18図　TAK201404調査区Ｋ土旧石器実測図(S＝2/3)……23
第19図　TAK201406調査区Ｋ土旧石器実測図(S＝2/3)……23
第20図　TAK201404調査区縄文時代遺構配置図(S＝1/600)……25
第21図　SC1・SK1遺構実測図(S＝1/80)……27
第22図　SK1遺構実測図(S＝1/80)……27
第23図　SC1下層遺構実測図(S＝1/80)……28
第24図　SC1・SK1出土遺物実測図(S＝1/3)……28
第25図　SC2遺構実測図(S＝1/80)……29
第26図　SC2出土遺物実測図①(S＝1/3)……30
第27図　SC2出土石器実測図①(S＝2/3)……33
第28図　SC2出土石器実測図②(S＝2/3)……35
第29図　SC3遺構実測図(S＝1/80)……38
第30図　SC3出土遺物実測図(S＝1/3)……39
第31図　SK9遺構実測図(S＝1/40)……40
第32図　SK9出土遺物実測図(S＝1/4)……40
第33図　SX2遺構実測図(S＝1/40)……41
第34図　SX2出土遺物実測図(S＝1/3)……41
第35図　SX7遺構実測図(S＝1/80)……42
第36図　SX7出土遺物実測図(S＝1/3)……42
第37図　SD3内 SP98遺構実測図(S＝1/40)……43
第38図　SD3内 SP98出土遺物実測図(S＝1/3)……43
第39図　SP101遺構実測図(S＝1/40)……43
第40図　SP101出土遺物実測図(S＝1/3)……43
第41－1図　土器集中 No. 167出土遺物実測図(S＝1/3)……44
第41－2図　土器集中 No. 170出土遺物実測図(S＝1/3)……45
第42図　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物実測図①(S＝1/3)……48
第43図　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物実測図②(S＝1/3)……50
第44図　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物実測図③(S＝1/3)……52
第45図　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物実測図④(S＝1/3)……54
第46図　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物実測図⑤(S＝1/3)……56
第47図　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物実測図⑥(S＝1/3)……58
第48図　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物実測図⑦(S＝1/3)……60
第49図　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物実測図⑧(S＝1/3)……62
第50図　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物実測図⑨(S＝1/3)……64
第51図　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物実測図⑩(S＝1/3)……66
第52図　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物実測図⑪(S＝1/3)……68
第53図　TAK201403調査区Ｋ出土の石器①(S＝2/3)……76
第54図　TAK201403調査区Ｋ出土の石器②(S＝1/3)(S＝1/2)……78
第55図　TAK201403調査区Ｋ出土全面磨製石器(S＝1/2)……80
第56図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石鏃①(S＝2/3)……82
第57図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石鏃②(S＝2/3)……83
第58図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石器①(S＝1/2)……85
第59図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石器②(S＝2/3)……87
第60図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の剥片(S＝2/3)……89
第61図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の礫器・石核①(S＝1/2)(S＝2/3)……91
第62図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石核②(S＝2/3)……92
第63図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の打製石斧類(S＝1/3)……94
第64図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の扁平打製石斧①(S＝1/3)……95
第65図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の扁平打製石斧②(S＝1/3)……96
第66図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の扁平打製石斧③(S＝1/3)……98
第67図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の扁平打製石斧④(S＝1/4)……100

上巻挿図目次 (2)

第68図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の磨製石斧(S＝1/3) …102
第69図　TAK201404調査区Ⅳ層出土の石器(S＝2/3) ……104
第70図　TAK201404調査区Ⅳ層出土の石斧(S＝1/3) ……107
第71図　TAK201404調査区Ⅳ層出土の両端抉入石器(S＝1/2) …109
第72図　TAK201405調査区出土の石器①(S＝2/3) ……112
第73図　TAK201405調査区出土の石器②(S＝2/3)(S＝1/2)(S＝1/3) …113
第74図　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石器①(S＝2/3) …117
第75図　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石器②(S＝1/3)(S＝2/3) …119
第76図　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の剥片①(S＝2/3) ……121
第77図　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の剥片②(S＝2/3) ……123
第78図　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石核①(S＝2/3) ……125
第79図　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石核②(S＝2/3) …127
第80図　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石斧(S＝1/3) ……129
第81図　TAK201406調査区Ⅳ層出土の石器(S＝2/3) ……131
第82図　TAK201406調査区Ⅳ層出土の剥片①(S＝2/3) ……132
第83図　TAK201406調査区Ⅳ層出土の剥片②(S＝2/3) ……134
第84図　TAK201406調査区Ⅳ層出土の石核(S＝2/3) ……136
第85図　TAK201406調査区Ⅳ層出土の石斧(S＝1/3) ……138
第86図　TAK201407調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石器(S＝2/3) ……142
第87図　TAK201407調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の剥片①(S＝2/3) …144
第88図　TAK201407調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の剥片②(S＝2/3) …146
第89図　TAK201407調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石核(S＝2/3) ……148
第90図　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石器(S＝2/3) ……150
第91図　TAK201407調査区Ⅳ層出土の剥片(S＝2/3) ……152
第92図　TAK201407調査区Ⅳ層出土の凹石・石皿(S＝1/3) …154
第93図　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧①(S＝1/3) ……155
第94図　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧②(S＝1/3) ……157
第95図　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧③(S＝1/3) ……159
第96図　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧④(S＝1/3) ……161
第97図　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧⑤(S＝1/3) ……163
第98図　九州地方の黒曜石原産地 ……166
第99図　TAK201406調査区Ⅳ層出土石器の産地同定 ……167
第100図　TAK201407調査区Ⅳ層出土石器の産地同定 ……168
第101図　県央地域遺跡別の原産地利用 ……169
第102図　TAK201407調査区における扁平打製石斧の地域別分布 …174
第103図　縄文晩期の小型石核と小型剥片 ……176
第104図　縄文時代晩期の黒曜石製石器の被熱痕 ……179
第105図　竹松遺跡全体遺構配置図(S＝1/1500) ……181～182

上巻表目次

第1表　SC1・SK1出土土器観察表 ……28
第2表　SC2出土土器観察表 ……31
第3表　SC2出土石器計測表 ……37
第4表　SC3出土土器観察表 ……39
第5表　SK9出土土器観察表 ……40
第6表　SX2出土土器観察表 ……41
第7表　SX7出土土器観察表 ……42
第8表　SD3内 SP98出土土器観察表 ……43
第9表　SP101出土土器観察表 ……43
第10－1表　土器集中 No. 167出土土器観察表 ……44
第10－2表　土器集中 No. 170出土土器観察表 ……45
第11表　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土土器観察表①…70
第12表　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土土器観察表②…71
第13表　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土土器観察表③…72
第14表　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土土器観察表④…73
第15表　TAK201403調査区出土の石器観察表 ……80
第16表　TAK201404調査区出土の石器観察表① ……109
第17表　TAK201404調査区出土の石器観察表② ……110
第18表　TAK201404調査区出土の石器観察表③ ……111
第19表　TAK201405調査区出土の石器観察表 ……115
第20表　TAK201406調査区出土の石器観察表① ……139
第21表　TAK201406調査区出土の石器観察表② ……140
第22表　TAK201407調査区出土の石器観察表① ……164
第23表　TAK201407調査区出土の石器観察表② ……165
第24表　判別データ① ……170
第25表　判別データ② ……171
第26表　判別データ③ ……172
第27表　石器組成表 ……174

上巻図版目次 (1)

図版1　TAK201404調査区出土旧石器 ……23
図版2　TAK201406調査区出土旧石器 ……23
図版3　竹松遺跡 TAK201404他調査区空撮 ……24
図版4　SC1遺構検出状況 ……27
図版5　SC1・SK1出土遺物 ……28
図版6　SC2遺構検出状況 ……29
図版7　SC2出土遺物 ……31
図版8　SC2出土石器① ……34
図版9　SC2出土石器② ……36
図版10　SC3遺構検出状況 ……38
図版11　SC3出土遺物 ……39
図版12　SK9遺構検出状況 ……40
図版13　SK9出土遺物 ……40
図版14　SX2遺構検出状況 ……41
図版15　SX2出土遺物 ……41
図版16　SX7遺構検出状況 ……42
図版17　SX7出土遺物 ……42
図版18　SD3内 SP98出土遺物 ……43
図版19　SP101出土遺物 ……43
図版20　土器集中 No. 167・No. 170遺構検出状況 ……44
図版21－1　土器集中 No. 167出土遺物 ……44
図版21－2　土器集中 No. 170出土遺物 ……45
図版22　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物① …49
図版23　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物② …51
図版24　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物③ …53
図版25　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物④ …55
図版26　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物⑤ …57
図版27　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物⑥ …59
図版28　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物⑦ …61
図版29　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物⑧ …63
図版30　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物⑨ …65
図版31　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物⑩ …67
図版32　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物⑪ …69
図版33　TAK201403調査区出土の石器① ……77
図版34　TAK201403調査区出土の石器② ……79
図版35　TAK201403調査区出土全面磨製石器 ……80
図版36　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石鏃 ……84
図版37　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石器① ……86
図版38　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石器② ……88
図版39　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の剥片 ……90
図版40　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の礫器・石核 ……93
図版41　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の打製石斧類 ……94
図版42　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の扁平打製石斧① ……97
図版43　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の扁平打製石斧② ……99
図版44　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の扁平打製石斧③ …101
図版45　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の磨製石斧 ……103
図版46　TAK201404調査区Ⅳ層出土の石器 ……105
図版47　TAK201404調査区Ⅳ層出土の石斧 ……108
図版48　TAK201405調査区出土の石器 ……114
図版49　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石器① ……118
図版50　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石器② ……120
図版51　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の剥片① ……122
図版52　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の剥片② ……124
図版53　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石核① ……126
図版54　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石核② ……128
図版55　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅱ層出土の石斧 ……130

上巻図版目次(2)

図版56　TAK201406調査区Ⅳ層出土の石器 ……131
図版57　TAK201406調査区Ⅳ層出土の剝片① ……133
図版58　TAK201406調査区Ⅳ層出土の剝片② ……135
図版59　TAK201406調査区Ⅳ層出土の石核 ……137
図版60　TAK201406調査区Ⅳ層出土の石斧 ……138
図版61　TAK201407調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石器 ……143
図版62　TAK201407調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の剝片① ……145
図版63　TAK201407調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の剝片② ……147
図版64　TAK201407調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石核 ……149
図版65　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石器 ……151
図版66　TAK201407調査区Ⅳ層出土の剝片 ……153
図版67　TAK201407調査区Ⅳ層出土の凹石・石皿 ……154
図版68　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧① ……156
図版69　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧② ……158
図版70　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧③ ……160
図版71　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧④ ……162
図版72　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧⑤ ……163

Ⅰ　調査組織と方法

1 調査組織

竹松遺跡のTAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201406、TAK201407の各調査区の発掘調査は、長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所が担当し、作業員の雇用・労務管理・現場の安全管理および地形測量・遺構実測・空中写真撮影などを竹松遺跡特定埋蔵文化財発掘調査共同企業体に委託した。共同企業体の構成員はTAK201403調査区が㈱埋蔵文化財サポートシステムと扇精光コンサルタンツ㈱の共同企業体。TAK201404調査区は国際文化財㈱と㈱三基の共同企業体。TAK201405調査区は大成エンジニアリング㈱と㈱創建の共同企業体。TAK201406調査区は㈱島田組と扇精光コンサルタンツ㈱の共同企業体。TAK201407調査区は㈱大信技術開発と㈱プロレリック共同企業体である。

(1)新幹線文化財調査事務所

所長　副島和明(平成24年度～25年度)、古門雅高(平成26年度～令和元年度)

課長　田尻清秀(平成24年度～27年度)、小島克孝(平成28年度～令和元年度)、
杉原敦史(平成26年度～令和元年度)

係長　村川逸朗(平成24年度～27年度)、中尾篤志(平成28年度～平成30年度)

主任主事　浜口広史(平成25年度～28年度)、主事　水口真理子(平成28年度～平成30年度)

(2)TAK201403調査区

①試掘・範囲確認調査

調査期間：平成25年1月10日～2月20日

調査担当：村川逸朗、山梨千晶　　遺跡調査番号：TAK201217

②本調査担当

濵村一成(文化財保護主事)、小川慶晴(文化財調査員・現南島原市教委)、竹本成美(文化財調査員)、東郷一子(同)

【埋蔵文化財サポートシステム㈱】　現場代理人：山下真司、調査員：大坪芳典、知花一正、竹田ゆかり

【扇精光コンサルタンツ㈱】　調査員：青木翔太郎、織田健吾、松田早紀子

③調査期間・面積：平成26年5月28日～平成26年10月20日、6,320㎡

④報告書担当

杉原敦史(課長)、中尾篤志(係長)、川畑敏則(主任文化財保護主事)、川道寛(文化財調査員)、村川逸朗(同)、中川潤次(同)、一瀬勇士(同)、新久保恒和(同)、久田ひとみ(同)、柿田佳央理(同)、松屋祥子(同)、中脇(旧姓中島)美希(同)、山崎円(同)、山尾奈美(同)

(3)TAK201404調査区

①試掘・範囲確認調査

調査期間：平成25年10月21日～12月2日

調査担当：村川逸朗、本田秀樹　　遺跡調査番号：TAK201309

②本調査担当

松元一浩(文化財保護主事)、川淵雅行(文化財調査員)、生田次男(同)、松浪千穂(同)、山下歩(同)

【国際文化財㈱】　現場代理人：川村稔　調査員：土岐耕治、吾妻俊典、渡部裕司

【㈱三基】調査員：梅木信宏、高見澤太基

③調査期間・面積：平成26年5月30日～平成27年2月10日、7,720㎡

④報告書担当：TAK201403調査区に同じ

(3)TAK201405調査区

①試掘・範囲確認調査　TAK201404調査区に同じ

②本調査担当

川畑敏則(主任文化財保護主事)、堀内和宏(文化財調査員、現青森県つがる市教育委員会)、江口喬裕(文化財調査員)、新井実和(同)、谷口智亮(同)

【大成エンジニアリング㈱】　現場代理人：浅見克己　調査員：大川康裕、吉田好孝、山中菊乃、久保倉勇輝

【㈱創建】調査員：平田貴正

③調査期間、面積：平成26年5月28日～平成27年2月27日、9,487㎡

④報告書担当：TAK201301調査区に同じ

(4)TAK201406調査区

①試掘・範囲確認調査　TAK201404調査区に同じ

②本調査担当

田島陽子(文化財保護主事)、松崎光伸(文化財調査員)、相良麻衣子(同)、小松義博(同、現平戸市教育委員会)、深堀真(文化財調査員)

【㈱島田組】　現場代理人：三浦清文、調査員：岸本義彦、博谷雅幸、泉谷塁、萩原美香、清岡廣子

【扇精光コンサルタンツ㈱】　調査員：杉本茂喜

③調査期間・面積：平成26年7月3日～平成27年2月9日、4,920㎡

④報告書担当：TAK201403調査区に同じ

(4)TAK201407調査区

①試掘・範囲確認調査　TAK201404調査区に同じ

②本調査担当

浦田和彦(文化財保護主事)、徳弘隆之(文化財調査員)、加世田尊(同、現鹿児島県教育委員会)、渡邊英明(同、現福井県教育委員会)

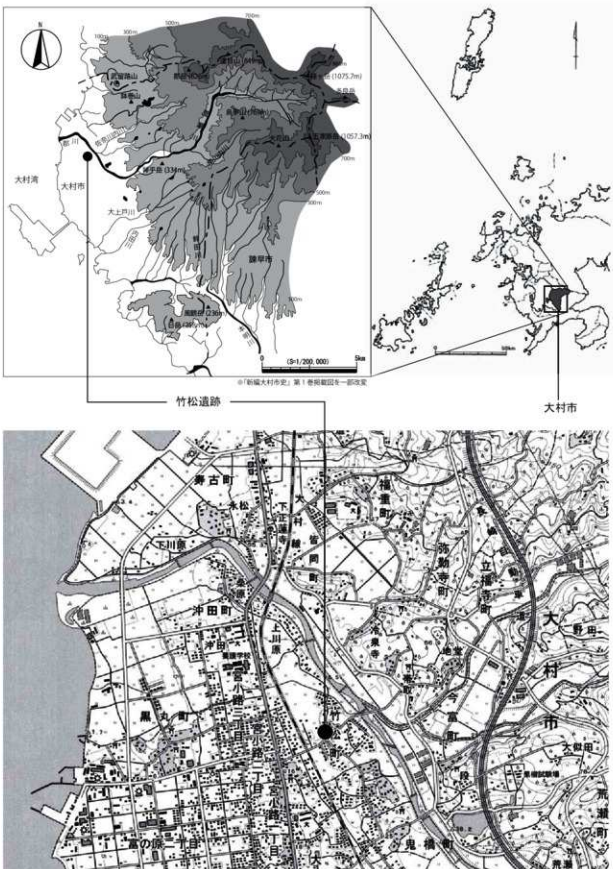
【㈱大信技術開発】　現場代理人：辻村史武　調査員：東貴之、竹田将仁、荒木謙志

【㈱プロレリック】　調査員：村上孝司、木村有喬

③調査期間・面積：平成26年7月1日～平成27年3月6日、6,876㎡

④報告書担当：TAK201403調査区に同じ

2 遺跡位置



※「新編大村市史」第1巻掲載図を一部改変

第1図　遺跡位置図

3 調査方法

発掘調査区は、平面直角座標第Ⅰ系を使用し、4級基準点測量を世界測地系で実施した。グリッドは20m ピッチで設定し、北西交点(グリッドの左上)を基準にX座標の百の位、十の位、Y座標の百の位、十の位の数字を組み合わせて4桁のグリッド番号を付して順に並べ、グリッド名とした。

例えばX座標－6262.000、Y座標42536.000の場合は「2653」グリッドとした。(第5図参照)

調査区が広いので、小調査区を設けた。(第4、5図参照)。

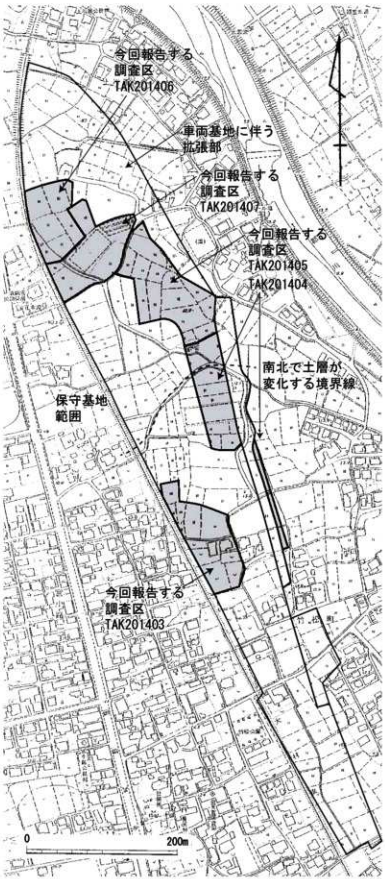
掘削は表土を重機で除去した後に人力で行った。

遺物の取り上げは、遺構に伴うものや原位置を保っていると思われるものについては、出土状況を写真記録するとともに、座標を記録しながら取り上げを行った。

遺構実測は手実測とデジタル実測を併用し、基準点には座標を落とした。

溝などの規模が大きい遺構は、デジタル実測で対応した。

なお、平成24年(2012)6月、諫早・長崎間の着工認可に伴い、大村市に建設予定であった保守基地が車両基地へと拡大変更された。



第2図　保守・車両基地概略図(S＝1/5,000)

Ⅱ　層序

1　共通土層

竹松遺跡の発掘調査においては、年度ごと、調査区ごとに認定する土層において、共通して分布・堆積する土層を「共通土層」と呼び、調査員が認識を共有した。

竹松遺跡の「共通土層」は遺跡の北と南では様相が異なる(第2図)。調査区でいうと、TAK201404調査区内の北部からTAK201108調査区とTAK201302調査区の間を走る市道を境とする。

北側の共通土層を「北部共通土層」、南側の共通土層を「南部共通土層」と呼称した。

平成26年度の調査区では、TAK201403調査区が「南部共通土層」の堆積地で、TAK201404調査区は両者が堆積する。TAK201405調査区、TAK201406調査区、TAK201407調査区は「北部共通土層」の堆積地域である。

①北部共通土層

【第Ⅰ層】表土(耕作土)、【第Ⅱａ層】鉄、マンガン集積層。明黄橙色を呈する。床土、客土。

【第Ⅱｂ層】中世の包含層。鉄、マンガンの集積により、明黄橙色を呈する。色調から床土、客土と判断し、当初は遺物包含層とは認めない調査員もいたが、現場での検討の結果、中世の包含層と判断した。【第Ⅲ層】砂質土。弥生時代の包含層。【第Ⅳ層】古土層(西側には存在しない)「古土層」は通称。強く硬く締まる黄褐色の砂質土である。2万年前から3万年前に形成された土層との見解もある。【第Ⅵ層】旧河川起源の礫層

②南部共通土層

【第Ⅰ層】表土(耕作土)【第Ⅱ層】鉄、マンガンの集積層。明黄橙色。床土、客土。

【第Ⅲ層】黒ボク土の腐植が多い部分。火山性の黒ボク土で、黒色または黒褐色を呈す。

【第Ⅳ層】いわゆる黒ボク土の下層部分である。褐色を呈する。「黄(きな)ボク」と俗称。

【第Ⅴ層】「古土層」【第Ⅵ層】扇状地礫層。大村扇状地の基盤となる砂礫層である。

2　TAK201403の基本層序

調査区すべてが南部共通土層の堆積地域。調査区の土層と南部共通土層の相関は下表のとおり。

土層	特徴	南部共通土層
1層	耕作土	第Ⅰ層
2層	なし	第Ⅱ層
3層	黒ボク(弥生時代から中世の遺物包含層)	第Ⅲ層
4層	黄ボク(遺構面)	第Ⅳ層
5層	古土層　遺物の包含なし	第Ⅴ層
6層	砂礫層	第Ⅵ層

3　TAK201404の基本層序

調査区の3分の2を占める南部共通土層堆積地の土層の相関表を下記する。

土層	特徴	南部共通土層
1層	耕作土	第Ⅰ層
2層	鉄・マンガン集積層	第Ⅱ層

3a 層	暗褐色土　古墳から近世の遺物包含層	第Ⅲ層
3b 層	褐灰色粘質土、粘性弱い。古墳から近世の遺物を含む。	
3c 層	褐色土、弥生時代の遺構検出層。旧 A5区と B6東区北側のみに堆積。	
3d 層	黒褐色土・縄文から弥生の遺物を包含。	
4a 層	褐色土層・縄文から弥生の遺物包含層。調査区北半の一部に分布。	—
対応なし	なし	第Ⅴ層
4b・5層	巨礫が混じる層	第Ⅵ層

4　TAK201405の基本層序

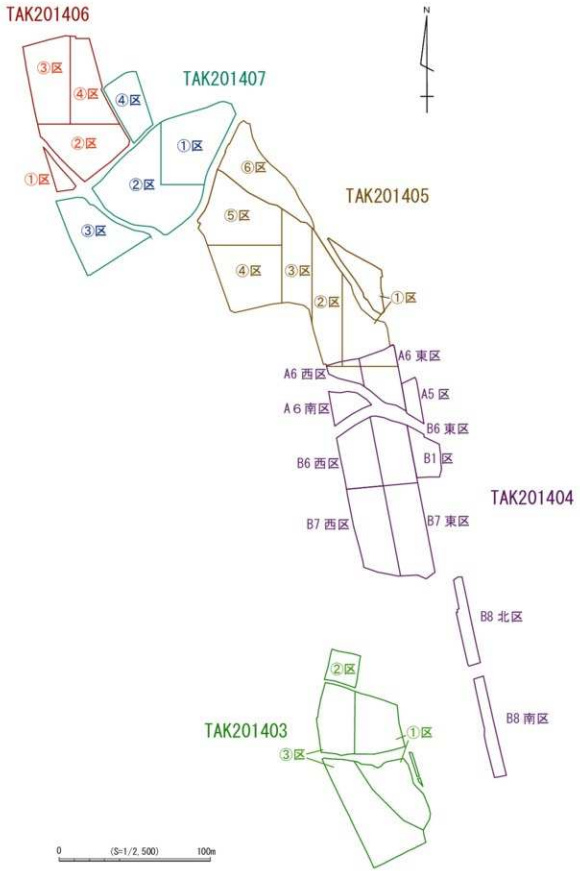
土層	特徴	北部共通土層
1層	耕作土	第Ⅰ層
2層	鉄分沈着した水田床土	第Ⅱｂ層
3a 層	暗褐色土、マンガン混じる　弥生時代後期の遺物包含層	第Ⅲ層
3b 層	褐灰色粘質土、粘性強い。古代の遺物を含む。B 区西側のみに分布	
3c 層	黒褐色土・弥生時代後期の遺物を包含。	
4層	褐色土・縄文時代晩期の遺物を包含。弥生時代後期の遺構検出面	第Ⅳ層
5層	黒褐色砂礫層・縄文晩期の遺物をわずかに含む。B 区西側のみに分布。	—
6層	黄褐色礫層	第Ⅵ層

5　TAK201406の基本層序

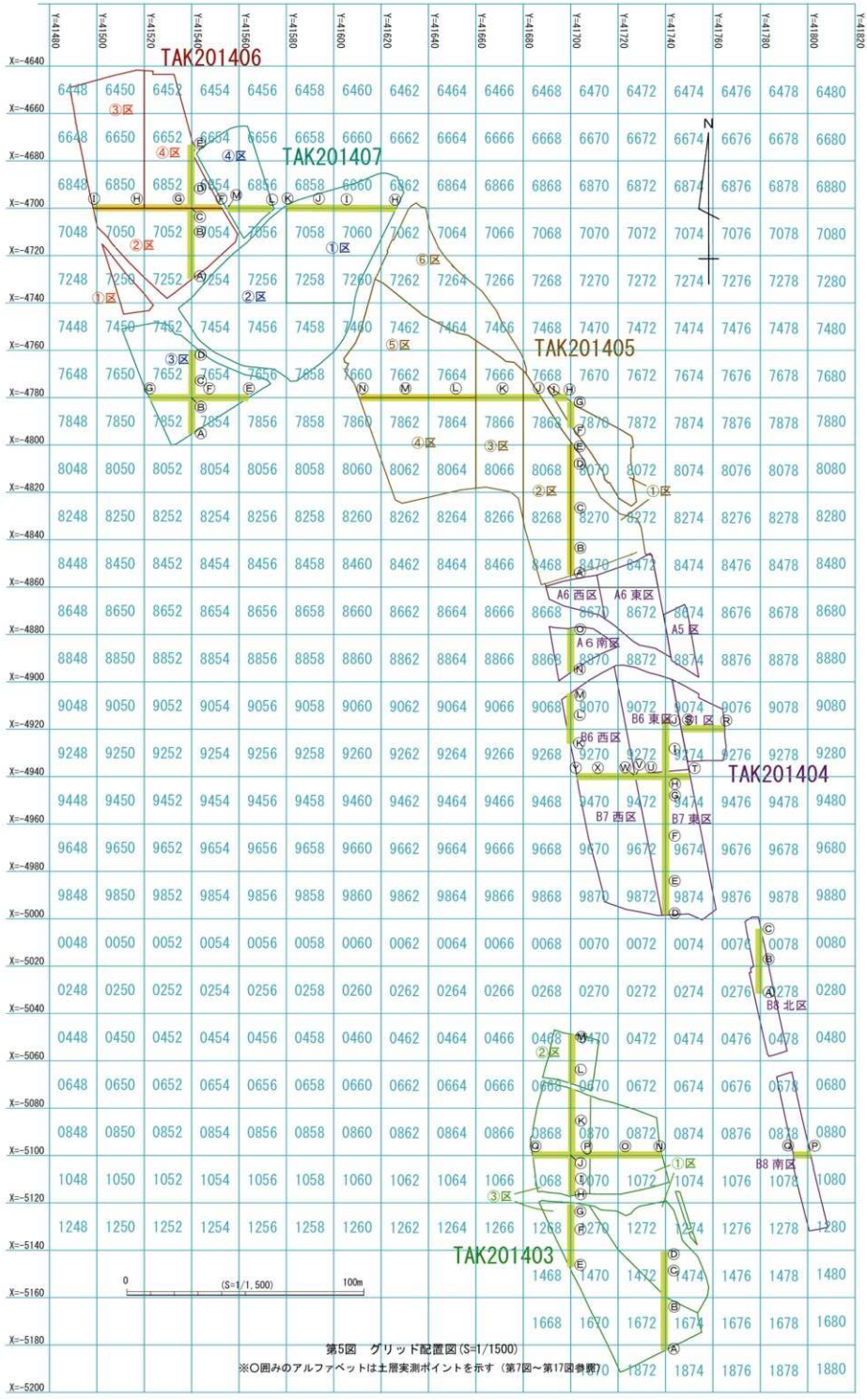
土層	特徴	北部共通土層
第1層	表土（耕作土）	第Ⅰ層
第2層	明黄褐色土　鉄分沈着　下層から中世の遺構を検出。	第Ⅱａ、Ⅱｂ層
第3層	黒褐色土　古墳時代の遺構確認面。下層になるに従いシルト。	第Ⅲ層
第4層	褐色細粒砂層。弥生時代後期の遺構確認面。部分的に1m 超。	第Ⅳ層
第5層	扇状地堆積砂礫層	第Ⅵ層

6　TAK201407の基本層序

土層	特徴	北部共通土層
第1層	黒褐色土（耕作土・表土）　10YR3/2	第Ⅰ層
第2層	褐色粘質土（床土）　7. 5YR4/6	第Ⅱａ層
第3層	暗オリーブ褐色土　2. 5Y3/3	第Ⅲ層
第4層	にぶい黄褐色砂質土　10YR4/3	第Ⅳ層
第5層	暗褐色砂礫層　10YR3/3	第Ⅵ層

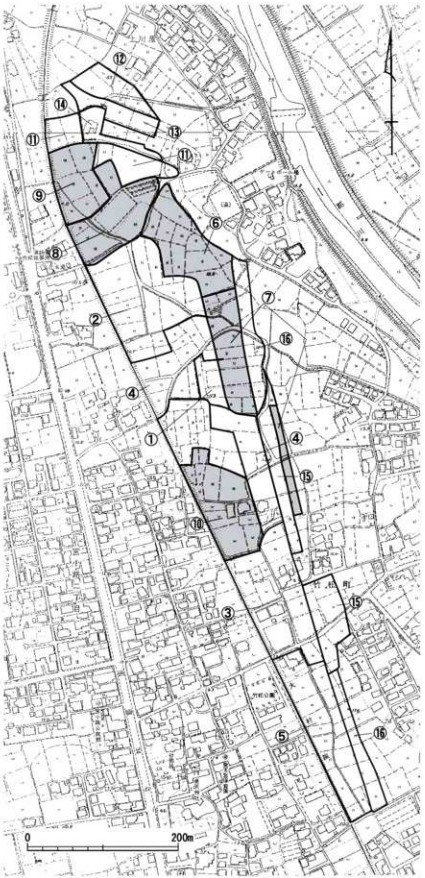


第4図　TAK201403 ～ 07調査区と小調査区区割図(1 ／ 2,500)



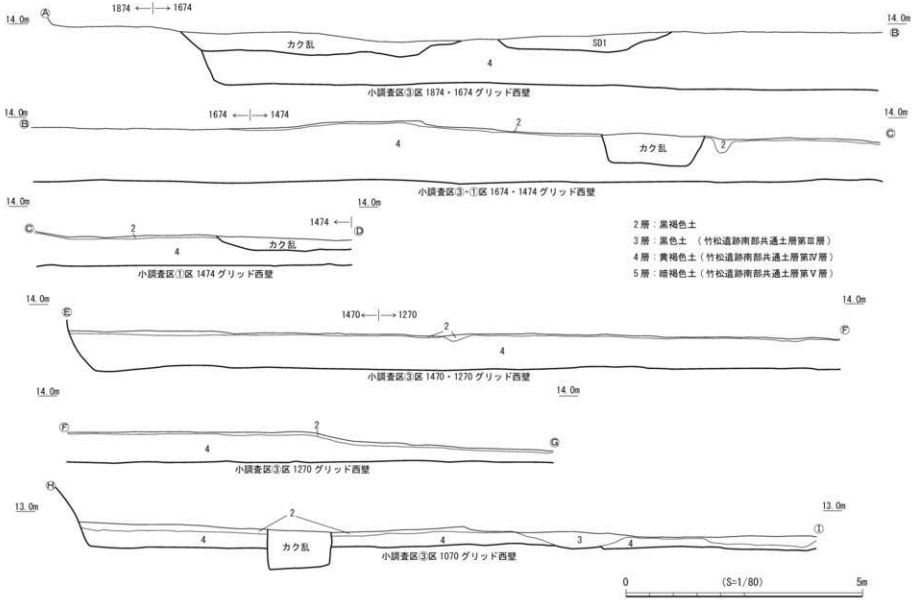
第5図　グリッド配置図(S=1/1500)

※○囲みのアルファベットは土層実測ポイントを示す（第7図～第17図参照）

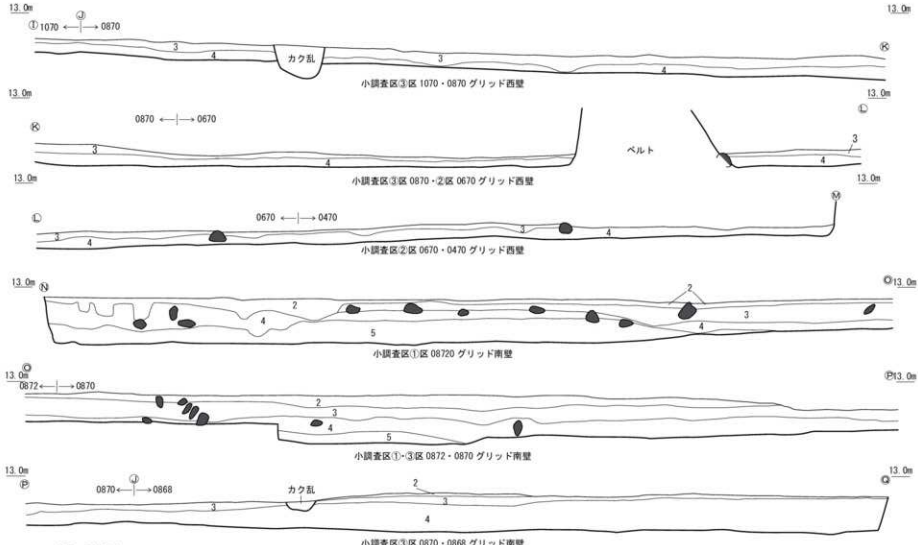


①TAK201108
②TAK201202
③TAK201301
④TAK201302
⑤TAK201304
⑥TAK201405（報告分）
⑦TAK201404（同上）
⑧TAK201407（同上）
⑨TAK201406（同上）
⑩TAK201403（同上）
⑪TAK201501
⑫TAK201502
⑬TAK201506
⑭TAK201604
⑮TAK201208
⑯TAK201303

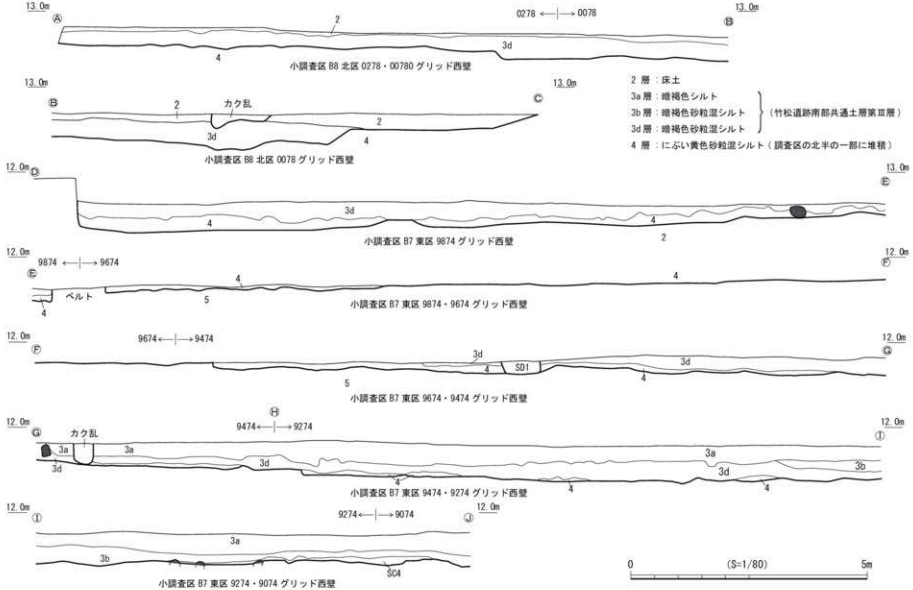
第6図　新幹線大村車両基地調査区位置図（1/5，000）



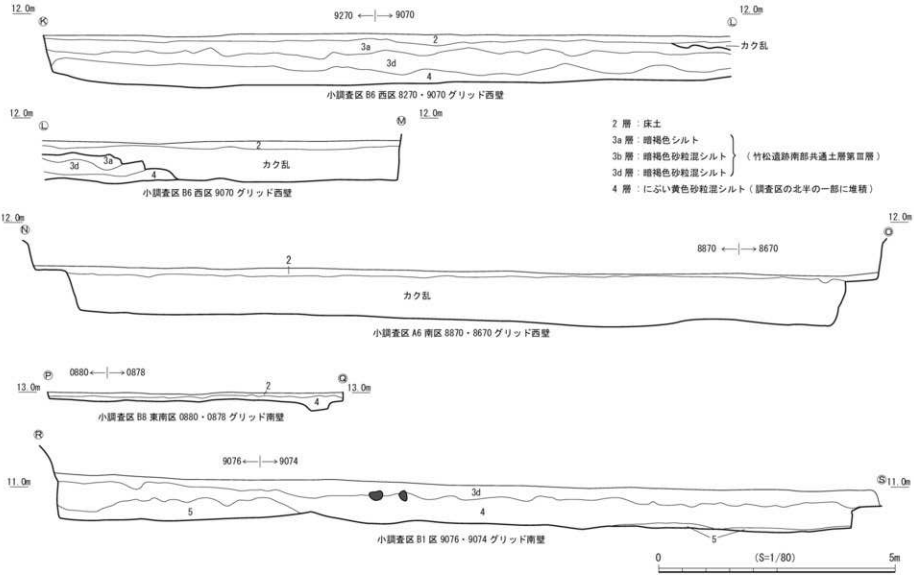
第7図　TAK201403調査区土層図-1(S=1/80)



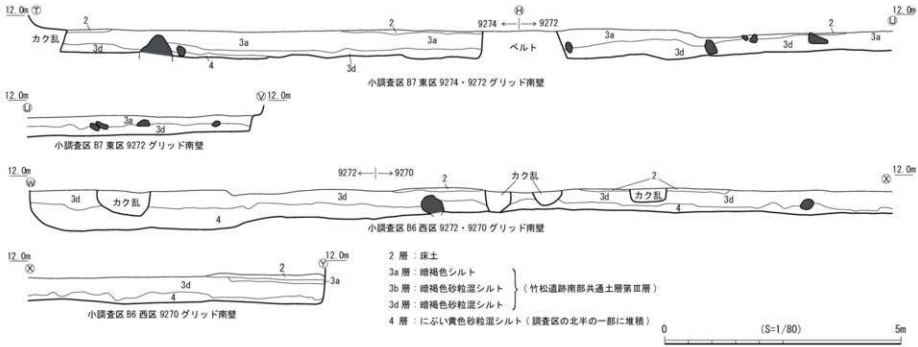
第8図　TAK201403調査区土層図-2(S=1/80)



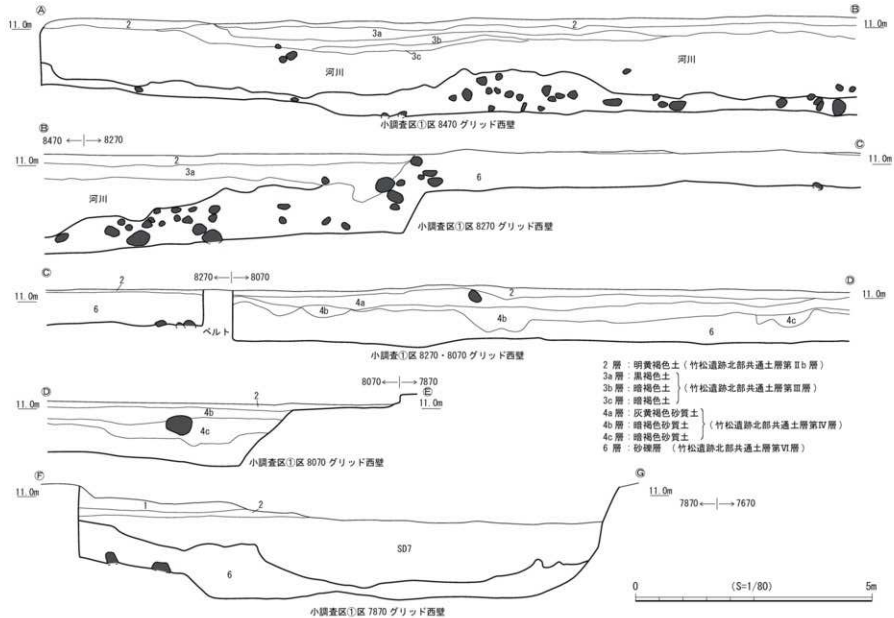
第9図　TAK201404調査区土層図-1(S=1/80)



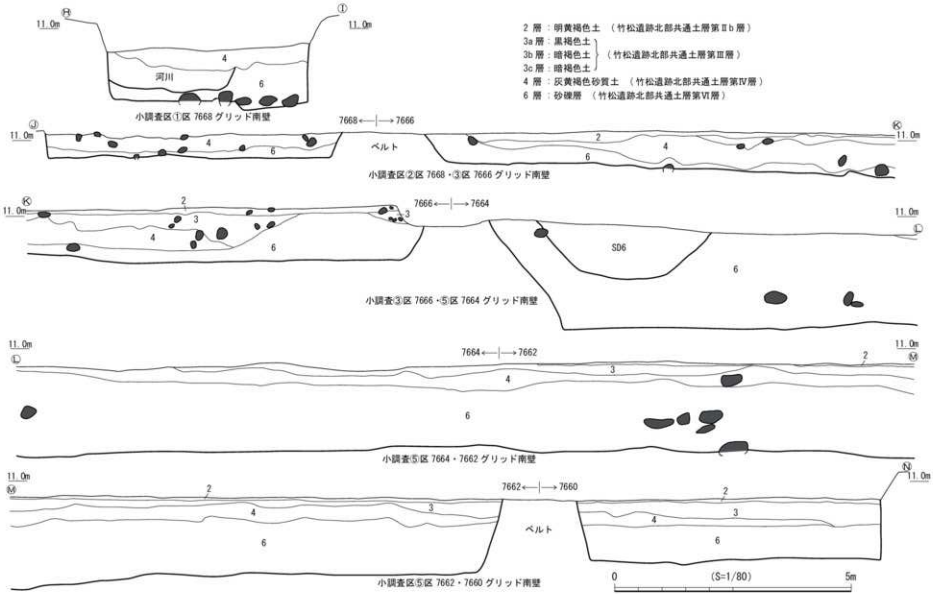
第10図　TAK201404調査区土層図-2(S=1/80)



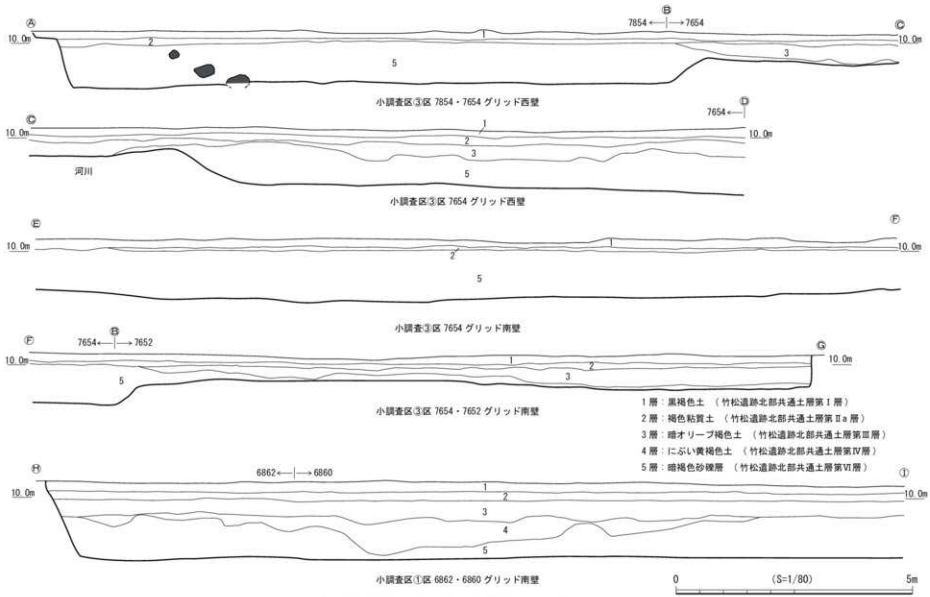
第11図　TAK201404調査区土層図-3(S=1/80)



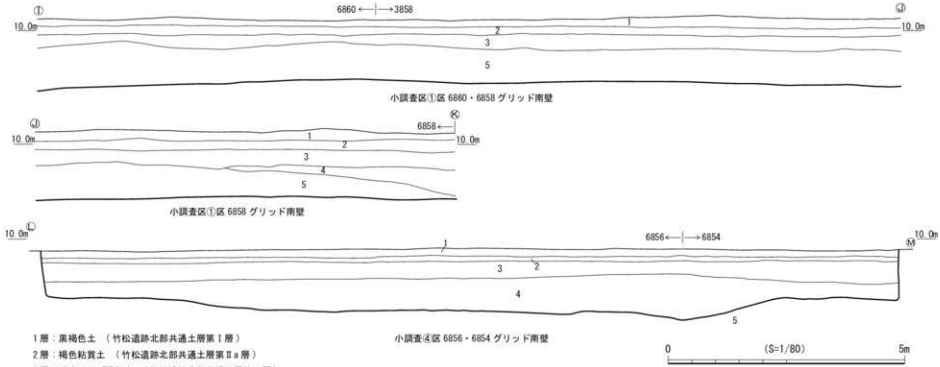
第12図　TAK201405調査区-1(S=1/80)



第13図　TAK201405調査区-2(S=1/80)

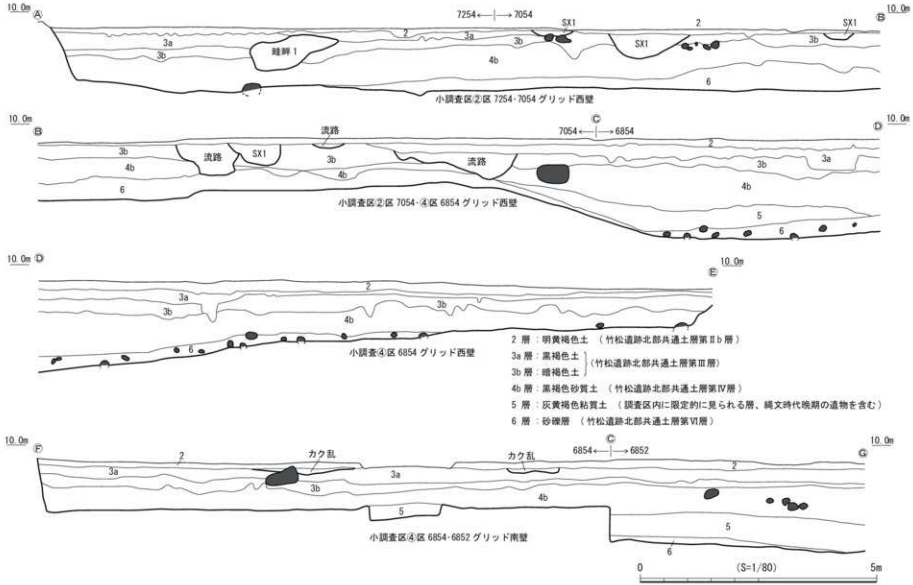


第14図　TAK201407調査区土層図-1(S=1/80)

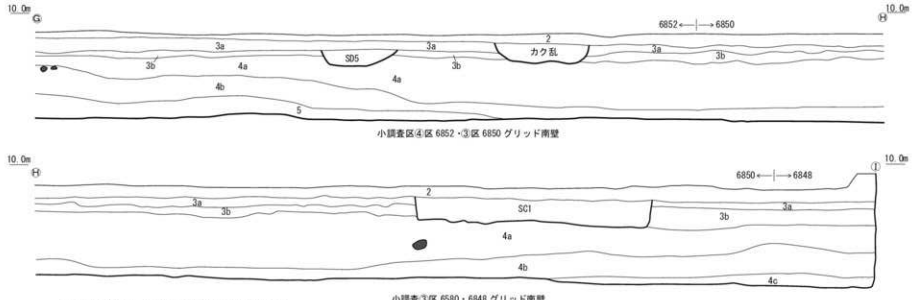


1層：黒褐色土　（竹松遺跡北部共通土層第Ⅰ層）
2層：褐色粘質土　（竹松遺跡北部共通土層第Ⅱa層）
3層：暗オリーブ褐色土　（竹松遺跡北部共通土層第Ⅲ層）
4層：にぶい黄褐色土　（竹松遺跡北部共通土層第Ⅳ層）
5層：暗褐色砂礫層　（竹松遺跡北部共通土層第Ⅵ層）

第15図　TAK201407調査区土層図-2(S=1/80)



第16図　TAK201406調査区土層図-1(S=1/80)



第17図　TAK201406調査区土層図-2(S=1/80)

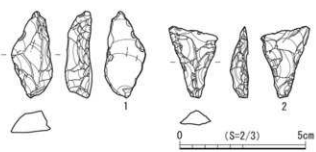
Ⅲ　遺構と遺物

1　旧石器時代

竹松遺跡の旧石器時代は希薄である。更新世に堆積した大村扇状地の礫層上位にはAT(姶良丹沢火山灰)の火山ガラスを含む「古土層」が部分的に確認されており、旧石器時代の包含層の可能性が考えられる。TAK201303調査区からは安山岩製の剥片尖頭器が出土しており、旧石器の存在は確実であるが、原位置を保った遺物の存在は確認されていない。

(1)TAK201404調査区の包含層出土の旧石器

本調査区からは2点の旧石器が出土している。いずれも後世の包含層からの出土である。1は角錐状石器とした。パティナが発達しており、稜線は摩滅する。主要剥離面側から急傾斜の調整剥離が施されている。風化面からみて、淀姫系もしくは亀岳系の黒曜石を素材とする。2は台形石器である。両側辺に急傾斜の調整剥離を施し、基部側を細くし、主要剥離面には平坦剥離が施されている。刃部が斜刃であるが形態的にみて枝去木型台形石器であろう。漆黒色のガラス光沢に富んだ良質の腰岳系黒曜石を素材とする。



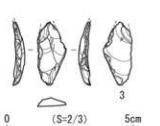
第18図　TAK201404調査区出土旧石器実測図(S=2/3)

図版1　TAK201404調査区出土旧石器

(2)TAK201406調査区の包含層出土の旧石器

本調査区からはナイフ形石器が1点表採されている。二側縁加工の小型のナイフ形石器である。右側辺基部側の刃潰し加工は、若干異質な感もあるが、風化が激しいことからナイフ形石器とした。石材は、淀姫系黒曜石と思われる。

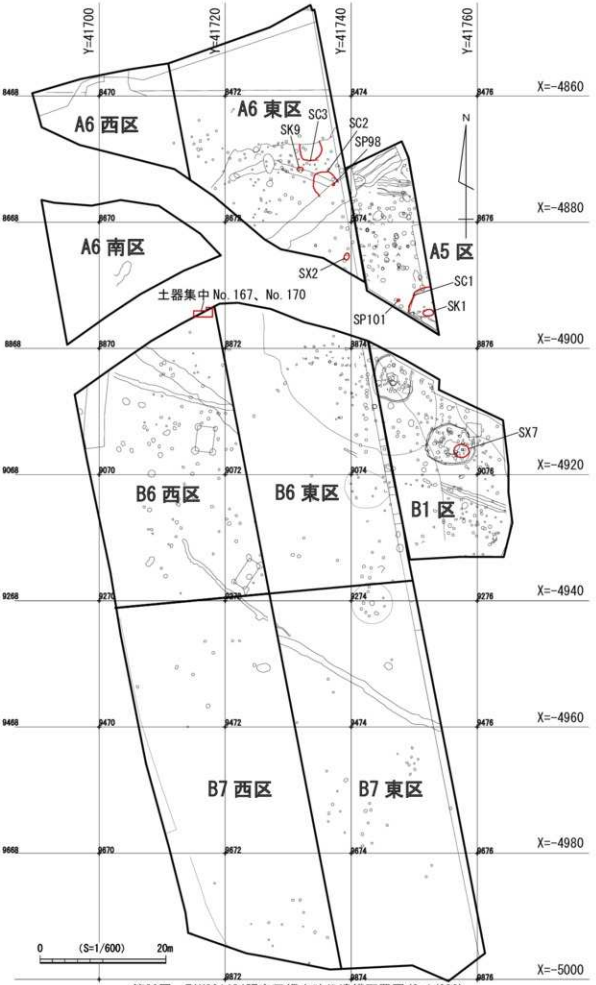
竹松遺跡では旧石器の出土は僅少であったが、大村市北部の多良山系から延びる丘陵先端部ではこれまで九州横断自動車道建設に伴う発掘調査によって、葛城遺跡・野田A遺跡などから多くの遺物が出土している。大村扇状地内においても「古土層」の存在から、場所によっては良好な旧石器遺跡の発見が期待できる。



第19図　TAK201406調査区出土旧石器実測図(S=2/3)

図版2　TAK201406調査区出土旧石器

図版3　竹松遺跡TAK2014他調査区空撮（南側から）（北に大村湾 東に郡川）
中央手前がTAK201404調査区



第20図　TAK201404調査区縄文時代遺構配置図(S=1/600)

2　縄文時代

(1)調査区(TAK201403・201404・201405・201406・201407)の概要

平成26年度の新幹線車両基地の調査区の総調査面積は概ね35,000㎡程の広さになる。この中で縄文時代の遺構が確認され、遺物も多く出土するのは限定的で、TAK201404調査区の北半部、東寄りに所在する。1,000㎡ほどの広さがある。本報告はこの場所が中心となる。

遺物の取り上げは、遺構に伴うものや原位置を保っていると思われるものについては、出土状況を実測し写真記録を行うとともに、座標を記録しながら取り上げを行った。

今回報告する縄文時代の主な遺構は竪穴建物跡、埋甕と考えられるもの、土器集中箇所、竪穴状遺構などである(第20図)。まず竪穴建物跡(SC1)はTAK201404調査区A5区南東隅で確認した。またA6区で竪穴建物跡(SC2、3)2軒を確認したので計3軒と(第21、25、29図)、B1区で竪穴状遺構(SX7)を1基確認した。SC2、3の間、西寄りの場所では小児用の埋設墓と考えられるSK9とSC3の南では埋甕と思われるSX2も所在する。

縄文土器は3層～5層に亘って出土するが、縄文時代晩期の遺構が確認された4a層上位では、弥生土器が若干混入するものの、そのほとんどが縄文晩期の精製浅鉢、粗製深鉢、石匙、磨製石斧、打製石斧、石鏃などが出土する。4a層下位では縄文早期の押型文土器や石器が出土した。

(2)主な遺構と遺物

縄文時代の遺構としては、上記のもの以外に平成25年度のTAK201303調査区の調査終了後に、その下層から、晩期の遺構と考えられるものも確認した。

SC1(第21、23、24図、図版4、5、第1表)

A5区南東隅においてTAK201303(H25年度)調査時、貼床とSK1を検出した状態で工期が迫ったため、一旦調査を中断した。TAK201303A5区SC1は覆土内から出土した弥生時代後期前半代の土器などから、この時代の遺構として既に報告済である(竹松遺跡Ⅲ2018)。翌年TAK201404(H26年度)調査区として、あらためて調査を再開し、SC1の貼床面を掘下げて精査したところ、新たにSC1・SP1(柱穴)を検出した。貼床の精査とともに焼土も掘削しながら精査を行った結果、SP2～4、6～8、SL1の掻き出し部、壁溝2条を検出した。SC1完掘後、その下層を約0.3～0.4m掘下げてSP113～118を検出した。これらの埋土は似ており、当初のものを含めて一連のSC1のものと考えられる。出土した遺物は図示したものを含めて縄文時代晩期の粗製土器でこの時期の遺構であると考えられる。なお、この縄文時代晩期の時期での掘り込面はわからなかった。推測するに後世の弥生時代後期前半の竪穴建物(SC1)を作るときに壊された可能性が考えられる。H25年度調査時の弥生時代後期前半代の土器の中に縄文時代晩期の遺物が混じっていたのはそのことを表しているのかもしれない。

H26年度調査で3点の縄文時代晩期土器が遺構内から出土した。**4**は粗製土器深鉢の口縁部である。口縁端部を撫でて納めている。表裏共条痕がそのままである。**5**も深鉢口縁部であるが、**4**に比して表面を丁寧にナデており平滑に仕上げてある。**6**は刻目凸帯文土器である。刻目は小さい。

SC1・SK1(第22、23、24図、図版4、5、第1表)

SC1内で確認された土坑である。遺構検出面及び埋土から縄文時代晩期土器をはじめ、自然石等を取り上げた。この土坑には土坑内の埋土を掻き出したような掘り込部分が付属している。

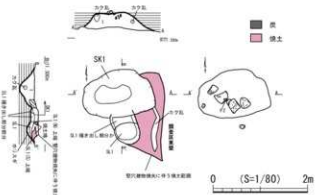
7は縄文時代晩期粗製土器の底部である。底部内面に指押えの跡がついている。

第21図　SC1･SK1遺構実測図(S=1/80)

SC1 貼床掘削後検出状況　南から

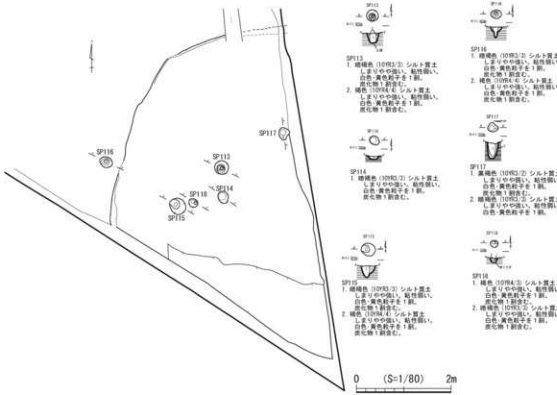
SC1 完掘状況　南から

図版4　SC1遺構検出状況

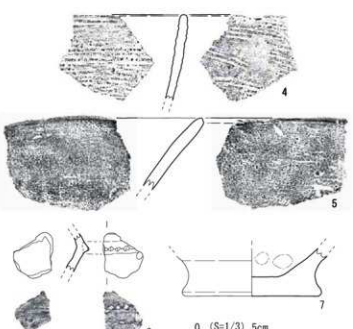


SK1
1. 暗褐色（10YR3/3）シルト質土
しまりやや強い。粘性やや強い。白色・黄色粒子2割。炭化物、炭化材1割含む。
直径2 ～ 3cm大の焼土をブロック状に1割含む。
焼土は橙色（5YR7/6）シルト質、しまりやや強い。粘性弱い。攪乱が見られる。
攪乱部は灰白色（10YR7/1）粘土質、しまり弱い。粘性強い。
SL1（地床炉）
1. 黒褐色（10YR3/2）シルト質土
しまりやや弱い。粘性弱い。焼土1割含む。炭化物2割含む。
SL1 掻き出し部
SC1･SL1 の1層と似ているが、やや焼土、炭化物が少ない。

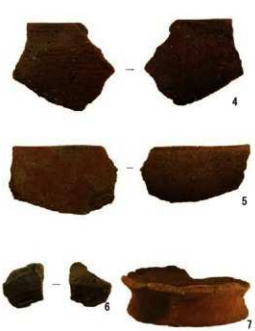
第22図　SK1遺構実測図(S=1/80)



第23図　SC1下層 遺構実測図(S=1/80)



第24図　SC1・SK1出土遺物実測図(S=1/3)



図版5　SC1・SK1出土遺物

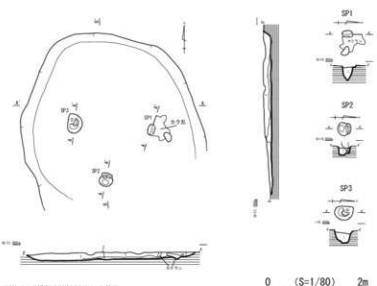
第1表　SC1・SK1出土土器観察表

図版番号	遺物ID	出土地区	層位	分類	法量(cm)			色調		焼成	型位	胎土	施文処理			変化物		備考
					口径	器高	底径	外面	内面				外面	内面	口径部	外面	内面	
4	1483	A6 8874	SC1埋土（ベルト）	深鉢相製	—	残存（6.8）	—	2.5YR4/6 赤褐	5YR5/6 明赤褐	良	口縁部	結晶片岩・雲母・褐色粒子	貝殻条痕	貝殻条痕	ナデ	無	無	縄文晩期
5	1494	A6 8874	SC1貼床	深鉢相製	—	残存（5.6）	—	10YR4/3 赤褐	10YR6/6 赤褐	良	口縁部	長石・雲母・結晶片岩	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
6	1531	A6 8874	SC1堀溝（網）	深鉢相製	—	残存（3.6）	—	7.5YR6/2 灰褐	7.5YR6/2 灰褐	良	胴部	雲母・石英・長石・角閃石	ナデ	ヘラ削り	—	無	無	刻み目凸帯文
7	1526	A6 8874	SC1・SK1	深鉢相製	—	残存（3.7）	（10.6）	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	良	底部	石英・長石	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底、内面に指オサエ痕あり

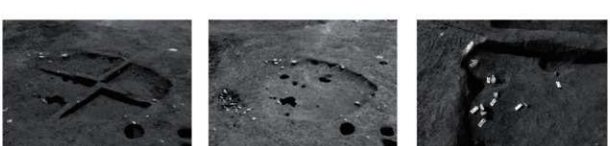
SC2（第25、26図、図版6、7、第2表）

A6区東区の4層上部を掘り込む竪穴建物跡である。残存部は直径約3.9m、深さ約0.2mで南側の一部をSD2に切られている。南側半分が損壊しているが楕円形のプランではないかと推測される。埋土は2層で層厚は浅く、削平されたものと考えられる。SC3とプランが同規模と考えられ、埋土も礫の混入状況等が似ている。調査によって貼床、側溝、炉跡などは確認できなかった。主柱穴を3基検出した。直径は0.2～0.4m、床面からの深さは約0.2～0.3mである。SP1には小動物か、植物根による撹乱（灰色粘質土）が見られ、1/2～1/3程のみ残存。SP2では柱抜取穴が確認された。

SC2内からは、15点の縄文時代晩期の粗製土器深鉢と研磨した浅鉢等を図示した。**8～10**と**13～15**は粗製深鉢の口縁部片である。あきらかに屈曲部をもつもの**9**がある。**12**と**16～20**は精製浅鉢である。**17**は浅鉢の胴部であるが肩が丸みを持っており、屈曲していない。**21**、**22**は鉢である。**23～25**は粗製深鉢の底部である。

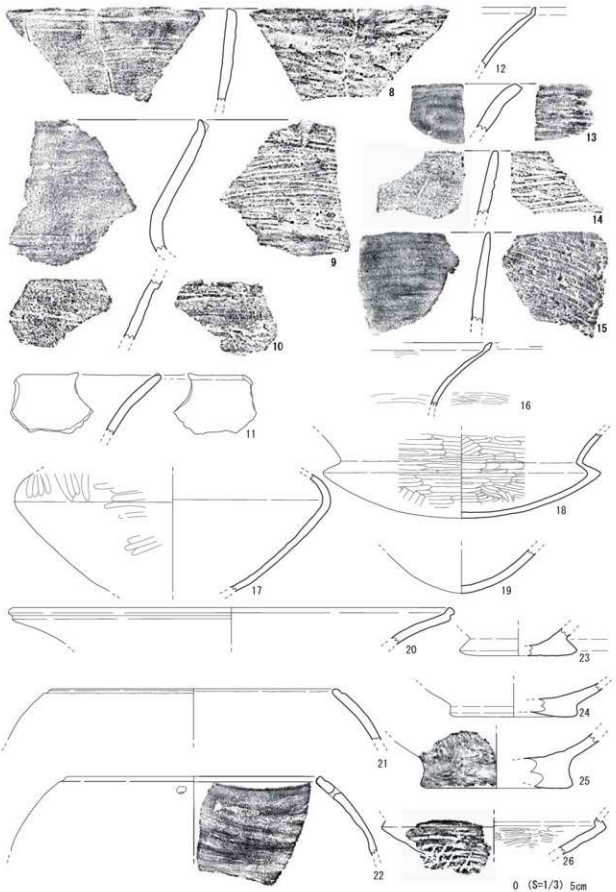


第25図　SC2遺構実測図(S=1/80)



SC2 検出状況　北東から　　SC2 完掘状況　北東から　　SC2　遺物検出状況

図版6　SC2遺構検出状況



第26図　SC2出土遺物実測図(S=1/3)

図版7　SC2出土遺物

第2表　SC2出土土器観察表

図版番号	遺物ID	出土地区	層位	分類	法量(cm)			色調		焼成	部位	胎土	施文処理		炭化物			備考
					口径	器高	底径	外面	内面				外面	内面	口唇部	外面	内面	
8	14・5・9・接合	A8東8622	SC2	深鉢相製	–	残存(7.3)	–	10YR6/6明黄褐	7.5YR4/2灰褐	良	口縁部	長石・雲母	条痕・ナデ	条痕・ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
9	12	A8東8622	SC2	深鉢相製	–	残存(10.0)	–	2.5Y4/4にぶい赤褐	5YR6/2灰褐	良	口縁部～胴部	長石・雲母・角閃石	貝殻条痕	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、鉢部はくの字型
10	17	A8東8622	SC2深鉢	深鉢相製	–	残存(4.7)	–	5YR4/4にぶい赤褐	5YR5/6明赤褐	良	胴部	長石・結晶片岩	条痕・ナデ	条痕・ナデ	–	無	無	縄文晩期
11	5	A8東8622	SC2	深鉢相製	–	残存(4.8)	–	10R4/4赤褐	10R4/4赤褐	良	口縁部	長石・雲母	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期
12	1456	A8東8622	SC2埋土北西	浅鉢精製	–	残存(4.6)	–	5YR4/1褐灰	5YR3/1黒褐	良	口縁部	長石・黒粒子・雲母	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研
13	16	A8東8622	SC2	深鉢相製	–	残存(3.8)	–	7.5YR5/3にぶい褐	10YR7/1灰白	良	口縁部	長石・雲母	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
14	15	A8東8622	SC2	深鉢相製	–	残存(5.0)	–	10YR7/6明黄褐	10YR7/4にぶい黄橙	良	口縁部	長石・石英	条痕	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
15	1539	A8東8622	SC2埋土北西	深鉢相製	–	残存(7.2)	–	7.5YR5/2灰褐	7.5YR7/3にぶい橙	良	口縁部	長石	条痕	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
16	1473	A8東8622	SC2埋土北西	浅鉢精製	–	残存(5.0)	–	7.5YR4/1褐灰	7.5YR4/1褐灰	良	口縁部	長石、雲母	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研
17	1452	A8東8622	SC2(完)埋土2層上面	浅鉢精製	鉢外径(25.0)	残存(9.2)	–	2.5YR5/4にぶい赤褐	2.5YR4/1赤灰	良	胴部	長石・角閃石・雲母	ミガキ・ナデ	ナデ	–	無	無	縄文晩期、黒色磨研
18	2217	A8東8622	SC2(完)埋土南西	深鉢精製	–	残存(2.2)	(6.4)	10R6/4にぶい赤褐	5YR5/3にぶい赤褐	良	底部	長石・雲母	ナデ	ナデ	–	無	無	縄文晩期
19	10	A8東8622	SC2深鉢	浅鉢精製	–	残存(3.5)	–	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/4にぶい黄橙	良	底部	長石・雲母	ナデ	ナデ	–	無	無	縄文晩期、底に近い(丸底)
20	6	A8東8622	SC2	浅鉢精製	(34.6)	残存(2.9)	–	10YR3/1黒褐	10YR4/2灰黄褐	良	口縁部	長石	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、、黒色磨研
21	3	A8東8622	SC2	浅鉢精製	(22.4)	残存(4.0)	–	10YR4/1褐灰	10YR4/1褐灰	良	口縁部	長石・雲母	ミガキ	ナデ	ミガキ	無	無	縄文晩期、波状口縁
22	1465	A8東8622	SC2埋土北西	浅鉢精製	(20.0)	残存(5.2)	–	10YR2/1黒褐	10YR2/2黒褐	良	口縁部	長石・石英・角閃石	ミガキ	ナデ	ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研、穿孔1個
23	19	A8東8622	SC2	深鉢	–	残存(2.2)	(6.4)	10R6/4にぶい赤褐	5YR5/3にぶい赤褐	良	底部	長石・雲母	ナデ	ナデ	–	無	無	縄文晩期
24	1528	A8東8622	SC2(完)埋土南西	深鉢	–	残存(2.2)	残存(3.6)	10YR6/4にぶい黄橙	10YR7/3にぶい黄橙	良	底部	石英・長石いずれも粒子細かい	ナデ	ナデ	–	無	無	縄文晩期、底部、やや上げ底
25	1525	A8東8622	SC2埋土北西	深鉢	–	残存(4.3)	(11.5)	10YR5/4にぶい黄褐	7.5YR4/2灰褐	やや良	底部	長石・石英	ナデ	ナデ	–	無	無	縄文晩期、上げ底
26	1343	A8東8622	SC2(完)埋土南西	浅鉢精製	–	残存(6.2)	–	7.5YR2/2黒褐	5YR7/6橙	良	胴部～胴部	長石	ナデ 条痕文	ミガキ	–	無	無	縄文晩期、

SC2出土石器

SC2の覆土から出土した石器は、掻・削器1点、加工痕のある剥片2点、剥片91点、砕片208点、石核3点が出土している。ここでは黒曜石製石器に焦点を当てて報告する。

①剥片(第27図27～50、第28図51～64)

ア．黒曜石A1類を素材とする縦長剥片

27～32・36～40は、縦長剥片もしくは縦長状の剥片である。ほとんどが見掛け上縦長になるものである。**31**は石核の角部から剥離したクレステッド様の剥片である。打面は、礫打面と平坦打面が拮抗する。被熱した剥片も多く、22点が該当する。

イ．黒曜石A1類を素材とする横長・不定形な剥片

33～35・46は、横長もしくは不定形な剥片である。打面は、**34**が平坦打面、**35・36**が礫打面である。被熱した剥片には、**34・36**がある。石材は、すべて良質な腰岳系の黒曜石A1類が使用される。

ウ．黒曜石A1類を素材とする貝殻状剥片

41～45・47・57は、形態が貝殻状を呈する剥片である。長さが1.8～2.3cmの範囲に入る極めて小型の剥片である。打面はすべて平坦打面で占められ、ほかの剥片とは様相を異にする。石材は、**57**が淀姫系の黒曜石B1類であるのを除けばすべて良質の黒曜石A1類が使用されている。

エ．黒曜石A2類を素材とする剥片

48～55は、腰岳系の斑晶を含む質の悪い黒曜石A2類を素材とする縦長を呈する剥片である。アと比較すると概して大型であるが、形態的にはより不整形なものがほとんどである。打面は、礫打面が4点に対し、平坦打面が3点とほぼ拮抗する。被熱面をもつものは2点と少ない。

56は、打面と底面に礫面をもつ板状の原石から剥離した寸詰まりの剥片である。

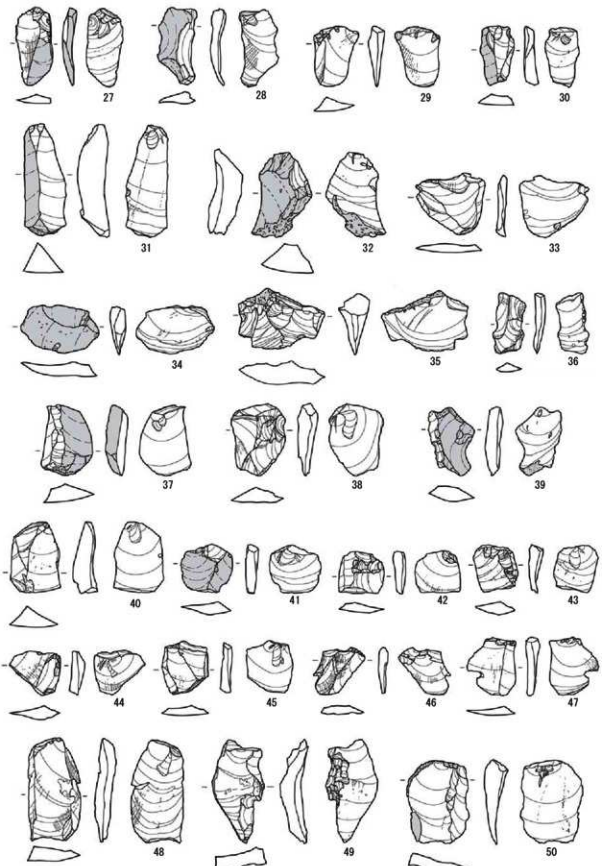
オ．黒曜石B1類を素材とする剥片

58～63は、淀姫系の風化面が青灰色になる黒曜石B1類を素材とする。剥片の形状はさまざまである。石器製作に不向きなものが多い。被熱がみられるものは、**58・60・61・63**である。

②石核(第28図65～67)

65は、打面を固定する石核Ⅰ類に該当する。礫面は除去されており、被熱面をもつ。**66**は、剥片ウの一群を剥離した石核である。底面を礫面で構成し、被熱痕を残す。打面を固定するⅠ類にあたる。いずれも良質な黒曜石A1類を素材とする。**67**は、分割した礫素材の石核である。打面は固定されておりⅠ類である。黒曜石A1類であるが、礫面の形状が円礫面であることから松浦牟田を原産地とするものであろう。

SC2からは石鏃等の黒曜石製の定型石器は出土していない。遺構から出土した剥片のほとんどが剥離した段階の姿をとどめており、石鏃等の素材としてはその大きさから不適当なものが多い。石器製作への移行を感じさせない剥片である。特にウの貝殻状を呈する小型剥片については、渡邉の指摘(渡邉2006)のように、等閑視されてきた経緯もある。石器作りに適さない小型剥片はその形状を大きく変形させることを想定できない。つまり小型の貝殻状剥片を作成すること自体が石器作りの目的とも言えよう。縄文時代晩期になって普遍化するこの種の剥片剥離は、縄文時代晩期という時代背景の中で生み出されたものであることは疑いようのない事実である。



第27図　SC2出土石器実測図①(S=2/3)

図版8　SC2出土石器①

第28図　SC2出土石器実測図②(S=2/3)

図版9　SC2出土石器②

では何のための剥片かという答えは容易ではない。南島原市の権現脇遺跡の報告書で渡邉が提起した小形加工剥片B類の存在を指摘しており、それとの関連を含めて、今後使用痕分析等をあわせて研究していく必要があろう。

【参考文献】

渡邉康行2006「第Ⅳ章　まとめ　第2節　石器について」『権現脇遺跡』深江町教育委員会

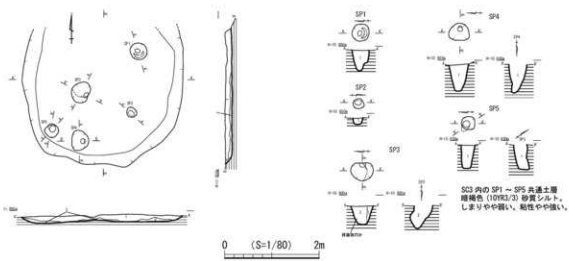
第3表　SC2出土石器計測表

番号	器種	石質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
27	剥片	黒曜石A1類	3.10	1.40	0.35	1.71	被熱　完形
28	剥片	黒曜石A1類	3.05	1.46	0.52	1.75	礫打面　被熱　完形
29	剥片	黒曜石A1類	2.40	1.69	0.48	1.78	礫打面　完形
30	剥片	黒曜石A1類	2.33	1.38	0.51	1.61	平坦打面　被熱　完形
31	剥片	黒曜石A1類	4.35	1.63	1.10	6.65	礫打面　被熱　完形
32	剥片	黒曜石A1類	3.35	2.59	1.09	5.95	礫打面　被熱　完形
33	剥片	黒曜石A1類	2.40	2.72	0.36	2.37	打点なし　礫面
34	剥片	黒曜石A1類	1.83	3.09	0.49	2.98	平坦打面　被熱　完形
35	剥片	黒曜石A1類	2.37	3.40	1.20	5.75	礫打面　横長　不整形　被熱
36	剥片	黒曜石A1類	2.37	1.14	0.43	1.02	礫打面
37	剥片	黒曜石A1類	2.64	1.89	0.81	4.29	平坦打面　被熱　礫面　完形
38	剥片	黒曜石A1類	2.68	2.31	0.66	3.57	平坦打面　礫面なし　完形
39	剥片	黒曜石A1類	2.67	1.78	0.54	2.41	礫打面　被熱　完形
40	剥片	黒曜石A1類	2.78	1.95	0.80	3.90	平坦打面　折断
41	剥片	黒曜石A1類	1.92	2.01	0.49	1.75	平坦打面　貝殻状　被熱
42	剥片	黒曜石A1類	1.95	1.87	0.39	1.31	平坦打面　折断　貝殻状
43	剥片	黒曜石A1類	1.95	2.04	0.44	1.33	平坦打面　折断　貝殻状
44	剥片	黒曜石A1類	1.81	1.98	0.43	1.32	平坦打面　折断　貝殻状
45	剥片	黒曜石A1類	2.13	1.82	0.35	1.49	平坦打面　折断　貝殻状
46	剥片	黒曜石A1類	2.18	1.57	0.30	0.95	打点なし
47	剥片	黒曜石A1類	2.30	1.97	0.39	1.59	平坦打面　貝殻状
48	剥片	黒曜石A2類	4.04	2.05	0.65	5.59	礫打面
49	剥片	黒曜石A2類	4.12	2.07	0.63	5.31	礫面　打点なし
50	剥片	黒曜石A1類	3.26	2.45	0.42	4.38	平坦打面　礫面　被熱
51	剥片	黒曜石A2類	2.73	1.70	0.58	2.63	平坦打面　礫面なし
52	剥片	黒曜石A2類	3.54	2.51	0.69	5.89	礫打面　被熱　完形
53	剥片	黒曜石A2類	3.27	2.33	0.60	4.24	礫打面　完形
54	剥片	黒曜石A1類	2.86	1.95	0.49	1.99	平坦打面　礫面なし
55	剥片	黒曜石A2類	4.54	3.18	0.61	6.10	礫打面　不定形　被熱
56	剥片	黒曜石A1類	2.81	2.97	0.61	4.11	礫打面　被熱
57	剥片	黒曜石A2類	2.12	2.56	0.42	1.95	礫打面　ヒンジ　被熱
58	剥片	黒曜石B1類	2.31	1.21	0.44	0.86	礫面　打点なし　被熱
59	剥片	黒曜石B1類	2.14	3.12	0.94	4.15	平坦打面
60	砕片	黒曜石B1類	1.39	2.56	0.73	2.10	礫面　打点なし　被熱
61	剥片	黒曜石B1類	1.90	3.03	0.41	2.33	平坦打面　被熱
62	砕片	黒曜石B1類	1.65	2.09	0.26	0.74	平坦打面　礫面
63	剥片	黒曜石B1類	2.72	0.69	0.89	2.00	礫面　被熱による折れ
64	剥片	安山岩	2.92	0.95	0.94	3.12	
65	石核	黒曜石A1類	3.42	2.48	2.17	15.05	礫面　被熱
66	石核	黒曜石A1類	1.90	2.64	2.82	14.61	礫面　被熱
67	石核	黒曜石A1類	2.10	3.45	3.07	20.03	礫面　被熱

SC3（第24、30図、図版10、11、第4表）

SC2の2mほど北側、A6東区の4層上部を掘り込む竪穴建物跡である。残存部の直径は約3.4m、深さは0.2mで北側を自然流路に切られている。残存部から推定すると円形ないしは楕円形を呈すると思われる。埋土は2層で、層厚は浅く削平が考えられる。調査において貼床、壁溝、炉跡などは確認できなかった。ピットが5基検出され、SP1～3（柱抜取穴か）の3基が主柱穴と考えられ、直径は約0.2～0.44m、床面からの深さは約0.1～0.2mである。竪穴建物内の南に位置するSP4、5の2基は穴が斜めに掘下げられている。直径は約0.3～0.4m、床面からの深さは約0.5～0.6mである。

SC3内からの晩期の出土遺物を7点図示した。**68**、**69**は粗製土器である。**71**は底部。**73**、**74**は精製浅鉢である。**70**は沈線斜行文が認められる土器の胴部である。縄文時代早期中葉末～後葉にかけての時期のものであろう。（註1）



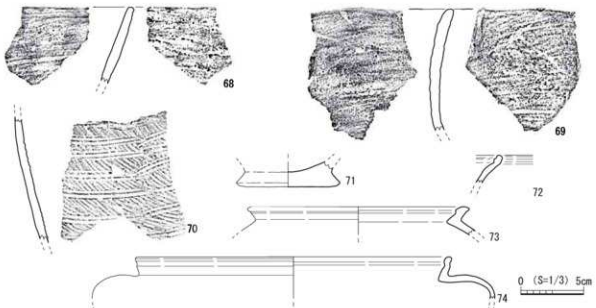
SC3 1 暗褐色（10YR3/4）シルト質土
しまりやや強い。粘性やや強い。直径3～15cm大の礫1割含む。
炭化物1割含む。縄文時代晩期の土器片出土。
2 褐色（10YR4/6）シルト質土
しまりやや強い。粘性やや強い。炭化物1割含む。縄文時代晩期の土器片出土。

第29図　SC3遺構実測図（S=1/80）

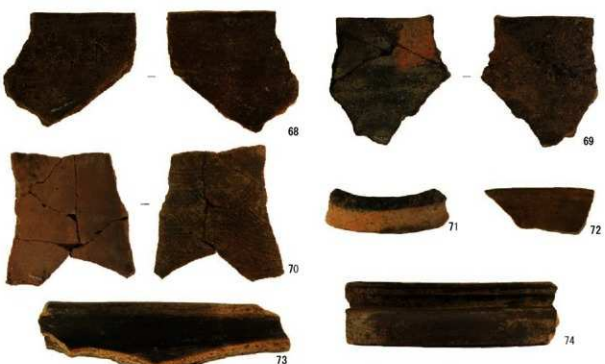
SC3 検出状況　北東から

SC3 完掘状況　北東から

図版10　SC3遺構検出状況



第30図　SC3出土遺物実測図(S=1/3)



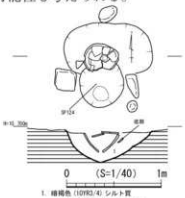
図版11　SC3出土遺物

第4表　SC3出土土器観察表

図面番号	遺物ID	出土地区	層位	分類	法量(cm)(数字)は現存部 口径	器高	底径	色調 外面	色調 内面	焼成	部位	胎土	施文処理 外面	施文処理 内面	施文処理 口径部	炭化物 外面	炭化物 内面	備考
68	23	A6東 86/2	SC3埋土	深鉢 粗製	—	(6.0)	—	2.5YR6/1 赤灰	2.5YR4/2 灰赤	良	口縁部	長石・石英・雲母	条線・ナデ	条線・ナデ	ナデ	無	無	縄文地期,
69	25	A6東 86/2	SC3埋土	深鉢 粗製	—	(9.55)	—	2.5YR6/4 にぶい赤褐	2.5YR6/4 にぶい赤褐	良	口縁部・胴部	長石・石英	条線	条線・ナデ	ナデ	無	無	縄文地期
70	26	A6東 86/2	SC3埋土	深鉢	—	(9.9)	—	7.5YR3/1 黒褐	2.5YR4/6 赤褐	良	胴部	長石	沈線引行文	ナデ	—	無	無	縄文地期
71	27	A6東 86/2	SC3埋土	深鉢	—	(19.5)	(6.6)	10YR6/4 浅黄橙	10YR4/3 にぶい黄褐	良	底部	長石・雲母	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文地期
72	1477	A6東 86/2	SC3埋土 北西	浅鉢 特製	—	(2.2)	—	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/2 灰黄褐	良	口縁部	長石・金雲母・角閃石	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文地期, 黒色磨研
73	1462	A6東 86/2	SC3埋土 北東	浅鉢 特製	(17.0)	(2.2)	—	7.5YR2/1 黒	7.5YR3/2 黒褐	良	口縁部	微細石英・白色粒子	ミガキ	ナデ	ナデ	無	無	縄文地期, 黒色磨研
74	21	A6東 86/2	SC3埋構 内壁付近	浅鉢 特製	(24.6)	(3.2)	—	10YR3/2 黒灰	10YR3/2 黒灰	良	口縁部	長石・雲母	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文地期, 黒色磨研

SK9（第31、32図、図版12、13、第5表）

4層上部を掘り込む縄文時代晩期の深鉢と鉢をほぼ垂直に埋設したと考えられる（**75**と**77**）。一部の口縁部は残存していたが、大半は割れた状況で検出された。復元した深鉢を下図で提示している。残存部の直径は0.9m、深さは0.3mである。深鉢の底部は欠損した状態で検出され、埋土から深鉢の底部片が出土した。打ち欠いたことが推測される。鉢の内部から遺物は確認されなかった。小児用の埋甕の可能性も考えられる。



第31図　SK9遺構実測図（S=1/40）

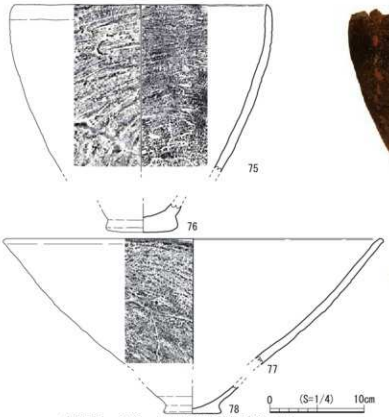
SK9 検出状況　南から

SK9 遺物出土状況　南から

SK9 遺物出土状況②（下部）南から

SK9　完掘状況　南から

図版12　SK9遺構検出状況



第32図　SK9　出土遺物実測図（S=1/4）

図版13　SK9　出土遺物

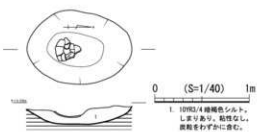
第5表　SK9出土土器観察表

図版番号	遺物ID	出土地区	層位	分類	法量(cm)(数字)は残存部 口径	底部	底径	色調 外面	色調 内面	焼成	型位	胎土	施文処理 外面	施文処理 内面	施文処理 口縁部	炭化物 外面	炭化物 内面	備考
75	2213-2	A6東 86/2	SK9下	深鉢 粗製	26.6	(17.6)	—	5YR4/2 灰褐	5YR5/4 にぶい赤褐	良	口縁部 一部図	長石・石英・赤色粒子・砂粒	条痕・ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
76	2213-3	A6東 86/2	SK9	深鉢 粗製	—	(3.0)	7.8	2.5YR6/6 明赤褐	2.5YR4/4 にぶい赤褐	良	底部	雲母・結晶片岩・砂粒・長石	ナデ	ナデ	—	無	無	平底
77	2213-1	A6東 86/2	SK9上	鉢 粗製	(39.6)	(13.2)	—	10YR2/3 黒褐	5YR5/6 明赤褐	良	口縁部 一部図	角閃石・石英・雲母	条痕	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
78	1527	A6東 86/2	SK9	深鉢	—	(2.7)	(5.4)	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	良	底部	長石・石英・結晶片岩	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底

SX2（第33、34図、図版14、15、第6表）

A6東区の南東隅、4層上部で確認した。人為的に掘り窪めたものか、自然の窪みを利用したものかは判然としない。その窪みを利用し、ほぼ水平の状態で縄文時代晩期の深鉢が置かれた可能性が高い。

79はその深鉢である。底部から口縁部にかけてほぼ真直ぐに立ち上がる器形である。口縁部は内側へ若干すぼまる。表裏共粘土紐を積み上げた輪積みの痕跡と指押えの跡が残っている。**80**は底部である。その外側に調整した跡の条痕が残っている。**79**、**80**は同一個体である。



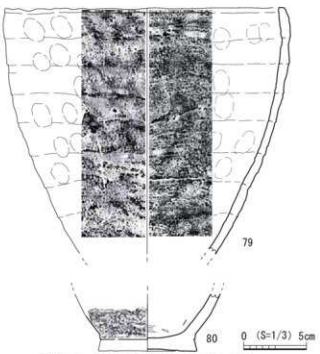
第33図　SX2遺構実測図（S=1/40）

SX2 検出状況　東から

SX2 完掘状況　東から

SX2　断割り状況　東から

図版14　SX2遺構検出状況



第34図　SX2出土遺物実測図（S=1/3）

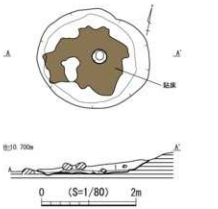
図版15　SX2出土遺物

第6表　SX2出土土器観察表

図版番号	遺物ID	出土地区	層位	分類	法量(cm)（数字）は現存部			色調		焼成	部位	胎土	施文処理			変化物		備考
					口径	器高	底径	外面	内面				外面	内面	口唇部	外面	内面	
79	130	A6東 88/2	SX2	深鉢相製	21.7	(19.2)	—	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	良	口縁部～胴部	金雲母、結晶片岩	ナデ	条痕・ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、粘土の重なり痕あり、指頭痕あり
80	62	A6東 88/2	SX2（4層）	深鉢相製	—	(4.5)	7.8	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	良	底部	長石・雲母・角閃石	条痕・ナデ	条痕・ナデ	—	無	無	縄文晩期

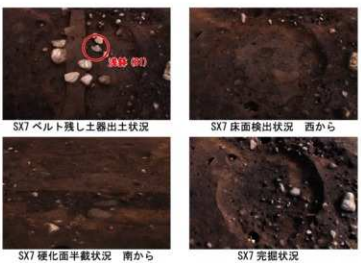
SX7（第35、36図、図版16、17、第7表）

B1区から検出した。報告済み（『竹松遺跡Ⅲ』2018）の TAK201303調査区の弥生時代の竪穴建物（SC123）の完掘後、床面を数センチ掘り下げて、弥生時代のものとは違う“にぶい黄褐色”の貼床を確認し、円形の遺構確認面を検出して掘り下げた。覆土内及び床直上から縄文時代晩期の粗製土器片や復元可能な同晩期の精製浅鉢等を検出した。南北最大長2.1m、東西最大長2.38mで、壁は斜面をなし深さは0.1m程である。**81**は床直上から出土した縄文時代晩期の浅鉢である。不明遺構であるが、竪穴状遺構の可能性もある。

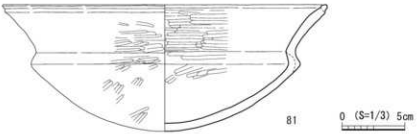


1. にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト質。しまりやや強い。粘性強い。
0.2～0.5cm大の炭化物を1割程度まばらに含み、直径15cm以上の中礫を8個程含んでいる。

第35図　SX7遺構実測図（S=1/80）


SX7 ベルト残し土器出土状況
SX7 床面検出状況　西から
SX7 硬化面半截状況　南から
SX7 完掘状況

図版16　SX7遺構検出状況



第36図　SX7出土遺物実測図（S=1/3）

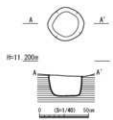
図版17　SX7出土遺物

第7表　SX7出土土器観察表

図版番号	遺物ID	出土地区	層位	分類	法量(cm)			色調		焼成	部位	胎土	施文処理			炭化物		備考
					口径	器高	底径	外面	内面				外面	内面	口唇部	外面	内面	
81	2059	B1 9074	SX7 SC123下層（5層に切り込む）	浅鉢精製	(25.6)	残存 (10.0)	(14.0)	7.5YR3/1 黒褐	7.5YR3/1 黒褐	良	口縁部～底部	角閃石・雲母	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研

SP98（第37、38図、図版18、第8表）

A6東区で検出した。このピットはSC2を切っている弥生時代中期末のSD3の範囲の中で確認されたものであるが、覆土が別であり、このピットの中からは、縄文時代晩期の精製浅鉢が確認されたので、SC2の遺構であると判断した。**82**はピット内から出土した精製浅鉢である。胴部に屈曲部をもち、大きく広がる口縁部の外側に4条の沈線を施している。



SP98
暗褐色（10YR3/3）砂質シルト。
しまりやや強い。粘性やや強い。
2～3cm大の暗い灰色のブロックを
2割程度まばらに含む。

第37図　SD3内SP98遺構実測図（S=1/40）

第38図　SD3内SP98出土遺物実測図（S=1/3）

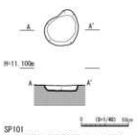
図版18　SD3内SP98出土遺物

第8表　SD3内SP98出土土器観察表

図版番号	遺物ID	出土地区	層位	分類	法量(cm)			色調		焼成	型位	胎土	施文処理			遺化物		備考
					口径	器高	底径	外面	内面				外面	内面	口唇部	外面	内面	
82	136	A6東 B6/2	SD3内 SP98	浅鉢 精製	(37.0)	残存 (6.5)	－	7.5YR3/2 黒褐	7.5YR5/3 にぶい褐	良	口縁部	雲母・石英・長石・角閃石	ナデ 多量	丁寧ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期

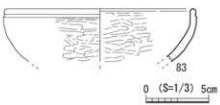
SP101（第39、40図、図版19、第9表）

A5区のSC1の近くで確認されたピットである。その中から出土したのが**83**の精製浅鉢である。ボール状の器形で口縁上端部外側に一条の凹線を施している。

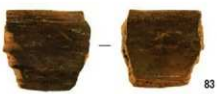


SP101
1．暗褐色（10YR3/3）シルト質土
しまりやや弱い。粘性やや弱い。
白色・黄色粒子1割含む。

第39図 SP101遺構実測図（S=1/40）



第40図　SP101出土遺物実測図（S=1/3）



図版19　SP101出土遺物

第9表　SP101出土土器観察表

図版番号	遺物ID	出土地区	層位	分類	法量(cm)			色調		焼成	型位	胎土	施文処理			遺化物		備考
					口径	器高	底径	外面	内面				外面	内面	口唇部	外面	内面	
83	66	A5 B6/4	SP101	浅鉢 精製	(14.7)	残存 (4.15)	－	5YR3/3 暗赤褐	5YR4/3 にぶい赤褐	良	口縁部	長石	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	無	無	縄文晩期、黒色磨研

土器集中No.167、No.170(第41－1、41－2図、図版20、21－1、21－2、第10－1、10－2表)

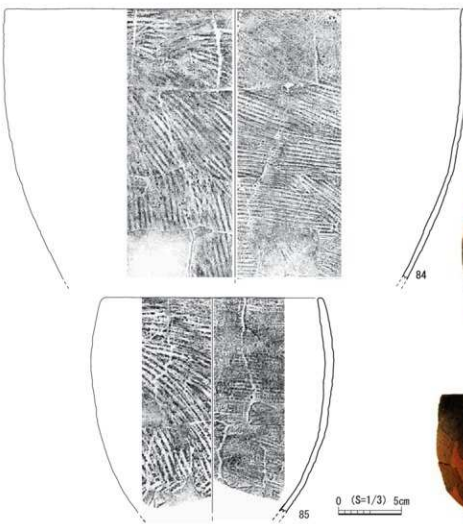
この二か所の土器集中個所は、その大部分がB6西区の北端の北壁中で確認された。土器集中No.167の西側1.5m程の所にNo.170が確認された。**84**、**85**はNo.167の土器集中部のものを接合し掲載したものである。**84**は器形は真直ぐに立ち上がるもので表裏に条痕を残すが、表面のほうが条痕の目が小さい。**85**も調整・色調は**84**に似ているが、器形の口縁部が若干内側にすぼまる。

土器集中No.167、No.170 出土状況　南から

土器集中No.167 遺物出土状況

土器集中No.170 遺物出土状況

図版20　土器集中No.167、No.170 遺構検出状況



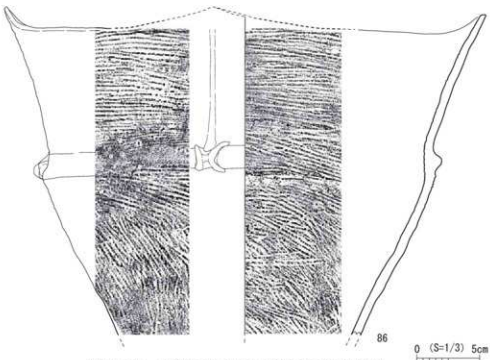
第41-1図　土器集中No.167 出土遺物実測図(S=1/3)

図版21-1　土器集中No.167 出土遺物

第10－1表　土器集中No.167出土土器観察表

図版番号	遺物ID	出土地区	層位	分類	法量(cm) 口径	底径	底厚	色調 外面	内面	焼成	部位	胎土	施文処理 外面	内面	口唇部	装化物 外面	内面	備考
84	121	B6西 88区	3a層	深鉢 相製	－	現存 (27.1)	－	5YR6/6 橙	5YR4/1 褐灰	良	口縁部 ～胴部	微母・角閃石・石英	条痕・ナデ	条痕	ナデ	無	無	縄文晩期
85	132	B6西 88区	3a層	深鉢 相製	(17.0)	現存 (17.0)	－	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR4/2 灰褐	良	口縁部 ～胴部	微母・角閃石・石英	条痕	条痕・ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期

86は土器集中No.170のものを復元して掲載している。波状口縁で屈曲部をもつ粗製の深鉢である。リボン状の突起の飾りも持っている。表裏共条痕が残っている。



第41-2図　土器集中No.170出土遺物実測図(S=1/3)

図版21-2　土器集中No.170出土遺物

第10－2表　土器集中No.170出土土器観察表

図版番号	遺物ID	出土地区	層位	分類	法量(cm)			色調		焼成	型位	胎土	施文処理			炭化物		備考
					口径	器高	底径	外面	内面				外面	内面	口縁部	外面	内面	
86	129	B6西 B6可北 西駐面	4層上面	深鉢相製	(38.0)	現存 (25.9)	—	5YR4/6 赤褐	5YR4/6 赤褐	良	口縁部～胴部	微母・角閃石・石英	貝殻条痕・条痕後ナデ消し	貝殻条痕	ナデ	無	無	縄文晩期、波状口縁、外面にリボン状突起

(3)包含層出土の縄文土器

平成26年度調査で出土した縄文土器は、早期、中期、後期、晩期の土器がそれぞれあるが、主体となるのは縄文時代晩期の土器である。また、縄文時代早期の押型文土器等も数量的に少ないながらも、小さくまとまっている感もある。

①Ⅰ群土器　縄文時代早期の土器

早期前半代の土器として、**87～91**の条痕文土器がある。**87**は上端部であり、表裏に横方向の条痕がつくが、裏面の上端には短い縦位の条痕がある。**92～102**は押型文土器である。**92**、**93**は山形文。**94**は格子目文、**95～101**は楕円文であるが、**102**は珍しいもので菱形文をもつ手向山式の押型文土器である。**103**と**104**は貝殻圧痕をもつ塞ノ神B式土器である。

②Ⅱ群土器　縄文時代中期の土器

106は半裁竹管文を施した縄文時代中期の深鉢である。**128**も同じく縄文時代中期の阿高式土器である。表面に太形凹文をもち口縁部上端に突起をもっている。滑石を混入している。

③Ⅲ群土器　縄文時代後期の土器

108が後期の土器である。縁帯に3条の沈線がある。

④Ⅳ群土器　縄文時代晩期～弥生時代早期の土器

○深鉢

冒頭でも述べたように、晩期が竪穴建物跡などの遺構が確認されており、今次報告の主体をなす時期になる。器種も深鉢と浅鉢があり、同じ深鉢でも器種に様々なバラエティがあるので、A～Fの6種類に分けて説明を行いたい[注2]。

A類　口縁部下位が肥厚して頸部との間に段を有するいわゆる「タガ状口縁」となるものである。

B類　胴部から口縁部にかけて単純に広がる器形となるものである。

C類　胴部最大径付近で内湾してくびれ、口縁部にかけて緩やかに外反するものである。

D類　胴部最大径で内側に鋭く短く屈曲し、外反して口縁部に至るもの。胴部から頸部にかけての屈曲が鋭く稜線が明瞭なものをD1類、屈曲が緩やかになり稜線が不明瞭なものをD2類とする。

E類　胴部で屈曲するのはD類と共通するが、口縁部直下や屈曲部に刻目凸帯を張り付けるものである。

F類　上記のA～D類の土器の製作技法が、粘土紐を積み上げて成型していくのに対して、紐状のものを編み込んだ籠の網目に粘土を押し付けて体部の下半部を作り上げるものである。上半部は従来の粘土紐を積み上げて作り上げているものと思われる。

A類は第42図**107**の資料が破損品であり確定的ではないが、該当するのではないかと思われる。上端部が破損している。

B類は第43図**118**が典型例である。**109**のように口縁部が若干内側にすぼむものもある。この**118**と**109**は調整も似通っているので、同じ範疇のものであろう。第43図に掲載しているものは基本的にB類ではなかということで載せているが、全体の器形がはっきりしないものもあるので確定的なものではない。

C類は第44図の**130**が典型例であろう。ほかに**131**なども同じ範疇に含まれるものだと思われる。

D類は第41－2図の86がそれであろう。リボン状突起を持っている(D1類)。D1類は137が相当する。

E類は所謂組織痕土器である。組織痕しか認められないもの118と組織痕とそうでないところの双方がみとめられるもの117、119がある。

F類は刻目凸帯文土器といわれるものである。第46図の149～166が該当する。ヘラ状のものでシャープな刻目をつけるものと、刻目が若干幅広くなるものがある。

○壺

丹塗りと丹塗りでない壺口縁部が171～173の3点と、同じく丹塗りの壺底部片229が出土している。口縁部3点はいずれも外反するが、171は外反する度合いが大きい。

○浅鉢

器形を基準にして以下のように分類した。

A類　胴部が大きく張り出してくびれ、短い玉縁状の口縁部がつくもの。口縁部の沈線の有無および胴部の器形により細分される。

A1類……玉縁状口縁の内外面に沈線が巡り、胴部が大きく張り出すもの。胴部最大径は上位にある。

A2類……玉縁状口縁の内面にのみ沈線が巡り外面は平滑。胴部は大きく張り出すものの最大径は中位から下位に下がる。

B類……胴部で屈曲し口縁部にかけて大きく外反するもの。口縁部および屈曲部の形態により細分できるようであるが、残存部が少なすぎるために、その可能性があるものを一括してあげてみたい。

A1類としては、174、178などがあり、A2類では184などがその範疇に入るものか。B類としては、192～198が該当しそうである。

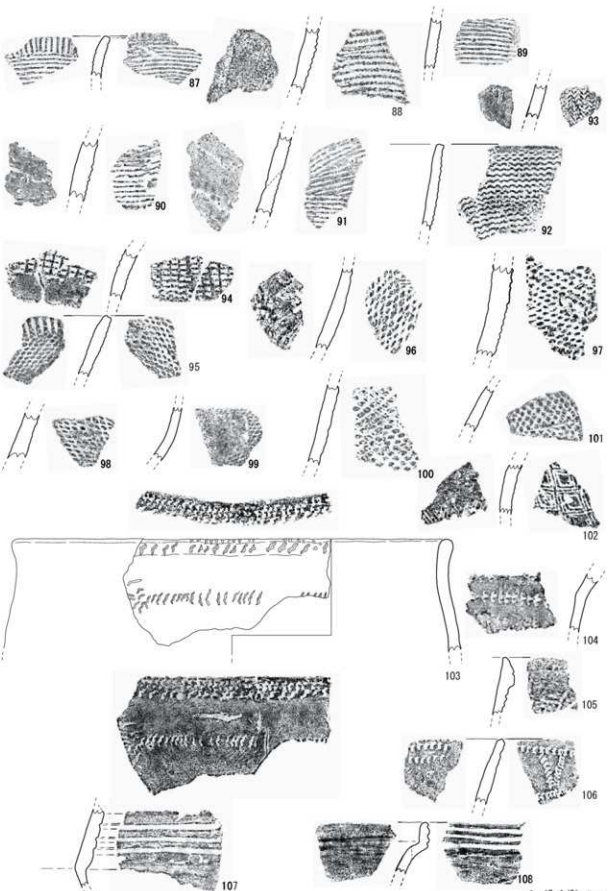
○鉢

199は、浅鉢A類の口縁部と似た形の口縁部をもち、全体的にはボール状の器体を持つものである。202はB類浅鉢の特徴である大きく外反する口縁部を持ち、口縁上端部にリボン状突起をもつ。底部は丸みをもっていて、ひっくり返して底部をみたときに隅丸方形の形をしている。底部から体部下半にかけて四隅に筋状の補強のためであろうか突起物がついている。ほぼ完形に近く全体的な形がわかる好資料ではないかと思われる。

203と204は口縁部と口縁のすぐ下に三角形の帯状の突起をつけたものである。205は前の203と204と同じような器形をもつが、口縁すぐ下の帯状の突起はなくなっているものである。補修孔の可能性がある穿孔部が確認できる。206はリボン状突起をもつ波状口縁の鉢だと思われる。207は縄文時代晩期の夜臼期に甕や壺とともにセット関係をなすものである。208も同様なものであろう。209は波状口縁をもち、かつ肩部の屈曲部が特徴的な鉢である。

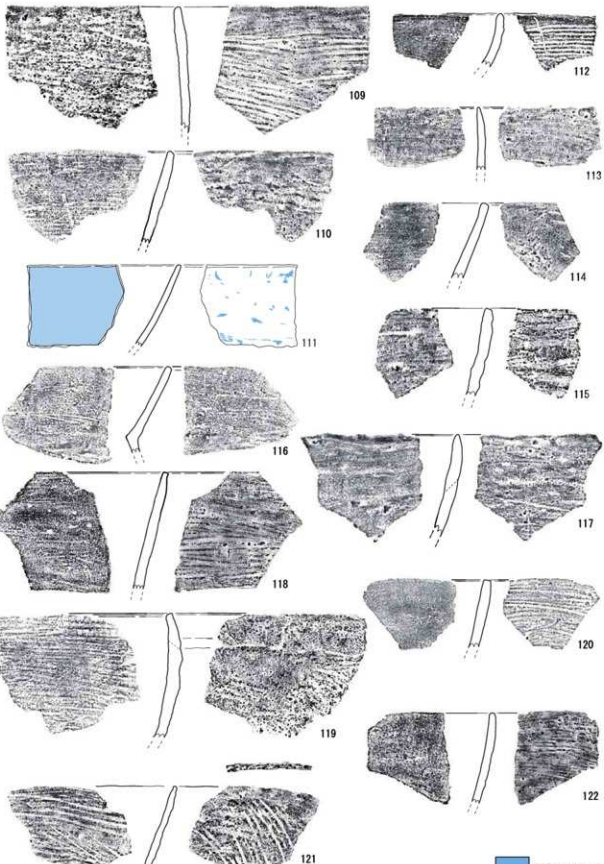
○底部

底部片も形にバリエーションがある。まず、台形というよりも三角形に近い形の底部片が211である。次に平底であるが単なる平底210、212、213、218、225、229～239があり、平底であるが、おそらく下から上への条痕によるカキ目が認められるものとして210、217、221、229、232がある。同じく平底であるけれども張り出しが強いもの225もある。平底ではなくて底が丸くなっていて、底の端が浮いているもの227、233がある。その逆で底の端は接地しているものの底の中央部が浮いていて上

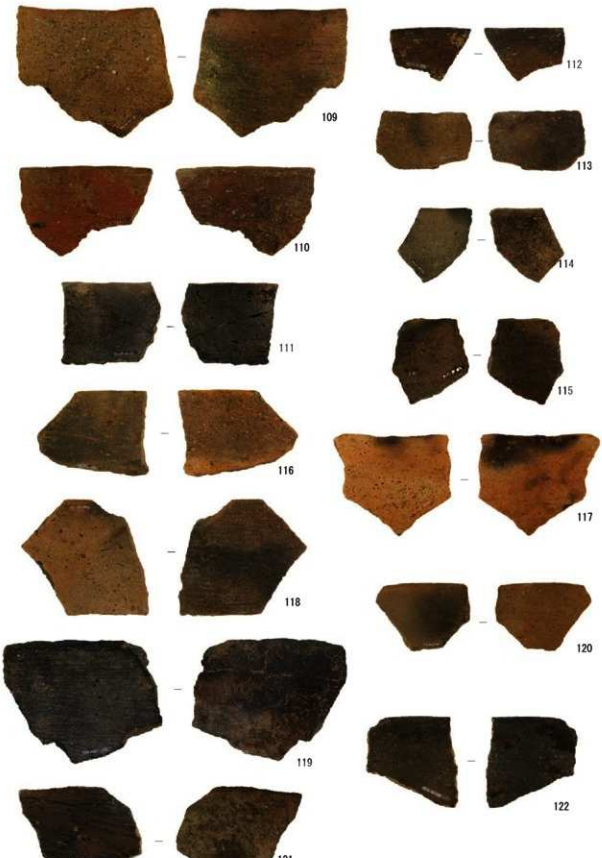


第42図　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物実測図①(S=1/3)

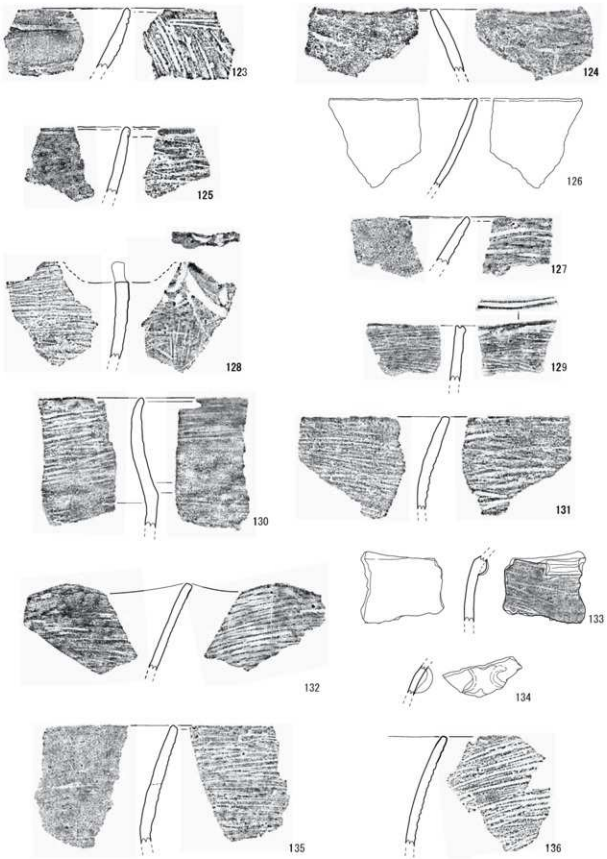
図版22　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物①



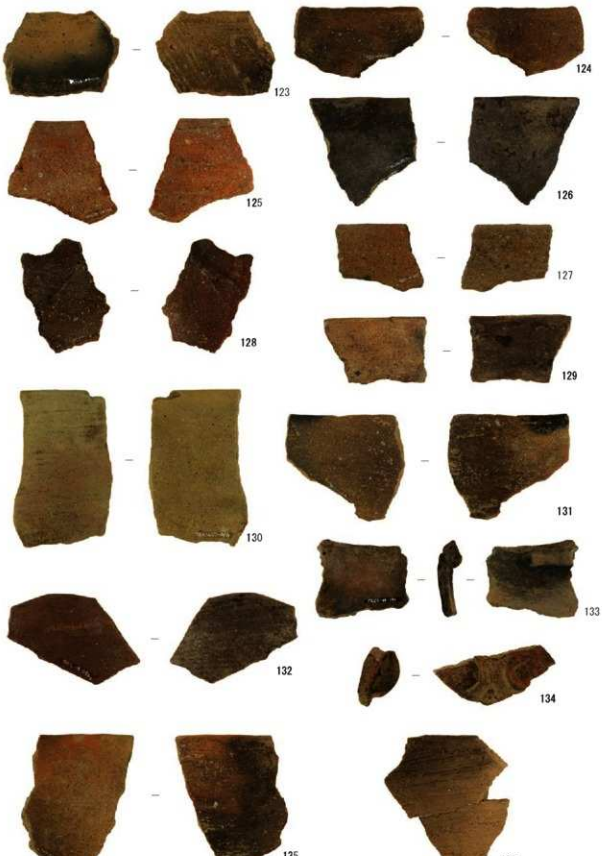
第43図　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物実測図②(S=1/3)



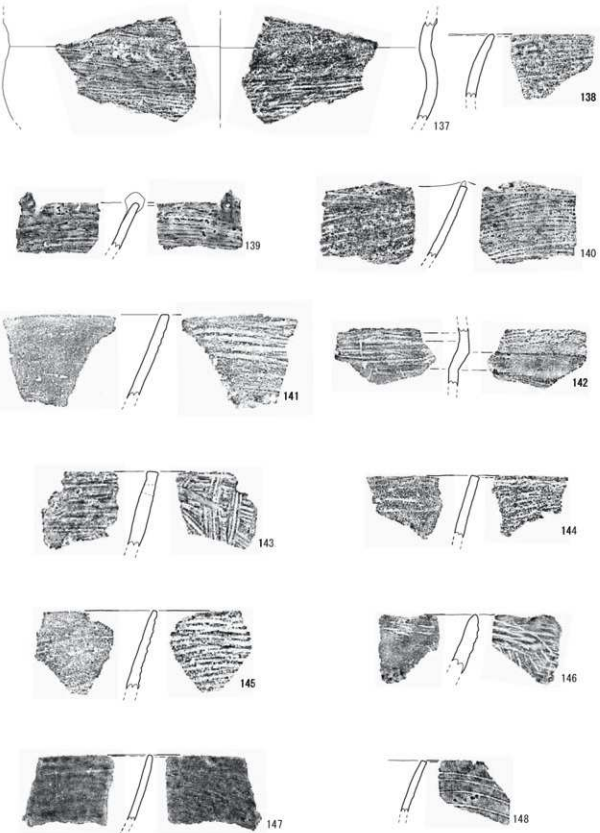
図版23　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土遺物②



第44図　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物実測図③(S=1/3)

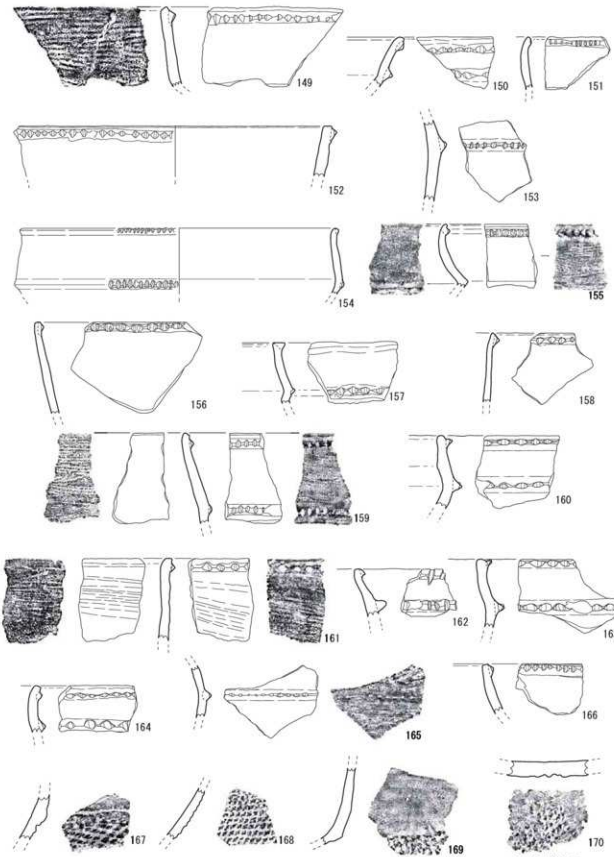


図版24　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物③



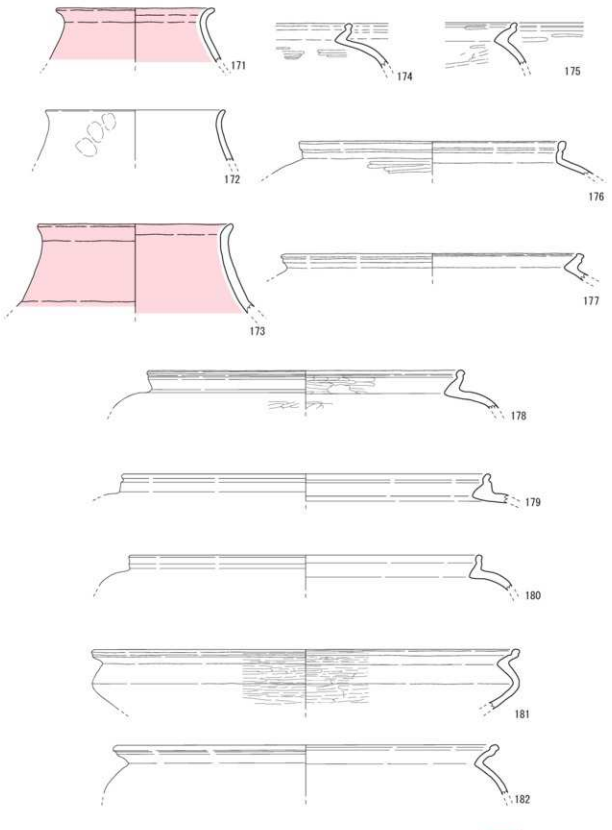
第45図　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物実測図④(S=1/3)

図版25　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物④

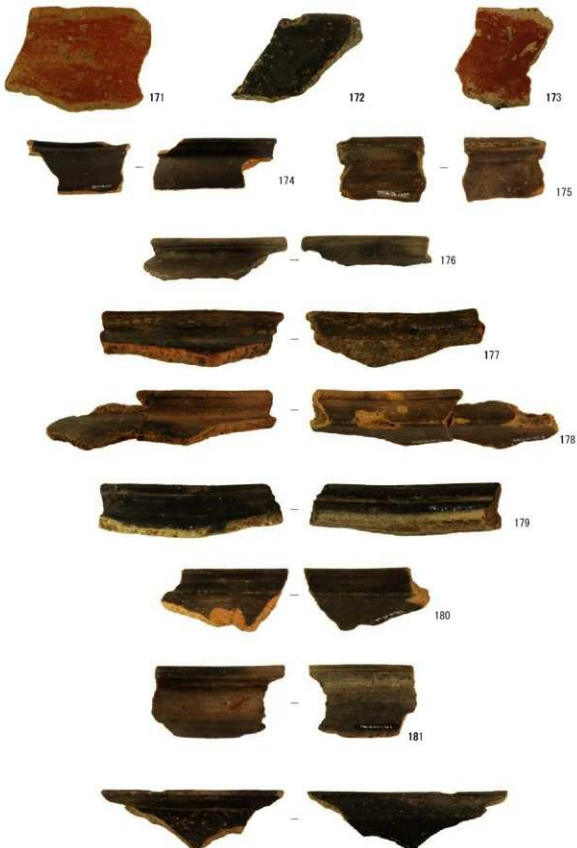


第46図　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物実測図⑤(S=1/3)

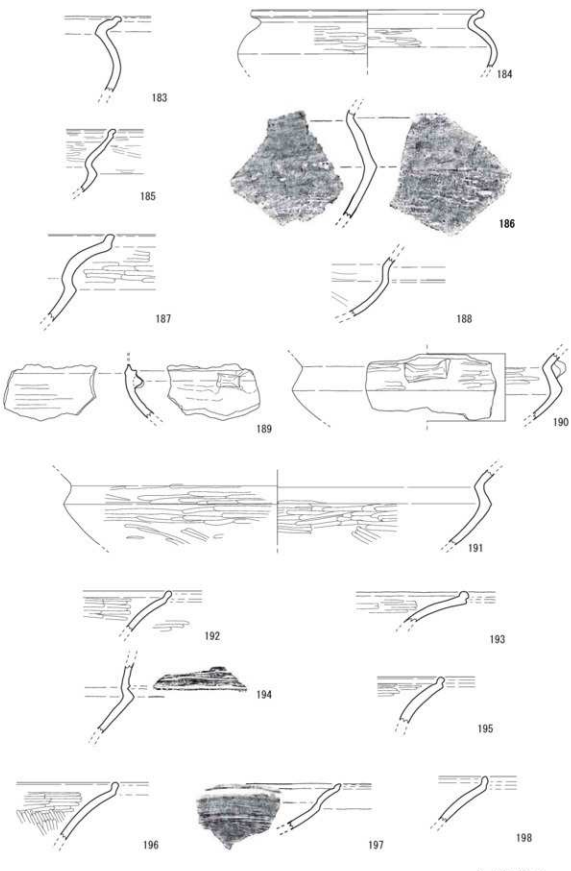
図版26　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物⑤



第47図　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物実測図⑥(S=1/3)

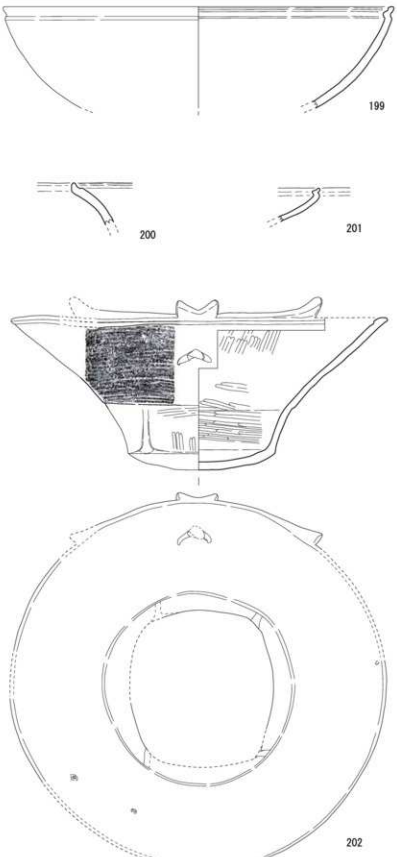


図版27　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物⑥



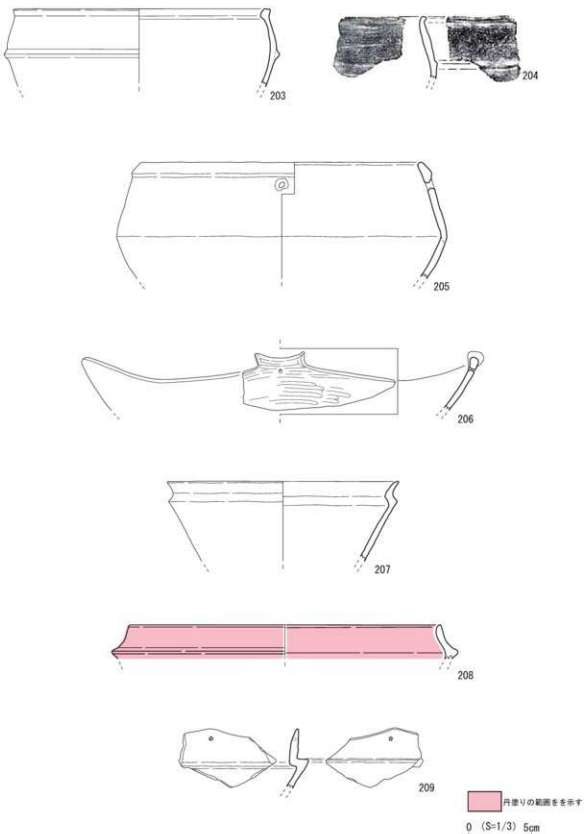
第48図　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物実測図⑦(S=1/3)

図版28　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物⑦



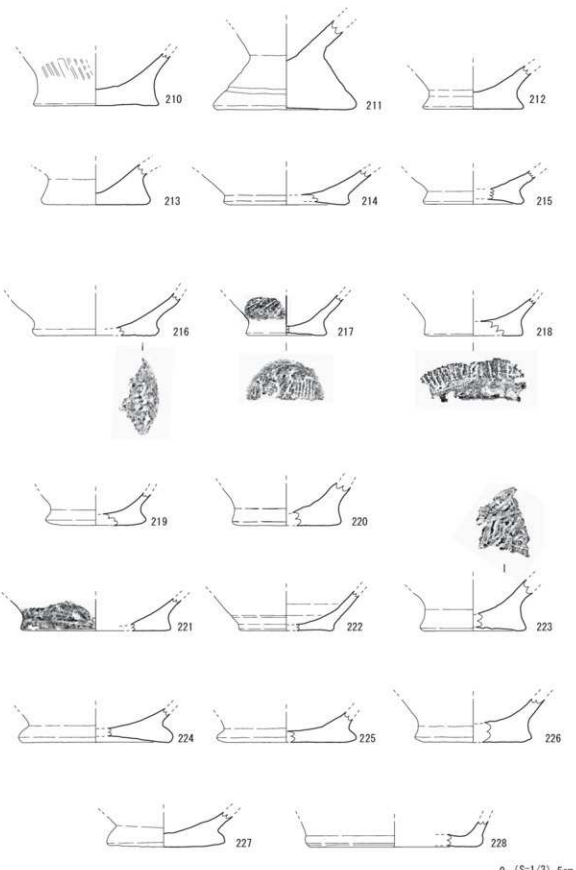
第49図　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物実測図⑧(S=1/3)

図版29　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物⑧



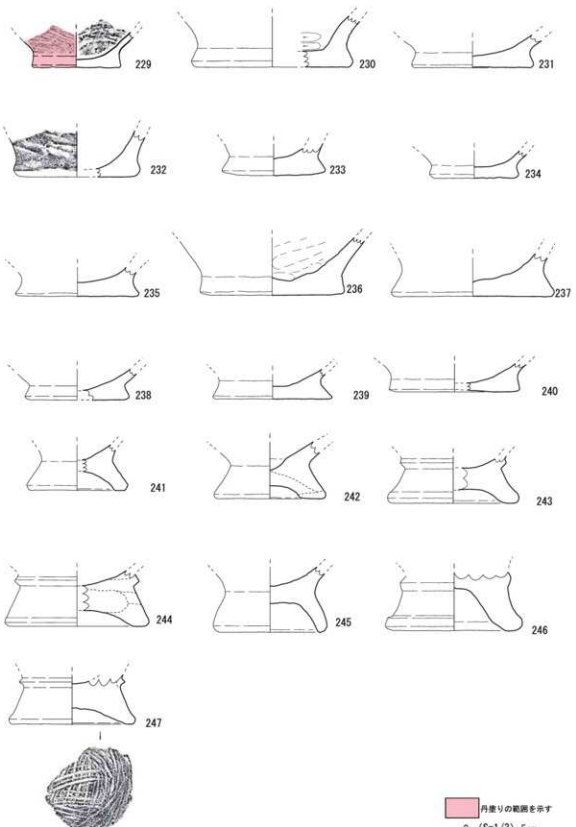
第50図　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物実測図⑨(S=1/3)

図版30　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物⑨

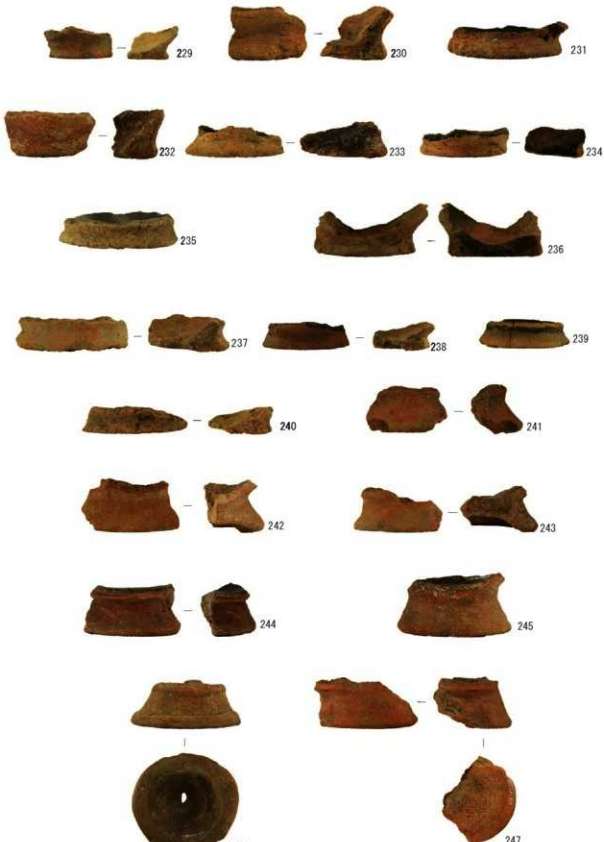


第51図　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物実測図⑩(S=1/3)

図版31　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物⑩



第52図　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物実測図⑪(S=1/3)



図版32　TAK201403、TAK201404、TAK201405、TAK201407 調査区　包含層出土遺物⑪

第11表　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土土器観察表①

図版番号	遺物ID	出土地区	層位	分類	法量(cm) 口径	器高	底径	色調 外面	内面	焼成	部位	胎土	施文処理 外面	内面	口唇部	炭化物 外面	内面	備考
87	830-1	B1 9074	5層上部	鉢?	—	残存(3.2)	—	7.5YR3/2 黒褐	7.5YR4/3 褐	○	口縁部	長石・褐色粒子	条痕文	条痕文	ナデ	無	無	縄文早期、上端部にキザミ痕あり、条痕文(内面に原体押捺文)、群登録(口縁部1・胴部2)
88	299	A6東 8672	4下層	鉢	—	残存(5.1)	—	2.5YR5/6 明赤褐	7.5YR7/3 にぶい橙	△	胴部?	長石・石英・角閃石	撚糸文	ナデ	—	無	無	縄文早期
89	828	B1 9074	4下~5層	甕?	—	残存(3.6)	—	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR5/2 灰褐	○	胴部	長石・角閃石・雲母	条痕文(円筒形か)	ナデ	—	無	無	縄文早期
90	830-2	B1 9074	5層上部	鉢	—	残存(4.5)	—	10YR3/2 黒褐	7.5YR5/6 明褐	△	胴部	長石・褐色粒子	条痕文	ナデ	—	無	無	縄文早期、条痕文(内面に原体押捺文)、群登録(口縁部1・胴部3)
91	833	B1 9074	4層下~5層	鉢?	—	残存(6.2)	—	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR7/4 にぶい黄橙	○	胴部	長石・角閃石・雲母	条痕文(円筒形か)	ナデ	—	無	無	縄文早期
92	829	B1 9074	4層下部	鉢	—	残存(6.8)	—	10YR4/2 灰黄褐	10YR3/1 黒褐	○	口縁部	長石・石英・雲母	山形押型文	ナデ	ナデ	無	無	縄文早期
93	282	A6東 8672	4下層	深鉢	—	残存(2.5)	—	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/3 にぶい赤褐	○	胴部	長石・石英・角閃石	山形押型文	ナデ	—	無	無	縄文早期
94	285	A6東 8672	4下層	深鉢	—	残存(3.7)	—	10YR7/6 明黄褐	10YR8/6 黄橙	○	胴部	長石・褐色粒子	格子目押型文	格子目押型文・ナデ	—	無	無	縄文早期
95	287	A6東 8672	4下層	深鉢	—	残存(4.7)	—	7.5R4/3 褐	7.5YR7/4 にぶい橙	△	口縁部	長石	楕円押型文	楕円押型文	—	無	無	縄文早期
96	286	A6東 8672	4下層	深鉢	—	残存(6.3)	—	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR4/1 褐灰	○	胴部	長石	楕円押型文	ナデ調整	—	無	無	縄文早期
97	247	A6東 8672	4下層	深鉢	—	(7.2)	—	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	胴部	角閃石・長石	楕円押型文	ナデ	—	無	無	縄文早期
98	290	A6東 8672	4下層	鉢	—	残存(3.4)	—	7.5YR4/4 褐	7.5YR7/2 明褐灰	○	胴部?	長石・雲母	楕円押型文	ナデ	—	無	無	縄文早期
99	1499	A6東 8672	4層	—	—	残存(4.2)	—	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	○	胴部	長石・角閃石・褐色粒子	楕円押型文	ナデ	—	無	無	縄文
100	289	A6東 8672	4下層	深鉢	—	残存(6.3)	—	7.5YR6/8 橙	10YR4/1 褐灰	○	胴部	長石・褐色粒子	楕円押型文	ナデ	—	無	無	縄文早期
101	293	A6東 8672	4下層	深鉢	—	残存(3.6)	—	2.5YR7/3 浅黄	10YR7/3 にぶい黄橙	○	胴部?	長石	楕円押型文	ナデ	—	無	無	縄文早期
102	281	A6東 8672	4下層	深鉢	—	(3.9)	—	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	○	胴部	雲母・長石・石英	多重菱形文・押型文	ナデ	—	無	無	縄文早期、手向山式土器
103	825	B1 9074	4層上面	甕	(33.0)	残存(9.7)	—	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	○	口縁部	長石・角閃石・褐色粒子	貝殻圧痕文・ナデ	ナデ	貝殻圧痕文	無	無	縄文早期、貝殻圧痕文(塞ノ神式)
104	1403-159	1070~1072 南ベルト	ベルト4層	深鉢	—	—	—	7/4 にぶい黄橙	7/4 にぶい黄橙	○	胴部	長石・角閃石・石英	貝殻圧痕文	ナデ	—	無	無	縄文早期、貝殻圧痕文(塞ノ神式)
105	1407-472	7256	北ベルト 4層	深鉢	—	残存(4.55)	—	5YR5/2 灰褐	5YR6/4 にぶい橙	○	口縁部	長石・雲母・角閃石	凹線文	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、山型口縁
106	1407-400	7060	4層	深鉢	—	残存(5.15)	—	10R5/6 赤	10R5/6 赤	○	胴部	長石・角閃石・石英	半截竹管文	半截竹管文	半截竹管文	無	無	縄文中期
107	1493	A6東 8672	4層	深鉢 粗製	—	残存(6.1)	—	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/4 にぶい橙	○	胴部上	長石・石英・雲母・結晶片岩	沈線	ナデ	—	無	無	縄文晩期、外面に3本沈線あり
108	272	B6東 9274	西ベルト	深鉢 精製	—	残存(4.0)	—	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y7/1 灰白	○	口縁部	長石・角閃石・石英	沈線	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、外面に多重沈線あり
109	73	A5 8874	3層	深鉢	—	残存(10.0)	—	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	口縁部	石英・角閃石・雲母	条痕	条痕	ヘラケズリ後ナデ	無	無	縄文晩期、外面・内面に貝殻条痕あり
110	1505	A6東 8672	3d~4層 漸移層	深鉢	—	残存(7.2)	—	2.5YR4/3 にぶい赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	○	口縁部	長石・結晶片岩・雲母	条痕・ナデ	条痕	ナデ	有	無	縄文晩期
111	155	B1 9276	3d層	深鉢 粗製	—	残存(6.4)	—	5YR1/3 黒褐色	5YR1/4 褐灰色	○	口縁部	角閃石・石英・長石	条痕・ナデ	ナデ	ナデ	有	有	内外面共に炭化物の付着あり
112	206	A6東河川(肩部)	小礫砂層	深鉢 粗製	—	残存(4.21)	—	2.5Y3/2 暗赤褐	2.5Y3/3 暗赤褐	○	口縁部	長石・石英	条痕	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、波状口縁
113	1465	A6東 8672	4層	深鉢 粗製	—	残存(4.9)	—	2.5YR5/3 にぶい赤褐	2.5YR6/4 にぶい橙	○	口縁部	長石・石英	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
114	1491	A6東 8672	4層	深鉢 粗製	—	残存(5.9)	—	2.5YR6/6 橙	7.5YR7/2 明褐灰	○	口縁部	長石・雲母	ナデ	ナデ	ナデ	有	無	縄文晩期
115	205	A58874	調査区南部 サブトレ	深鉢 粗製	—	残存(6.86)	—	2.5YR3/1 暗赤灰	2.5YR3/3 暗赤褐	○	口縁部	長石・雲母	条痕	条痕・ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
116	1482	A6東8672	4層中	深鉢 粗製	—	残存(6.8)	—	2.5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR5/4 にぶい赤褐	○	口縁部	長石・石英	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
117	1497	A6東8672	4層	深鉢 粗製	—	残存(8.1)	—	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	◎	口縁部	長石・角閃石・雲母	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文、波状口縁
118	156	B1 9276	3d層	深鉢 粗製	—	残存(9.2)	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR7/3 にぶい橙	○	口縁部	石英・長石・雲母・角閃石	条痕	条痕・ナデ	ナデ	無	無	縄文、外面に貝殻条痕あり
119	1407-412	7060	4層	深鉢 粗製	—	残存(9.8)	—	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR3/1 黒褐7.5YR5/6明褐	○	口縁部	長石・石英・結晶片岩	ナデ	条痕	ナデ	無	無	縄文晩期、輪積痕が残る。79と同類
120	1487	A6東 8672	4層中	深鉢 粗製	—	残存(5.3)	—	5YR4/6 赤褐	5YR4/4 にぶい赤褐	○	口縁部	黒色粒子・雲母・結晶片岩	条痕・ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
121	187	A5 8874	3c層	深鉢 粗製	—	残存(5.42)	—	5YR5/2 灰褐	5YR2/2 黒褐	◎	口縁部	長石・石英	条痕	条痕	貝殻圧痕文	有	無	縄文晩期、条痕の溝が深い
122	179	B6東 8872	4層	深鉢	—	残存(7.1)	—	10YR3/1 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	○	口縁	雲母・角閃石・石英	条痕	ナデ	ナデ	有	無	縄文晩期、外面に炭化物付着
123	264	A6東8672~8872	3d層	深鉢	—	残存(4.7)	—	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/6 橙	◎	口縁部	雲母	条痕	ナデ	刻み	無	無	縄文晩期、粗く深い条痕、口縁部に刻みあり
124	1486	A6東 8672	3d~4層 漸移層	深鉢 粗製	—	残存(4.9)	—	2.5YR4/6 赤褐	2.5YR4/6 赤褐	○	口縁部	長石・石英・雲母・結晶片岩?	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、口縁やや波状か
125	186	A5 8874	3c層	深鉢 粗製	—	残存(5.2)	—	10R4/8 赤	5YR5/8 明赤褐	○	口縁部	雲母・長石・褐色粒子	条痕	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、上端部を外側に折り返している
126	201	B1 9276西側	—	深鉢	—	残存(6.9)	—	7.5YR1.7/1 黒	7.5YR2/1 黒	○	口縁部	長石・石英・雲母	ナデ	ナデ	ナデ	有	有	縄文晩期、深鉢、内側に炭化物の付着が目立つ、外側にも認められる
127	207	A6東 河川	砂層2層	深鉢 粗製	—	残存(3.7)	—	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/8 橙	△	口縁部	雲母・長石・褐色粒子	条痕・ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
128	1542	B6西 9270	3a層	深鉢	—	残存(8.9)	—	10R3/4 暗赤	10R4/2 灰赤	◎	口縁部	滑石を混入	大型凹文・条痕のちナデ	ナデ	ナデ	有	無	縄文後期
129	1541	B6西 9070	3b層	粗製	—	残存(4.4)	—	2.5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR3/2 暗赤褐	○	口縁部	長石・石英	ナデ	ナデ	ナデ	有	無	縄文晩期、口唇部上端に沈線あり
130	1407-416	7060	4層	深鉢 粗製	—	残存(10.2)	—	10YR8/2 灰白	10YR7/2 にぶい黄橙	○	口縁部	長石・石英	条痕	条痕後ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
131	1464	A6東 8672	4層中	深鉢 粗製	—	残存(7.3)	—	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR5/3 にぶい褐	○	口縁部	長石・結晶片岩	条痕	条痕・ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
132	262	A5 8874	表採	深鉢 粗製	—	(6.6)	—	10YR3/3 暗褐	7.5YR4/4 褐	○	口縁部	結晶片岩・長石・雲母	条痕	条痕・ナデ	ナデ	有	無	縄文晩期、波状口縁、深い条痕あり

※TAK201404調査区包含層出土土器は遺物IDのみ記載。　※焼成は良好◎良○やや良△不良×であらわす。　※条痕は貝殻条痕のことを指す。

第12表　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土土器観察表②

図版番号	遺物ID	出土地区	層位	分類	法量(cm) 口径	器高	底径	色調 外面	内面	焼成	部位	胎土	施文処理 外面	内面	口唇部	炭化物 外面	内面	備考
133	190	旧A5 8874	3c層か(黄褐色土)	深鉢	—	(5.2)	—	7.5YR3/1 黒褐	7.5YR4/2 灰褐	○	胴部	角閃石・雲母	細い縦沈線	ナデ	—	無	無	縄文晩期、リボン状飾り
134	258	A5 8874	3c層	深鉢 粗製	—	(1.8)	—	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/6 明褐	○	胴部	雲母・石英・角閃石・長石	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、リボン状飾り付き
135	1489	A6東 8672	4層中	深鉢 粗製	—	残存(9.3)	—	5YR6/8 橙	7.5YR7/4 にぶい橙	○	口縁部	雲母・石英・長石	条痕	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
136	1500	A6東 8672	3d~4層漸移層	深鉢 粗製	—	残存(8.6)	—	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	○	口縁部	長石・雲母	深い条痕	ナデ	ナデ	無	無	縄文、山型口縁、深い条痕
137	157	B1 9276	3d層	深鉢 粗製	胴外径(34.4)	残存(8.0)	—	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR7/4 にぶい橙	○	胴部	赤色粒子・石英・長石・雲母	条痕・ナデ	条痕・ナデ	—	無	無	縄文
138	1492	A6東 8672	4層	深鉢 粗製	—	残存(5.0)	—	2.5YR5/2 灰赤	2.5YR5/4 にぶい赤褐	○	口縁部	長石・結晶片岩	条痕・ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
139	254	A5 8874	3a層	深鉢 粗製	—	(4.5)	—	10YR4/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	○	口縁部	長石・雲母・角閃石	条痕・ナデ	条痕・ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、口縁にリボン状飾り付き
140	185	旧A5 8874	3c層	深鉢 粗製	—	(6.1)	—	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	○	口縁部	結晶片岩・雲母・石英	条痕・ナデ	条痕・ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
141	1480	A6東 8672	3d~4層漸移層	深鉢 粗製	—	残存(6.6)	—	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	○	口縁部	長石・雲母	条痕・ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、口縁上端に一部沈線あり
142	256	A5 8874	3c層	深鉢 粗製	—	残存(4.6)	—	7.5YR6/2 灰褐	7.5YR4/6 褐	○	胴部	長石・角閃石・石英	条痕・ナデ	条痕・ナデ	—	無	無	縄文晩期、「く」の字型屈曲
143	1407-407	7256	北ベルト3層	深鉢	—	残存(5.06)	—	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	○	口縁部	長石・雲母	条痕	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、補修孔あり、条痕が一見区画文様に見える
144	188	A5 8874	3c層	深鉢	—	残存(4.8)	—	5YR5/6 明赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	口縁部	長石・石英・雲母	条痕・ナデ	条痕・ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、粗製
145	212	A6東 8672	3層	深鉢 粗製	—	残存(6.19)	—	7.5YR5/3 にぶい褐	5YR4/6 赤褐	○	口縁部	石英・雲母	条痕	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
146	831	B1 9074	5層	甕?	—	残存(4.7)	—	5YR7/4 にぶい橙	5YR3/2 暗赤褐	○	口縁部	極小石英粒	条痕文	条痕文・ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、口縁に突起物あり、条痕がやや深い
147	203	B1 9276 北壁トレンチ	3d層	深鉢	—	残存(4.96)	—	10YR3/2 黒褐	7.5YR5/2 灰褐	○	口縁部	長石・灰褐粒子	条痕・ナデ	条痕・ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
148	248	B6東 8872	3a層	深鉢	—	(4.0)	—	10YR3/1 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	○	口縁	角閃石・長石・雲母	四条の細い沈線文	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
149	1405-1884・1885	①区 7064	4b層	壺	—	残存(6.3)	—	10YR8/3 浅黄橙	5YR7/6 橙	○	口縁部	長石・雲母	ナデ	条痕・ナデ	—	無	無	縄文晩期、刻み目凸帯、磨滅で調整がわかりにくい
150	1407-481	7058	4層	深鉢	—	残存(4.4)	—	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR3/2 黒褐	○	口縁部	長石・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、2条刻み目凸帯
151	1407-448	7056	4層	深鉢 精製	—	残存(3.9)	—	10YR5/6 黄褐	10YR4/1 褐灰	○	口縁部	長石・角閃石・黒色粒子・白色粒子・雲母	ナデ	条痕・ナデ	ナデ	無	無	縄文、刻み目凸帯、磨滅で調整がわかりにくい
152	1407-479	2区 7056	4層	深鉢	(24.6)	残存(4.0)	—	10YR4/2 灰黄褐	10YR2/1 黒	○	口縁部	石英・長石・雲母・黒色粒子	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、刻み目凸帯
153	1407-456	2区 7056	4層	深鉢	—	残存(6.4)	—	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/2 灰褐	○	胴部	長石・雲母	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、刻み目凸帯、くの字型
154	1407-485	7060	4層	深鉢	(24.8)	残存(5.2)	—	10YR3/2 黒褐	7.5YR7/4 にぶい橙	○	口縁部	長石・雲母・角閃石	ナデ	条痕・ナデ	ナデ	有	無	縄文晩期、2条刻み目凸帯
155	1407-418	7060	4層	深鉢	—	残存(5.0)	—	5YR3/1 黒褐	5YR3/1 黒褐	○	口縁部	長石・雲母・白色粒子・結晶片岩・石英	ナデ	条痕・ナデ	ナデ	有	無	縄文晩期、刻み目凸帯
156	1405-1881	③区 7066		壺	—	残存(7.2)	—	10YR7/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐	○	口縁部	長石・雲母・角閃石	条痕・ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、刻み目凸帯、条痕調整後の丁寧なナデ
157	1407-484	7058	4層	深鉢	—	残存(4.8)	—	7.5YR4/4 褐	7.5YR5/6 明褐	○	口縁部	長石・白色粒子・角閃石・結晶片岩	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、刻み目凸帯
158	1407-450	7056	4層	深鉢	—	残存(5.4)	—	10R2/1 赤黒	N1.5/ 黒	○	口縁部	長石・角閃石・雲母	ナデ	ナデ	ナデ	有	有	縄文晩期、刻み目凸帯
159	1407-486	7258	4層	深鉢	—	残存(7.15)	—	10R5/6 赤	10YR5/2 灰赤	○	口縁部	長石・雲母・角閃石	条痕・ナデ	条痕・ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、2条刻み目凸帯
160	1407-453	2区 7056	4層	深鉢	—	残存(4.4)	—	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	口縁部	石英・角閃石	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、2条凸帯、くの字型
161	1407-449	7056	4層	深鉢	—	残存(6.3)	—	2.5YR3/2 暗赤褐	2.5YR3/2 暗赤褐	○	口縁部	長石・雲母・角閃石	条痕・ナデ	条痕・ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、刻み目凸帯、はっきりしたヘラ状刻み
162	1407-452	2区 7056	4層	深鉢	—	残存(3.2)	—	5YR7/4 にぶい橙	5TR6/3 にぶい橙	○	口縁部	長石・雲母	条痕・ナデ	条痕・ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、2条凸帯
163	1407-454	2区 7056	4層	深鉢	—	残存(5.1)	—	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	○	口縁部	長石・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、2条凸帯、くの字型
164	1407-460	7058	4層	深鉢	—	残存(3.6)	—	7.5YR3/1 黒褐	7.5YR3/1 黒褐	○	口縁部	長石・雲母	ナデ	ナデ	ナデ	有	有	縄文晩期、2条刻み目凸帯
165	1407-458	2区 7056	4層	深鉢	—	残存(4.2)	—	10YR4/3 にぶい黄褐	7.5YR1.7/1 黒	○	胴部	石英	条痕・ナデ	ナデ	—	有	有	縄文晩期、刻み目凸帯
166	1407-462	7058	4層	深鉢	—	残存(4.0)	—	7.5YR2/2 黒褐	7.5YR2/1 黒	○	口縁部	長石・石英	ナデ	ナデ	ナデ	有	有	縄文晩期、刻み目凸帯
167	1405-1878	③区 7066	4b層	—	—	残存(3.5)	—	10R4/6 赤	10R3/2 暗赤褐	○	底部	長石、石英	網目文	ナデ	—	無	無	縄文晩期、組織痕土器
168	1407-477	7058	5層	深鉢	—	残存(4.0)	—	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR2/2 黒褐	○	胴部	雲母・長石	網目文	ナデ	—	無	有	縄文晩期
169	1407-474	2区 7056	4層	深鉢	—	残存(6.0)	—	7.5YR3/2 黒褐	7.5YR3/1 黒褐	○	胴部	長石・雲母	ナデ・組織痕	ナデ	—	有	有	縄文晩期、組織痕土器
170	1407-473	2区 7056	4層	深鉢	—	—	—	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR3/1 暗赤灰	○	底部	雲母・長石	組織痕	ナデ	—	無	有	縄文晩期、組織痕土器
171	1407-440	7060	4層	壺	(10.7)	残存(3.6)	—	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	○	口縁部	長石・雲母	丹塗り	丹塗り	丹塗り	無	無	縄文晩期、丹塗り
172	1407-471	2区 7056	4層	壺 精製	(14.0)	残存(4.0)	—	7.5YR2/1 黒	7.5YR3/2 黒褐	○	口縁部	長石・石英	ミガキ	ナデ	ミガキ	有	無	縄文晩期、外面に指圧痕あり
173	1407-439	4区 7056	4層	壺	(14.4)	残存(6.1)	—	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	○	口縁部	長石・雲母	丹塗り	丹塗り	丹塗り	無	無	縄文晩期、丹塗り
174	1471	A6東 8672	4層	浅鉢 精製	—	残存(3.5)	—	2.5YR3/2 暗赤褐	2.5YR3/1 暗赤灰	○	口縁部	長石・角閃石・雲母	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	無	無	縄文晩期、黒色磨研
175	1459	A6東 8672	4層中	浅鉢 精製	—	残存(3.3)	—	2.5YR2/2 極暗赤褐	2.5YR2/2 極暗赤褐	○	口縁部	角閃石・長石・雲母	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研
176	1540	B6西 8870	3b層	浅鉢 精製	(19.2)	残存(2.5)	—	10YR4/3 にぶい黄褐	10YR4/3 にぶい黄褐	○	口縁部	長石	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研・玉縁口縁
177	1454	A6東 8672	4層中	精製	(23.2)	残存(2.1)	—	2.5YR5/1 赤灰	2.5YR5/2 灰赤	○	口縁部	長石・石英	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研

※TAK201404調査区包含層出土土器は遺物IDのみ記載。　※焼成は良好◎良○やや良△不良×であらわす。　※条痕は貝殻条痕のことを指す。

第13表　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土土器観察表③

図版番号	遺物ID	出土地区	層位	分類	法量(cm) 口径	器高	底径	色調 外面	内面	焼成	部位	胎土	施文処理 外面	内面	口唇部	炭化物 外面	内面	備考
178	105	B6東 9272	3d層	浅鉢 精製	(24.6)	残存 (3.0)	—	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/3 褐	○	口縁部	石英・角閃石・雲母	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、浅鉢、黒色磨研
179	1453	A6東 8672	4層中	精製	(26.8)	残存 (2.25)	—	10YR3/1 黒褐	10YR4/1 褐灰	○	口縁部	長石・角閃石	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研
180	1464	A6東 8672	4層	浅鉢 精製	(27.5)	残存 (2.75)	—	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/3 褐	○	口縁部	長石・雲母・角閃石	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研
181	84	A6東 8672	3層	浅鉢 精製	(33.4)	残存 (4.7)	—	7.5YR3/2 黒褐	7.5YR3/2 黒褐	○	口縁部	雲母・長石・石英・角閃石・結晶片岩	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	無	無	縄文、黒色磨研
182	2216	B6西 9270	3層	浅鉢	(32.0)	残存 (4.0)	—	10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐	○	口縁部	角閃石・長石・雲母	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	ミガキ	無	無	縄文、磨研
183	221	A6東 8672	4層	浅鉢 精製	—	残存 (5.9)	—	2.5YR7/6 明黄褐	5Y5/1 オリーブ黒	○	口縁部～胴部	長石・褐色粒子	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研
184	214	A6東 8672	3d層	浅鉢 精製	(18.2)	(4.5)	—	10YR2/1 黒	10YR3/1 黒褐	○	口縁部～胴部	角閃石・雲母	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研
185	1407-405	7258	3層	浅鉢	—	残存 (5.0)	—	5YR5/1 褐灰	5YR4/1 褐灰	○	口縁部	角閃石・石英・雲母	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研、磨滅あり
186	246	A6東 8672	3d層	浅鉢 精製	—	残存 (8.4)	—	7.5YR3/1 黒褐	10YR3/2 黒褐	○	胴部	雲母・長石・褐色粒子	ミガキ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、黒色磨研、「く」の字型
187	1474	A6東 8672	4層	浅鉢 精製	—	残存 (6.8)	—	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	○	口縁部	長石・角閃石	ミガキ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
188	1407-427	7060	4層	浅鉢 精製	—	残存 (4.7)	—	7.5YR3/2 黒褐	5YR5/1 褐灰	△	口縁部	雲母・長石	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、磨滅で調整不明
189	210	A6東8672	3層	浅鉢	—	(4.2)	—	10YR3/1 黒褐	7.5YR3/2 黒褐	○	胴部	角閃石・長石	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、凸帯・リボン状飾り付き
190	253	A5 8874	3a層	浅鉢 精製	—	(5.2)	—	10YR3/2 黒褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	胴部	石英・角閃石・雲母	一部ミガキ	ミガキ	—	無	無	縄文晩期、リボン状飾り付き
191	1455	A6東 8672	4層	浅鉢 精製	—	残存 (5.9)	—	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	△	肩部	角閃石・石英・長石	ミガキ	ミガキ	—	無	無	縄文晩期、「く」の字型、肩部、磨滅あり
192	1472	A6東 8672	4層	浅鉢 精製	—	残存 (3.1)	—	7.5YR3/3 暗褐	7.5YR3/3 暗褐	○	口縁部	長石・雲母・角閃石	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、浅鉢、精製、黒色磨研
193	1460	A6東 8672	3d～4層 漸移層	浅鉢 精製	—	残存 (2.45)	—	5YR6/2 灰褐	5YR5/2 灰褐	○	口縁部	長石・角閃石・石英	ナデ	ミガキ	ナデ・ミガキ	無	無	縄文晩期、浅鉢、精製、黒色磨研
194	251	B6東 8872	4上層	浅鉢 精製	—	残存 (5.6)	—	7.5YR3/1 黒褐	7.5YR4/1 褐灰	○	胴部	長石・褐色粒子・雲母	ミガキ	ミガキ	—	無	無	縄文晩期、黒色磨研、「く」の字型、外に沈線あり
195	1463	A6東 8672	3d～4層 漸移層	浅鉢	—	残存 (3.7)	—	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR4/1 褐灰	○	口縁部	角閃石・褐色粒子	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研
196	1458	A6東 8672	3d～4層 漸移層	浅鉢 精製	—	残存 (4.5)	—	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	○	口縁部	長石・雲母・角閃石	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研
197	215	A6東 8672	3d層	浅鉢 精製	—	残存 (3.6)	—	7.5YR2/1 黒	7.5YR2/1 黒	○	口縁部	長石・石英	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、浅鉢、精製、黒色磨研
198	1466	A6東 8672	3d～4層 漸移層	浅鉢	—	残存 (3.6)	—	10YR3/3 暗褐	10YR3/3 暗褐	○	口縁部	長石・雲母・角閃石	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研
199	134-1	A6東 8672	3d層	浅鉢	(33.0)	残存 (8.0)	—	7.5YR3/3 暗褐	7.5YR3/3 暗褐	○	口縁部・胴部	長石・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
200	60	A6東 8672	SK5	浅鉢 精製	—	残存 (3.3)	—	2.5YR6/6 橙	2.5YR5/6 明赤褐	○	口縁部	長石・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、磨研土器
201	1468	A6東 8672	4層	浅鉢 精製	—	残存 (2.6)	—	2.5YR5/3 にぶい赤褐	2.5YR4/1 赤灰	○	口縁部	長石・雲母	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	無	無	縄文晩期、黒色磨研
202	1407-476	7058	4層	浅鉢	29.3	13.6	12.4 11.4	10YR6/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	○	完形に近い	角閃石・雲母	条痕・ナデ・ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、黒色磨研、口縁にリボン付、内面の底は丸く形成されているが外面の底部は楕長方形の丸底である。接地面の法量は12.4×11.4、外面にブーメラン状のものが取り付けてある、穿孔3個
203	1407-428	7060	4層	浅鉢 精製	(21.2)	残存 (6.2)	—	7.5YR3/2 黒褐	7.5YR5/1 褐灰	○	口縁部	長石・雲母	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
204	1407-414	7060	4層	深鉢 粗製	—	残存 (4.8)	—	7/5YR2/1 黒	7.5YR2/2 黒褐	△	口縁部	長石・雲母	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期
205	1407-434	7260	4層	鉢	(22.0)	残存 (9.1)	—	10YR3/2 黒褐	10YR4/1 褐灰	○	口縁部	雲母・角閃石・石英	ナデ	ナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、黒色磨研、穿孔あり
206	1457	A6東 8672	4層中	浅鉢	(31.6)	(4.6)	—	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/1 褐灰	○	口縁部	雲母	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研、山形口縁、リボン状突起、孔1個
207	220	A6東 8672	4層	浅鉢 精製	(18.0)	残存 (6.3)	—	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR4/1 褐灰	○	口縁部～胴部	長石・雲母	ミガキ	ミガキ	ミガキ	無	無	縄文晩期、黒色磨研、鋭角な稜、磨滅あり
208	1407-429	7060	4層	浅鉢 精製	(24.4)	残存 (2.7)	—	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR6/6 橙	○	口縁部	長石・石英・角閃石・雲母	ナデ・丹塗り	ナデ・丹塗り	ナデ・丹塗り	無	無	縄文晩期、丹塗り
209	1403-0079	1072	3層	浅鉢 精製	(11.8)	残存 (4.9)	—	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	○	口縁部	極小白色粒子精良	丁寧なナデ	丁寧なナデ	ナデ	無	無	縄文晩期、磨研土器、波状口縁、口縁部穿孔
210	1506	A6東 8672	4層中	深鉢	—	残存 (4.1)	(9.8)	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/4 にぶい赤褐	○	底部	長石・雲母・結晶片岩	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、あげ底、カキアゲ条痕
211	1407-441	7260	4層	深鉢	—	残存 (6.1)	(9.1)	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR7/6 明黄褐	○	底部	長石・雲母	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期
212	1519	A6東 8672	4層	深鉢	—	残存 (3.4)	7.6	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	△	底部	赤色粒子	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文、平底
213	1544	B6西 8870	3b層	深鉢	—	残存 (2.9)	(7.5)	10YR7/6 明黄褐	10YR7/3 にぶい黄橙	×	底部	長石	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期
214	1522	A6東 8672	4層中	深鉢	—	残存 (2.75)	(9.3)	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/6 橙	×	底部	長石・雲母	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文、平底、ややあげ底
215	1523	A6東 8672	4層中	深鉢	—	残存 (2.6)	(7.6)	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR8/2 灰白	△	底部	長石・雲母	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底、ややあげ底
216	1507	A6東 8672	4層中	深鉢	—	残存 (3.3)	(9.4)	2.5YR6/6 橙	2.5YR4/1 赤灰	×	底部	長石	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文、平底
217	1518	A6東 8672	4層中	深鉢	—	残存 (3.1)	(6.0)	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/4 にぶい赤褐	△	底部	長石・結晶片岩・雲母	ナデ・条痕	ナデ	—	無	無	縄文晩期、ややあげ底　底に条痕あり、外カキアゲ条痕
218	1513	A6東 8672	4層	深鉢	—	残存 (2.95)	(7.2)	2.5YR6/6 橙	5YR3/2 暗赤褐	△	底部	長石・雲母	ハケメ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底、外カキアゲ条痕
219	1521	A6東 8672	4層	深鉢	—	残存 (2.6)	(7.6)	2.5YR6/6 橙	5YR4/3 にぶい赤褐	○	底部	長石・雲母・石英	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底
220	1511	A6東 8672	3d～4層 漸移層	深鉢	—	残存 (3.4)	(7.0)	2.5YR5/8 明赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	△	底部	角閃石・長石・褐色粒子	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底
221	1516	A6東 8672	4層	深鉢	—	残存 (2.5)	(11.0)	2.5YR6/6 橙	2.5YR5/2 灰赤	×	底部	長石・角閃石・雲母	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底、外カキアゲ条痕

※TAK201404調査区包含層出土土器は遺物IDのみ記載。 ※焼成は良好◎良○やや良△不良×であらわす。 ※条痕は貝殻条痕のことを指す。

第14表　TAK201403・201404・201405・201407調査区包含層出土土器観察表④

図版番号	遺物ID	出土地区	層位	分類	法量(cm)			色調		焼成	部位	胎土	施文処理			炭化物		備考
					口径	器高	底径	外面	内面				外面	内面	口唇部	外面	内面	
222	1407-406	7260	3層	—	—	残存(3.1)	(7.0)	2.5YR3/1 暗赤灰	2.5YR2/1 赤黒	△	底部	長石・雲母	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期
223	1509	A6東8672	4層	深鉢	—	残存(8.4)	(7.8)	5YR6/4 にぶい橙	5YR1.7/1 黒	○	底部	角閃石・長石・石英	ナデ	条痕	—	無	有	縄文晩期
224	1508	A6東8672	3d～4層 漸移層	壺?	—	残存(2.6)	(11.6)	2.5YR5/4 にぶい赤褐	2.5YR5/4 にぶい赤褐	△	底部	石英	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底、ややあげ底
225	1514	A6東8672	3d～4層 漸移層	深鉢	—	残存(2.4)	(9.2)	5YR6/6 橙	7.5YR/6/4 にぶい橙	△	底部	褐色粒子・長石・角閃石	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底
226	824	B1 9074		深鉢 粗製	—	残存(3.3)	(7.6)	2.5YR6/6 橙	2.5YR2/2 極暗赤褐	△	底部	長石・雲母	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期
227	145	A6東8672～8872	3d～4層 漸移層	深鉢 粗製	—	残存(2.8)	(7.0)	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR3/2 暗赤褐	○	底部	雲母・角閃石・石英・結晶片岩	ナデ	削り・ナデ	—	無	無	縄文
228	1407-476	2区 7056	4層	深鉢	—	残存(2.2)	—	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/4 にぶい黄橙	△	底部	長石・雲母・角閃石	ナデ?	ナデ?	—	無	無	縄文晩期、1条沈線あり、磨滅あり
229	192	A5 8874	3c層	壺 底部	—	残存(2.8)	(6.8)	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR7/6 明黄褐	○	底部	雲母・褐色粒子	条痕・丹塗り	条痕	—	無	無	縄文晩期、外カキアゲ条痕
230	167	A6東8672	3層	深鉢 粗製	—	残存(4.0)	(12.0)	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR4/6 赤褐	○	底部	雲母・角閃石・石英・長石・赤色粒子	条痕・ナデ	条痕・ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底、外横方向の条痕ナデ
231	182	B6東	4層上面	深鉢 粗製	—	残存(2.5)	8.8	10YR3/1 黒褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	底部	長石・石英・雲母	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底
232	1515	A6東8672	4層	深鉢	—	残存(3.6)	(8.6)	5YR4/6 赤褐	5YR3/2 暗赤褐	△	底部	長石・角閃石	ヘラケズリ?	ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底
233	146	A6東8672～8872	3d～4層 漸移層	深鉢 粗製	—	残存(2.5)	(8.2)	5YR6/4 にぶい橙	5YR2/1 黒褐	△	底部	石英・角閃石・雲母	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文
234	150	A6東8672～8872	3d～4層 漸移層	深鉢 粗製	—	残存(2.1)	(8.6)	5YR6/6 橙	5YR3/2 暗赤褐	○	底部	雲母・石英・角閃石・褐色粒子	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文
235	199	B6東9072	4上層	深鉢 粗製	—	残存(2.1)	8.6	7.5YR6/1 褐灰	7.5YR8/3 浅黄橙	○	底部	長石・石英	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底
236	170	A6東8672	3d層	深鉢 粗製	—	残存(4.5)	(10.0)	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/6 明褐	○	底部	雲母・角閃石・石英	ナデ	指オサエ・ナデ	—	無	無	縄文晩期、内面中央に指痕あり
237	231	A6東8672	3d層	深鉢 粗製	—	残存(3.0)	(11.0)	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	○	底部	長石、角閃石、石英	ナデ	指オサエ・ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底
238	197	B6東9072	3d層	深鉢 粗製	—	残存(2.4)	(7.2)	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/3 にぶい赤褐	○	底部	長石・雲母	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底
239	232	A6東8672	3d層	深鉢 粗製	—	残存(2.1)	8.0	5YR4/6 赤褐	5YR3/6 暗赤褐	△	底部	長石・雲母・石英	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底、ヒビ割れあり
240	1512	A6東8672	4層	—	—	残存(2.1)	(9.0)	2.5YR6/6 橙	5YR7/4 にぶい橙	△	底部	長石・雲母	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、平底
241	158	B7西9472	東壁	深鉢 粗製	—	残存(3.6)	(7.6)	7.5YR5/6 明褐	7.5YR6/4 にぶい橙	△	底部	雲母・長石・石英・角閃石	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、あげ底、外くびれ部上にヘラ痕?あり
242	1407-444	7060	4層	深鉢	—	残存(4.0)	(7.5)	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	△	底部	長石・雲母・角閃石	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、内面中央に指痕あり
243	1407-443	7060	4層	深鉢	—	残存(3.7)	(9.8)	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙	△	底部	長石・雲母	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期
244	1407-409	7056	3層	深鉢	—	残存(4.4)	(10.6)	2.5YR4/4 にぶい赤褐	2.5YR4/1 赤灰	○	底部	長石・雲母	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、あげ底
245	1407-408	7256	3層	深鉢	—	残存(5.1)	(7.8)	5YR6/6 橙	5YR6/4 にぶい橙	△	底部	結晶片岩・長石・石英・白色粒子	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文晩期、あげ底、ヒビ割れあり
246	1407-442	7060	4層	深鉢	—	残存(4.0)	8.4	5YR4/6 赤褐	5YR4/3 にぶい赤褐	○	底部	長石・角閃石	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文土器、あげ底
247	1407-445	7058	4層	深鉢	—	残存(3.9)	(9.6)	10R4/8 赤	10R3/1 暗赤灰	○	底部	長石・雲母	ナデ	ナデ	—	無	無	縄文土器、あげ底、外底にシャープな条痕あり

※TAK201404調査区包含層出土土器は遺物IDのみ記載。　※焼成は良好◎良○やや良△不良×であらわす。　※条痕は貝殻条痕のことを指す。

げ底状のもの**214、215、217、223、224**があり、外側や内面底部面にカキ目がついたものもある。最後は上げ底のものである。**241～247**が該当する。

⑤縄文時代土器小結

冒頭で述べたように、縄文土器は早期、中期、後期、晩期の土器がそれぞれあるが、主体となるのは縄文時代晩期の土器である。晩期について深鉢のA類として分類したものが晩期前半の前葉に、B　C　D類が晩期前半の中葉～後葉の範疇に入るものと思われる。E類の組織痕土器は晩期前半の中葉～晩期後半の中頃にかけて、F類の刻目凸帯文土器が晩期前半の終わり～晩期後半ないしは弥生時代前期までで、同じように壺も刻目凸帯文土器と同じように出土する[註3]。浅鉢は晩期前半の深鉢D類に伴いながら登場する。

【註】

註1　渡邊康行氏の御教示によると、撚糸文系で轟A式の前段階のものではないかとのことであった。

註2　深鉢の分類にあたっては、島原市肥賀太郎遺跡で出土した深鉢の分類を参考にした（中尾篤志編2006）。

註3　出土した丹塗りの壺(171、173)と同じく丹塗り壺の底部(229)は、接合はしなかったが同形式の可能性もある。
そうだとすると夜臼Ⅱb式の範疇にはいるものであろう。南側山麓地に位置する風観岳支石墓群の支石墓の副葬品の丹塗り壺は丸底に近い平底なので、竹松遺跡のものは、風観岳支石墓群のものより一型式ほど後出するものと思われる。

【引用・参考文献】

長崎県教委編2018『竹松遺跡Ⅲ』新幹線文化財調査事務所調査報告書第6集　九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ

中尾篤志編2006『肥賀太郎遺跡』長崎県文化財調査報告書第189集　県道愛野島原線上流付替工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書　長崎県教育委員会

田川肇編1976『風観岳支石墓群調査報告書』諫早市文化財調査報告書第1集　諫早市教育委員会

秀島貞康2006『風観岳支石墓群発掘調査報告書』諫早市文化財調査報告書第19集　諫早市教育委員会

山崎純男1980「弥生文化成立期における土器の編年的研究」『古文化論攻』鏡山猛先生古希記念論文集刊行会

(4)遺物(石器)

本書で報告する縄文時代の石器は、縄文時代の遺構から出土したものを除けばほとんどが原位置を遊離している。晩期を主体としつつも、土器をみると早期から晩期の突帯文土器まで幅広く出土しており、石器も各時期のものが混在していることが想定されるがその時期の特定は容易ではないことから一括して記述する。縄文時代晩期から弥生時代早期の石器については、南島原市権現脇遺跡の出土資料を分析した渡邊康行の報告(渡邊2006)があり、本書では基本的にそれを踏襲した。

ここでは縄文時代の石器のうち、石鏃・石核・扁平打製石斧および素材となる黒曜石についての分類基準を示す。

石鏃

Ⅰ類：基部に抉りをもつ凹基鏃。

Ⅱ類：基部が直線的な平基鏃。

Ⅲ類：基部が丸みを帯びる円基鏃。

石核

Ⅰ類：打面を1箇所に固定し、打面側から連続剥離を行うもの。打面の形態には、礫打面・調整打面・単剥離による平坦打面がある。

Ⅱ類：複数の打面を有するもの。打面には上下180度の両設打面もしくは90度に転移したものがある。

Ⅲ類：打面転移を頻繁に行い、多方向からの剥離痕が認められるもの。

Ⅳ類：分厚い剥片を素材とするもの。

Ⅴ類：上記の分類に該当しないもの。

扁平打製石斧

Ⅰ類：両側縁が平行するもの。いわゆる短冊形。

Ⅱ類：両側縁が緩やかな弧を描く、長細い小判形。

Ⅲ類：基部側が細く、刃部側が幅広になるもの。撥形。

Ⅳ類：上記以外。

石材

竹松遺跡の石器に用いられる石材としては、黒曜石・安山岩・玄武岩・頁岩・メノウ等がある。ここでは黒曜石の肉眼観察による分類基準を示す。

A類：断口面が黒～漆黒を呈するガラス光沢に富むもので腰岳系が主体と思われる。白い斑晶をほとんど含まず良質なものをA1類、斑晶を多く含み質の悪いものをA2類とする。

B類：風化面が灰白～青灰色を呈するもので、針尾島の牛ノ岳を給源とする淀姫系、針尾中町・古里海岸の一群を含む。

C類：透過面が乳白色を呈するもので、ガラス光沢に乏しい。佐賀県嬉野市椎葉川、針尾島古里海岸の一群が該当する。

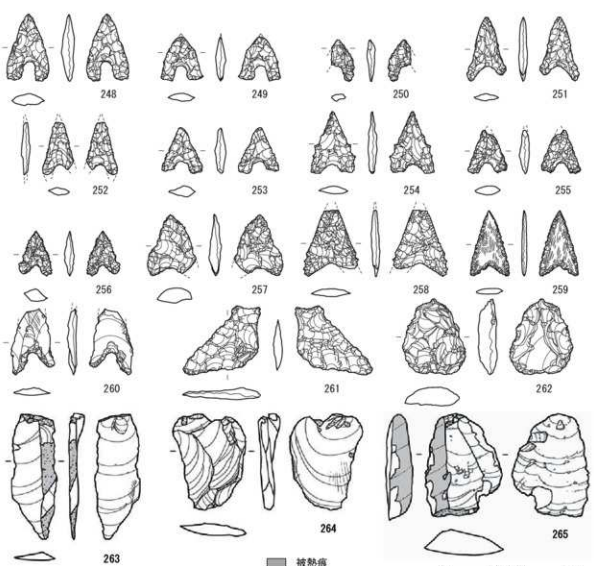
D類：ガラス光沢に乏しく、一見サヌカイト風の断口面を呈するもの。亀岳系が該当する。

① TAK201403調査区の包含層出土の石器

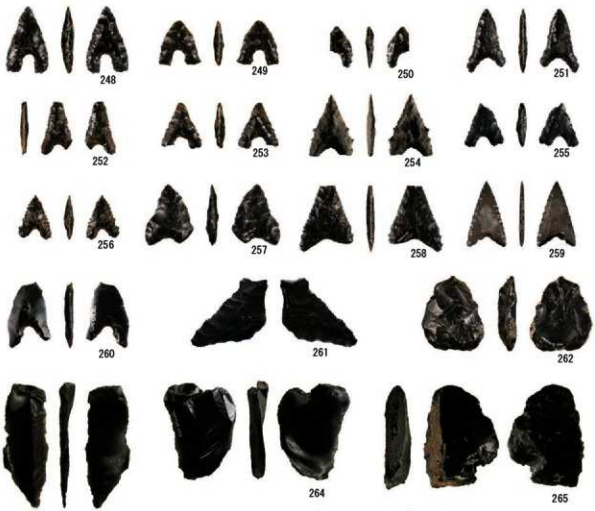
本調査区においては包含層からの縄文時代の遺物出土が僅少なため、一括して報告する。

a．石鏃（第53図248～258）

248～258はⅠ類の凹基鏃である。いずれも器面調整は丁寧になされており、断面はレンズ状である。248～250は深い抉りが入り、両脚が平行する。248は細身の長脚鏃で、脚部は丸みを帯びる。右脚端をわずかに欠損するがほぼ完形である。249・250は、胴部の中央付近に屈曲部をもち先端角が大きくなり器長が短めになった長脚鏃で、抉りが深く入る。249の脚端は直線的である。250は、器体左側を大きく欠損する。251～256は、凹基の形状が半円形になる一群である。251は、側縁の中央部で屈曲する。裏面の一部に被熱痕を残す。254は、両側縁に対になる2箇所の角状の突起を作り出した鋸歯鏃である。風化面が灰茶色でザラザラ感がありガラス光沢が認められない。素材は安山岩と思われる。256は完形品である。小型であるが、両側縁に細かい突起部が連続する鋸歯鏃である。257・258は、



第53図　TAK201403調査区出土の石器①(S=2/3)



図版33　TAK201403調査区出土の石器①

浅い凹基の一群で、抉りの形状は直線的である。257は、表面左側縁に施された剥離が器面を横断し、右脚部にまで及ぶ。この剥離の影響で、側縁の形状が左右で異なり非対称となる。258は、先端と左脚部をわずかに欠損するが薄手の精巧なつくりの石鏃で、縄文時代早期の所産と思われる。259は、局部磨製石鏃である。表裏両面を丁寧に研磨した後、細かい調整剥離を全周に施すことや形状から判断して、縄文時代早期の岩下洞穴V層タイプであろう。260は、剥片鏃である。先端を欠損する。調整剥離は、基部の作り出しに限定され、側縁は素刃である。

b．石匙(第53図261)

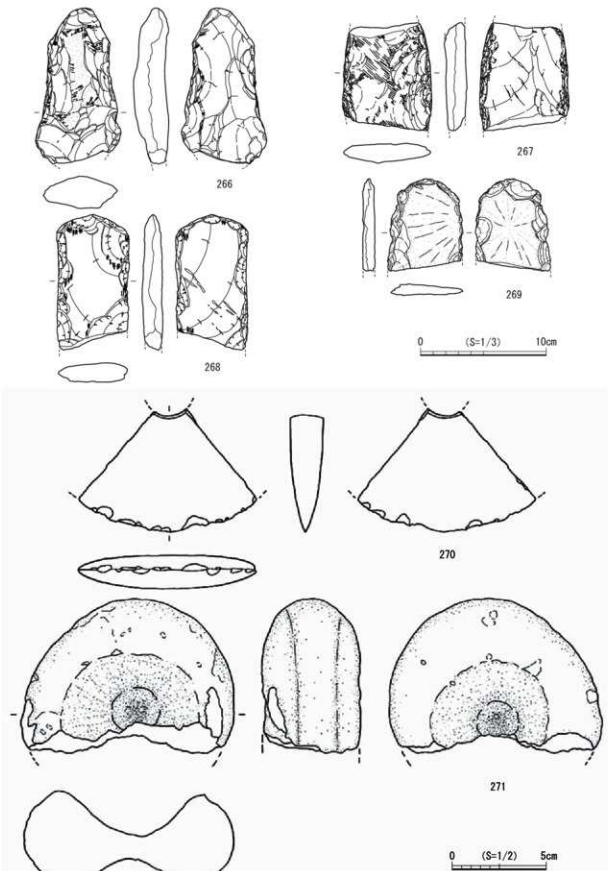
261は、石匙としたが、薄い器体であることや調整に丁寧な斜行剥離がみられることから別の器種の可能性もある。良質の黒曜石A1類を素材としている。

c．楔形石器(第53図262)

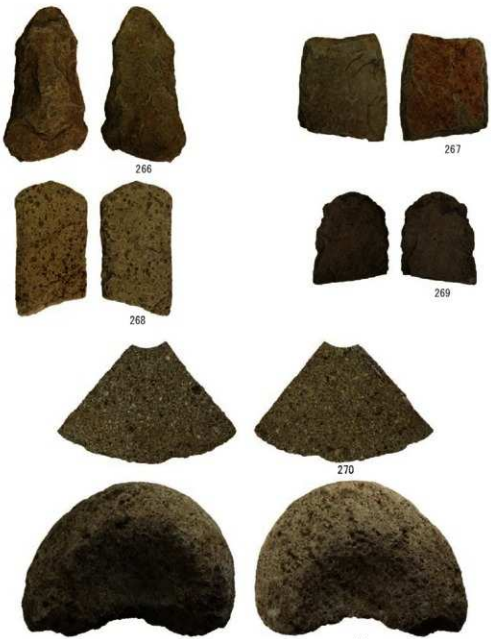
262は、楔形石器である。両面加工で、右側縁の一部に礫面を残す。良質の黒曜石A1類を素材としている。

d．剥片(第53図263～265)

263～265は、剥片である。263は薄手の縦長剥片である。表面に被熱痕と思われるガラス光沢消失



第54図　TAK201403調査区出土の石器②(S=1/3)(S=1/2)



図版34　TAK201403調査区出土の石器②

部をもつ。264は良質な黒曜石を素材とするやや不整な縦長の剝片である。265は、白い斑晶を多く含む質の悪い黒曜石A2類を素材とする。撹乱のため新しい傷(ガジリ)が多くみられる。

e．打製石斧(第54図266)

266は、刃部を欠損した打製石斧である。基部は三角形を意識しており、刃部に向かって幅広になる。表面中央部には素材面を広く残している。

f．扁平打製石斧(第54図267～269)

267～269は、扁平打製石斧である。267は、両端を欠損しており中間部にあたる。側縁調整は丁寧に施され、若干ふくらみをもつ。表面の一部を研磨しており、裏面には素材面を残す。268・269は、刃部を欠損する資料でともに基部は円弧状になる。268の側縁は平行することからⅠ類、267・269は

おそらくⅡ類に該当する。**269**は、節理面をもつ薄い板状の剝片を素材とする。石斧類はいずれも安山岩を素材とするが、石基や斑晶の違いから異なる原産地が想定される。

g．環状磨製石斧(第54図270)

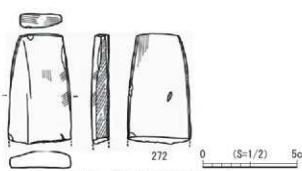
270は全面を研磨しており表面が滑らかな環状石斧である。復元径は約16cmと大きい。全体の4分の1程度が残る。素材は硬質の安山岩と思われる。雲仙市松尾遺跡に類品があり、縄文時代早期の押型文土器から塞ノ神式土器に伴うものであろう。

h．凹石(第54図271)

271は、半裁された凹石である。大き目の窪みが両面にすり鉢状に施されている。素材は砂岩である。

i．全面磨製石器(第55図272)

272は、全面を研磨した板状の製品であるが、下半を欠損しているため全体の形状は不明である。島原市大野原遺跡に類品があり、縄文時代後期の所産か。素材は軟質の頁岩である。



第55図　TAK201403調査区出土
全面磨製石器(S=1/2)

図版35　TAK201403調査区出土
全面磨製石器

第15表　TAK201403調査区出土の石器観察表

番号	器種	遺物番号	地区	層位等	基本層位	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考
248	石鏃	507	1072	3層最下部	第Ⅲ層	黒曜石A1類	2.59	1.65	0.47	1.55	凹基　完形
249	石鏃	539	1672	4層上	第Ⅳ層	黒曜石C類	1.75	1.63	0.33	0.75	凹基　完形
250	石鏃	547	1274	1層	第1層	黒曜石A1類	1.67	(0.87)	0.27	(0.34)	凹基　小型　左足・先端欠　早期？
251	石鏃	537	870	撹乱	不明	黒曜石A1類	2.49	1.48	0.32	0.82	凹基　右脚欠　被熱？
252	石鏃	504-1	1070	2層	第1層	黒曜石A1類	2.10	1.27	0.31	0.60	凹基　右脚・先端欠
253	石鏃	538	1068, 1066	2層	第1層	黒曜石C類	1.72	1.57	0.39	0.70	凹基　脚端欠
254	石鏃	540	868	3層	第Ⅲ層	安山岩	2.41	1.80	0.32	1.00	凹基　完形薄手
255	石鏃	541	1472	4層上	第Ⅳ層	黒曜石A1類	(1.67)	1.57	0.39	(0.70)	凹基　右脚・先端欠
256	石鏃	506	1068	4層上	第Ⅳ層	黒曜石A1類	1.67	1.26	0.36	0.50	凹基　完形　鍛歪状
257	石鏃	545	1070	壁清掃	不明	黒曜石A1類	2.39	1.94	0.44	1.42	浅い凹基　右脚欠　非対称
258	石鏃	542	1670	4層上	第Ⅳ層	黒曜石A1類	(2.56)	2.17	0.30	(1.32)	浅い凹基　右脚・先端欠　精巧古い
259	磨製石鏃	544	1670	4層上	第Ⅳ層	黒曜石A1類	2.56	1.48	0.19	0.75	岩下攻層タイプ　早期
260	剝片鏃	505	1472	4層上	第Ⅳ層	黒曜石A1類	(2.45)	1.57	0.34	(1.10)	凹基　先端欠
261	石匙	543	668, 067	北壁面	不明	黒曜石B類	2.75	3.03	0.46	2.53	小型
262	楔形石器	502	1070	3層	第Ⅲ層	黒曜石A1類	2.98	2.40	0.64	5.17	
263	剝片	546	1070	4層	第Ⅳ層	黒曜石A1類	4.88	1.65	0.36	2.92	縦長　単打面　良質　白斑なし　被熱
264	剝片		870	西ベルト	不明	黒曜石A1類	3.72	2.78	0.61	5.38	礫面あり　単打面　良質　被熱
265	剝片	501	1272	2層撹乱	第1層	黒曜石A2類	4.07	3.03	1.01	12.18	礫面　礫打面　質悪い　白斑多い
266	打製石斧	527	1672	撹乱	不明	安山岩	(12.39)	6.74	2.79	(240.81)	横上に摩滅有　刃部欠損
267	扁平打製石斧	525	1070	4層上	第Ⅳ層	安山岩	(8.57)	7.10	1.81	(141.56)	基部、刃部欠損　表側に擦痕有
268	扁平打製石斧	508	1072	3層最下面	第Ⅲ層	安山岩	(10.72)	5.78	1.60	(153.55)	刃部欠損　剝離の摩滅有
269	扁平打製石斧	509	670	3層	第Ⅲ層	安山岩	(7.30)	5.90	1.00	(55.00)	
270	環状磨製石斧	524	668, 067	北壁面	不明	安山岩	(6.20)	(9.26)	1.73	(104.2)	全面磨製
271	凹石	530	1474	撹乱	不明	砂岩	(8.37)	10.75	4.89	(467.9)	
272	全面磨製石器	513	1272	2層	第1層	頁岩？	(5.75)	3.30	0.90	(29.21)	磨製

② TAK201404調査区の包含層出土の石器

本調査区で出土した石器については、共通土層の第Ⅰ層～第Ⅲ層(表採・層位等が不明なものを含む)と第Ⅳ層に分けて説明する。

第Ⅰ～Ⅲ層出土の石器

a．石鏃(第56図273～300、第57図301～305)

石鏃は、未製品もあわせて53点出土しており、37点を報告する。石鏃の形態別では、凹基のⅠ類(273～295、301～305)が32点と圧倒的に多く、平基のⅡ類(296)は1点、円基になるⅢ類(297～300)は4点と少ない。

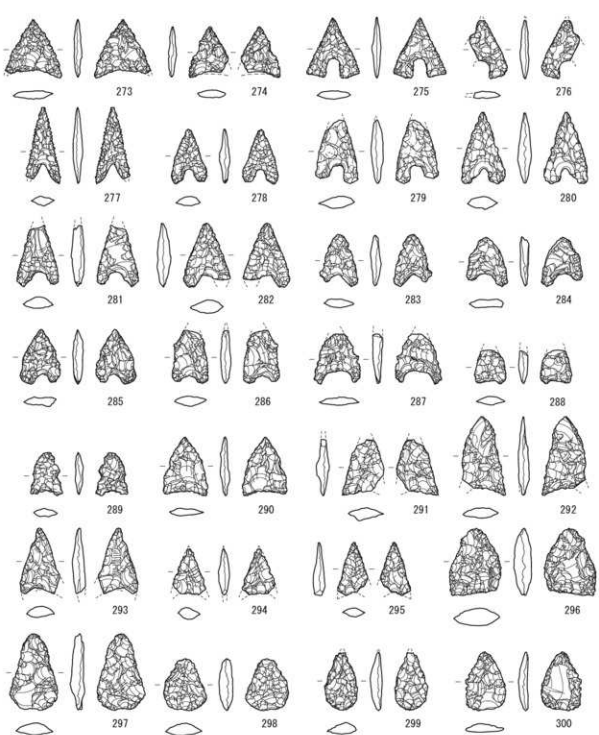
Ⅰ類には273～295および301～305が該当する。273・274は、浅い凹基で、薄く丁寧な調整剥離が施されている。脚端は尖り、平面形が正三角形に近い三角鏃である。縄文時代早期に帰属する。275・276は、基部に深い抉りの入り、脚端が広がる形態の石鏃で、縄文時代早期の押型文土器に特徴的に共伴する。277は、細身で基部の抉りは直線的になり脚端は鋭く尖る。両側縁の全体に細かい突起が施された鋸歯鏃である。278～282は、深めの抉りが入るもので、総じて厚みがあり、脚部は丸みを帯びる。281の裏面には素材面である主要剥離面が残る。283～286・301は、側縁に屈曲部をもつややずんぐりした形態で、半円状の抉りが入る。屈曲部はあまり明瞭ではない。287～289は、両脚の間隔が開いたもので、小さめの脚をもつ。287の表裏面にはともにわずかに研磨痕が看取される。288・289の脚部の作り出しは貧弱である。290～295は、浅い抉りの凹基鏃で、基部は緩やかに弧を描く。完形は290のみで他は脚部を欠損する場合が多い。292は先端付近の調整剥離がみられず素材面を残している。293の裏面には素材面(もしくは礫面)と思われるガラス光沢を欠いた部位がある。

Ⅱ類の石鏃に該当するのは296である。側縁が緩やかな弧を描き膨らんだややずんぐりした形態をしており、厚手である。基部は、斜めに直線的に作られ、先端に向かって整然とした調整剥離が施される。

Ⅲ類には297～300の石鏃が該当する。297は、Ⅲ類のなかではもっとも大きい。表面の一部に素材面を残し、先端は丸い。299・300はいずれも表裏両面の調整が器体中央部に向かう求心的剥離がなされている。300は、裏面に主要剥離面を大きく残しており、側面が反っている。以上いずれも涙滴状の形態である。

302～305には凹基の五角形鏃をまとめた。側縁の中央部にある角状の作り出しには精粗の差が認められる。302の裏面にはガラス光沢を欠いた部位が認められる。素材面ではあるが礫面とは思われず被熱痕の可能性が高い。303～305の表裏面には筋状の研磨痕が認められ、局部磨製石鏃ということもできる。

石鏃の石材としては黒曜石が圧倒的に多く、安山岩は279の1点のみである。黒曜石は、淀姫系の黒曜石B類が275・300の2点、乳白色を呈する椎葉川系の黒曜石C類が280・293の2点で、残りは全て良質の石材である腰岳系の黒曜石A1類が占める。

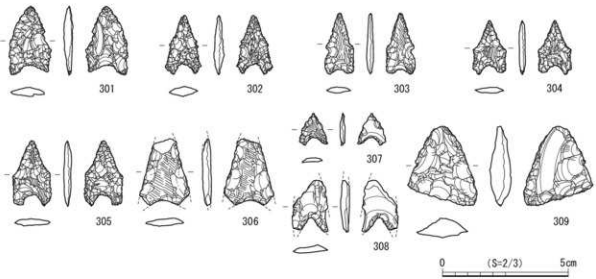


第56図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石鏃①(S=2/3)

b．局部磨製石鏃・剝片鏃・石鏃未製品(第57図306～309)

306・307は局部磨製石鏃である。**306**は、浅い凹基の基部をもち先端と両脚を欠損した局部磨製石鏃である。研磨したのち側縁には平坦剝離で、基部に傾斜をもった調整剝離が施されている。表面の一部に素材面を残す。安山岩を素材とする。**307**は、小型で、薄手の剝片を素材としており表面の一部に研磨を施した浅い凹基の局部磨製石鏃である。裏面には主要剝離面を大きく残す。

308は、鈴桶型剝片から作出した典型的な剝片鏃である。先端から左側縁にかけてと左脚端を欠損



第57図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石鏃②(S=2/3)

する。両脚の形状が異なる。

309は、分厚い素材剥片に両面加工した石鏃の未製品とした。裏面には主要剥離面を大きく残す。基部側を斜めに加工していることから別器種の可能性もある。

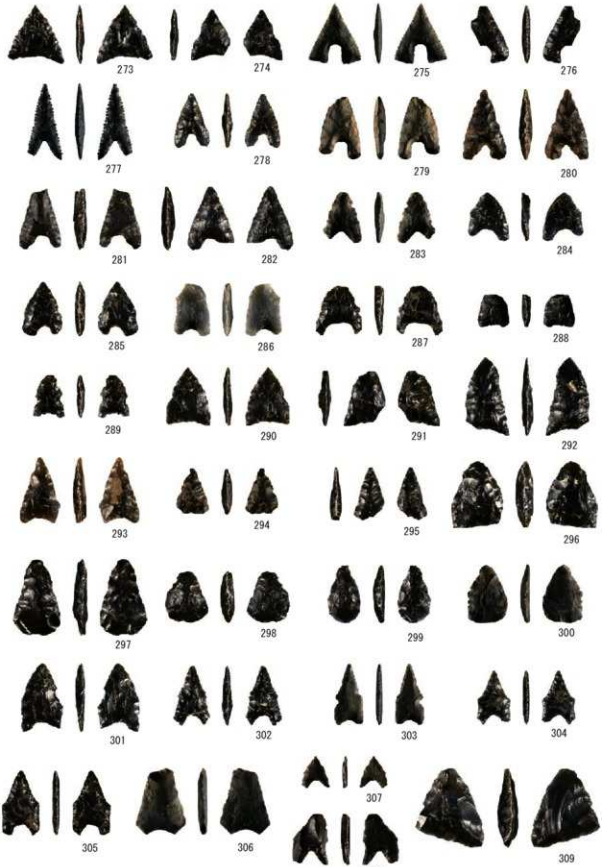
c．掻・削器類(第58図310～316、第59図317)

310は、横長の貝殻状剥片を素材とする。硬質ハンマーによる大きなバルバー・スカーを有する主要剥離面の端部に円弧状の刃部を形成する。打面は礫面打面である。**311**は円礫状の石材から作り出した薄い板状剥片を素材としている。刃部は、剥片の長辺に設けられ、緩い弧を描く。刃線は直線的で鋭利である。刃部の反対の辺には礫面を大きく残す。**312**は、平面形が崩れた円形を呈する周縁加工の掻・削器である。表面中央に礫面を、裏面には主要剥離面を大きく残す。表面側の調整は求心状に丁寧に施されるのに対し、裏面側の調整剥離には階段状剥離がみられる。**313**は、厚手の縦長剥片を素材とする。主要剥離面の端部に大きく調整剥離を施した後、主たる刃部を形成する。刃部調整は表裏面に施される。側辺の一端に礫面を残す。一見、エンド・スクレイパーに似る。**314**は、分厚い横長剥片を素材とする。左側縁を中心に、表裏両面に大きめの交互剥離によって刃部を形成する。そのため刃部はジグザクになる。素材は良質の安山岩である。**315**は、**314**と同様分厚い縦長剥片を素材とする。左側辺に急傾斜な調整剥離を施して刃部を形成する。**316**は、礫面を有する不定形剥片を素材とする。素材剥片は半裁されており、先端側に刃部を形成している。**317**は、掻・削器類では唯一の黒曜石A1類の分厚い小型剥片を素材とする。主要剥離面側に刃部調整を施している。表面側の剥離の一つが小型剥片と同程度の大きさであることから石核の可能性もある。

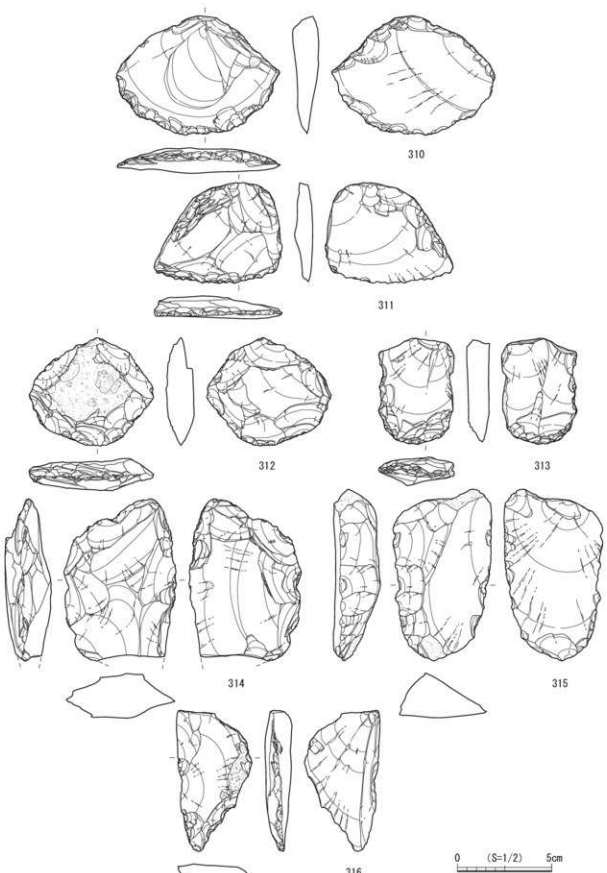
317を除いていずれも安山岩を素材とするが、白い模様の入るものや風化が激しく表面がざらつくものなど複数の原産地の素材が想定される。

d．石錐・石錐様石器(第59図318・325)

318は、断面が三角形を呈する石錐様石器である。表面側は、中央に稜線を形成するように両側辺から急傾斜の調整剥離が施されている。裏面側の調整は双方向であり平坦を意識している。基部側は



図版36　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石鏃



第58図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石器①(S=1/2)

図版37　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石器①

折断しており、先端部には礫面を残す。先端近くの側縁には使用に伴う潰れが顕著にみられる。**325**は、礫面を残す薄手の不定形剥片を素材とする石錐である。刃部は主要剥離面側からの2面で構成される。石材は**318**・**325**ともに腰岳系腰岳産の黒曜石A1類である。

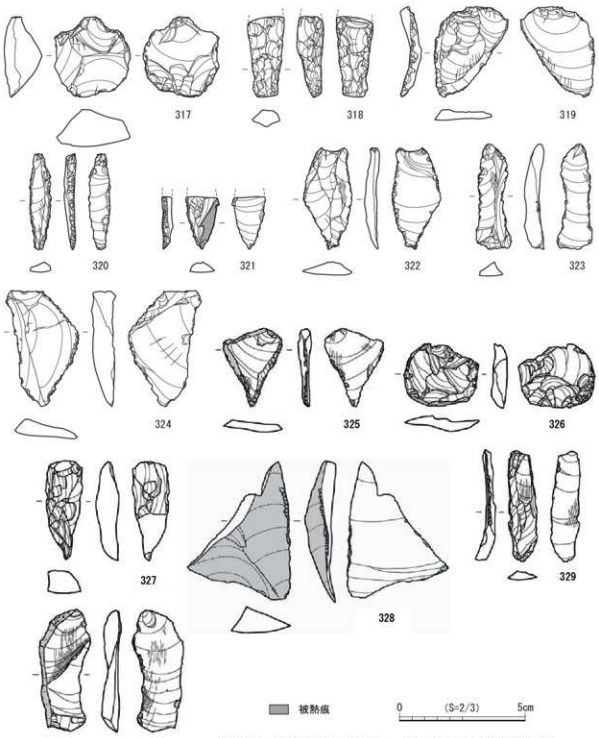
e．加工痕のある剥片（第59図319～322）

319は、先細りの不整な縦長剥片を素材とする。左側縁のほぼ全長に微細な加工痕がみられ、右側縁には使用痕が看取される。表面には連続する剥片剥離が認められる。打面調整は認められず、平坦打面である。**321**は、細身の柳葉形をした縦長剥片を素材とする。ほぼ全周にわたってナイフ形石器の刃潰し加工に似た調整加工がみられる。一見するとナイフ形石器であるが、風化がみられないことから加工痕のある剥片とした。**322**は、縦長剥片の先端側の一側縁に加工痕を有する。折断された剥片であり、表面にみられるガラス光沢消失部は被熱痕である。

加工痕のある剥片はいずれも良質の石材である腰岳系黒曜石A1類が使用されている。

f．使用痕のある剥片（第59図323・324、326～330）

326は、横長剥片を素材とする。表裏面に二次加工が認められるので石鏃未製品の可能性もある。**327**は、椎葉川系の乳白色を呈する黒曜石C類を素材とする。縦長でやや分厚い。**328**は、幅広の縦長剥片を斜めに折れた剥片を素材とする。表面には広くガラス光沢を消失した被熱痕がみられる。斜めの折れ面も打点が明瞭ではなく、被熱による折れと思われる。



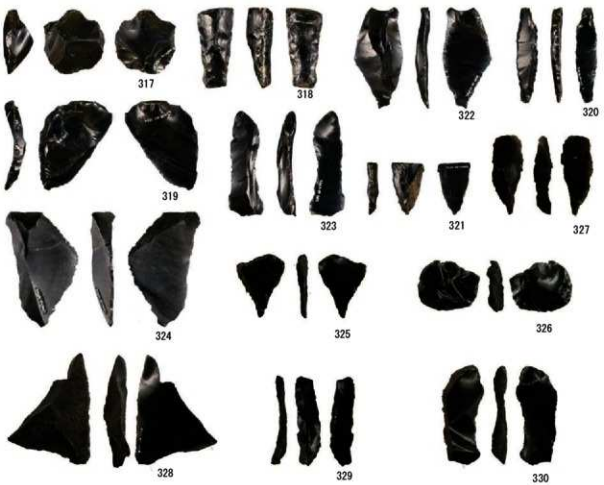
第59図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石器②(S=2/3)

329は、偏面が湾曲する縦長剥片を素材とする。**330**も縦長剥片を素材とする。表面にはガラス光沢を消失した被熱痕がみられる。

石材は黒曜石に限定される。腰岳系の黒曜石A1類が大半で、黒曜石C類(**327**)とD類(**324**)が各1点みられる。

g．剥片(第60図331～348)

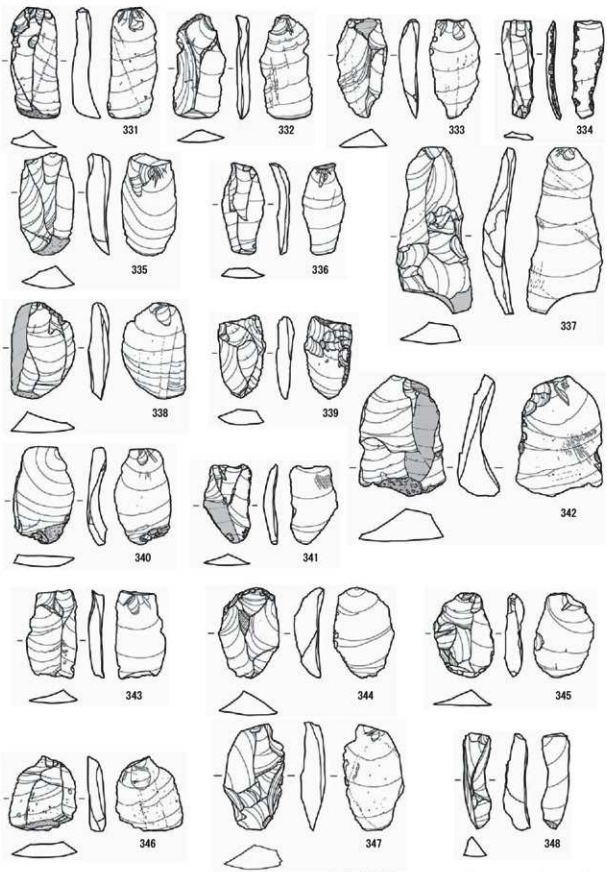
Ⅰ～Ⅲ層からは100点を超える剥片が出土している。時期的にも各時期の剥片の存在が想定される



図版38　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石器②

が、概ね縦長の剥片を選別して報告する。

331は、連続剥離する石核から剥離した縦長剥片である。打面は平坦で、先端部に残る礫面から原石の形状は円礫と推測される。**332**は、打点を90度転移させた縦長の剥片である。礫面を打面としており、先端部は階段状剥離で捲れている。右側辺に微細剥離がみられる。**333**は、先細りの縦長剥片で、打点側に一部ガラス光沢消失部(被熱痕)が認められる。打面は複剥離面である。**334**は、細身の縦長剥片で、礫面を打面とする。右側辺に使用痕と思しき微細剥離が連続する。左側辺の一部に被熱痕が看取される。**335**は、良質の腰岳系黒曜石を素材とする縦長剥片で、打面は平坦打面である。先端部には円礫面を残しており、被熱の痕跡が窺える。**336**は、薄手の縦長剥片である。平坦打面で、先端部は捲れている。**337**は、大型の縦長剥片で、先端が幅広になる。表面には多方向から剥離がみられる。先端部には被熱痕らしいものが認められる。また先端部にある折れ面は被熱による折れと思われる。**338**は、厚みの最大が左による歪な縦長剥片である。平坦打面で、剥片の左辺から先端にかけて被熱痕が認められる。**339**は、細かい斑晶が僅かに入る黒曜石を素材とする縦長剥片である。主要剥離面の打瘤付近に左右から平坦剥離が施されており、石器の未製品の可能性もある。**340**は、礫面を打面と先端に持つ縦長の剥片である。**341**は、打点側を折り取った縦長剥片である。表面には被熱痕が残る。**342**は、大型幅広の縦長剥片で先端が「し」の字状になり肥厚する。打面は礫面で、角



第60図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の剥片(S=2/3)

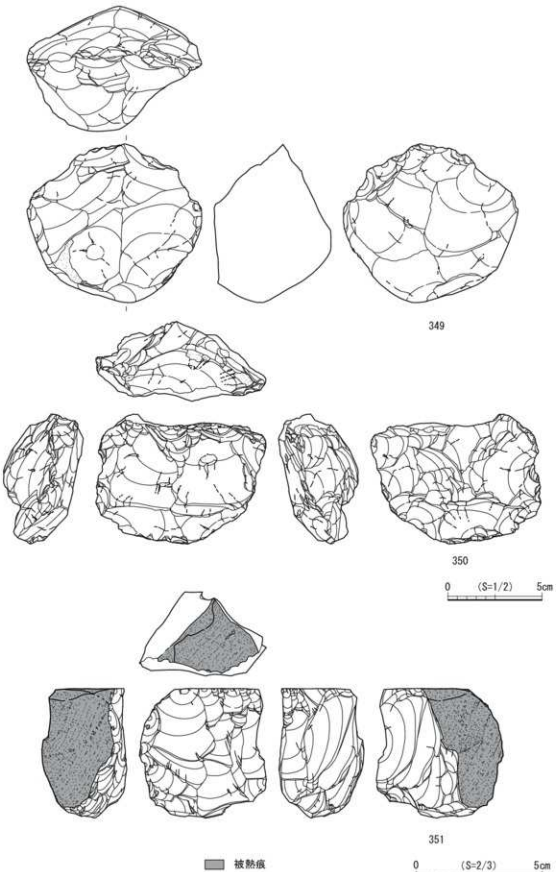
図版39　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の剥片

礫を素材とし、被熱痕が顕著である。**343**は、礫面を打面とする縦長剥片である。僅かに斑晶の入る良質の黒曜石を素材とする。**344**は、礫面を打面とするやや分厚い剥片である。側辺には微細剥離が看取される。**345**は、打面転移した石核から剥離した剥片である。**346**は、質の悪い黒曜石を素材とする寸詰まりの剥片である。**347**は、表面に多方向からの剥離面を持つ縦長剥片である。礫面を打面とする。**348**は、剥片の端部を剥離した削片状の剥片である。

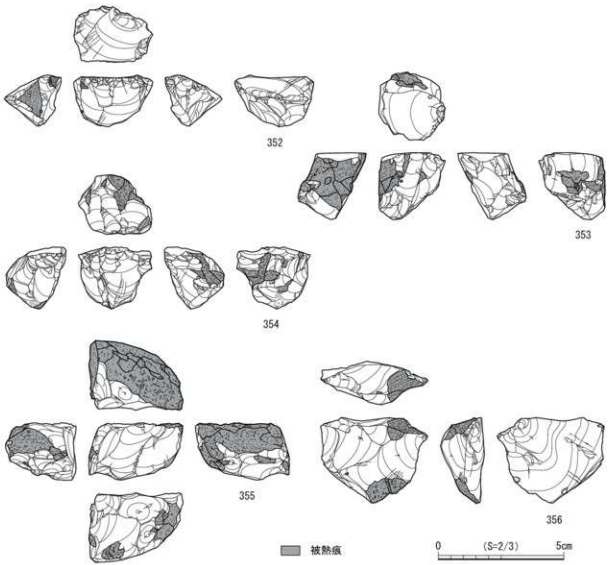
剥片はすべて黒曜石を素材としており、**346**が黒曜石A2類のほかは腰岳系の黒曜石A1類である。

h．礫器（第61図349・350）

349は、交互剥離によってチョッピングトゥール様の刃部を作出した礫器である。円礫もしくはそれに近い安山岩の塊石を素材としている。**350**は、表面に2条の大きな剥離痕がみられることから石核の可能性も否定できないが、その剥離後に刃部の作り出しを行っていることから礫器と判断した。素



第61図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の礫器・石核①(S=1/2)(S=2/3)



第62図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石核②(S=2/3)

材は安山岩で、**349**よりも厚みがない。

ⅰ．石核(第61図351、第62図352～356)

石核は、すべて黒曜石A1類の角礫～亜角礫を素材としている。**353**・**354**にはわずかに斑晶が入る。**351**は、打面を水平平坦な単剥離面に固定し、連続的に縦長の剥片を生産しており、作業面を2面もつ石核Ⅰ類にあたる。**352**は、側面が三角形を呈しており、長軸を軸として120度打面を転移している。最終作業面の打面には、直前の作業面を当てる。石核Ⅲ類に相当する。**353**は、質の悪い黒曜石A2類の角礫を素材としており、側面に礫面を残す。打面は固定されており、平坦な単打面であり石核Ⅰ類に該当する。**354**は、打面を90度転移させたⅡ類の石核である。礫面を一部に残した角礫を素材とする。**355**は、被熱によりガラス光沢を消失した面を打面とするⅠ類の石核である。角礫～亜角礫の原石を素材とする。**356**は、分厚い剥片を素材とする石核の一部であろう。作業面には横方向の直交する剥離面が看取される。主要剥離面のリングの入りかたはあまり見かけない。

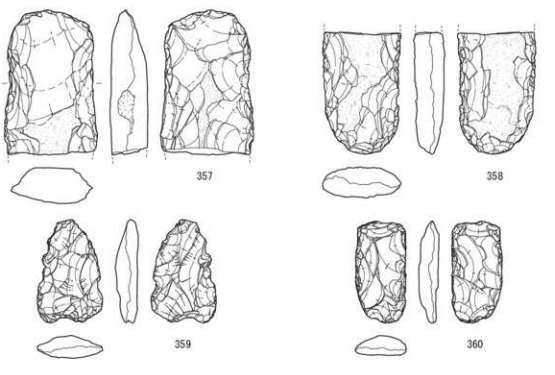
図版40　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の礫器・石核

j．打製石斧(第63図357)

357は、二折した刃部を欠損した打製石斧の基部である。基部直下に大きな調整剥離を施し、側縁を敲打による調整で刃潰し整形している。正面には材面を残す。

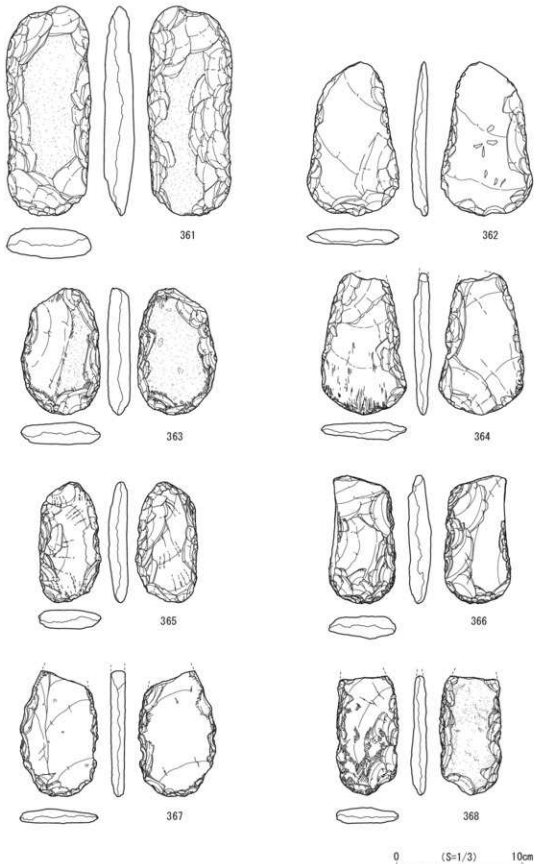
k．箆状石器(第63図359)

359は形状からみて箆状石器とした。小型ではあるが、両面加工が施され、基部がわが尖頭状に細くなる。箆状石器は、島原半島の縄文時代後期から晩期にかけての大野原遺跡、権現脇遺跡等でみられる石器である。

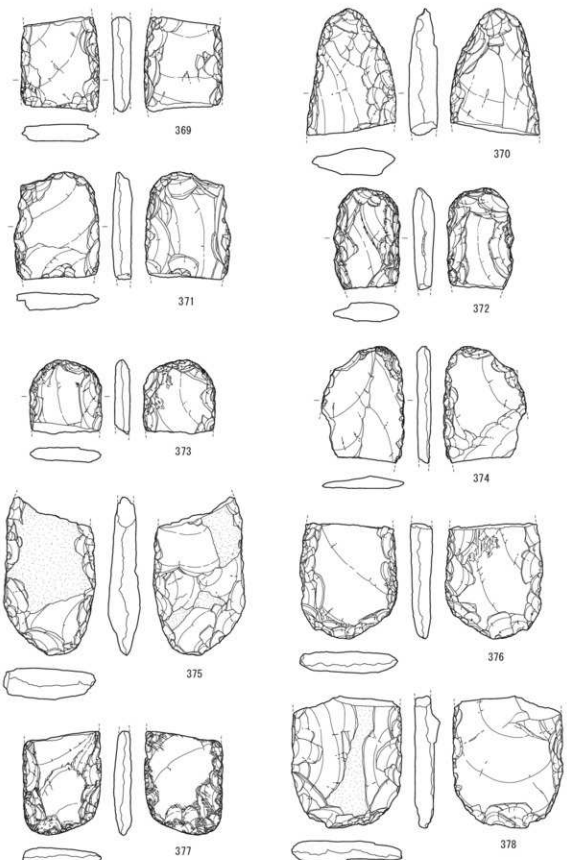


第63図　TAK201404 調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の打製石斧類(S=1/3)

図版 41　TAK201404 調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の打製石斧類



第64図　TAK201404 調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の扁平打製石斧①(S=1/3)



第65図　TAK201404 調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の扁平打製石斧②(S=1/3)

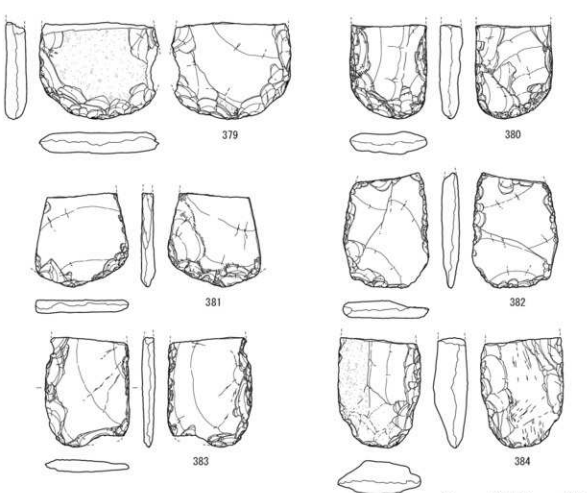
図版42　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の扁平打製石斧①

Ⅰ．扁平打製石斧（第63図358・360～第67図385～393）

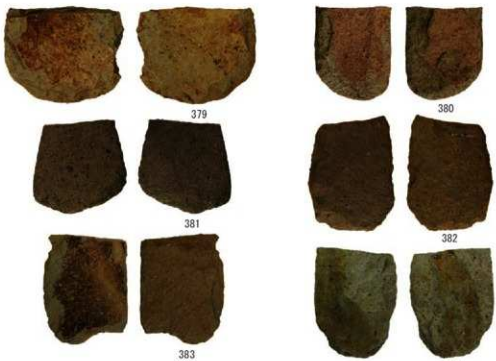
360～368は完形もしくは完形に近いものである。法量的には、長さが8.1～16.6cmの範囲にあり、その平均値は10.8cmである。幅は4.0～8.2cmで平均値が6.2cm、厚さは1.2～2.4cm、平均値1.5cmである。重量の範囲は62.3～378.8gであり、平均値は138.2gである。**361**が最も大きく、最小は**360**である。基部の形状は、直線的なものから三角形状に尖るものまで変異に富んでいるが、刃部は**365**のように片寄るものがあるが大半は緩い弧を描く円刃である。側辺が平行するⅠ類には**360**・**361**・**365**・**366**・**388**の5点が該当する。両側辺が外湾する小判形のⅡ類に**363**・**367**の2点が、撥形のⅢ類には**362**・**364**が該当する。

369は、基部・刃部両端を欠損した中間部の資料である。側辺に見られる調整加工は丁寧である。消耗度の激しい扁平打製石斧であるが、中間部の出土数は極めて少ない。

刃部を欠損した基部資料には**370～374**の5点が該当する。法量的には、長さが5.9～10.1cmの範囲にあり、その平均値は8.4cmである。幅は5.3～7.0cmで平均値が6.3cm、厚さは1.1～3.3cm、平均値1.8cmである。重量の範囲は59.3～194.8gであり、平均値は110.8gである。基部の形状は、**372**・**373**が緩やかな円弧を描くのに対し、**370**は丁寧な調整で尖らせ、**371**は直線的に、**374**は素材の稜線を頂点に突出するなど変異が大きい。側辺は平行するものが多い中にあって、**370**の側辺は特異である。



第66図　TAK201404 調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の扁平打製石斧③(S=1/3)



図版43　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の扁平打製石斧②

左側は素材獲得時点で薄かったため直線的に細かい調整となり、右側は大きな剥離を連続させて弧を描く。そのため刃部にかけて広がる左右非対称な形態となる。

刃部の資料は**358・375～384**の10点である。法量的には、長さが7.5～12.3cm、平均値は9.1cmである。幅は6.1～9.4cmで平均値が7.2cm、厚さは1.0～2.7cm、平均値1.8cmである。重量の範囲は80.1～257.0gであり、平均値は153.7gである。刃部の形状は、ほとんどが緩やかな弧を描く円刃であるが、左右いずれかに片寄る場合が多い。**381**は鈍角の三角形状、**382**は直線的と言えなくもない。

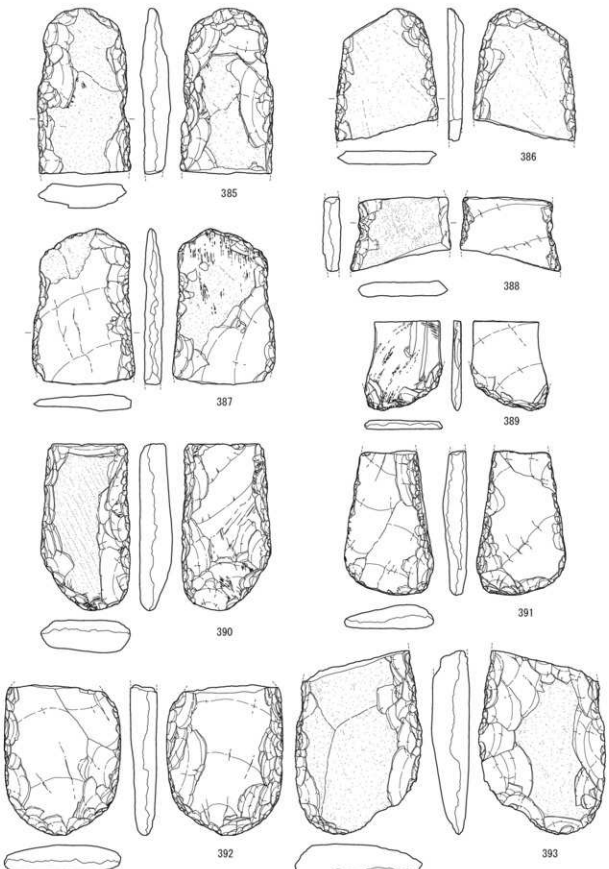
385～389・391・392は、大型の扁平打製石斧である。いずれも節理で割れた板状剥片を素材としている。完形品はない。基部と刃部がそれぞれ3点、中間部が1点である。形状は中・小型品と同様であるが、法量的に幅が一回り大きく概ね10cm内外のものをあてた。

390・393は、形態的には扁平打製石斧に類似するが、安山岩の礫を素材とする。法量でみると、厚さが**390**で3.5cm、**393**が4.0cm、重量では850gと1300gであり、他を大きく凌駕する。

以上の石斧類には、輝石等の斑晶を含む安山岩を素材としており、無斑晶質のものは見当たらない。斑晶の形状・大きさにはバラエティがあり、異なる原産地が想定できるが、いずれにせよ在地系石材と評価でき、遺跡近傍に露頭の存在が想定できる。

m．磨製石斧（第68図394～400）

394は、細かい斑晶を多く含む硬質の安山岩礫を素材とする。左側辺基部側を擦り切り、右側辺には敲打調整が見られる。刃部は使用による剥離によって研磨面を喪失する。**395**は、重量感のある厚みをもった軀体であるが、基部を大きく欠損する。刃部も使用に伴って欠損しているが蛤刃になるものと思われる。素材はホルンフェルスと思われる。

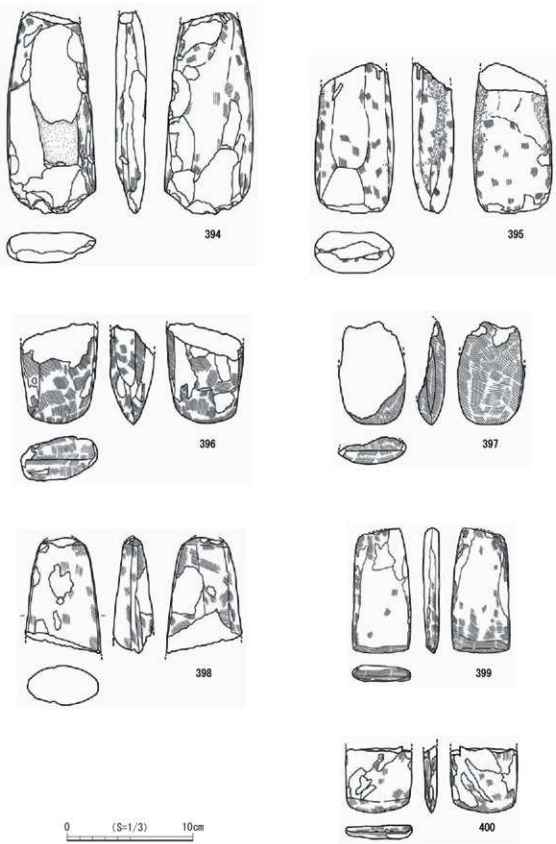


第67図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の扁平打製石斧④(S=1/4)

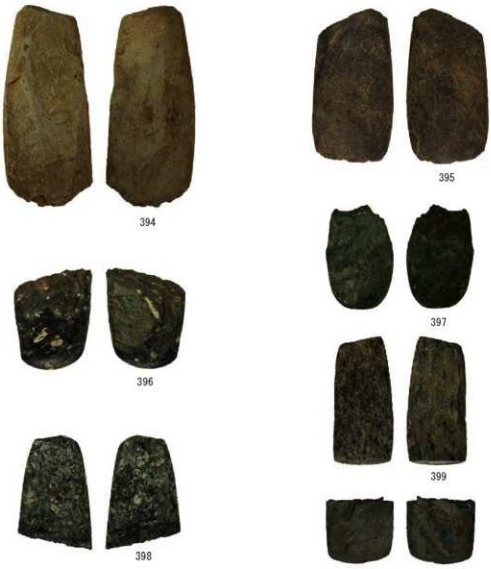
図版44　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の扁平打製石斧③

396～398は蛇紋岩を素材とする磨製石斧である。完形品はない。396・397は刃部、398は基部である。いずれも全面を丁寧に研磨する。397は、破損後にリダクションしたものが再度破損した資料である。こうした蛇紋岩製の磨製石斧は県内では縄文時代前期の曽畑式土器に伴う例が多く、本例もその時期の所産と考えられる。

399は扁平片刃石斧である。刃部は丁寧に研磨されているが、それ以外の面は器面の凹凸をなくす程度である。400は両刃になる。399・400は蛇紋岩を素材とするもので縄文時代晩期の所産である。



第68図　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の磨製石斧(S=1/3)



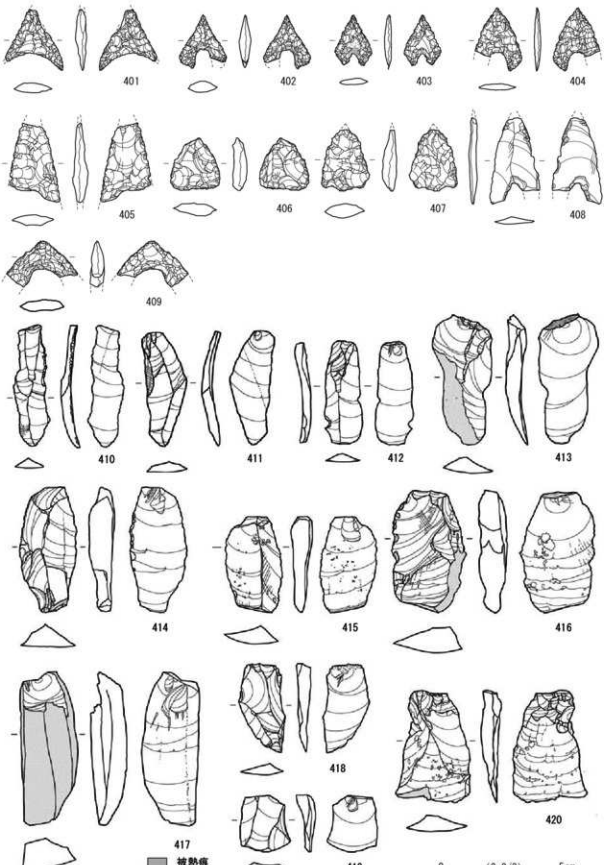
図版45　TAK201404調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の磨製石斧

第Ⅳ層出土の石器

a．石鏃（第69図401～407）

401～405はⅠ類の凹基鏃である。401は円弧状の大きな抉りで脚端は尖る。402は脚端が広がる深い抉りをもつ長脚の石鏃である。403は五角形鏃の一員とした。薄手で主要剝離面を残す。表面には礫面とは異なる研磨痕らしきものがみられることから局部磨製石鏃とも考えられるが、研磨による筋状の擦痕ではない。404は、透明度の高い黒曜石A1類を素材とした精巧な造りの石鏃である。先端近くで屈曲し、脚部を尖らせる。405は、断口面が飴色を呈する亀岳系の黒曜石D類を素材とする。先端と脚部を欠損する。裏面に先端側から入る大きな剝離面とそれ以外ではパティナの違いが認められ、いわゆる二重パティナとなる。被熱の可能性もある。

406・407はⅡ類の平基鏃とした。406は主要剝離面を残していることな調整が乱れていることから未製品の可能性もある。407は基部を欠損しており、平基ではないかもしれない。



第69図　TAK201404調査区Ⅳ層出土の石器(S=2/3)

図版46　201404調査区Ⅳ層出土の石器

b．剥片鏃（第69図408）

408は、縦長剥片を素材とした剥片鏃である。素材面を広く残しており、調整加工は基部と先端部付近に限定される。流紋岩系の黒曜石B類を素材とする。

c．異形石器（第69図409）

409は、当初は石鏃を想定して図面化したが、鍵形に屈曲する形態からみて縄文時代早期に多くみられる異形石器とした。両端を欠損するがいわゆる釣り針状を呈するものであろう。素材には良質の黒曜石A1類が使用されている。

d．使用痕のある剥片（第69図410）

410は、細身の縦長剥片の右側辺に使用痕と思われる微細剥離が連続する。打点部を折損している。素材は良質な黒曜石A1類である。

e．剥片（第69図411～420）

411・412は、同一方向は連続剥離される石核から剥離した縦長剥片である。打面は平坦打面である。413～418・420は、縦長状の剥片である。414・418・420は、打面転移をした石核から剥離したものである。打面は、418・420が礫面のほかはすべて平坦打面である。石材は腰岳系の石材が用いられているが、良質な黒曜石A1類が、414・415・417・418の4点、質の悪い黒曜石A2類が415・416・420の3点となる。被熱痕と思われるガラス光沢消失部をもつものが、413・416～419である。とくに417は石核の角部を剥離したクレステッド様の剥片で、主要剥離面を除く4面が被熱面である。

419は、椎葉川系の乳白色を呈する黒曜石C類を素材とする寸詰まりの剥片である。

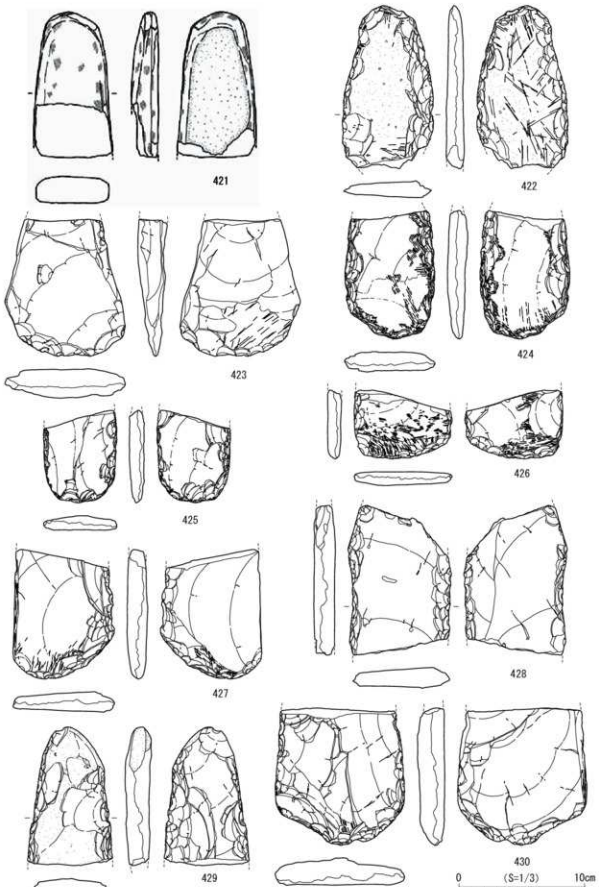
f．磨製石斧（第70図421）

421は、砂岩の転礫を素材とした磨製石斧である。刃部を欠損しており、研磨は表面から側面・基部に施され、裏面には素材面である礫面を広く残す。平滑な礫面であり、それを利用したものであろう。

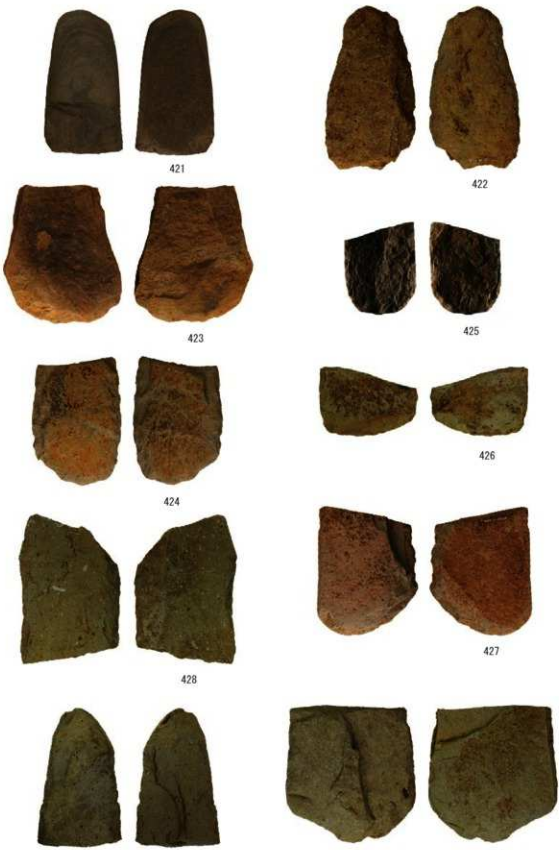
g．扁平打製石斧（第70図422～430）

422～430は、斑晶を含む安山岩を素材とした扁平打製石斧である。素材となる剥片は、429を除いて節理によって剥離したものである。429は、基部側に礫面（礫面）が残っており、転礫を素材としたものである。422は、刃部をわずかに欠損するものの撥形の形態でⅢ類に当たる。中間部の428と基部の429以外は刃部の資料である。側辺調整のあり方は側辺付近に限られ、大半の資料は節理面を大きく残す。426・427の刃部は研磨されており、特に426は使用による研磨とは異なり局部磨製石斧と評価してもおかしくない。

折損の部位をみると、石斧の主軸に直交する形で折れており、平行する折れ方は少ない。扁平打製石斧は、土掘り具と想定されており、土壌に差し込み、土を掘り起こす過程での折れが容易に想定される。側辺に平行する折れは石等に当たった衝撃で生じるものか。



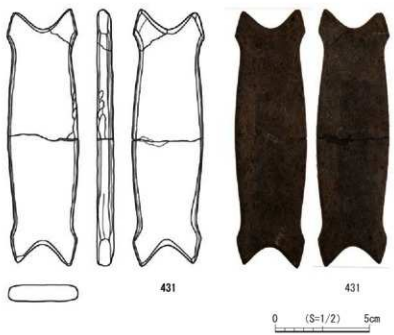
第70図　TAK201404調査区Ⅳ層出土の石斧(S=1/3)



図版47　201404調査区Ⅳ層出土の石斧

h．両端抉入石器（第71図431）

431は、全体を研磨し、両端にそれぞれ2つの角状の突起をつくりだし、抉入部とする石器である。器体中央部が若干膨らむ。砂岩製である。大村湾周辺では出土例がない。管見する限り、福岡県西部の広田遺跡、大原Ｄ遺跡、周船寺遺跡、四箇遺跡、みやま市の権現塚北遺跡、長崎県島原市の大野原遺跡等に類例がみられる。いずれも後期後葉から晩期にかけての時期の所産である。そのなかでも形態的にもっとも類似するのは、周船寺遺跡出土品である。報告当時は石錘と評価されている。また機織りの横棒という評価もあるが、その特殊性から判断して祭祀具としておきたい。



第71図　TAK201404調査区Ⅳ層出土の両端抉入石器(S=1/2)

第16表　TAK201404調査区出土の石器観察表①

番号	器種	器種	地区	地区	層位等	基本土層	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考
273	石器	1027	A6東	8672	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A1群	2.11	2.19	0.31	1.00	浅い凹基　完形　草創期？
274	石器	1026	A6東	9472	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A1群	1.86	(1.64)	0.28	(0.77)	浅い凹基　片脚欠
275	石器	1207	B1	9074	3d 層	第Ⅲ層	黒曜石 B 群	2.40	2.02	0.31	0.88	凹基　押型文
276	石器	2082	B6東	9074	SC124	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	2.29	(1.58)	0.31	(0.78)	凹基　先端・片脚欠損
277	石器	2096	B6西	9070	3b 層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	2.89	1.37	0.38	0.87	完形　凹基　鍬歯状
278	石器	2094	B6東と B7東	9272	3d 層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	2.09	1.31	0.40	0.77	完形　凹基
279	石器	2097	B6西	9070	2層	第Ⅱ層	安山岩	2.48	1.63	0.48	1.69	完形　凹基
280	石器	2091	B6西	9270	3a 層	第Ⅲ層	黒曜石 C 群	2.74	1.71	0.47	1.70	完形　凹基
281	石器	2113	B8北	9177	3d 層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	(2.32)	1.60	0.47	(1.52)	凹基　先端欠主要剥離面
282	石器	2107	B7西	9672	3b 上層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	2.41	1.82	0.51	1.62	凹基　片脚欠損
283	石器	2109	B7西	9670	3a 層	第Ⅲ層	黒曜石 B 群	2.00	1.49	0.37	0.85	完形　凹基
284	石器		A5	2064		SC15K1	黒曜石 A1群	1.71	1.57	0.30	0.83	
285	石器	1206	B1	9074	3d 下層～4層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	2.14	1.54	0.39	1.17	凹基　片脚欠
286	石器	1006	B7東	9472	SD1	SD1	黒曜石 C 群	(2.00)	1.40	0.40	(1.21)	先端欠　凹基
287	石器	1031	B6東	8672	3層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	1.89	1.76	0.36	1.12	先端欠　凹基
288	石器	2099	B6西	9070	表土	第Ⅰ層	黒曜石 A1群	(1.26)		0.33	(0.60)	浅い凹基　先端欠
289	石器	2101	B7西	9470	3a 層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	1.61	1.24	0.27	0.53	完形　浅い凹基
290	石器	2069	B1	9074	SK42	SK42	黒曜石 A1群	2.24	1.75	0.33	1.03	浅い凹基　三角鏃　早期？
291	石器	2068	B1	9072	3d 層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	(2.20)	(1.75)	4.40	(1.13)	浅い凹基　先端・片脚欠損　早期？
292	石器	1035	B6東	9072	3a 下半	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.01	1.61	0.42	1.77	片脚欠　浅い凹基　北岩岩対物
293	石器	2102	B7西	9470	2層(黄色土)	第Ⅱ層	黒曜石 C 群	2.57	1.51	0.46	1.51	浅い凹基　両脚欠損被熱変かも
294	石器	2088	B6西	9070	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A1群	1.81	1.24	0.43	0.70	平基　小型
295	石器	2092	B6西	9270	3a 層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	1.99	1.25	0.45	0.80	凹基　両脚欠損
296	石器	1105	B1	9076		不明	黒曜石 A1群	2.55	2.10	0.69	3.51	平基　三角
297	石器	1015	A6東	8672	SC03	SC03	黒曜石 A1群	3.00	1.83	0.57	2.17	円基　横面有り
298	石器	1242	A6東	8670	表採	その他	黒曜石 A1群	2.00	1.68	0.53	1.78	凸基　搔削状石器？
299	石器	2095	B6西	9070	3b 層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	(2.27)	1.27	0.42	(1.20)	凸基
300	石器	1030	A6東	8672	3d 層	第Ⅲ層	黒曜石 B 群	2.26	1.55	0.32	1.28	凸基　主剥離面残す　被熱
301	石器	1032	A5	8874	3c 層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	2.62	1.63	0.33	1.09	完形　凹基　左右非対称
302	石器	1029	B6東	8672	3層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	2.39	1.41	0.41	0.77	完形　凹基　五角形
303	石器	1025	B6東	8672	3c 層	第Ⅲ層	黒曜石 B 群	2.43	1.12	0.25	0.67	完形　逆修
304	石器	2071-1	B1	9074	3d 層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	2.05	1.33	0.22	0.58	局部磨製　凹基　五角形鏃

第17表　TAK201404調査区出土の石器観察表②

番号	器種	器種	地区	地区	層位等	基本土層	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考
305	石鏃	2070	B1	9074	SK42	SK42	黒曜石 A1群	2.51	1.48	0.25	1.23	局部磨製　凹基　五角形鏃
306	局部磨製石鏃	1028	A6東	8672	3層	第Ⅲ層	安山岩	(2.61)	(1.89)	0.34	(1.91)	先端同脚欠損　浅い凹基
307	局部磨製石鏃	2077	B1	9074		その他	黒曜石 A1群	1.14	1.06	0.13	0.17	岩下タイプか型
308	剥片鏃	2110	B7西	9072	3a層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	1.97	1.46	0.29	0.82	先端を斜めに折損
309	石錐未製品	1036	B6東	9072	3d層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	2.52	3.36	0.83	5.14	未製品　分厚い
310	掻・削器	2117	B6西	9070	3a層	第Ⅲ層	安山岩	6.21	8.58	1.35	72.10	ラウンド
311	掻・削器	1090	B7東	9212	3d下部層	第Ⅲ層	安山岩	5.22	6.99	0.97	44.03	横面有り　ラウンド
312	掻・削器	1086	A6東	8672	3層	第Ⅲ層	安山岩	5.65	6.50	1.38	55.27	横面有り　ラウンド　両面加工
313	掻・削器	2124	B8北	0177	3d層	第Ⅲ層	安山岩	5.51	3.95	1.51	39.23	
314	掻・削器	1087	A6東			不明	安山岩	8.42	5.87	2.37	117.90	削器
315	掻・削器	1089	A5	8874	3c層	第Ⅲ層	安山岩	9.19	5.21	2.71	113.50	縦長　大型　パティナふるい　被熱？
316	掻・削器	2118	B6西	9070	3a層	第Ⅲ層	安山岩	7.49	3.88	1.29	38.25	サイド
317	掻・削器	1085	B6東	9274	3d層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.01	3.18	1.50	11.63	次心状剥離
318	石錐様石器	2080	B6西	8870	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A1群	3.15	1.44	1.02	4.65	調整は周縁で丁寧　先端部は平良で横面
319	加工痕のある剥片	2090-2	B6西	9070	3a層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.95	2.31	0.55	4.10	不定形　平坦打面
320	加工痕のある剥片	1103-1	B1	9074	3c層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.74	0.87	0.35	1.33	両側縁に加工痕　1096-1と類似
321	加工痕のある剥片	2078	B1	9074		不明	黒曜石 A1群	(2.11)	1.27	0.39	(1.03)	先端部　ナイフに似る　被熱
322	加工痕のある剥片	1099-1	A6東	8672~8872	3d~4層　黒移層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.96	1.90	0.52	3.11	両側縁に加工痕　1103-1と類似
323	使用痕のある剥片	1071	B6東	9272	3a2層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	4.10	1.35	0.65	1.52	縦長　両辺に使用痕
324	使用痕のある剥片	1067	B6東	9272	3d層	第Ⅲ層	黒曜石 D 群	4.56	2.72	0.73	7.69	上半部折損
325	石錐	1096	B6東	9072	3a下層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.12	2.38	0.36	2.19	awl 的　被熱
326	使用痕のある剥片	2073	B1	9074	3d下層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.12	2.68	0.63	4.53	貝殻状剥片素材　被熱
327	使用痕のある剥片	2100	B7西	9070	3d層	第Ⅲ層	黒曜石 C 群	3.93	1.45	0.78	4.73	ガジリ歩し
328	使用痕のある剥片	1040	A6東	8670	3層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	5.44	4.20	0.96	12.35	グライバーファシット？　角礫　被熱
329	使用痕のある剥片	1106	B1	9276	3d層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	4.34	1.13	0.49	2.19	完形　縦長　被熱
330	使用痕のある剥片	2075	B1	9074	3d層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	4.82	2.07	0.74	5.47	完形　角礫　被熱
331	剥片	1045	A6東	8672	3d層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	4.38	1.88	0.93	6.22	先端部に円礫面
332	剥片	1100-1	B6東	9072	3c層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	4.08	1.93	0.44	4.30	先端ヒンジ　被熱
333	剥片	2085	B6西	9070	3a層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.97	1.99	0.72	4.91	完形　被熱
334	剥片	1043	A6東	8672	3d層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.88	1.16	0.31	1.82	被熱
335	剥片	1223-4	A6東	8672	3d~4層　黒移層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	4.01	2.19	0.77	6.62	完形　先端に円礫面　被熱
336	剥片	1060-1	B6東	9072	3d層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.51	1.67	0.45	2.69	先端部ヒンジ
337	剥片	1223-1	A6東	8672	3d~4層　黒移層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	6.99	2.82	0.87	14.42	完形　大型
338	剥片	1057-1	B6東	9072	3a層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.72	2.51	0.73	6.31	角礫
339	剥片	1050	B6東	8872	3a層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.29	1.85	0.65	3.68	被熱
340	剥片	1099-5	A6東	8672~8872	3d~4層　黒移層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.71	2.44	0.39	5.20	やや幅広の縦長　被熱
341	剥片	1066	B6東	9272	3a層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.13	1.84	0.51	2.90	被熱
342	剥片	1223-2	A6東	8672	3d~4層　黒移層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	4.80	3.45	1.31	12.19	幅広の縦長　完形　角礫　被熱
343	剥片	2088-2	B6西	9070	3a層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.48	2.02	0.55	3.98	先端折れ　被熱
344	剥片	1061-1	B6東	9072	3d層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.63	2.25	1.04	7.83	分厚い縦長　被熱
345	剥片	1070	B6東	9272	3d層	第Ⅲ層	黒曜石 A2群	3.39	2.36	0.73	5.20	寸詰まり縦長
346	剥片	1079	B7東	9874	3d層	第Ⅲ層	黒曜石 A2群	3.14	2.69	0.61	4.87	幅広　被熱
347	剥片	1053	A5	8874	3c層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	4.16	2.26	0.89	8.29	被熱
348	剥片	1057-3	B6東	9072	3a層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.71	1.05	0.86	3.01	分厚い　右側辺にファシット
349	礫器	2187	B7西	9470	3d層	第Ⅲ層	安山岩	8.48	9.08	7.03	454.70	一部に礫面残存
350	礫器	1088	A6東	8672	3層	第Ⅲ層	安山岩	6.66	8.63	3.51	214.50	わずかに礫面を残す
351	石核	1083	A6東	汚川	2層砂層	第Ⅱ層	黒曜石 A1群	5.09	5.08	3.11	79.97	角礫　被熱　打面転移　大きめ
352	石核	1098-1	A6東	8672~8872	3d~4層　黒移層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	2.61	2.76	1.73	13.23	小型　打面転移
353	石核	1098-3	A6東	8672~8872	3d~4層　黒移層	第Ⅲ層	黒曜石 A2群	2.05	2.96	1.98	10.85	小型　打面転移
354	石核	1084	B6東	9072~9074	ベルト	不明	黒曜石 A1群	3.03	2.66	2.23	15.72	横面あり　打面固定　平坦打面　小型　被熱
355	石核	1080	A5		3c 層	第Ⅲ層	黒曜石 A2群	2.08	3.94	2.49	26.00	角礫　被熱
356	石核	1098-2	A6東	8672~8872	3d~4層　黒移層	第Ⅲ層	黒曜石 A1群	3.31	4.18	1.66	17.51	横面有り　被熱
357	打製石斧	1109	A6東	8672	3a層	第Ⅲ層	安山岩	(11.48)	7.38	2.97	(349.35)	刃部欠損　側縁稜上につぶれ有
358	礫平打製石斧	1143	B1		3c 層	第Ⅲ層	安山岩	(9.66)	6.20	2.43	(269.38)	基部欠損
359	箆状石器	1137	B6東	9272	3a層	第Ⅲ層	安山岩	8.19	5.15	1.80	68.73	完形
360	礫平打製石斧	2165	B6西	9270	3a層	第Ⅲ層	安山岩	8.09	4.02	1.60	62.31	部分的に摩滅
361	礫平打製石斧	2135	A7西	8670	カクラン	撹乱	安山岩	16.55	6.75	2.39	378.84	完形
362	礫平打製石斧	2138	A6南	8870	カクラン	撹乱	安山岩	12.21	7.27	1.33	137.95	完形
363	礫平打製石斧	2158	B6西	9070	3a層	第Ⅲ層	安山岩	10.07	6.28	1.78	151.99	全体的に剥離・稜線摩滅
364	礫平打製石斧	1216	A6東	8672	3d~4層　黒移層	第Ⅲ層	安山岩	(11.22)	6.71	1.40	(111.22)	基部欠損　刃部摩滅
365	礫平打製石斧	1112	A6東	8872		不明	安山岩	9.98	6.18	1.17	91.66	基部欠損　摩滅有
366	礫平打製石斧	2174	B7西	9870	3a層	第Ⅲ層	安山岩	9.50	8.20	1.00	112.72	表裏刃部と平坦部が摩滅
367	礫平打製石斧	2167	B6西	9268	3a層下(3b層)	第Ⅲ層	安山岩	10.17	5.29	1.83	121.18	完形
368	礫平打製石斧	1141	B7西	9670	カクラン	撹乱	安山岩	(9.46)	4.91	1.27	75.87	基部欠損　刃縁と稜線摩滅
369	礫平打製石斧	1123	B6東	9072	3a層	第Ⅲ層	安山岩	(7.5)	6.21	1.53	112.09	基部、刃部欠損
370	礫平打製石斧	1116	A6東	8672~8872	3d~4層　黒移層	第Ⅲ層	安山岩	(10.05)	7.04	3.29	194.79	刃部欠損
371	礫平打製石斧	1204	B1	9074		不明	安山岩	(8.5)	6.75	1.60	125.56	刃部欠損　点上げ No.134

第18表　TAK201404調査区出土の石器観察表③

番号	器種	器種	地区	地区	層位等	基本土層	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考
372	縄平打製石斧	2163	06西	9270	3a 層	第Ⅲ層	安山岩	(8.08)	5.29	1.72	(96.36)	刃部欠損　側縁、棟線摩滅
373	縄平打製石斧	1119	A6東	8672～8872	3a'～4層　漸移層	第Ⅲ層	安山岩	(5.89)	5.70	1.22	(59.34)	刃部欠損、摩滅有
374	縄平打製石斧	1131	06東	9072	3d 層	第Ⅲ層	安山岩	(9.27)	6.55	1.10	74.97	刃部欠損
375	縄平打製石斧	1121	A5	8874	3c 層	第Ⅲ層	安山岩	(12.55)	7.30	2.52	257.03	基部欠損
376	縄平打製石斧	2149	B1	9074	3d 層	第Ⅲ層	安山岩	(9.19)	7.75	1.75	174.79	基部欠損　部分的に摩滅
377	縄平打製石斧	2134	A6西	8670	2層	第Ⅱ層	安山岩	(8.25)	6.21	1.43	100.87	基部欠損　側縁全体的に摩滅
378	縄平打製石斧	1115	A6東	8672～8872	3d'～4層　漸移層	第Ⅲ層	安山岩	(10.48)	8.72	1.97	205.34	基部欠損
379	縄平打製石斧	1004	06東	9274	SC4	SC4	安山岩	8.00	9.42	1.73	184.13	基部、片側縁欠損
380	縄平打製石斧	1130	06東	9072	3d 層	第Ⅲ層	安山岩	7.47	6.10	1.62	107.22	基部欠損　刃部と側縁部棒線摩滅
381	縄平打製石斧	1126	06東	9072	3d 層	第Ⅲ層	安山岩	7.46	7.37	1.12	82.16	基部欠損　裏面側が摩滅
382	縄平打製石斧	2153	06西	8870	3b 層	第Ⅲ層	安山岩	9.15	6.80	1.42	109.20	基部欠損
383	縄平打製石斧	1114	A6東	8872～8872	3d'～4層　漸移層	第Ⅲ層	安山岩	8.71	6.70	1.02	80.14	基部、刃部の一部欠損
384	縄平打製石斧	2140	A6南		表採	表採	安山岩	8.72	6.52	2.72	180.20	全体が摩滅　基部欠損
385	縄平打製石斧	2162	06西	9270	3b 層	第Ⅲ層	安山岩	17.47	9.86	3.18	650.00	刃部欠損
386	縄平打製石斧	1118	A6東	8672～8872	3d'～4層　漸移層	第Ⅲ層	安山岩	13.98	10.89	1.68	361.38	基部欠損
387	縄平打製石斧	1110	A6東	8672	3d 層	第Ⅲ層	安山岩	16.42	10.83	1.99	432.00	刃部欠損　基部に摩滅痕
388	縄平打製石斧	1107	A6東	8670		不明	安山岩	7.82	10.60	1.88	210.19	基部、刃部欠損
389	縄平打製石斧	2171	B7西	9472	カクラン	撹乱	安山岩	10.17	8.02	1.83	121.18	
390	縄平打製石斧	1144	B区		表土	第Ⅰ層	安山岩	17.56	9.42	3.46	850.00	大型　刃部摩滅
391	縄平打製石斧	2141	B1	9074	SC124	SC124	安山岩	15.26	9.41	2.52	443.00	側縁及び刃部摩滅　基部に被熱痕？
392	縄平打製石斧	2161	06西	9076	3a 層	第Ⅲ層	安山岩	(15.82)	12.30	2.93	(796)	大型　基部欠損
393	縄平打製石斧	2148	B1	9074	3d 層	第Ⅲ層	安山岩	(19.36)	13.42	3.98	(1,300)	基部欠損　大型
394	礫製石斧	1154	表採		表採	表採	安山岩	(15.80)	6.71	2.35	(412.6)	
395	礫製石斧	1146	A5		3c 層	第Ⅲ層	ホルンフェルス	(12.21)	6.32	3.48	(419.1)	敲刃
396	礫製石斧	1208	B1	9074	3d 下層～4層	第Ⅲ層	蛇紋岩	(7.93)	6.07	3.47	(199.7)	敲刃
397	礫製石斧	1230	06西	9270	3d 層	第Ⅲ層	蛇紋岩	(8.06)	5.22	(1.92)	(81.97)	敲刃
398	礫製石斧	2136	A6南	8870	2層下	第Ⅱ層	蛇紋岩	(9.08)	5.73	2.92	(189.4)	基部
399	礫製石斧	2157	06西	9070	3a 層	第Ⅲ層	蛇紋岩	10.03	4.67	1.16	99.28	
400	礫製石斧	1148	A6東	8672	2層	第Ⅱ層	蛇紋岩	(5.13)	5.32	0.91	(49.65)	
401	石錘	1039	06東	9072	4層	－	黒曜石 A1群	2.47	2.25	0.41	1.10	先端欠　凹基　小型
402	石錘	1092	A6東	8672	4下層	－	黒曜石 A1群	2.11	1.81	0.44	0.87	完形　凹基　押型文
403	石錘	1037	06東	9072	4層	－	黒曜石 A1群	1.94	1.43	0.25	0.59	完形　凹基　小型局部磨製
404	石錘	1205	B1	9276	4上層	－	黒曜石 A1群	2.44	1.77	0.24	0.75	凹基　片脚欠　精巧薄手　草創期？
405	石錘	1209	B1	9074	4下層	－	黒曜石 D 群	3.06	1.96	0.52	2.53	凹基　先端・両脚欠
406	石錘未製品	2065	A6東	8872～8872	4層	－	黒曜石 A1群	2.04	1.87	0.51	1.08	
407	石錘	2067	A6東	8872～8872	4層	－	黒曜石 A1群	2.38	1.82	0.49	2.10	平基　調整加工粗い
408	剥片鏃	2081	B1	9074	4下層	－	黒曜石 B 群	3.20	1.99	0.30	1.33	片脚欠
409	異形石器	1227	A6東	8672	4層中	－	黒曜石 A1群	1.84	2.70	0.52	1.57	両脚欠損　幅広　異形石器かも
410	使用痕のある剥片	1225～1	A6東	8672	4層	－	安山岩	9.56	4.93	1.52	87.81	摩滅有
411	剥片	1046	A6東	8672	4層	－	黒曜石 A1群	3.92	1.49	0.28	1.66	薄手
412	剥片	1225～2	A6東	8672	4層	－	黒曜石 A1群	3.96	1.46	0.33	2.16	縦長　細身　完形　被熱
413	剥片	1023	06東	8672	4層	－	黒曜石 A1群	5.05	2.33	0.66	6.13	完形　被熱
414	剥片	1237	06西	8870	4層	－	黒曜石 A1群	4.90	2.20	1.04	9.60	分厚い　先端に稜面　被熱
415	剥片	1062	06東	9072	4層上面	－	黒曜石 A1群	3.80	2.19	0.90	5.60	被熱
416	剥片	1221	A6東	8672	4層	－	黒曜石 A1群	4.68	2.84	1.12	14.03	幅広の縦長　大きめの不純物　被熱
417	剥片	1060	06東	9072	4層上面	－	黒曜石 A1群	6.00	2.10	1.14	17.16	角礫　被熱
418	剥片	1049	A6東	8672	4層	－	黒曜石 A1群	3.37	1.76	0.57	2.80	
419	剥片	1048	A6東	8672	4層	－	黒曜石 C 群	2.21	1.98	0.77	1.90	寸詰まり
420	剥片	1024	06東	8672	4層	－	黒曜石 A1群	4.14	2.84	0.66	6.51	幅広縦長
421	礫製石斧	1150	06東	8872	4上層	－	砂岩	(11.36)	6.15	2.05	(237.3)	基部欠損
422	縄平打製石斧	2143	B1	9074	4層上面	－	安山岩	12.93	7.22	1.42	151.31	刃部欠損
423	縄平打製石斧	2132	A6東	8672～8872	4層	－	安山岩	10.86	9.51	2.33	271.34	基部欠損　刃部摩滅
424	縄平打製石斧	2130	A6東	8872	4層	－	安山岩	10.19	7.12	1.60	155.00	基部欠損
425	縄平打製石斧	1018	A6東	8672	SP159	－	安山岩	7.35	5.82	1.14	64.14	基部欠損
426	縄平打製石斧	1220	A6東	8672	4層中	－	安山岩	5.44	7.73	1.09	65.47	基部欠損　刃部摩滅
427	縄平打製石斧	2126	A6東	8672	4層	－	安山岩	10.23	8.02	1.67	178.33	基部欠損　刃部摩滅
428	縄平打製石斧	1215	A6東	8672	4層	－	安山岩	11.88	8.18	1.72	236.17	基部、刃部欠損
429	縄平打製石斧	1120	06東	8872	4層上部	－	安山岩	10.97	6.72	2.08	182.07	刃部欠損
430	縄平打製石斧	1111	06東	8872	4層上部	－	安山岩	10.87	10.24	2.17	333.67	基部欠損　刃部摩滅
431	両極挟入石器	1214	A6東	8672	4層	－	砂岩	13.37	3.66	0.85	80.72	

③ TAK201405調査区の包含層出土の石器

本調査区で出土した石器については、出土量が少ないため一括して説明する。

a．石鏃（第72図432～434）

石鏃はいずれも浅い凹基のⅠ類で、直線的な抉りを特徴とする。**432**は、側辺が外湾する薄手の精

巧な作りの石鏃である。433は直線的な側辺をもつ。434は、先端と脚の片方を欠損するが、薄く仕上げた精巧品である。素材にはいずれも良質な黒曜石A1類が用いられている。

b．剝片鏃(第72図435)

435は、幅広の薄い剝片を素材とするいわゆる剝片鏃であるが、通有の鈴桶型剝片を素材とする剝片鏃とは様相を異にする。形態が幅広になることや調整剝離がほぼ全周に及び、明瞭な尖頭部を作り出していないことなどからみて異形石器としても通じるものがある。

c．掻・削器(第72図436)

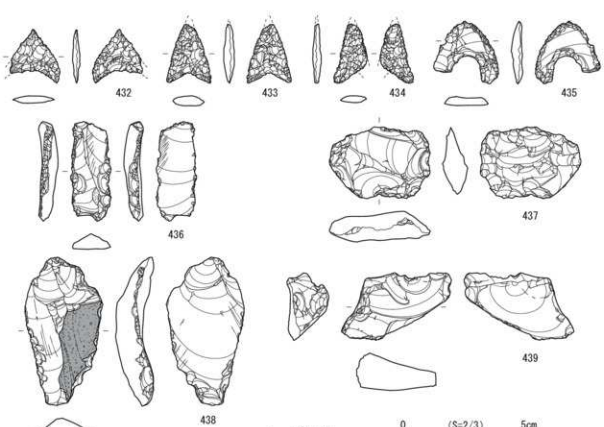
436は、縦長の剝片を素材とする削器(サイド・スクレイパー)である。刃部は両側縁に設置されている。素材は黒曜石A1類である。

d．楔形石器(第72図437)

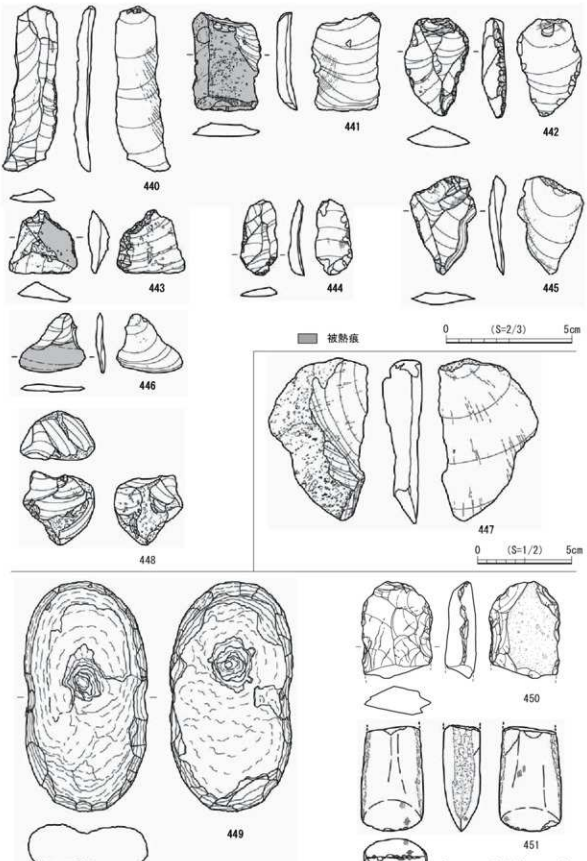
437は、不純物をほとんど含まない透明度の高い石英(水晶)を素材とする横長の楔形石器である。本地域では石英(水晶)を石器石材として用いられる例はほとんど知られていない。

e．使用痕のある剝片(第73図438・439)

438は、分厚い大型の縦長剝片を素材とする。両側辺に使用痕が残る。黒曜石A1類を素材とし、被熱痕が残る。439は、メノウの横長不定形剝片を素材とする。剝片の端部に微細な剝離が連続する。メノウも稀有な石材である。



第72図　TAK201405調査区出土の石器①(S=2/3)



第73図　TAK201405調査区出土の石器②(S=2/3)(S=1/2)(S=1/3)

図版48　TAK201405調査区出土の石器

f．剝片（第73図440～447）

本調査区から出土した剝片は8点であり、全てを報告する。

440は鈴桶型剝片と思われる縦長剝片である。この剝片に見合う石核は出土しておらず搬入品の可能性が高い。**441・443・444**は縦長剝片もしくは縦長状の剝片である。打面は平坦打面である。**445**は不定形剝片、**443・446**は貝殻状の横長剝片である。素材となる石材は黒曜石で、**443**が黒曜石A2類、**445**が黒曜石C類のほかは黒曜石A1類である。**441・442・443・446**には被熱痕が残る。

447は安山岩製の大型剝片である。礫面を打面としており、礫面自体も大きく残されている。

g．石核（第73図448）

448は、小型の亜円礫を素材とする。打面を頻繁に転移するⅢ類の石核で、稜線は潰れている。剝離面のガラス光沢に差異があり、被熱の可能性もある。

h．石錘（第73図449）

449は、結晶片岩を素材とする石錘である。長楕円形を呈し、その中央両側に浅い溝がつけられ、紐ズレ痕が看取される。また両面に径約3cmの回転によってつけられたと思われる浅い窪みがある。

i．打製石斧（第73図450）

450は、打製石斧の基部である。調整剝離は右側辺に集中する。左側辺は素材時点で薄くなっており、急傾斜の調整剝離はみられない。板状剝片を素材としないことから打製石斧とした。玄武岩を素材とする。

j．磨製石斧（第73図451）

451は、砂岩製の磨製石斧の刃部である。敲打整形を施したのち全体を研磨したもので、刃部は蛤刃となる。

第19表　TAK201405調査区出土の石器観察表

番号	器種	遺物番号	地区	層位等	共通土層	石質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
432	石錐	6083	⑥7264	SP1591	SP1591	黒曜石 A1類	2.18	1.96	0.29	0.78	完形　浅い凹基薄手精巧　早期？
433	石錐	6077	⑤7666	4a層	第Ⅳ層	黒曜石 A1類	2.29	1.74	.41	1.36	凹基　先端欠
434	石錐	6076	②8468		不明	黒曜石 A1類	2.25	1.32	.3	.75	凹基　先端・片脚欠
435	剝片錐	6074	②8068	3層	第Ⅱ層	黒曜石 A1類	2.13	2.54	.39	1.8	被熱
436	掻・削器	6079	③8066	遺構中	不明	黒曜石 A1類	3.9	1.6	0.62	4.05	被熱
437	楔形石器	6205	②7868	3層	第Ⅱ層	石英（水晶）	3.99	2.78	1.02	12.25	
438	使用痕のある剝片	6082	⑥7260・7262		不明	黒曜石 A1類	5.82	3.06	1.05	16.7	縦長剝片の基部側に加工痕　被熱
439	使用痕のある剝片	6204	②7868	3層	第Ⅱ層	メノウ	2.29	4.79	1.68	12.23	横長
440	剝片	6081	⑤7262	3層	第Ⅱ層	黒曜石 A1類	6.61	2.05	0.54	7.07	鈴桶　完形
441	剝片	6073	①8270	3層	第Ⅱ層	黒曜石 A1類	3.89	2.58	.52	6.91	
442	剝片	6080	⑤7262・7462	3層以下	第Ⅱ層	黒曜石 A1類	3.87	2.57	0.87	7.83	パティナは古い　ローリング　ガジリ大
443	剝片	6078	④8064		不明	黒曜石 A2類	2.68	2.64	0.66	3.49	不定形　被熱
444	剝片	6341	②7868	4b層	第Ⅳ層	黒曜石 A1類	2.85	1.41	0.45	1.83	稜打面　縦長
445	剝片	6084	⑥7264	4b層	第Ⅳ層	黒曜石 C 類	3.89	2.59	0.4	3.6	
446	剝片	6342	②7868	4b層	第Ⅳ層	黒曜石 A1類	2.46	2.58	0.24	1.2	不定形　被熱　砕片かも
447	剝片	6075	②8468	4a層	第Ⅳ層	安山岩	9.36	5.78	2.18	91.49	
448	石核	6340	②7868	2層	第Ⅳ層	黒曜石 A1類	3.03	2.63	1.81	12.8	稜線摩滅　被熱
449	石錘	6085	②7868～3層	3層	第Ⅱ層	結晶片岩	18.1	9.58	3.58	1010	凹石
450	打製石斧	6100	③7666	2層	第Ⅱ層	玄武岩	(7.61)	5.74	2.22	(116.4)	刃部欠損
451	磨製石斧	6101	③7462	2層、3層上面	第Ⅱ層	砂岩	(8.21)	4.98	2.94	(199.5)	基部欠損

④ TAK201406調査区の包含層出土の石器

本調査区で出土した石器については、共通土層の第Ⅰ層～第Ⅲ層(表採・層位等が不明なものを含む)と第Ⅳ層に分けて説明する。

第Ⅰ～Ⅲ層出土の石器

a．石鏃(第74図452～454)

452は、浅い凹基のⅠ類で薄手の精巧な作りである。浅い直線的な基部の抉りのため脚端が鋭く尖る。側辺の中央で屈曲する。淀姫系の黒曜石B類を素材とする。453は、基部をほぼ直線とする平基のⅡ類に該当する。薄く精巧に作られた三角鏃である。454も薄手の精巧品で、先端部は丸みを帯びる。基部側をわずかに欠損しているため正確な器形は不明だがおそらく円基となるⅢ類であろう。453・454は良質な黒曜石A1類を素材とする。

b．石鏃未製品(第74図455・456)

455は、横長の不定形剥片を素材とする。両面に素材面を広く残しており、調整加工は進んでいない。456は、浅い基部を作り出したもので製作途中で折れたものか。器面には瘤状の高まりが残されており剥離できなかったものと思われる。素材はいずれも黒曜石A1類である。

c．掻・削器(第74図457～463、第75図469)

457は、分厚い剥片を素材とする円刃掻器(ラウンド・スクレイパー)である。急傾斜の調整剥離によって刃部を作る。この形態の円刃掻器は、用途として皮革加工(皮なめし)が想定されており、北部九州では出現時期が草創期後半の寒冷期(ヤンガー・ドリアス)に限定される。458は、粗い調整剥離で直線的な刃部を作り出した削器(サイド・スクレイパー)である。459は、薄い剥片の端部に角度のない調整剥離を円弧状に設けた石器である。458・459は安山岩を素材とする。460～462は、質の悪い黒曜石A2類を素材とする、460・461は分厚い不定形剥片を、462は石核からの転用品である。460～462にはいずれも被熱痕と思われるガラス光沢を消失した剥離面が看取される。

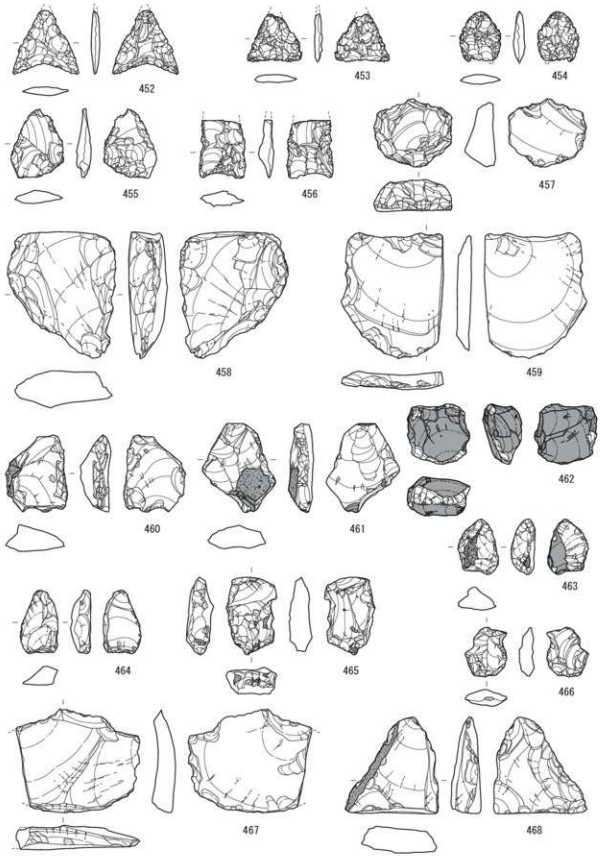
469は安山岩製の円盤状を呈する石器である。円形になるよう調整加工がなされ、両刃の刃部が部分的に認められる。裏面の刃部には局部的に磨滅痕が認められる。結晶片岩製の円盤状石器と比べて大きい。削器的な機能をもった実用品と考えられる。

d．彫器(第74図464)

464は、折断された縦長剥片の先端側を使用した彫器である。剥片端部の厚みをもつ側辺に1条の彫刀面(グレイバー・ファシット)が形成されている。石材には、良質な黒曜石A1類が選択されている。

e．加工痕のある剥片(第74図466～468、第75図470～473)

加工痕のある剥片を素材別にみると、467・470が安山岩、468が玄武岩、残余は黒曜石である。471・473は良質な黒曜石A1類、466・472は質の悪い黒曜石A2類である。定型的な縦長剥片の使用は認められず、いずれも不定形剥片を用いている。加工痕の状態は、石器によって異なるが、掻・削器のような明瞭な加工痕は認められない。

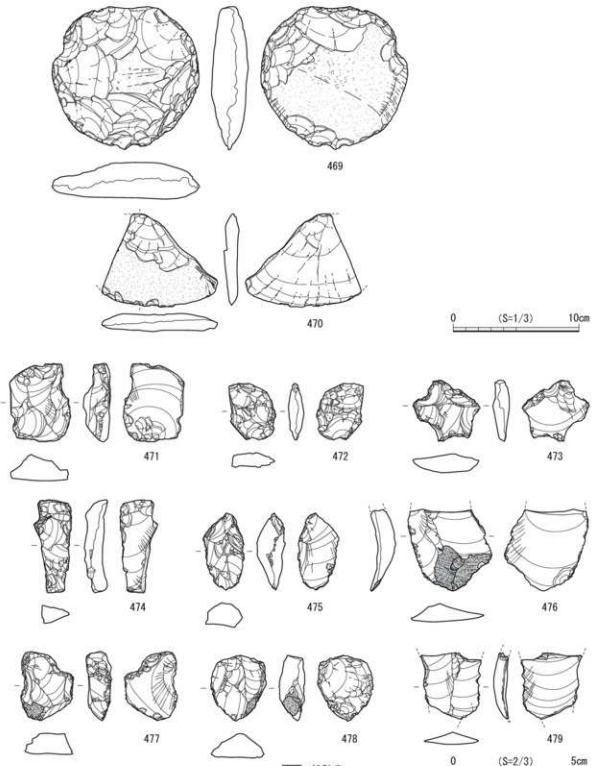


第74図　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石器①(S=2/3)

図版49　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石器①

f．使用痕のある剝片（第75図474～479）

いずれも黒曜石を素材としており、**478**が黒曜石A2類のほかはすべて黒曜石A1類である。使用されている剝片の形状はまちまちで、いずれも不定形剝片である。**474・476～479**には被熱痕らしいガラス光沢消失部が看取される。

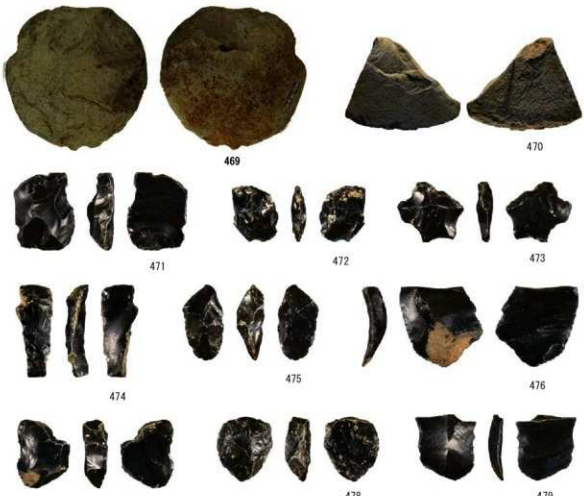


第75図　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石器②(S=1/3)(S=2/3)

g．剝片(第76図480～500、第77図501～517)

TAK201406調査区Ⅰ～Ⅲ層から出土した剝片は、黒曜石製が236点、安山岩製が9点の245点にのぼる。ここでは黒曜石製37点、安山岩製1点の38点を報告する。約16%になる。

480～502は、縦長剝片もしくは縦長状の剝片である。長幅比が2を超える長めの剝片は、**480～482**・

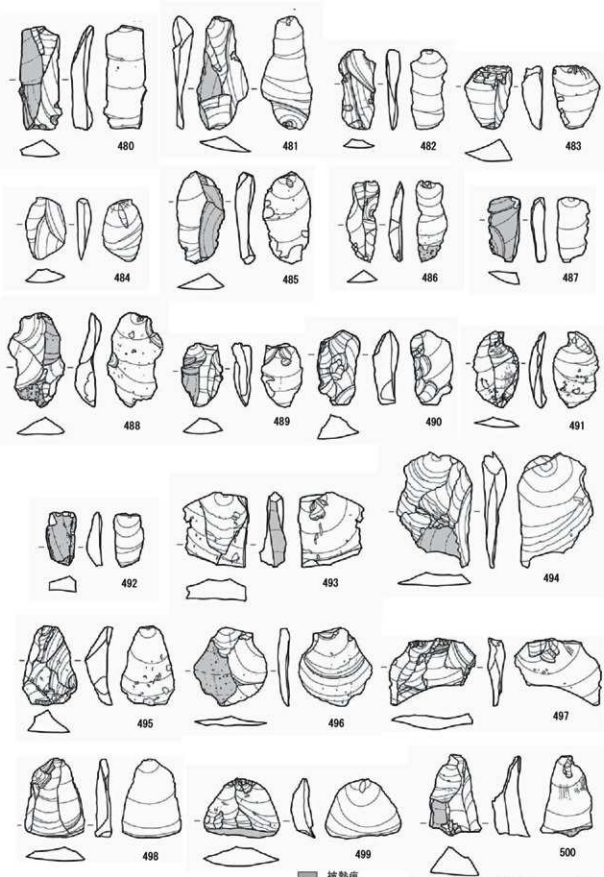


図版50　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石器②

486・**487**の5点に過ぎない。打面を転移した石核から剥離したものがほとんどで、同一方向の連続剥離の痕跡は認められない。打面は、礫面を打面とするものが**481**～**483**・**485**・**487**・**491**の6点、平坦打面が**484**・**489**・**492**の3点、点打面となるものが**486**・**491**の2点となる。**480**・**490**は打点部を欠損している。使用石材はいずれも黒曜石で、椎葉川系の黒曜石C類が1点(**490**)および質の悪い腰岳系の黒曜石A2類が1点(**491**)のほかは良質な腰岳系の黒曜石A1類で占められる。**480**・**481**・**485**・**487**・**489**・**492**には被熱の痕跡が認められる。

493～**516**は、不定形剥片、貝殻状を呈する剥片である。貝殻状を呈する剥片がもっとも多い。**496**・**499**・**502**・**506**・**508**～**511**・**514**～**516**の11点を数える。形状の差異は大きいが、小型の作業面長の短い石核から剥離したものである。打面は平坦打面が大半を占める。礫面を打面とするものはない。**499**・**509**～**511**には被熱痕が認められる。素材はすべて黒曜石A1類である。**497**は横長剥片とした。不定形剥片は字義どおり不定形の剥片で、個体ごとのその形状は異なる。打面は、礫面とするもの(**495**・**497**・**501**・**503**・**512**)と平坦打面(**493**・**494**・**500**・**504**・**505**・**507**)が拮抗する。**493**・**494**・**500**・**501**・**503**～**505**・**512**・**513**には被熱痕が認められる。

517は安山岩を素材とする薄手の縦長剥片である。



第76図　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の剝片①(S=2/3)

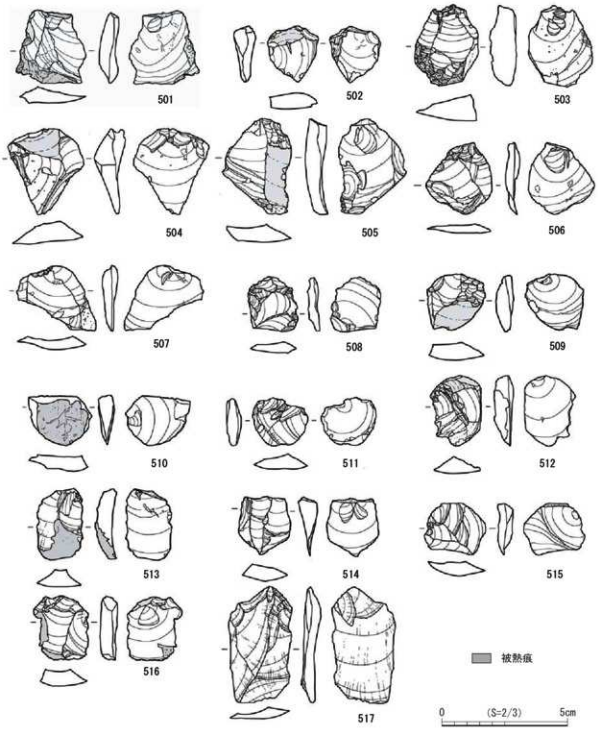
図版51　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の剝片①

h．石核（第78図518～532、第79図533～547）

TAK201406調査区Ⅰ～Ⅲ層から出土した石核は、残核を含めて47点と非常に多い。そのうち30点を報告する。石核については、その形状からⅠ類～Ⅴ類に分類している。ここでは各類別に述べる。

石核Ⅰ類：**519・521・524・529・530・533～535・545・546**

石核Ⅰ類は、打面を固定し、打面側から剝離を行う石核であるが、その形態は一様ではない。**519**は、分割礫の一面を打面とする不定形な石核である。2条の連続剝離が行われている。**521**は分割面を打面とする。**525**は背面および両側面を礫面で構成し、打面を被熱面とする。**529・530**は、背面の一部に礫面を残す。剝離面を縦位に設定する。**533**は、礫面・被熱面で構成される円礫状の素材に打面を設定し、その面から連続剝離を行っている。**534**は、礫の分割素材面の一つを打面に固定し、礫面側に連続剝離を行っている。**535**は、背面に礫面をもつやや薄手の素材に打面を設定し、その面からの連続剝離がみられる。**545**は、小型で石核とは言い難いが、爪先大の剝離痕がみられる。小さい円礫を素材とする。**546**は被熱による「はじけ」面を背面とする。

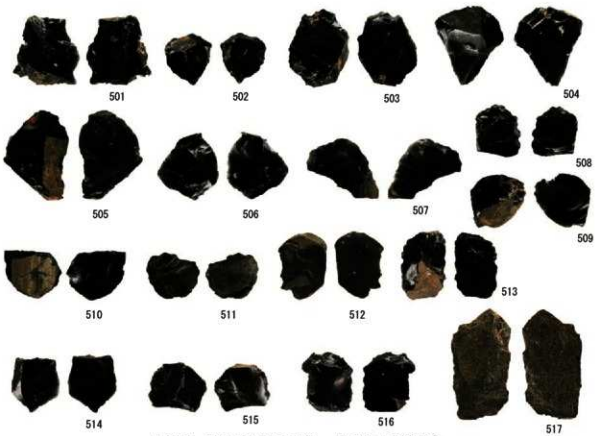


第77図　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の剝片②(S=2/3)

石材別では、良質な黒曜石A1類が極めて少なく**545**のみである。また**535**が針尾系の黒曜石B類で、主体となるのは腰岳系の質の悪い黒曜石A2類である。

石核Ⅱ類：**518**・**520**・**522**・**528**・**531**・**539**

打面を90度ないし180度転移させる石核である。**518**は背面を礫面で構成する。作業面には90度転移した剝離面がみえる。**520**は、背面・側面を礫面・被熱面で構成する。**522**は背面を礫面で構成する。貝殻状剝片の剝離痕がみられる。**528**はサイコロ状を呈する礫面をもたない石核である。**531**は作業面



図版52　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の剥片②

以外を礫面・被熱面で構成する。539は背縁をもつ角錐状になる石核である。

石材にはすべて良質の黒曜石A1類が用いられている。

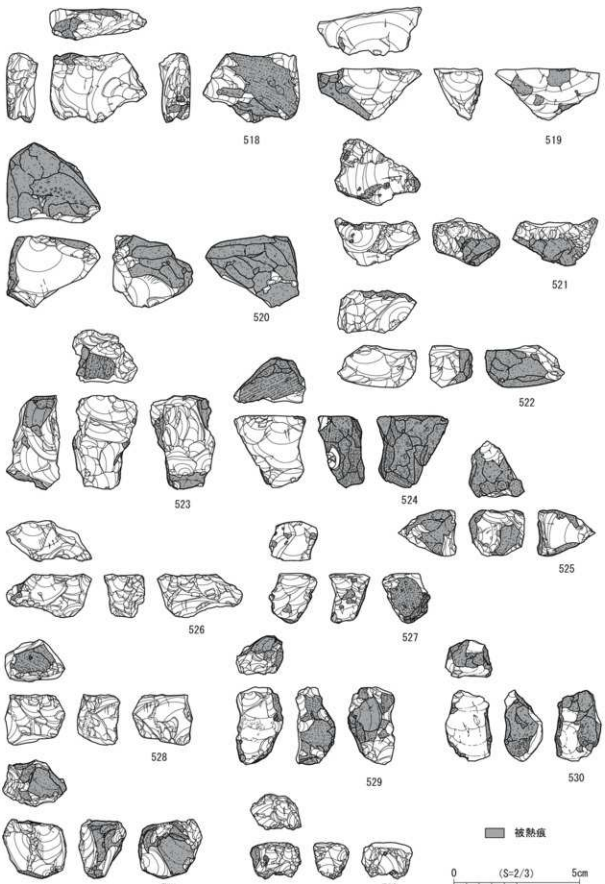
石核Ⅲ類：523・526・532・536・537・540～542・544

石核Ⅲ類は、打面転移を繰り返し、多方向からの剥離痕を残すものである。523は、礫面・被熱面をもつ角柱形の石核である。526は、爪先大の小型剥片を剥離したもので、礫面をもたない。532はその大きさからみて石核と評価するにはあまりにも小型であるが1cm足らずの剥片を取ったものであろう。536は、左側面から底面を礫面・被熱面で構成する小型の礫素材の石核である。537は、背面の一部に礫面を残す礫素材の小型石核である。爪先大の小型剥片を剥離している。540は、礫面をもたない。541は、底面にわずかに礫面を残す。542は、礫面を一部に残す角型の石核である。左側面には被熱による「はじけ」痕がみられる。544は、被熱痕をもつ横長の石核である。

使用石材は、523・526・532が黒曜石A2類のほかは、わずかに斑晶を含むものもあるがすべてガラス光沢に富んだ良質の黒曜石A1類である。

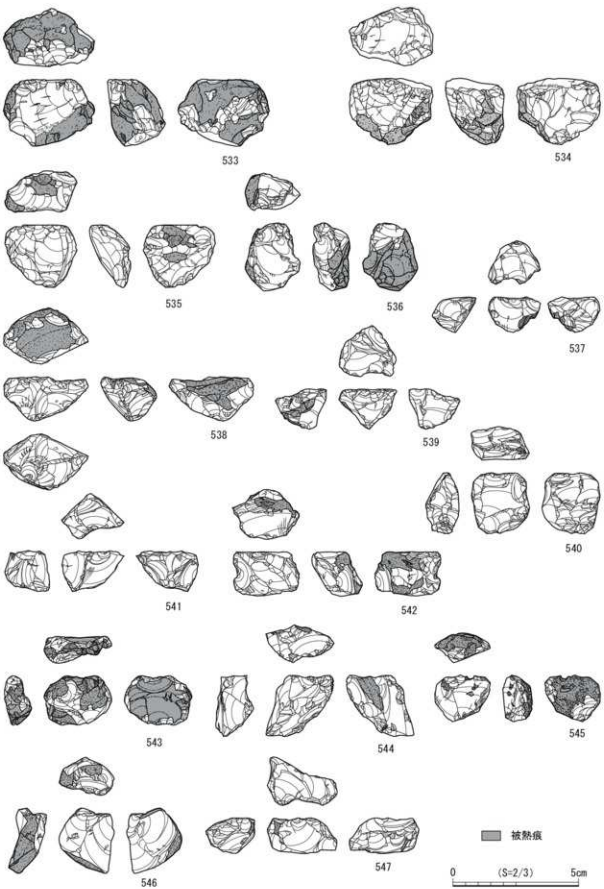
石核Ⅳ類：543・547

剥片を素材とする石核Ⅳ類の出土例は稀である。543は、小さい円礫の輪切り状の剥片を素材とする。礫面を残している。質の悪い黒曜石A2類を素材とする。547は、稜線の磨滅した分厚い剥片を素材とする。石材は黒曜石A1類である。

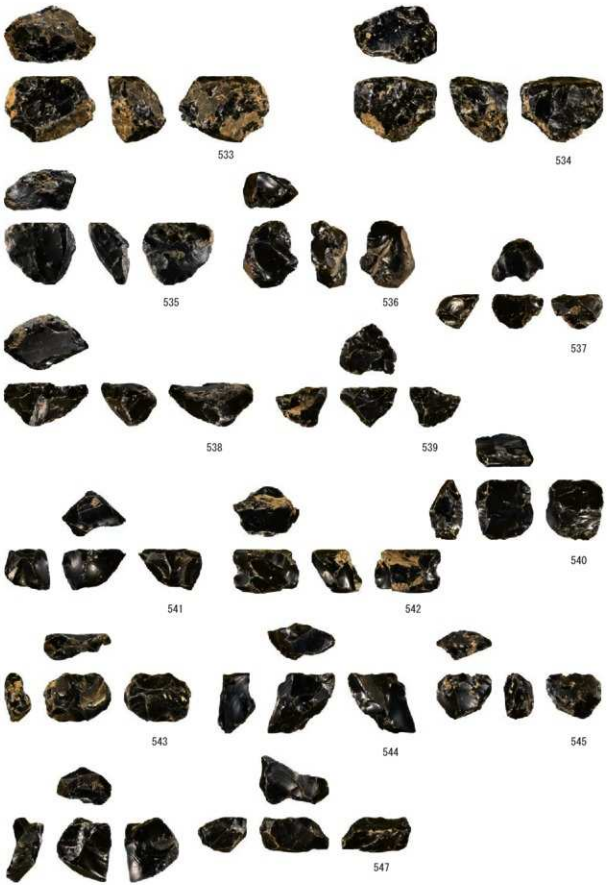


第78図　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石核①(S=2/3)

図版53　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石核①



第79図　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石核②(S=2/3)



図版54　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石核②

石核Ⅴ類：525・527・538

Ⅰ類～Ⅳ類に当てはまらないものを当てた。525は、小円礫を素材とするもので、打面形成まで進んだ資料である。527は、礫面と被熱による「はじけ」によるとみられる剥離面からなる資料である。538は、小円礫を素材とするもので、被熱面及び分割面を残す。

石材は、525・527は黒曜石A2類、538は黒曜石A1類である。

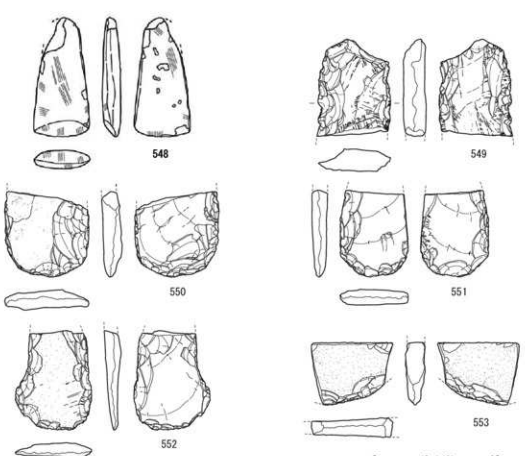
ⅰ．磨製片刃石斧（第80図548）

548は、蛇紋岩を素材とする磨製石斧である。撥形を呈する小型品で、基部および刃部をわずかに欠損する。刃部と胴部の間に明確な鏑をもたない。

ｊ．扁平打製石斧（第80図549～553）

本調査区のⅠ～Ⅲ層からは9点の扁平打製石斧が出土しているがそのうち5点を報告する。

549は、基部、550～559は刃部である。549は、1～2㎜大の斑晶を多く含む安山岩を素材とする。側辺の調整に違いがみられ、左側辺を鋭く調整している。550は、節理で剥離した板状剥片を素材とする。刃部を弧状に丁寧に作出する。551は、斑晶を多く含む安山岩の板状剥片を素材とする。右側辺は素材面で調整はみられない。552は、細かい斑晶を多く含む安山岩の板状剥片を素材とする。側辺の形状が異なり、刃部側が薄くなる。553は、1～5㎜大の斑晶を多く含む安山岩を素材とする刃部の破片である。復元すると幅が10㎝を超える大型品であろう。



第80図　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石斧(S=1/3)

図版55　TAK201406調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石斧

第Ⅳ層出土の石器

a．石鏃未製品(第81図554)

554は石鏃の未製品である。良質の黒曜石A1類の不定形な横長剥片を素材とし、主要剥離面を残す。左側辺の調整剥離はほぼ終了しているが、器厚の関係から調整を放棄したと考えられる。表面にはわずかに礫面を残す。

b．掻・削器(第81図555)

555は、全面磨滅しており、稜線はつぶれているが、分厚い剥片を素材とした掻器(ラウンド・スクレイパー)である。刃部には急傾斜な調整剥離が施されている。石材は、良質な黒曜石A1類と思われるが、磨滅や風化が激しいことから断定はできない。形態からみて、縄文時代草創期後半の寒冷期の時期の可能性もある。

c．加工痕のある剥片(第81図556)

556は、斑晶を含まない安山岩の不定形剥片を素材とする。右側辺に直線的な調整剥離が施されるが部分的であり、削器とまではいえない。

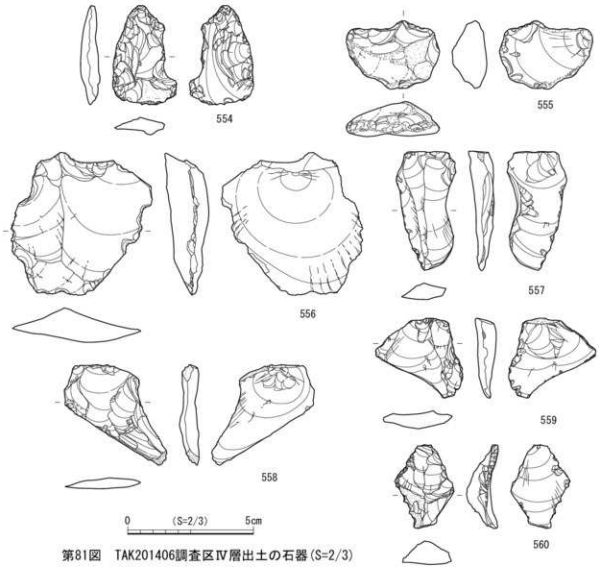
d．使用痕のある剥片(第81図557～560)

557は、縦長の剥片の左側辺に使用痕と思われる微細剥離が連続する。打面は被熱痕のある平坦打面で、剥片の先端部はリングが乱れ、末端は捲れている。黒曜石A1類を素材とする。558は、厚い板状の原石から剥離したもので、横長剥片の打面と底面には礫面を残す。質の悪い黒曜石A2類を素材とする。559は、横長の不定形剥片の打面部と折れ面を除いた側辺全体に微細剥離が看取される。打面は、557と同じく被熱痕のある平坦打面である。黒曜石A1類を素材とする。560は、礫面を残した黒曜石A1類の不定形剥片を素材とする。

e．剥片(第82図561～575、第83図576～588)

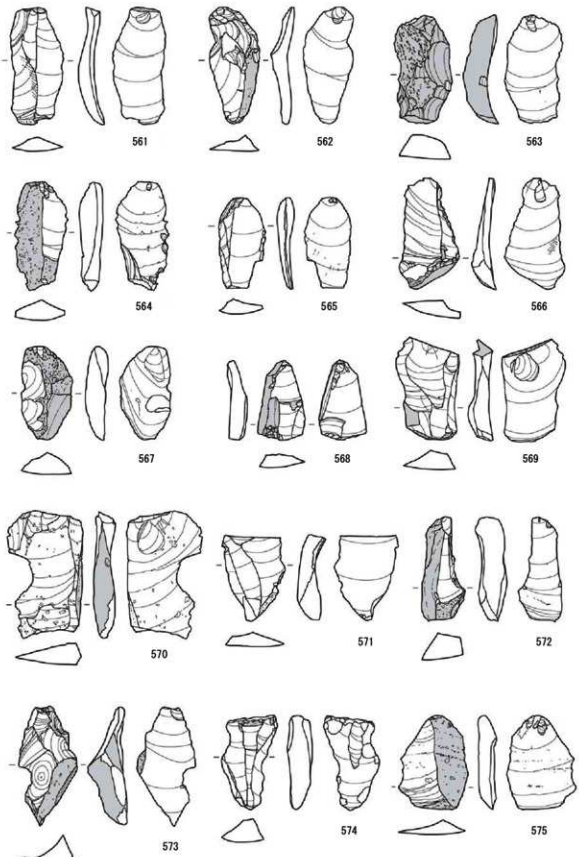
剥片は、黒曜石製65点、安山岩製2点と出土量が多い。そのうち38点を報告する。

561～575は、縦長剥片もしくは縦長状を呈する剥片である。561・565は同一方向からの剥離痕をも

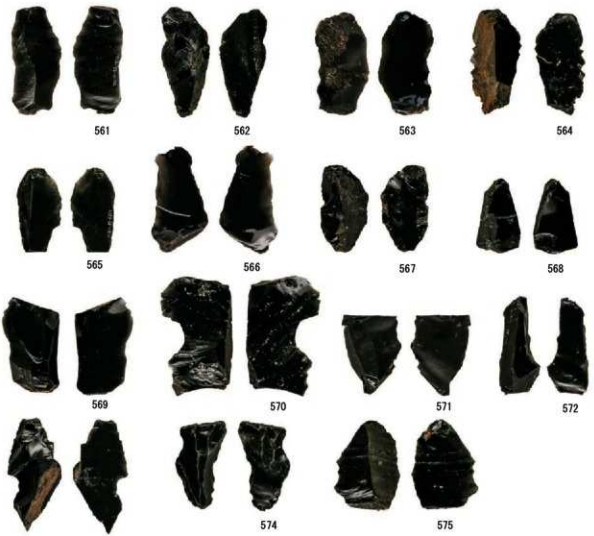


第81図　TAK201406調査区Ⅳ層出土の石器(S=2/3)

図版56　TAK201406調査区Ⅳ層出土の石器



第82図　TAK201406調査区Ⅳ層出土の剝片①(S=2/3)

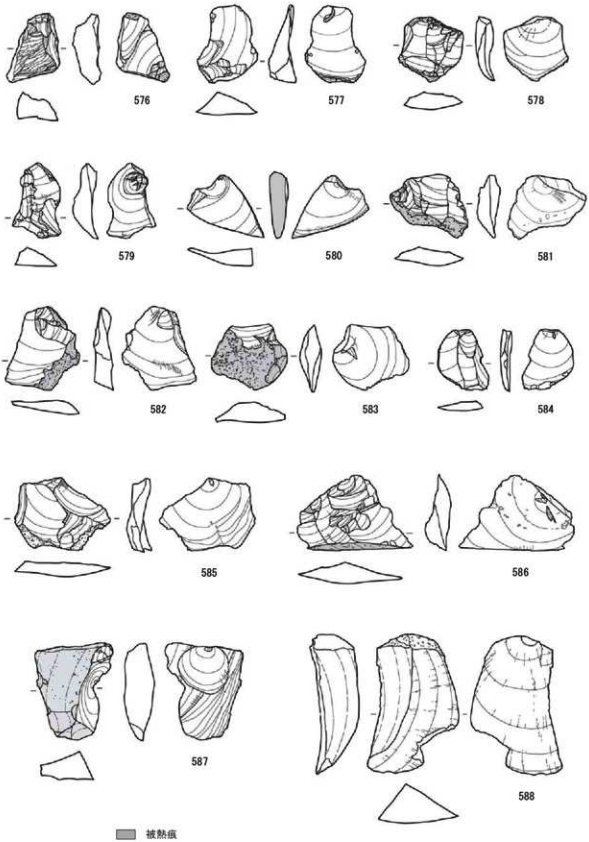


図版57　TAK201406調査区Ⅳ層出土の剥片①

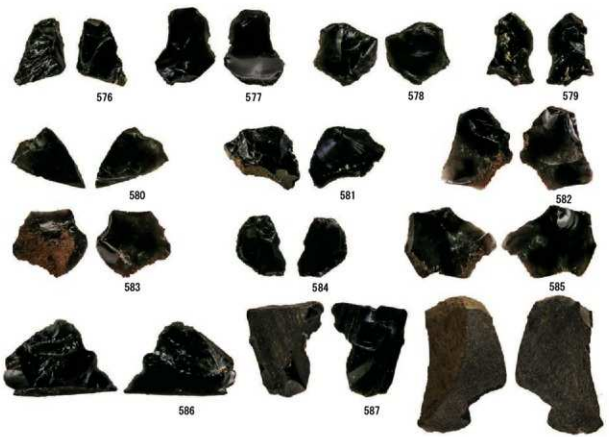
つ定型的な剥片である。563・564・567は礫面を大きく保持する。568～570・573～575は見掛け上縦長になった剥片である。572は、クレステッド様の剥片で分厚い。574は、磨滅が激しく稜線はつぶれている。

打面別では、礫面が563・564・572の3点、平坦面が最も多く561・565・567・569・570・573・574の7点、点打面も562・566・575の3点みられる。石材別では、すべて腰岳系黒曜石で占められ、564・570の2点が質の悪い黒曜石A2類のほかは良質な黒曜石A1類である。565・571・574以外の剥片には、程度の差はあるものの被熱痕と思われるガラス光沢消失部をもつ面が認められる。573には被熱による「はじけ」とみられる剥離痕がある。

576～587は、不定形剥片である。縦長にみえるもの(577・579・584・587)、横長(580・581・585・586)、寸詰まりのもの(578・582・583)など形状はさまざまである。



第83図　TAK201406調査区Ⅳ層出土の剝片②(S=2/3)



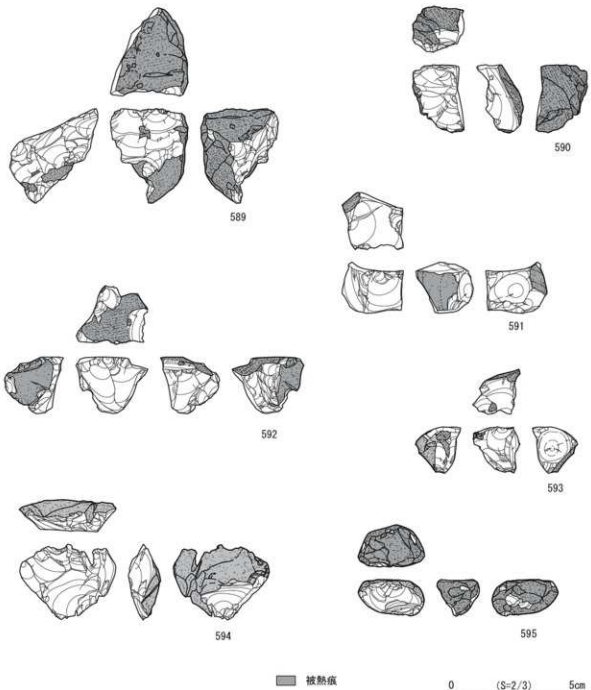
図版58　TAK201406調査区Ⅳ層出土の剝片②

581・583は礫面を広く残す剝片である。打面別では、礫面を打面とするものは585の1点のみである。平坦面を打面とするものが圧倒的に多く、578～584・586・587の9点を数える。点打面が577の1点ある。石材別では、すべて腰岳系黒曜石で占められ、579・586の2点が質の悪い黒曜石A2類のほかは良質な黒曜石A1類である。578～582・586・587には、被熱痕と思われるガラス光沢消失部をもつ剝離面が認められる。

588は、分厚い無斑晶質の安山岩を素材とした剝片である。二重パティナとなっており、被熱痕の可能性もある。

f．石核（第84図589～595）

589は、礫面を残す角礫を素材とする。打面を礫面に固定しており、作業面には2条の連続剝離がみられることから石核Ⅰ類とした。極めて質の悪い腰岳系の黒曜石A2類を素材とする。590は、小円礫の分割剝片を素材とする。分割面を一方の側面とし、他の側面・背面は礫面で構成する。打面を設けたのち剝片剝離作業が行われており、石核Ⅰ類である。石材は、質の悪い黒曜石A2類である。591は、礫面をもたない。両側面を被熱面で、背面には同心円状のリングがみられる剝離面がある。これは被熱による「はじけ」面である。打面は単打面で固定されており、サイコロ状の形態となる。石材は、良質な黒曜石A1類が用いられている。592も礫面をもたない。背面のない三角錐状の形態で、打面と一側面が被熱面となる。被熱面を打面に固定した石核Ⅰ類である。石材は黒曜石A1類である。594は、背面に大きく礫面を取り込んでいる。作業面に上下方向の剝離面があることから、打面を180度転移



第84図　TAK201406調査区Ⅳ層出土の石核(S=2/3)

させる石核Ⅱ類とした。石材は、黒曜石A1類である。**595**は、磨滅の激しい小円礫を分割した段階のものである。剝片剝離作業は行われていない。石材は、黒曜石A1類であるが、小円礫の形状から原産地は松浦牟田と考えられる。**593**は小型である。被熱面を背面とする。右側面の同心円状のリングの入る剝離面は、被熱による「はじけ」によって生じたものである。打面は固定されており石核Ⅰ類である。石材は良質な黒曜石A1類が用いられている。

589

590

591

592

593

594

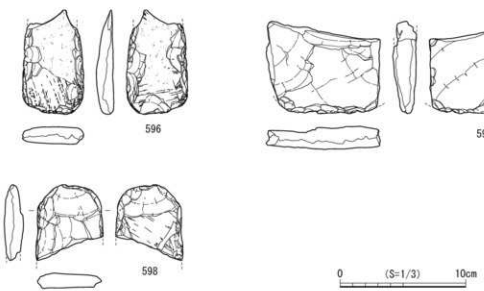
595

図版59　TAK201406調査区Ⅳ層出土の石核

g．扁平打製石斧（第85図596～598）

596は、基部を欠損する。斑晶を含むやや軟質の安山岩を素材とする。刃部側が厚く、基部側が薄くなる。刃部は斜刃で、部分的に磨滅痕が残る。形態は、側辺が平行するⅠ類の短冊形である。**597**は、両側辺および基部を欠損した刃部の破片である。節理で剝落した素材面が波打つ斑晶を多く含む安山岩を素材とする。刃部の調整剝離は細かい。**598**は、円形の基部資料である。全体に磨滅しており、稜線が不鮮明である。斑晶を多く含む安山岩を素材とする。

本調査区における扁平打製石斧の出土量は、Ⅰ～Ⅲ層出土のものと合わせても12点に過ぎない。TAK201404調査区の75点、TAK201407調査区の40点と比較すると少ない状況にある。



第85図　TAK201406調査区Ⅳ層出土の石斧（S=1/3）

図版60　TAK201406調査区Ⅳ層出土の石斧

第20表　TAK201406調査区出土の石器観察表①

番号	器種	遺物番号	地区	地区	層位等	共通土層	石質	長さ	幅	厚さ	重量		備考
452	石錘	0517	②区		SX01	SX01	黒曜石 B 群	2.39	2.52	0.30	1.52	先端欠	浅い凹基薄手　被熱
453	石錘	0549	②区	7252	3a 層	第 II 層	黒曜石 A1 群	1.97	2.12	0.28	1.02	完形	浅い凸基　幅広
454	石錘	0556	③区	6648	3b 層	第 II 層	黒曜石 A1 群	1.94	1.60	0.39	1.27	完形	平基
455	石錘未製品	1220-1	②区	7054	3b 層	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.65	2.17	0.49	2.52	加工痕はわずか	被熱
456	石錘未製品	0574	②区	7052		不明	黒曜石 A1 群	2.17	1.79	0.56	2.03	先端欠	浅い凹基
457	掻・削器	1478-1	②区	7252	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.90	3.11	1.12	11.16	平面	エンド
458	掻・削器	1205-5	②区	7054	2層	第 II 層	安山岩	4.87	4.23	1.44	37.73	大小リの調整加工	
459	掻・削器	1248-2	②区	7252	3b～5層	第 III 層	安山岩	4.96	3.95	0.53	15.42	加工は貧弱	薄手　礫面
460	掻・削器	1183-7	②区	7052	2層	第 II 層	黒曜石 A2 群	3.01	2.30	1.12	7.80	横縁厚減	被熱
461	掻・削器	1183-6	②区	7052	2層	第 II 層	黒曜石 A2 群	3.54	2.77	0.92	8.29	抉状	被熱
462	掻・削器	1405-3	④区	6852	2層	第 II 層	黒曜石 A2 群	2.46	2.49	1.49	9.78	横縁厚減	被熱
463	掻・削器	1478-2	②区	7252	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.14	1.46	0.94	2.80	厚減	削器
464	削器	1205-13	②区	7054	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.44	1.55	0.68	2.87	先端から厚シット	
465	楔形石器	1155-11	②区	7050	2層	第 II 層	黒曜石 A2 群	3.02	1.89	0.88	5.82		
466	加工痕のある剥片	1239	②区	7252	2層下	第 II 層	黒曜石 A2 群	1.86	1.61	0.61	1.85	石器？	
467	加工痕のある剥片	1205-4	②区	7054	2層	第 II 層	安山岩	4.79	4.11	0.84	23.33	礫面	掻器としては加工が弱い
468	加工痕のある剥片	1336-2	③区		表土～2層	第 I 層	玄武岩	4.55	3.19	1.14	16.35		
469	掻・削器	0510	②区		SS02	SS02	安山岩	11.59	11.29	2.65	420.00		
470	加工痕のある剥片	1211-3	②区	7054	3a 層	第 III 層	安山岩	7.30	9.28	1.24	93.05	大型転礫素材	
471	加工痕のある剥片	1335	③区	6850		不明	黒曜石 A2 群	3.04	2.30	0.93	7.70		
472	加工痕のある剥片	1193-1	②区	7052	3b 層	第 III 層	黒曜石 A2 群	1.84	2.39	0.56	2.25	石器未製品？	
473	加工痕のある剥片	1405-8	④区	6852	2層	第 II 層	黒曜石 A2 群	2.61	2.58	0.58	3.09	複数の加工痕	
474	使用痕のある剥片	1183-11	②区	7052	2層	第 II 層	黒曜石 A2 群	3.65	1.48	0.71	2.68	縦長	礫面　クレステッド　被熱
475	使用痕のある剥片	1159-1	②区	7050	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	1.80	3.00	1.11	4.48	分厚い素材	
476	使用痕のある剥片	1211-7	②区	7054	3a 層	第 III 層	黒曜石 A1 群	3.42	2.90	0.86	6.32	折断	先端部　礫面被熱
477	使用痕のある剥片	1280-1	③区	6250	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.69	2.24	0.81	5.26	被熱	
478	使用痕のある剥片	1190-1	②区	7052	3a 層	第 III 層	黒曜石 A2 群	2.35	2.49	0.96	5.08	寸詰まり　分厚	
479	使用痕のある剥片	1444	④区	6854	3a 層	第 III 層	黒曜石 A2 群	2.62	2.31	0.46	2.87		
480	剥片	1167-1	②区	7050	3b 層	第 III 層	黒曜石 A1 群	4.12	1.55	0.68	4.28	打点部折断　角礫	被熱
481	剥片	1190-3	②区	7052	3a 層	第 III 層	黒曜石 A1 群	4.50	2.09	0.73	4.10	被熱	
482	剥片	1272-3	②区	7254	3a 層	第 III 層	黒曜石 A1 群	3.17	1.48	0.37	1.80	縦長　稜打面	
483	剥片	1211-16	②区	7054	3a 層	第 III 層	黒曜石 A1 群	2.53	1.74	0.81	2.89	稜打面　縦長　小型	
484	剥片	1211-5	②区	7054	3a 層	第 III 層	黒曜石 A1 群	2.49	1.74	0.53	1.87	平坦打面　小型縦長	
485	剥片	1405-10	④区	6852	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	3.79	1.99	0.72	4.30	稜打面　被熱	
486	剥片	1155-2	②区	7050	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	3.21	1.16	0.48	1.69	縦長　小型	
487	剥片	1316-26	③区	6850	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.76	1.32	0.59	2.37	被熱	
488	剥片	1437-5	④区	6854	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	3.76	2.18	0.73	4.80	被熱	
489	剥片	1405-21	④区	6852	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.62	1.70	0.72	3.10	被熱	
490	剥片	1437-3	④区	6854	2層	第 II 層	黒曜石 C 群	2.91	1.61	0.97	4.13		
491	剥片	1414-2	④区	6852	3b 層	第 III 層	黒曜石 A2 群	3.20	1.95	0.43	2.30		
492	剥片	1451-1	④区	6854	3b～4層	第 III 層	黒曜石 A2 群	2.21	1.26	0.43	1.61	被熱	
493	剥片	1171-2	②区	7050	3b～4層	第 III 層	黒曜石 A2 群	2.73	2.43	1.05	6.69	素材は貫通し	稜打面
494	剥片	1248-8	②区	7252	3b～4層	第 III 層	黒曜石 A1 群	4.33	2.95	0.94	8.60	幅広縦長	被熱
495	剥片	1171-5	②区	7050	3b～4層	第 III 層	黒曜石 A2 群	3.13	2.13	0.76	4.58	末広がりの縦長	
496	剥片	1211-13	②区	7054	3a 層	第 III 層	黒曜石 A1 群	3.08	2.73	0.45	3.07	稜打面　薄手　貝殻状	
497	剥片	1190-4	②区	7052	3a 層	第 III 層	黒曜石 A1 群	2.84	3.79	0.58	4.30	幅広の薄手　端部折断	
498	剥片	1211-18	②区	7054	3a 層	第 III 層	黒曜石 A1 群	3.16	2.32	0.50	3.54	点打面　幅広の縦長　末端はヒンジ	
499	剥片	1190-8	②区	7052	3a 層	第 III 層	黒曜石 A1 群	2.35	3.04	0.74	4.65	寸詰まり　貝殻状　被熱	
500	剥片	1211-4	②区	7054	3a 層	第 III 層	黒曜石 A1 群	3.20	2.12	1.18	5.38	点打面　分厚い縦長　被熱	
501	剥片	1171-3	②区	7050	3b～4層	第 III 層	黒曜石 A2 群	2.83	2.57	0.84	5.13	被熱　寸詰まり　稜打面	
502	剥片	1428-1	④区	6852	赤褐色土	第 III 層	黒曜石 A1 群	2.07	2.08	0.80	3.52	被熱	
503	剥片	1235-10	②区	7252	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	3.24	2.51	1.05	8.55	被熱　稜打面　寸詰まり	
504	剥片	1183-13	②区	7052	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	3.46	2.98	0.93	6.46	不定形　稜打面　被熱	
505	剥片	1205-19	②区	7054	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	3.84	3.24	0.87	7.88	被熱	
506	剥片	1205-18	②区	7054	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.95	2.65	0.61	2.50	貝殻状	
507	剥片	1255-2	②区	7252	石列付近	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.44	3.53	0.49	3.41	不定形　幅広被熱	
508	剥片	1183-5	②区	7052	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.13	1.90	0.47	2.14	寸詰まり　横縁厚減	
509	剥片	1405-27	④区	6852	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.44	2.46	0.77	3.87	被熱	
510	剥片	1316-7	③区	6850	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.74	2.20	0.57	3.48	寸詰まり　被熱	
511	剥片	1155-8	②区	7050	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	1.82	2.15	0.61	2.73	被熱	
512	剥片	1183-14	②区	7052	2層	第 II 層	黒曜石 B 群	2.84	2.05	0.79	4.17	被熱	
513	剥片	1316-6	③区	6850	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.92	1.94	0.71	3.50	被熱	
514	剥片	1316-17	③区	6850	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.44	2.14	0.74	2.97	寸詰まり　被熱	
515	剥片	1205-23	②区	7054	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.04	2.55	0.47	2.62	不定形　裸角礫	
516	剥片	1211-6	②区	7054	3a 層	第 III 層	黒曜石 A1 群	2.58	2.20	0.69	4.35	被熱	
517	剥片	1205-6	②区	7054	2層	第 II 層	安山岩	4.90	2.55	0.71	8.45	縦長	
518	石核	1183-2	②区	7052	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.74	3.80	1.20	13.04	板状　被熱痕有	横縁軽い厚減
519	石核	1248-1	②区	7252	3b～4層	第 III 層	黒曜石 A2 群	2.01	4.12	1.90	11.36	石材質悪	平坦打面　礫面残存
520	石核	1205-1	②区	7054	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	2.81	3.70	3.17	30.51	角礫素材	
521	石核	1358-1	④区	6452	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	1.90	3.38	2.67	12.31	被熱痕有	
522	石核	1205-2	②区	7054	2層	第 II 層	黒曜石 A1 群	1.63	3.11	1.70	9.58	亜角礫素材	寸詰まり剥片
523	石核	1211-1	②区	7054	3a 層	第 III 層	黒曜石 A2 群	3.70	2.54	2.10	17.75	被熱痕有	
524	石核	1162-1	②区	7050	3a 層	第 III 層	黒曜石 A2 群	2.92	2.82	1.81	12.24	被熱痕有	分割礫
525	石核	1405-5	④区	6852	2層	第 II 層	黒曜石 A2 群	1.83	2.20	2.23	8.24	被熱痕有	

第21表　TAK201406調査区出土の石器観察表②

番号	器種	遺物番号	地区	地区	層位等	共通土層	石質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
526	石核	1316-1	①区	6850	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A2群	1.70	3.32	1.58	8.11	部分的に稜線摩滅
527	石核	1405-4	④区	6852	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A2群	1.95	1.90	1.54	5.12	残核　被熱痕有
528	石核	1325-1	③区	6850	3b 層	第Ⅱ層	黒曜石 A1群	1.99	2.37	1.68	8.90	被熱痕有
529	石核	1375-1	④区	6852	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A2群	3.02	1.83	1.54	8.47	被熱痕有
530	石核	1437-1	④区	6854	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A2群	2.79	1.83	1.50	5.44	全体が著しく摩滅　被熱痕有
531	石核	1316-2	①区	6850	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A2群	2.33	2.46	1.85	9.82	被熱痕有
532	石核	1279-2	②区		表採	表採	黒曜石 A2群	1.43	1.33	1.39	4.31	小型　残核
533	石核	1279-2	②区		表採	表採	黒曜石 A2群	2.62	3.61	2.28	21.08	円礫　部分的に稜線つぶれ
534	石核	1405-2	④区	6852	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A2群	2.61	3.29	2.31	18.58	稜線摩滅
535	石核	1316-3	①区	6850	2層	第Ⅱ層	黒曜石 B 群	2.45	2.86	1.61	9.75	裏面側に自然面残存
536	石核	1286-1	①区	6450	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A1群	2.67	2.18	1.45	7.90	被熱痕有
537	石核	1183-1	②区	7052	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A1群	1.39	2.06	1.72	3.81	小型
538	石核	1279-4	②区		表採	表採	黒曜石 A1群	1.75	3.32	2.20	9.06	円礫素材　被熱痕有
539	石核	1183-3	②区	7052	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A1群	1.60	2.28	2.02	5.01	小型　二側パティナ
540	石核	1375-2	④区	6852	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A1群	2.39	2.28	1.33	7.54	分厚い剥片素材
541	石核	1190-2	②区	7052	3a 層	第Ⅱ層	黒曜石 A1群	1.60	2.53	1.80	5.50	残核　小型
542	石核	1279-3	①区		表採	表採	黒曜石 A1群	1.75	2.60	1.99	8.82	残核
543	石核	1358-2	④区	6452	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A1群	1.92	2.68	1.09	4.45	残核
544	石核	1242-2	②区	7252	3a 層	第Ⅱ層	黒曜石 A1群	2.40	2.69	1.50	7.14	残核　被熱痕有
545	石核	1405-7	④区	6852	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A2群	1.83	2.18	1.18	3.92	自然面残存
546	石核	1211-2	②区	7054	3a 層	第Ⅱ層	黒曜石 A1群	2.55	2.18	1.50	5.41	残核　小型　被熱痕有
547	石核	1183-18	②区	7052	2層	第Ⅱ層	黒曜石 A1群	1.40	2.75	1.90	5.62	稜線摩滅　二側パティナ
548	磨製片刃石斧	0547	④区	7252	2層	第Ⅱ層	蛇紋岩	9.32	4.41	1.49	80.71	片刃　ほぼ完形
549	扇平打製石斧	0562	③区	6652	2層直下層	第Ⅱ層	安山岩	(7.99)	5.80	1.82	(112.99)	刃部欠損
550	扇平打製石斧	0536	①区	7052	3a 層	第Ⅱ層	安山岩	(6.77)	6.67	1.62	(80.85)	基部欠損
551	扇平打製石斧	0542	②区	7054	2層	第Ⅱ層	安山岩	(6.84)	5.39	1.24	(65.31)	基部欠損
552	扇平打製石斧	0570	①区		表採	表採	安山岩	(7.87)	6.03	1.30	(62.17)	基部欠損
553	扇平打製石斧	0520	②区		SX03	SX03	安山岩	(4.95)	(6.43)	1.55	(62.14)	未製品？　刃部のみ残存
554	石鏃未製品	1216-1	②区	7054	3a 層	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	3.96	2.53	0.71	5.42	大型
555	掻・削器	1370	④区	6452	下層確認	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	2.84	3.70	1.37	12.61	全面摩滅　ラウンド
556	加工痕のある剥片	1216-2	②区	7054	3a 層	第Ⅳ層	安山岩	5.83	4.80	1.35	36.90	加工は弱い
557	使用痕のある剥片	1276-2	②区	7254	4層	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	4.68	2.29	0.82	7.78	縦長　被熱
558	使用痕のある剥片	0531	①区	7050	4層	第Ⅳ層	黒曜石 A2群	5.06	2.86	0.42	6.23	不定形　平坦打面
559	使用痕のある剥片	1177-2	②区	7050	4層	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	2.92	3.54	0.64	5.60	横長の不定形　下端欠損直断
560	使用痕のある剥片	1174-段下げ-5	②区	7050	4層	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	3.27	2.34	1.04	4.81	縦長　点打面　稜面有り
561	剥片	0541	②区	7052	礫層直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	4.64	2.13	0.56	4.93	宿形　角礫
562	剥片	1195-1	②区	7052	地山	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	4.64	2.04	0.67	4.27	縦長　点打面　被熱
563	剥片	1174-段下げ-13	②区	7050	4層段下げ	第Ⅳ層	黒曜石 A2群	4.34	2.23	0.93	10.48	稜面あり　縦長　被熱？
564	剥片	1174-6	②区	7050	4層	第Ⅳ層	黒曜石 A2群	4.33	2.08	0.94	7.57	分厚い　被熱
565	剥片	0550	②区	7252	4層	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	3.65	1.92	0.54	3.20	縦長　先端欠
566	剥片	0532	②区	7050	4層	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	4.59	2.41	0.57	4.95	宿形　末広がり　角礫
567	剥片	1256-6	②区	7252	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	3.71	2.00	0.76	5.61	円礫　縦長　稜面大
568	剥片	1197-10	②区	7052	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	3.12	1.84	0.55	3.87	打点側を斜めに折断　被熱
569	剥片	1177-3	②区	7050	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	3.91	2.48	0.85	7.08	不整な縦長　稜面　被熱
570	剥片	1174-段下げ-15	②区	7050	4層段下げ	第Ⅳ層	黒曜石 A2群	4.95	3.03	0.80	10.02	不整な縦長　角礫　被熱
571	剥片	1197-23	②区	7052	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	3.45	2.59	0.83	5.64	縦長　折断　先端部　パティナ古い
572	剥片	1197-7	②区	7052	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	4.21	1.72	1.01	6.17	分厚　縦長稜打面　被熱
573	剥片	1256-4	②区	7252	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	4.71	2.05	1.32	7.82	角礫　縦長　被熱
574	剥片	1256-1	②区	7252	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	3.76	1.82	1.01	7.19	ローリング　分厚
575	剥片	1197-8	②区	7052	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	3.75	2.94	0.69	5.80	点打面　幅広縦長　被熱
576	剥片	1258-2	②区	7252	礫層掘削	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	1.91	3.00	92.00	4.69	不定形
577	剥片	1216-4	②区	7054	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	3.14	2.36	0.92	4.71	縦長　しの字状
578	剥片	1197-22	②区	7052	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	2.50	2.46	0.56	3.73	寸詰まり不定形　先端に稜面
579	剥片	1258-1	②区	7252	礫層掘削	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	2.95	2.53	0.88	3.28	不定形　角礫
580	剥片	1197-13	②区	7052	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	2.15	3.23	0.75	4.56	稜打面　不整形　ヒンジ
581	剥片	1276-3	②区	7254	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	3.04	2.53	0.63	4.70	不定形　角礫
582	剥片	1174-段下げ-4	②区	7050	4層段下げ	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	3.36	2.90	0.68	4.61	幅広寸詰まり　角礫
583	剥片	1174-5	②区	7050	4層	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	3.05	2.70	0.82	5.51	稜面有り　寸詰まり　宿形　亜円礫
584	剥片	1256-3	②区	7252	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	2.26	2.55	0.35	2.91	
585	剥片	1174-段下げ-17	②区	7050	4層段下げ	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	2.99	3.58	0.53	5.90	横長の不定形　角礫
586	剥片	1174-段下げ-12	②区	7050	4層段下げ	第Ⅳ層	黒曜石 A2群	3.94	3.74	0.89	8.59	板状角礫の縦割り　横長不定形
587	剥片	1177-1	②区	7050	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	3.12	3.70	1.15	10.28	角礫　分厚　稜の直断
588	剥片	1216-3	②区	7054	礫直上	第Ⅳ層	安山岩	5.58	3.48	1.62	26.32	稜打面　縦長
589	石核	1174-段下げ-1	②区	7050	4層	第Ⅳ層	黒曜石 A2群	3.70	3.06	3.48	24.07	角礫素材　質悪　打面形成まで　被熱痕有
590	石核	1259-1	②区	7252	地山層	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	2.67	2.03	1.62	8.61	被熱痕有
591	石核	1174-2	②区	7050	4層	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	2.02	2.41	2.24	10.25	K 型の典柱形　被熱痕有
592	石核	1197-2	②区	7052	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	2.22	2.82	2.32	10.36	角礫　打面は稜面
593	石核	1174-3	②区	7050	4層	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	1.82	1.85	1.80	4.23	残核　小型　被熱痕有
594	石核	1197-1	②区	7052	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	1.48	2.63	1.68	6.29	円礫　半截
595	石核	1197-3	②区	7052	礫直上	第Ⅳ層	黒曜石 A1群	2.97	3.80	1.28	10.22	求心的　底面は稜面
596	扇平打製石斧	0544	②区	7054	礫層直上	第Ⅳ層	安山岩	8.25	4.88	1.37	67.97	基部欠損　刃部欠損
597	扇平打製石斧	0553	①区	7252	礫層直上	第Ⅳ層	安山岩	7.31	9.03	1.83	137.67	刃部のみ残存
598	扇平打製石斧	0545	②区	7054	礫層直上	第Ⅳ層	安山岩	6.00	5.30	1.50	55.83	刃部欠損、全体摩滅

⑤ TAK201407調査区の包含層出土の石器

本調査区で出土した石器については、共通土層の第Ⅰ層～第Ⅲ層(表採・層位等が不明なものを含む)と第Ⅳ層に分けて説明する。

第Ⅰ～Ⅲ層出土の石器

a．石鏃(第86図599～602)

石鏃は、いずれも浅い凹基鏃でⅠ類である。599は、緩やかな弧状の抉りで脚端を尖らせる。先端近くで屈曲し、先端がとがる。薄く精巧な作りである。600は、左脚部を欠損する。薄手の精巧品であり、599に類似するが屈曲部をもたない点が異なる。601は脚部を欠損する。602は、素材面を保持しており、脚端は丸みを帯びる。使用された石材は、599～601が良質な黒曜石A1類、602は乳白色を呈する椎葉川系の黒曜石C類である。

b．石鏃未製品(第86図603)

603は、石鏃の未製品とした。調整はかなり進んだ段階で、両面に調整剥離が施され、直線的な基部をもつが、先端部の作出には至っていない。黒曜石A1類を素材とする。

c．彫器(第86図604)

604は、白い斑晶を含むやや質の悪い黒曜石の分厚い剥片を素材とする。薄い筋模様が入り、色調が灰黒色という点からみて腰岳系とは異なる可能性がある。1条の彫刀面がみられることから彫器とした。

d．掻・削器(第86図605～607・611)

605は、分厚い礫面をもつ不定形剥片を素材とする。剥片の一端に刃部を設けているが、調整剥離はあまり顕著ではない。被熱痕が顕著にみられる。606は、礫面を打面とする幅広の縦長剥片を素材とする。剥片の先端部に被熱面を切る形でわずかな刃部が設けられている。強いて言えばエンド・スクレイパーに該当する。607は、縦長剥片の両側辺にナイフ形石器の刃潰し加工に似た調整剥離がみられる。以上の3点はとも腰岳系の黒曜石A1類を素材とするが、605は斑晶をわずかに含んでいる。

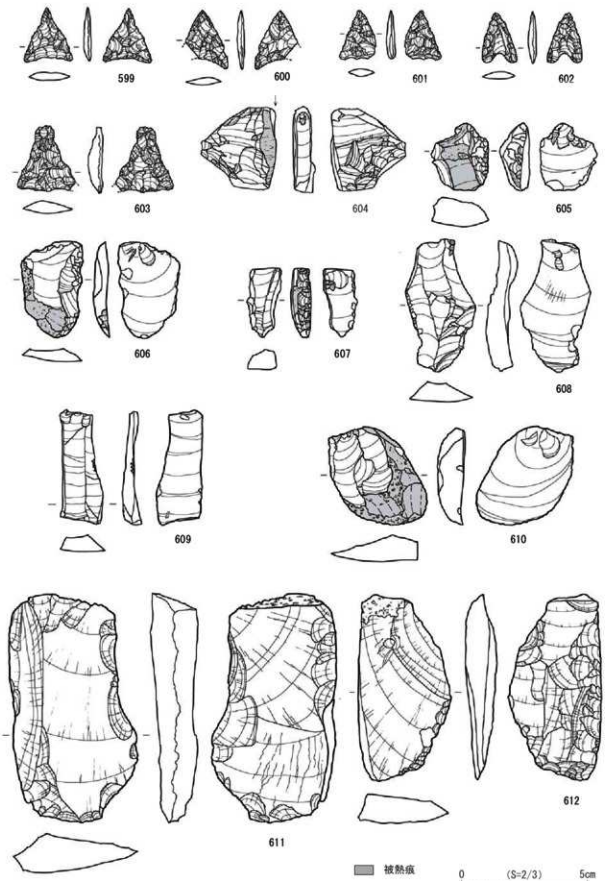
611は、礫面を打面とする分厚い縦長の剥片を素材とする。硬質のほとんど斑晶を含まない玄武岩製で、右側辺に浅い抉入状の刃部を大きな調整剥離で施している。剥離は両面に入り、刃線はジグザグになる。

e．加工痕のある剥片(第86図612)

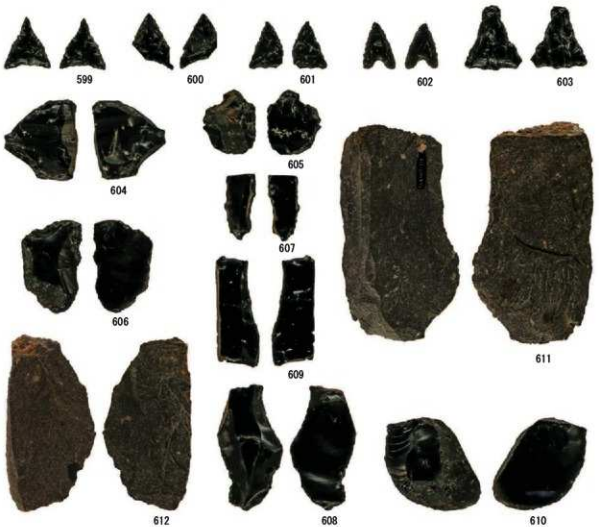
612は、半裁した礫面をもつ無斑晶質の玄武岩の剥片を素材とする。剥片の先端部に加工痕が認められる。

f．使用痕のある剥片(第86図608～610)

608は、礫面を打面とする分厚い縦長剥片を素材とする。使用石材は、良質の黒曜石A1類である。609は、先端部が折断された薄手の縦長剥片を素材とする。剥片の左側に被熱面をもつ。使用痕は、右側辺に微細剥離として連続する。斑晶を含むため、主要剥離面には波打つようなリングが入る。610は、礫面が円礫面となる分厚い貝殻状の剥片を素材としている。使用石材は、良質な腰岳系の黒曜石A1類であるが、円礫面からみてその原産地は松浦牟田と推測される。



第86図　TAK201407調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石器(S=2/3)

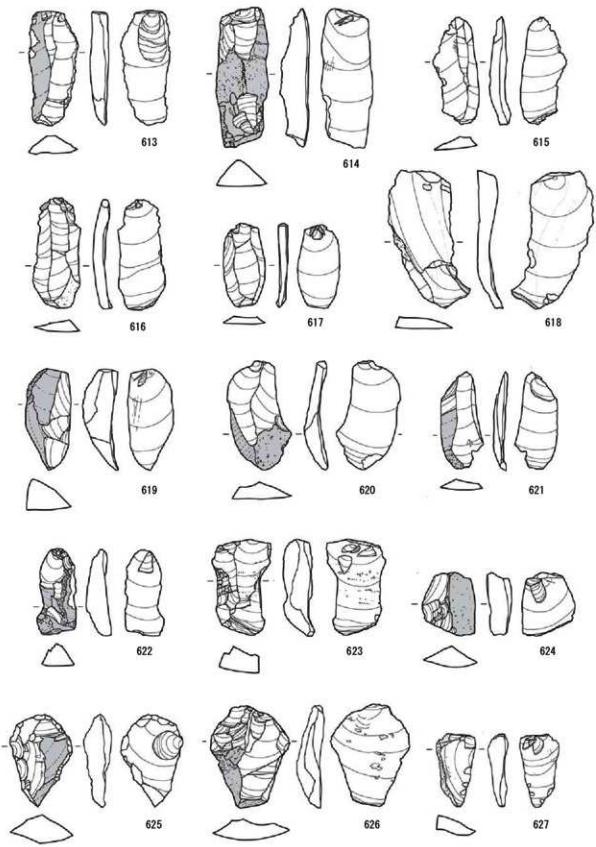


図版61　TAK201407調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石器

g．剝片（第87図613～627、第88図628～635）

613～617は、縦長剝片である。**613**は、礫面を打面とする薄手の剝片である。被熱した剝離面をもつ。**614**は、クレステッド状の剝片で分厚い。被熱面を広く残す。**615**は、点打面の薄手の剝片である。先端部に礫面を残す。**616**も点打面の薄手の剝片で、先端付近に被熱面がある。**617**は薄手の整った形態の剝片である。いずれも良質の腰岳系の黒曜石A1類を素材とする。

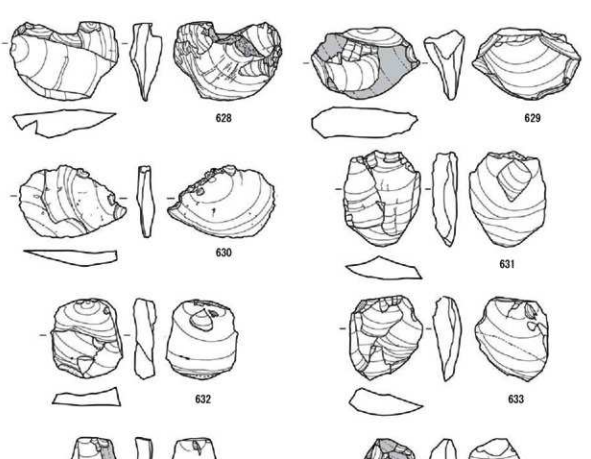
618～627は縦長状の剝片である。**618**は、表裏両面ともポジ面となる。二重パティナが認められ、被熱痕の可能性が高い。**619**は円礫面をもつ分厚い剝片で、被熱面を大きく残す。**620**は透明感のある黒曜石を素材とする。先端部の2面が被熱面である。**621**は打点部を斜めに欠損する。**622**はやや厚みある剝片で、被熱面を広く残す。**623**は分厚い剝片で、**624**は斑晶部分で折断された剝片で、被熱面が大きい。**625**も分厚い。風化の度合いが剝離面で異なり、磨滅した部位もある。**626**は不定形な縦長剝片である。**627**は打面を転移した石核から剝離している。打面別でみると、**619**が自然面、**621**が点打面のほかは平坦面である。石材別では、すべて腰岳系で占められ、**626**の黒曜石A2類を除くと良質の黒曜石A1類になる。



第87図　TAK201407調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の剥片①(S=2/3)

図版62　TAK201407調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の剥片①

628～635は、横長もしくは寸詰まりの剥片である。628は、礫面を取り込んだ剥片である。629は飴色のガラス光沢のない亀岳系の黒曜石D類を素材とする。亀岳系黒曜石の利用は竹松遺跡においては僅少である。630は針尾系の黒曜石B類を素材とする。礫面を打面とする横長の貝殻状剥片である。631は、礫打面を有する寸詰まりの剥片である。被熱した面をもつ。632は、角礫を輪切りした打面再生剥片と思われる。礫面を残しており、被熱痕も認められる。633は寸詰まりになる剥片で、やや厚みがある。634・635は小型の寸詰まりの剥片である。被熱面をもつ。打面別にみると、礫面を打面とするものが630～633と最も多く、次いで平坦打面が628・634となり、点打面は認められない。なお629・635は打点を喪失している。石材別では、629・630を除くと腰岳系の良質な黒曜石A1類で占められる。



第88図　TAK201407調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の剥片②(S=2/3)

h．石核(第89図636～647)

石核Ⅰ類：**636・641・643**

636は、素材となる角礫の形状をよく保持した石核である。石核調整は行われておらず、作業面以外は礫面で構成される。打面は礫面に固定されており、作業面には同一方向から複数回の連続剥離がみられることから石核Ⅰ類に該当する。使用された石材は、良質な腰岳系の黒曜石A1類であるが、礫面の形状からみて伊万里市腰岳を原産地とする。**641**は、礫面を大きく残しており、その素材が小円礫ということがわかる資料である。打面を固定しており、Ⅰ類であろう。石材には針尾系の黒曜石B2類が用いられている。**643**は、小型円礫を素材にして、側面・打面を形成したのち剥片剥離を行っている。

石核Ⅱ類：**644**

Ⅱ類は、打面を90度ないし180度転移させる石核である。**644**は、背面調整を施したのち、打面側および背面側からの貝殻状剥片の剥離が行われている。作業面には礫面が残る。良質な黒曜石A1類が使用されている。

図版63　TAK201407調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の剥片②

石核Ⅲ類：**637・639・640・642・646**

Ⅲ類は、ランダムに多方向から剥離を行う頻繁な打面転移にみられる石核である。

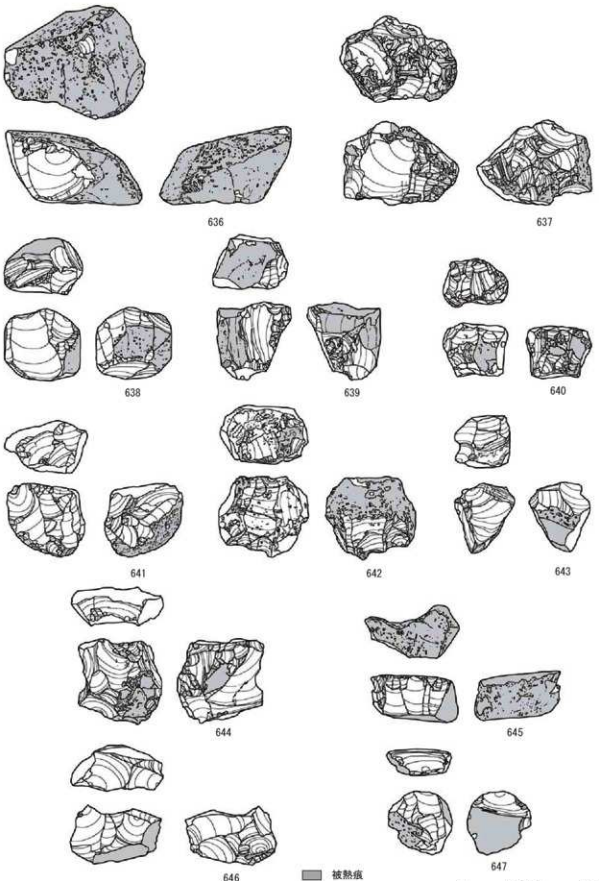
637は、斑晶を多く含む質の悪い黒曜石A2類を素材とする。残された礫面から角礫と判断される。剥片剥離の方向は多方向であり、打面を複数回転移していることから石核Ⅲ類に該当する。**639**は、被熱面のあり方から、石核レベルで被熱したものをさらに石核に再利用したものと思われる。もともと角柱状のものであり、その形状に大きな変化はない。打点を回転させていることから石核Ⅲ類が妥当か。石材には、良質な黒曜石A1類が用いられている。**640**には、激しい打面転移のため礫面が見当たらない。斑晶を大量に含むため作業面の認定が難しい。**642**も**640**と同じく斑晶を大量に含む。背面に礫面があり、形状からみて円礫素材と思われる。**640・642**には質の悪い黒曜石A2類が使用されている。**646**は、側面の一部を礫面、底面を被熱面で構成する横長の石核である。打面側には被熱による「はじけ」痕と思われる剥離がみられる。黒曜石A1類を石材として使用している。

石核Ⅳ類：**645・647**

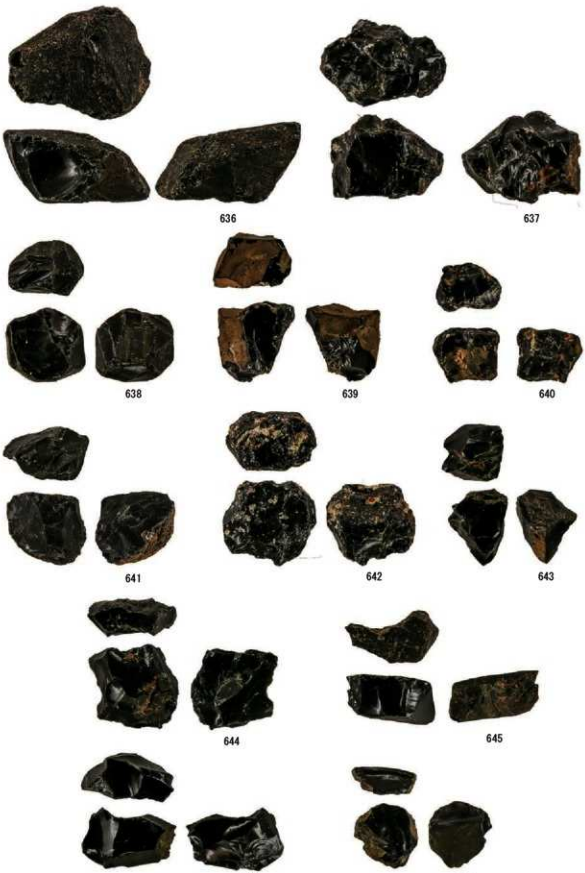
Ⅳ類は、剥片を素材とする石核である。**645**は、不整形な礫を輪切りにした厚手の剥片を被熱させたのち、被熱面をそのまま打面としている。爪先大の剥片を獲得する石核である。Ⅰ類とも考えられる。石材には、黒曜石A1類が使用されている。**647**は、被熱した剥片を素材としている。厚みをもたないことから石核では可能性もあるが、作業面をもつことから石核と評価したい。黒曜石A1類を使用している。

石核Ⅴ類：**638**

638は、稜線が磨滅しており、礫面も平滑になる。作業面と呼べるほどの剥片剥離がなされていない。石材は、良質な黒曜石A1類を使用する。



第89図　TAK201407調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石核(S=2/3)



図版64　TAK201407調査区Ⅰ～Ⅲ層出土の石核

第Ⅳ層出土の石器

a．石鏃(第90図648・649)

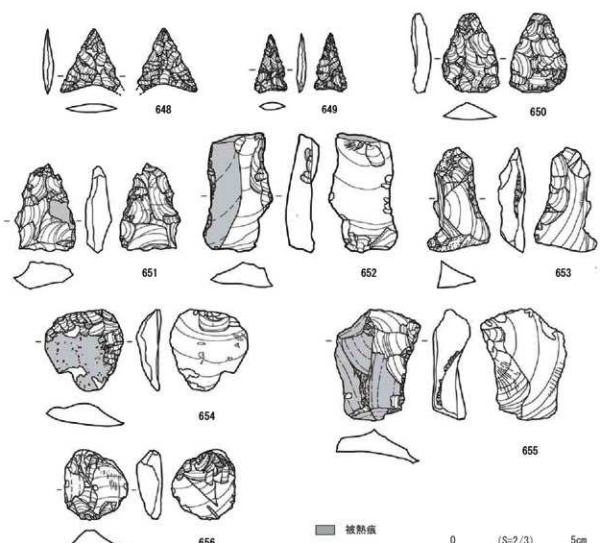
648は、直線的な側辺をもつ浅い凹基鏃である。石鏃Ⅰ類に該当する。薄く精巧な作りである。黒曜石A1類を素材とする。**649**は、細身の三角鏃で、わずかに抉りの入った凹基鏃である。素材は**648**と同じ黒曜石A1類である。

b．石鏃未製品(第90図650・651)

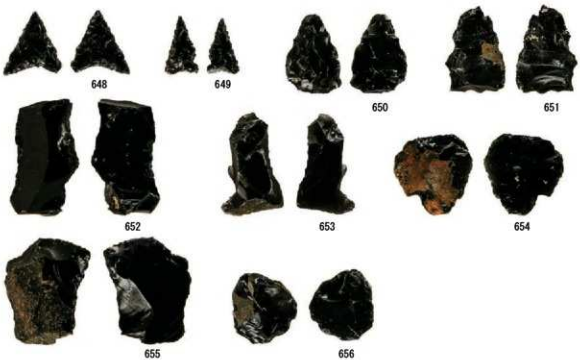
650は、表裏両面に押圧剥離による調整がみられるが、表面の素材面の剥離がうまくいかず放棄されたものと思われる。石材は黒曜石A1類である。**651**は、石鏃製作の初期段階と思われるもので、打撃による大きな剥離調整が施されている。石材は、斑晶を含むやや質の悪い腰岳系の黒曜石A2類である。被熱面を残す。

c．掻・削器(第90図652・653)

652は、被熱面を打面とする縦長剥片の左側辺に調整加工を施した削器(サイド・スクレイパー)である。刃部は被熱面に施されている。先端に礫面を有する良質な黒曜石A1類を素材としている。**653**



第90図　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石器(S=2/3)



図版65　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石器

は、横長の不定形剥片を素材とする。刃部は、両面加工で主要剥離面側では大きく平坦に、表面側では急傾斜な剥離が施されている。被熱によると思われる折れ面が認められる。使用石材は、652と同じく黒曜石A1類である。

d．加工痕のある剥片（第90図654～656）

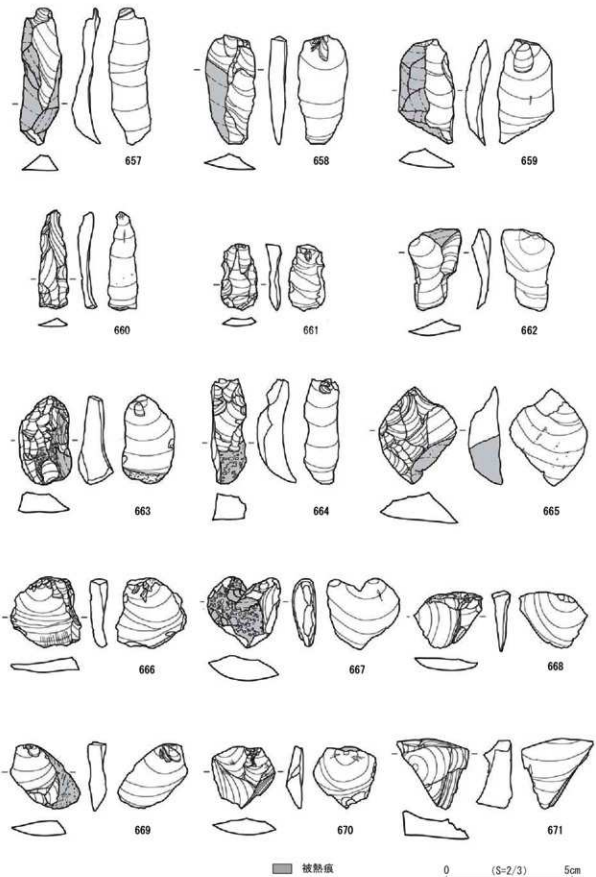
654は、礫面を大きく保持するシャッポ状の剥片を素材とする。655は、礫面および被熱面を広く残す不定形剥片を素材とする。主要剥離面側にファシット状の剥離を施しており、そこに微細剥離が集中する。656は、分厚い貝殻状剥片を素材としている。使用石材は、3点とも黒曜石A1類としたが、分析の結果654は川棚大崎①原産地であった。

e．剥片（第91図657～671）

657～660は、縦長剥片である。657は、打点部を折損する細身の剥片で、被熱面を大きく残す。658は、平坦面を打面とする剥片で、657と同じく被熱面を大きく残す。657・658と652は被熱痕のあり方が同じであり、ともに良質の黒曜石A1類を素材としていることから同一個体と思われる。659は、礫面を打面とする剥片で、被熱した面を大きく取り込む。660は、細身の剥片である。

661～664は、縦長状を呈する剥片である。661は、平坦打面の剥片で、主要剥離面のリングが不規則に波打つ。662は礫打面で、わずかに被熱痕が残る。663は、被熱面をもった分厚い剥片である。ウートラパッセになって剥片の先端部が肥厚する。664は、石核の角部を剥離したクレステッド様の剥片である。礫面を残しており、原石の形状は円礫と思われる。665は、質の悪い黒曜石A2類を素材とする。平坦打面で、被熱面をもつ。666は、礫打面の剥片である。

667～671は、横長もしくは不定形剥片である。667は、礫面を大きく残したシャッポ状の剥片である。668は、礫打面の小型の貝殻状を呈する剥片である。669は、打点部から右側辺に礫面を残した剥



第91図　TAK201407調査区Ⅳ層出土の剥片(S=2/3)

図版66　TAK201407調査区Ⅳ層出土の剥片

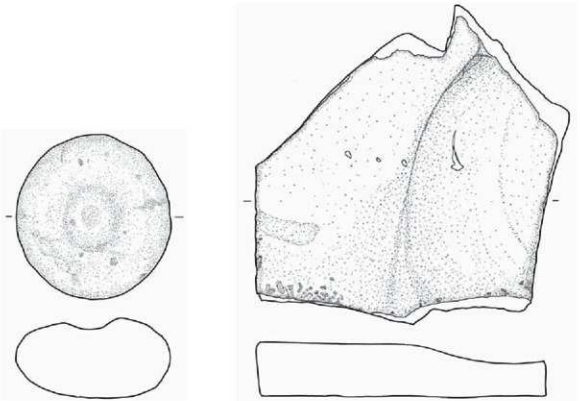
片で、打面は礫面である。**670**は、被熱した面を打面とする小型の貝殻状剥片である。**671**は、被熱による弾けた剥離面をもつ。

f．凹石（第92図672）

672は、斑晶を多く含む安山岩を素材とする。器面中央には回転によって生じた窪みがある。側面には敲打痕がついており敲石として、また底面が磨滅しており磨石としての機能も併せ持った石器である。凹石の窪みの成因として、堅果類（ドングリ等）の粉砕の結果とする説と火起こしの回転棒の支え具説が有力だが、本品は後者に該当する。

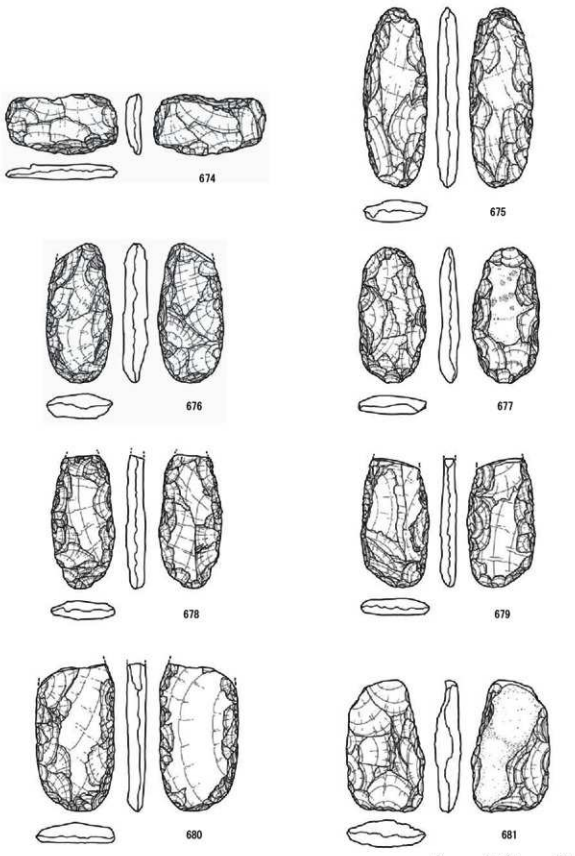
g．石皿（第92図673）

673は、硬質砂岩を素材とする石皿である。大破した資料で約4分の1が残存している。器面は表裏面とも丁寧に研磨されており、器面中央に浅い窪みを形成する。裏面を平坦に整形・研磨しており安定感がある。

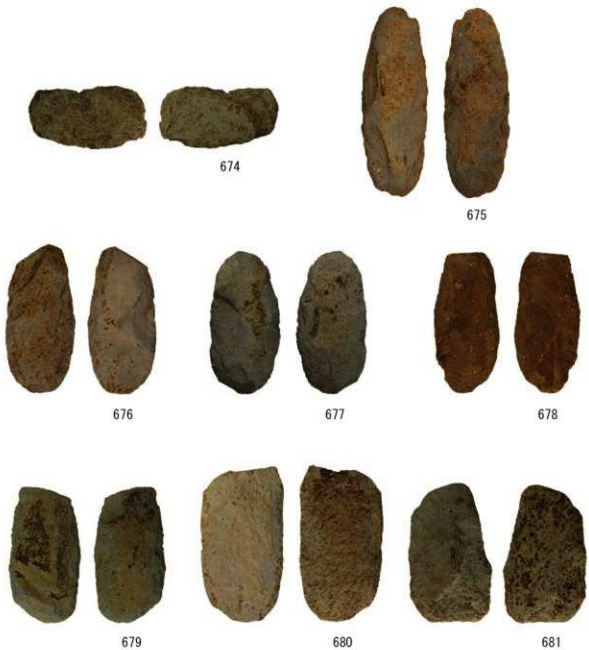


第92図　TAK201407調査区Ⅳ層出土の凹石・石皿(S=1/3)

図版67　TAK201407調査区Ⅳ層出土の凹石・石皿



第93図　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧①(S=1/3)



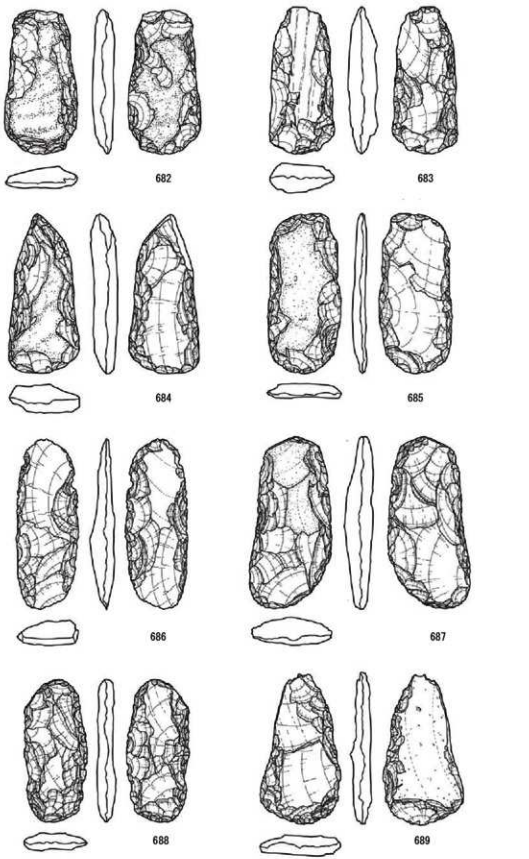
図版68　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧①

h．横刃形石器（第93図674）

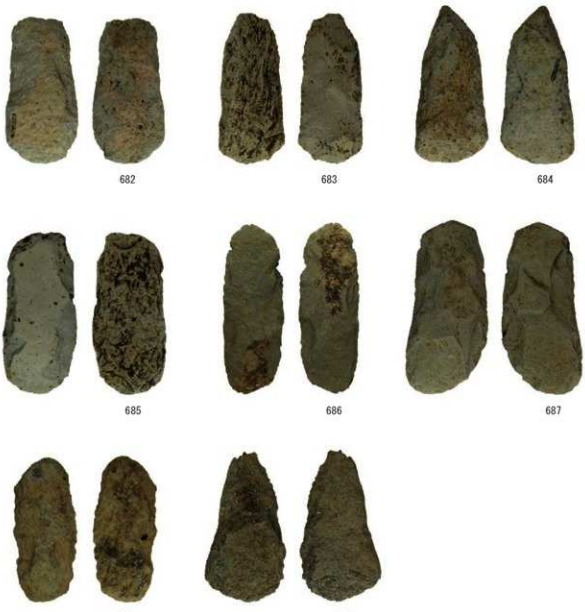
674は、横刃型石器とした。斑晶を含む安山岩を素材とする。小型で、形状は扁平打製石斧に似る。刃部は、緩く湾曲する。横刃形石器は、収穫具（穂摘み具）や有茎類の伐採具としての使用が考えられている（板倉2007）。

ⅰ．扁平打製石斧（第93図675～第97図709）

674～689には、完形品もしくは基部をわずかに欠く完形に近い資料をあげた。形態からみると、側辺が平行する短冊形のⅠ類に当たるのが、**680・685・686・688**である。側辺が緩く弧を描く長細い小判形のⅡ類には、**675～678**が該当する。刃部側が広がる撥形のⅢ類には、**679・681～684・687・689**がある。いずれにも当てはまらないⅣ類に**679**がある。刃部の形状は、**681**が直線的になるのを除いて、



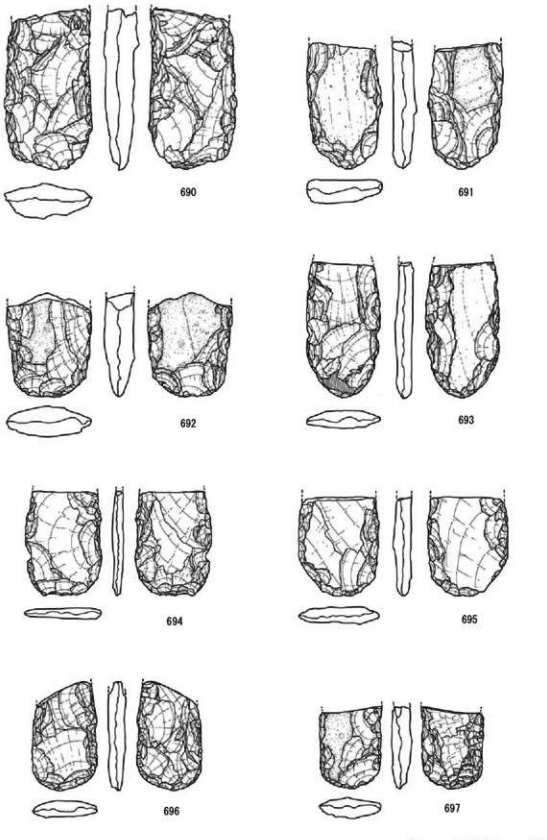
第94図　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧②(S=1/3)



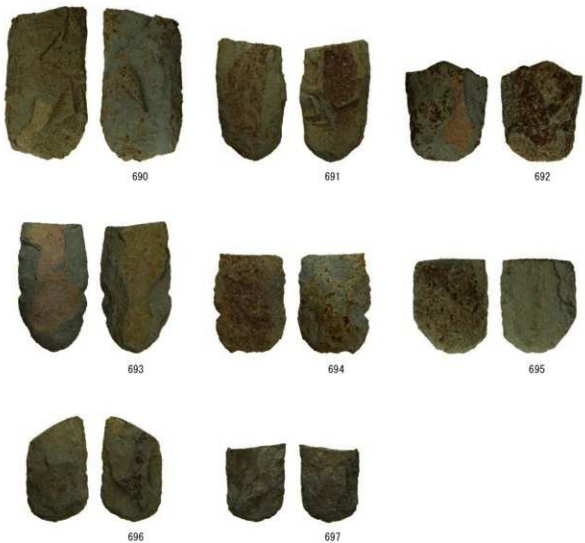
図版69　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧②

他はすべて丸みを帯びる。**679**・**687**は片寄った刃部をもつ。基部の形状はバラエティに富む。丸みをもつものが最も多く、**675**・**677**・**686**～**688**などである。直線的な基部は**682**、三角に尖らせるのが**684**である。ほとんどが節理で剥落した板状剥片を素材とする。使用される石材は、すべて斑晶を含む安山岩である。斑晶の大小やその量の違いから数か所の産地が想定されるがいずれにせよ遺跡近傍の在地系石材といえる。安山岩の産地として著名な佐賀県多久市鬼鼻山の安山岩は認められない。

690～**697**は、刃部の資料である。**690**を除くといずれも弧状の刃部である。**690**・**692**以外は、安山岩の板状剥片を素材としている。**694**・**695**は特に薄い製品である。**693**には部分的に研磨痕があり、局部磨製石斧とすることもできる。刃部加工のあり方は、剥離の精粗、その大きさの大小に違いはあるが、素刃は見当たらず、いずれも両面加工である。**690**は、調整剥離が全面に及んでおり、素材面



第95図　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧③(S=1/3)



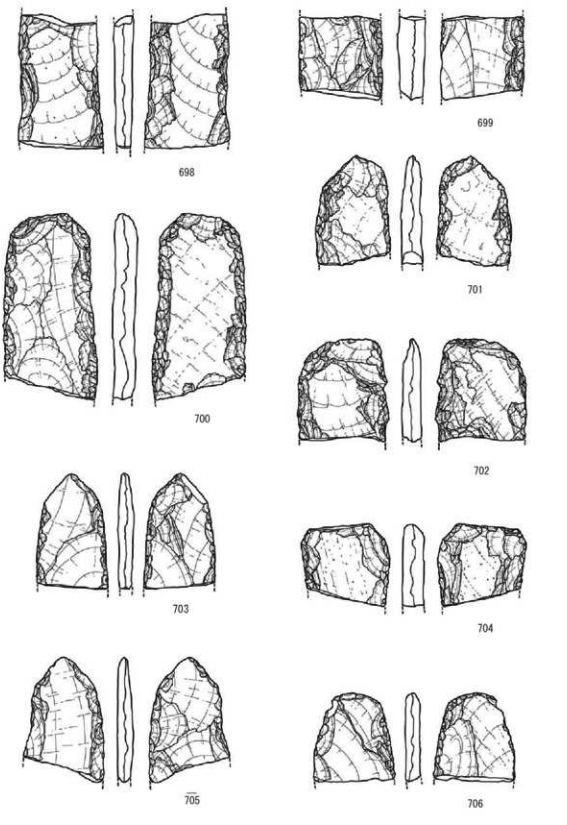
図版70　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧③

をもたないことや厚みがあることから打製石斧と評価したほうがよい。使用される石材は、すべて斑晶を含む安山岩である。

698・**699**は、中間部である。いずれも斑晶を含む安山岩を素材とするが、**699**のほうがやや厚い。両者とも側辺が平行しており、Ⅰ類に該当する。

700～**706**は、基部の資料である。いずれも斑晶を含む安山岩の節理面をもった板状剝片を素材とする。**700**は刃部付近を欠損する資料で、側辺が平行するⅠ類とすることができるが残余の資料は基部付近で欠損しているため全体の形状を推し量ることはできない。基部事態の形状としては、三角に尖らせるものが目立つ。**701**・**703**・**705**がそれに該当する。**704**は直線的、**702**は斜めになる。弧状のものは**700**・**706**と少ない。

707は、両側辺が面となるため、通常の扁平打製石斧にみられる側辺の刃部的調整剝離はみられず、平坦剝離による調整が両側辺。表裏両面に認められる。**708**はやや大型の刃部の資料である。**709**は大型である。基部を欠損するため全体の形状は不明だが、基部付近で屈曲し、刃部側に大きく広がる。

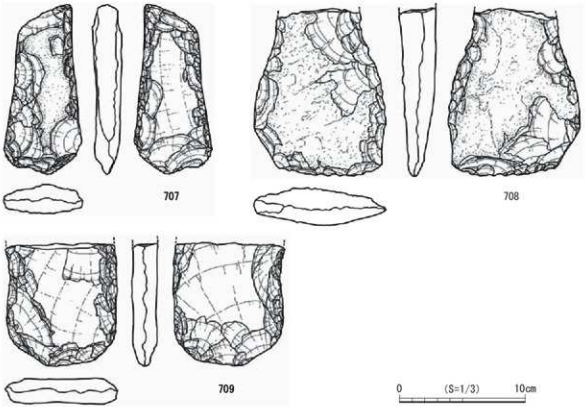


第96図　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧④(S=1/3)

図版71　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧④

また基部側を分厚く、刃部側を薄くしていることは直線的な刃部であることから一般的な扁平打製石斧とは異なる機能も想定できよう。いずれも石材には、斑晶を含む安山岩が使用されている。

扁平打製石斧の法量は、長さは10.4～14.14cmの範囲にあり平均値は11.9cm、幅は4.78～6.2cmで平均値が5.5cm、厚さは1.15～2.31cmで平均値が1.8cmである。重量は、101.9～214.1gで平均143.7gである。黒丸遺跡の例(平田2009)と比較すると、黒丸遺跡の場合(完形品26点)いずれも平均値で、長さ10.97cm、幅5.78cm、厚さ1.75cm、重量は131.5gとなる。竹松遺跡のほうが長さで上回っており、重量の差がついたものと思われるが、ほぼ同様の結果が得られている。東彼杵町宮田A遺跡の場合、厚さ2cmを超えるものが多い傾向にある。扁平打製石斧に多用される安山岩の節理による板状剥片を素材としており、原産地の違いも指摘されよう。



第97図　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧⑤(S=1/3)

図版72　TAK201407調査区Ⅳ層出土の石斧⑤

第22表　TAK201407調査区出土の石器観察表①

番号	器種	遺物番号	地区	層位等	石質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
599	石鏃	702	7056	第Ⅲ層	黒曜石A1類	2.00	1.84	0.31	0.81	完形　浅い凹基　先端部に抉り
600	石鏃	700	7260	第Ⅲ層	黒曜石A1類	(2.36)	1.64	0.27	(0.73)	浅い凹基　片脚欠損被熱？
601	石鏃	701	7260	第Ⅱ層	黒曜石A1類	(1.94)	1.35	0.31	(0.8)	基部側欠
602	石鏃	703	7258	第Ⅲ層	黒曜石C類	1.99	1.33	0.30	0.65	完形　凹基
603	石鏃未製品	704	7258	第Ⅲ層	黒曜石A1類	2.55	2.21	0.55	2.01	平基先端部未加工・被熱
604	彫器	1384-4	7260	第Ⅲ層	黒曜石A1類	3.41	3.08	0.85	10.47	被熱
605	掻・削器	1289-1	7258	第Ⅱ層	黒曜石A1類	2.58	2.18	1.11	6.42	被熱
606	掻・削器	1384-10	7260	第Ⅲ層	黒曜石A1類	3.83	2.55	0.63	4.09	被熱
607	掻・削器	1287-7	7258	第Ⅰ層	黒曜石A1類	(2.79)	1.32	0.70	(3.5)	被熱
608	使用痕のある剥片	1382-2	7260	第Ⅱ層	黒曜石A1類	5.29	2.58	0.93	11.30	被熱
609	使用痕のある剥片	1233-3	7260	第Ⅲ層	黒曜石A1類	4.54	1.75	0.50	4.32	被熱
610	使用痕のある剥片	1240	7258	第Ⅲ層	黒曜石A1類	3.17	4.75	1.03	15.85	被熱　円礫
611	掻・削器	710	7260	第Ⅲ層	安山岩	9.05	4.79	1.60	78.62	
612	加工痕のある剥片	1237-1	7260	第Ⅲ層	安山岩	3.56	7.33	1.26	37.88	掻器ではない
613	剥片	1239-1	7258	第Ⅲ層	黒曜石A1類	4.45	1.97	0.71	6.11	縦長　細身　被熱
614	剥片	1279-4	7056	第Ⅲ層	黒曜石A1類	5.48	2.10	1.04	11.88	被熱　クレステッドか　角礫
615	剥片	1384-5	7260	第Ⅲ層	黒曜石A1類	4.30	1.93	0.57	3.74	点打面
616	剥片	1237-2	7260	第Ⅲ層	黒曜石A1類	4.34	1.86	0.32	3.61	縦長　細身　被熱
617	剥片	1287-9	7258	第Ⅰ層	黒曜石A1類	3.35	1.72	0.36	2.30	完形
618	剥片	1237-3	7260	第Ⅲ層	黒曜石A1類	5.48	2.55	0.67	9.18	
619	剥片	1279-7	7056	第Ⅲ層	黒曜石A1類	4.03	1.92	1.06	8.42	被熱　円礫　分厚
620	剥片	1384-18	7260	第Ⅲ層	黒曜石A1類	4.37	2.32	0.72	5.79	被熱
621	剥片	1279-21	7056	第Ⅲ層	黒曜石A1類	3.80	1.64	0.43	2.48	被熱　円礫
622	剥片	1376	7260	第Ⅱ層	黒曜石A1類	3.43	1.53	0.81	3.99	クレステッド　被熱
623	剥片	1207-1	7458	第Ⅲ層	黒曜石A1類	3.84	2.39	1.11	9.25	被熱？　稜線摩滅
624	剥片	1390-1	6862	第Ⅲ層	黒曜石A1類	2.52	2.27	0.97	5.03	被熱　角礫
625	剥片	1265-1	7658	第Ⅰ層	黒曜石A1類	2.54	3.14	1.05	7.42	稜線摩滅　パティナ古い　被熱
626	剥片	1250	7456	第Ⅰ層	黒曜石A2類	4.12	3.15	0.90	9.50	幅広縦長　被熱
627	剥片	1398	7652	第Ⅱ層	黒曜石A1類	2.95	1.63	0.52	2.60	被熱
628	剥片	1237-4	7260	第Ⅲ層	黒曜石A1類	3.14	4.21	1.41	12.48	貝殻状　使用痕かも　被熱
629	剥片	1239-2	7258	第Ⅲ層	黒曜石D類	2.64	4.04	1.59	14.45	被熱
630	剥片	1214-3	6856	第Ⅲ層	黒曜石B類	3.01	4.30	0.69	6.62	被熱か　ガラス質劣る
631	剥片	1279-5	7056	第Ⅲ層	黒曜石A1類	3.76	3.02	0.94	9.49	寸詰まり　被熱
632	剥片	1228-2	6854	第Ⅲ層	黒曜石A1類	3.09	2.75	0.73	6.75	寸詰まり　被熱
633	剥片	1279-6	7056	第Ⅲ層	黒曜石A1類	3.51	3.07	0.81	9.39	寸詰まり
634	剥片	1228-1	6854	第Ⅲ層	黒曜石A1類	2.47	2.22	0.56	2.82	寸詰まり　被熱
635	剥片	1233-1	7260	第Ⅲ層	黒曜石A1類	2.52	2.14	0.95	3.85	寸詰まり　被熱
636	石核	711	7258	第Ⅲ層	黒曜石A1類	2.65	4.25	4.34	61.65	亜角礫　被熱
637	石核	1303-1	7056	第Ⅲ層	黒曜石A2類	3.52	4.11	3.15	43.93	被熱
638	石核	1384-1	7260	第Ⅲ層	黒曜石A1類	2.80	2.94	2.30	20.43	稜線摩滅　被熱
639	石核	1382-1	7260	第Ⅱ層	黒曜石A1類	2.43	2.11	2.01	12.52	角礫　被熱
640	石核	1393-1	6862	第Ⅱ層	黒曜石A2類	2.46	2.12	1.86	11.10	被熱
641	石核	1214-1	6856	第Ⅲ層	黒曜石B2類	2.71	2.96	2.02	17.60	円礫
642	石核	1246-1	7454	第Ⅰ層	黒曜石A2類	2.16	3.36	2.91	28.13	被熱　質非常に悪
643	石核	1287-1	7258	第Ⅰ層	黒曜石A1類	2.89	2.70	1.99	17.48	被熱
644	石核	1384-2	7260	第Ⅲ層	黒曜石A1類	3.36	3.34	1.25	16.00	被熱？
645	石核	1214-2	6856	第Ⅲ層	黒曜石A1類	1.66	3.63	2.05	11.02	板状角礫　寸詰まり剥片生産　被熱
646	石核	1279-3	7056	第Ⅲ層	黒曜石A1類	2.31	3.32	1.85	12.91	寸詰まり剥片生産　角礫　被熱
647	石核	1287-3	7258	第Ⅰ層	黒曜石A1類	2.59	2.47	1.17	6.30	被熱　石器を被熱
648	石鏃	706	7056	第Ⅳ層	黒曜石A1類	2.61	2.49	0.39	1.71	完形　浅い凹基
649	石鏃	705	6854	第Ⅳ層	黒曜石A1類	2.33	1.33	0.44	0.94	完形　わずかに凹基　被熱
650	石鏃未製品	707	7056	第Ⅳ層	黒曜石A1類	3.17	2.22	0.71	4.55	未製品　基部未加工　被熱
651	石鏃未製品	708	7058	第Ⅳ層	黒曜石A1類	3.51	2.49	0.94	6.69	未製品　被熱
652	掻・削器	1236-1	7260	第Ⅳ層	黒曜石A1類	4.60	2.66	0.88	12.73	被熱　2と同一個体
653	掻・削器	1319-1	7058	第Ⅵ層	黒曜石A2類	2.42	3.98	0.97	7.40	被熱　角礫
654	加工痕のある剥片	1339-11	7260	第Ⅳ層	黒曜石A1類	3.22	3.15	0.84	7.21	両面加工　被熱
655	加工痕のある剥片	1317-28	7058	第Ⅳ層	黒曜石A1類	4.54	3.95	1.00	13.08	被熱　角礫
656	加工痕のある剥片	1329-6	7060	第Ⅳ層	黒曜石A1類	2.65	2.74	0.96	6.55	被熱　角礫
657	剥片	1339-2	7260	第Ⅳ層	黒曜石A1類	5.40	1.63	0.54	4.31	被熱

第23表　TAK201407調査区出土の石器観察表②

番号	器種	遺物番号	地区	層位等	石質	長さ	幅	厚さ	重量	備考
658	剥片	1236-2	7056	第Ⅳ層	黒曜石A1類	4.32	2.00	0.69	4.78	被熱　1と同一個体
659	剥片	1315-2	7058	第Ⅳ層	黒曜石A1類	4.18	2.23	0.63	5.81	被熱
660	剥片	1339-3	7260	第Ⅳ層	黒曜石A1類	3.89	1.17	0.45	1.77	
661	剥片	1192-4	7256	第Ⅳ層	黒曜石A1類	2.55	1.46	0.63	1.68	
662	剥片	1225-1	7056	第Ⅳ層	黒曜石A1類	2.94	2.26	0.62	2.82	被熱
663	剥片	1192-5	7256	第Ⅳ層	黒曜石A1類	3.58	2.09	1.28	8.60	被熱
664	剥片	1386	6860	第Ⅳ層	黒曜石A1類	4.14	1.52	1.00	6.63	被熱　円礫
665	剥片	1192-3	7256	第Ⅳ層	黒曜石A2類	2.88	3.02	1.04	9.94	被熱？
666	剥片	1317-4	7058	第Ⅳ層	黒曜石A1類	2.81	2.96	0.64	5.00	極線摩滅
667	剥片	1195	7454	第Ⅳ層	黒曜石A1類	2.80	2.92	1.02	8.07	被熱
668	剥片	1192-8	7256	第Ⅳ層	黒曜石A1類	2.11	2.76	0.66	3.05	被熱　寸詰まり
669	剥片	1260	7460	第Ⅳ層	黒曜石A1類	2.54	2.86	0.76	3.82	円礫斜め切り
670	剥片	1192-7	7256	第Ⅳ層	黒曜石A1類	2.44	2.39	0.73	3.55	被熱　寸詰まり
671	剥片	1192-6	7256	第Ⅳ層	黒曜石A1類	2.78	2.84	1.17	6.01	被熱
672	凹石	712	7058	第Ⅳ層	安山岩	12.13	13.16	6.52	1325	
673	石皿	714	7258	第Ⅳ層	砂岩	(25.1)	(25.5)	4.5	3730	
674	楕円形石器	744	7060	第Ⅳ層	安山岩	4.59	8.78	1.27	67.47	
675	扁平打製石斧	727	7058	第Ⅳ層	安山岩	14.14	4.99	1.65	162.6	
676	扁平打製石斧	755	7260	第Ⅳ層	安山岩	11.02	5.12	1.89	144.1	
677	扁平打製石斧	720	7056	第Ⅳ層	安山岩	10.59	5.22	1.39	112.1	
678	扁平打製石斧	742	7060	第Ⅳ層	安山岩	10.35	4.95	1.55	101.9	
679	扁平打製石斧	743	7060	第Ⅳ層	安山岩	10.03	5.36	1.41	113	
680	扁平打製石斧	753	7260	第Ⅳ層	安山岩	11.43	6.19	1.54	176.8	
681	扁平打製石斧	721	7056	第Ⅳ層	安山岩	10.4	6.09	2.09	160.3	
682	扁平打製石斧	715	7056	第Ⅳ層	安山岩	11.43	5.57	1.7	144.1	
683	扁平打製石斧	717	7056	第Ⅳ層	安山岩	11.58	5.03	2.31	154.8	
684	扁平打製石斧	718	7056	第Ⅳ層	安山岩	11.85	5.53	2.05	169.8	
685	扁平打製石斧	752	7260	第Ⅳ層	安山岩	12.62	5.74	1.15	114	
686	扁平打製石斧	741	7060	第Ⅳ層	安山岩	13.33	4.78	1.96	114.3	
687	扁平打製石斧	732	7060	第Ⅳ層	安山岩	13.58	6.2	2.25	214.1	
688	扁平打製石斧	738	7060	第Ⅳ層	安山岩	11.24	5.03	1.44	104	
689	扁平打製石斧	754	7260	第Ⅳ層	安山岩	11.72	6.18	1.52	130.3	
690	扁平打製石斧	725	7058	第Ⅳ層	安山岩	12.42	6.45	2.66	293.4	
691	扁平打製石斧	726	7058	第Ⅳ層	安山岩	10.23	5.81	1.76	153.8	
692	扁平打製石斧	739	7060	第Ⅳ層	安山岩	8.06	6.67	2.49	160.8	
693	扁平打製石斧	719	7056	第Ⅳ層	安山岩	10.55	5.74	1.39	127.6	
694	扁平打製石斧	745	7256	第Ⅳ層	安山岩	8.21	6.12	1.05	68.76	
695	扁平打製石斧	716	1区	第Ⅳ層	安山岩	7.8	6.23	1.31	97.98	
696	扁平打製石斧	748	7258	第Ⅳ層	安山岩	8.23	5.09	1.53	87.94	
697	扁平打製石斧	729	7060	第Ⅳ層	安山岩	6.19	4.95	1.69	62.51	
698	扁平打製石斧	740	7060	第Ⅳ層	安山岩	11.2	6.6	1.77	188.2	
699	扁平打製石斧	735	7060	第Ⅳ層	安山岩	6.64	6.35	2.21	148	
700	扁平打製石斧	728	7060	第Ⅳ層	安山岩	14.4	7.09	2.18	319	
701	扁平打製石斧	731	7060	第Ⅳ層	安山岩	8.51	5.78	1.71	123.6	
702	扁平打製石斧	737	7060	第Ⅳ層	安山岩	8.02	7.08	1.66	127	
703	扁平打製石斧	751	7260	第Ⅳ層	安山岩	8.98	5.58	1.36	84.53	
704	扁平打製石斧	733	7060	第Ⅳ層	安山岩	6.39	6.93	1.78	121.1	
705	扁平打製石斧	750	7260	第Ⅳ層	安山岩	9.9	6.38	1.3	103.7	
706	扁平打製石斧	734	7060	第Ⅳ層	安山岩	6.91	6.29	1.08	64.42	
707	扁平打製石斧	724	7058	第Ⅳ層	安山岩	13.28	5.98	2.41	238.4	
708	扁平打製石斧	722	7056	第Ⅳ層	安山岩	1309	10.31	3.01	478.7	
709	扁平打製石斧	746	7256	第Ⅳ層	安山岩	9.43	8.71	2.1	308.6	

(5)蛍光X線分析による黒曜石製石器の産地同定

旧石器時代から縄文時代の石器研究において、原産地研究は喫緊の課題である。黒曜石製石器の原産地同定にもっとも有効な手段が、蛍光X線分析である。その前提となる作業が九州地方の黒曜石原産地の判別図作成である。長崎県埋蔵文化財センターでは、開所以来、分析を進めており、随時その成果を公表してきたところである(川道ほか2017、川道・片多2018)。また石器の産地同定の効率化を企図して、長崎大学の隅田祥光氏は長崎県埋蔵文化財センターの原産地データをもとにして「原産地判別プログラム」を開発しており、今後の活用が期待される(川道・隅田ほか2018)。

今回分析したのは、TAK201406調査区85点、07調査区137点の総計222点である。得られたデータを判別図にプロットした結果、06調査区では、ア群・イ群の2群に、07調査区は、ア群～オ群の5群にプロットされた。

TAK201406調査区

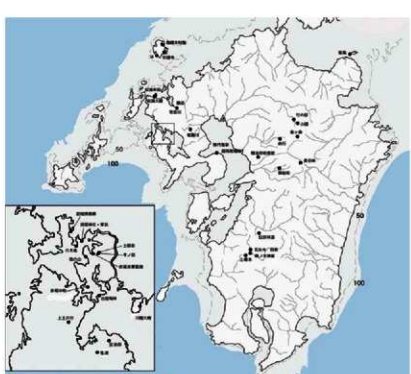
ア群とイ群にプロットされたが、その内訳をみるとア群83点、イ群が2点という割合で、ア群が圧倒することが分かる。ア群は、腰岳系、イ群は淀姫系のエリアに重なることから、それぞれ、腰岳系、淀姫系と判断される。

TAK201407調査区

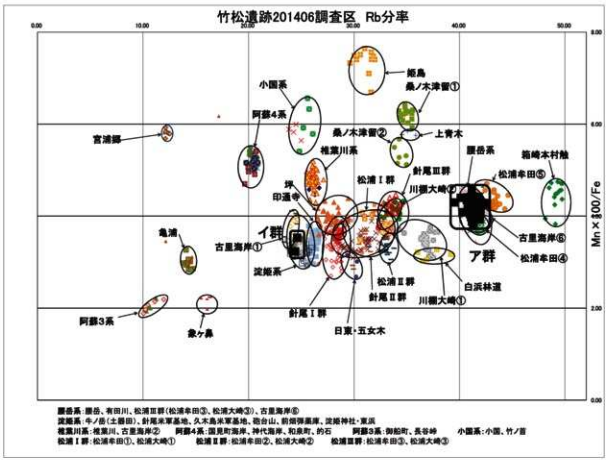
ア群～オ群の5群にプロットされる。それぞれア群が132点、イ群2点、ウ群1点、エ群2点、オ群2点となり、本調査区もア群が他を圧倒する。

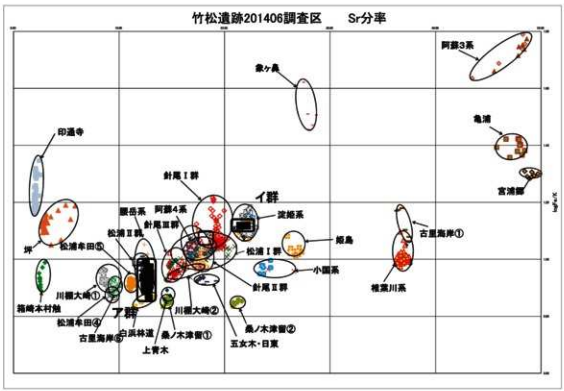
ところで、判別図で腰岳系とされる原産地には複数が存在する。腰岳、松浦Ⅲ群(松浦牟田③・松浦大崎③)、古里海岸⑥などであるが、腰岳と松浦Ⅲ群は、前者が角礫を基本とするのに対し、後者は円礫を基本とすることから礫面をみておおよその区別はできる。TAK201406・07調査区ⅳ層の場合、観察できる礫面はほとんどが角礫～亜角礫であることから腰岳産黒曜石が主体的に用いられている。

肉眼分析では、割れ口面が黒色を呈するものを黒曜石A類とし、さらにそれを斑晶がほとんど含まれない良質なものA1類、斑晶を多く含み質の悪いものA2類に細分した。蛍光X線分析では、A2類は52点すべてが腰岳系であった。A1類では163点中2点がオ群：川棚大崎①に判別された以外は腰岳系と判別された。黒曜石B類は、イ群：淀姫系に4点、エ群：針尾Ⅰ群に2点が判別された。

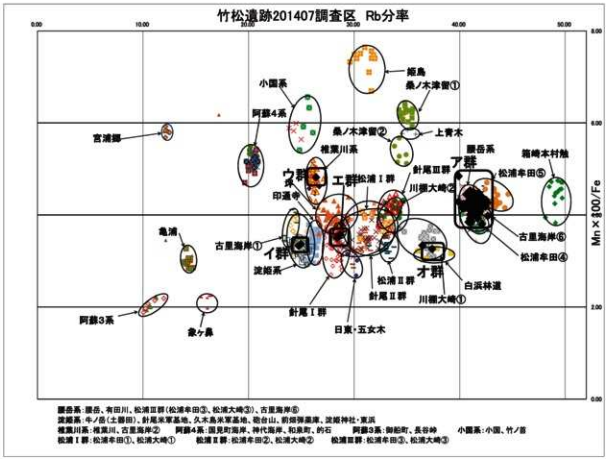


第98図　九州地方の黒曜石原産地

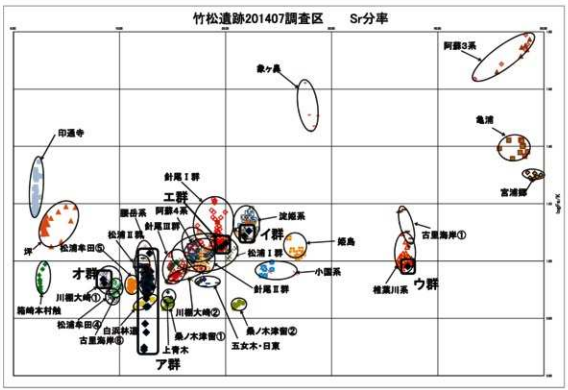




第99図　TAK201406調査区Ⅳ層出土石器の産地同定

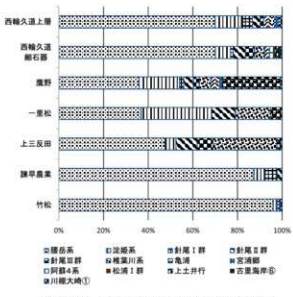


腰岳系：腰岳、有田川、松浦Ⅲ群(松浦牟田③、松浦大崎③)、古里海岸⑥
波姫系：牛ノ岳(土器田)、針尾米軍基地、久木島米軍基地、砲台山、前畑弾薬庫、波姫神社・東浜
椎葉川系：椎葉川、古里海岸②　阿蘇4系：国見町海岸、時代海岸、知良町、的石　阿蘇3系：御船町、長谷神　小国系：小国、竹ノ首
松浦Ⅰ群：松浦牟田①、松浦大崎①　松浦Ⅱ群：松浦牟田②、松浦大崎②　松浦Ⅲ群：松浦牟田③、松浦大崎③



第100図　TAK201407調査区Ⅳ層出土石器の産地同定

この結果を、県央地区のほかの遺跡と比較する。対象とする遺跡は、旧石器時代の①西輪久道遺跡上層石器群、旧石器時代終末期から縄文時代草創期の②西輪久道遺跡細石刃石器群・③鷹野遺跡細石刃石器群、縄文時代早期中心の④一里松遺跡、縄文時代で時期不詳の⑤上三反田遺跡、弥生時代中期前半の⑥諫早農業高校遺跡である。①は、AT降灰後のナイフ形石器群で、腰岳形を主体とし、5原産地8群の石材獲得である。②・③の細石刃石器群は、両者ともに旧石器段階と草創期段階の2時期の所産であるが分離できないのでここでは一括して扱う。②は、腰岳系を主体とするが、9原産地12群と、今回取上げた石器群ではもっとも多くの原産地から石材獲得されている。③は、ここにあげた石器群のなかでは腰岳系の比率がもっとも低い。それを補完するのが上土井行(判別図には示していないが、Rb分率で阿蘇4系の左側・Sr分率で亀浦の左側にプロットされる一群)と淀姫系である。縄文早期以降の④・⑤は、④が腰岳系と淀姫系が拮抗している点を除けば、5原産地からの石材獲得であり、よく似た状況である。県内の石器群の石材獲得のあり方は、AT以前では、原産地が限定されており、時期が新しくなるにつれて、原産地が増加し、縄文時代草創期にピークを迎えることが確認されている(川道2017)。一里松・上三反田の姿からは、原産地の縮小傾向を読み取ることができよう。



第101図　県央地域遺跡別の原産地利用

晩期の竹松遺跡では、腰岳系が約96%と圧倒的な比率を占める。その傾向は、剥片石器の使用が終焉を迎える弥生時代中期前葉の諫早農業高校遺跡でも踏襲される。福岡県内では、縄文後期から晩期初頭にかけての時期に、腰岳系原石の獲得に大きな変化があったとされる(梶佐古2018)。この時期にそれまであまり獲得されることのなかった斑晶を多く含む原石の獲得が急増し、弥生時代まで続くことが明らかになった。後期には約6%と1割にも満たなかった斑晶を多く含む原石が、Ⅲ期の晩期になると45%に急増し、Ⅳ期(晩期後半)では42%、弥生前期でも37%と高い数値を保つ。竹松遺跡でも、福岡方面と軌を一にするように36.2%という高い数値である。石器製作に不向きな斑晶を多く含む原石の消費地遺跡での急増は石材獲得システムの変動と理解できる。後期末から晩期にかけての時期は、「狩猟・栽培民」による生業システムが成立し、定住化が促進され、いわでは狩猟活動領域の縮小にもつながっていったものと思われる。原産地と活動領域の距離の拡大がもたらしたものかもしれない。

【引用・参考文献】

梶佐古幸謙2018「北部九州の縄文・弥生時代移行期における剥片石器石材の獲得・消費戦略」『九州考古学』第93号、1-21頁、九州考古学会。
川道寛2017「黒曜石回廊西端の原産地研究事情」『旧石器時代の知恵と技術の考古学』296-305頁、雄山閣。
川道寛・片多雅樹・辻田直人2017「長崎県における黒曜石原産地研究の進展－原の辻遺跡原ノ久保地区石器群の分析を通して－」『研究紀要』第7号、21-41頁、長崎県埋蔵文化財センター。
川道寛・片多雅樹2018「長崎県における黒曜石原産地研究の進展(2)」『研究紀要』第8号、1-17頁、長崎県埋蔵文化財センター。
川道寛・隅田祥光・片多雅樹・辻田直人2018「原産地判別プログラムを用いた黒曜石製石器の産地同定」『九州旧石器』第22号、123-132頁、九州旧石器文化研究会

第24表　判別データ①

調査区	遺物番号	図版番号	器種	肉眼鑑定	判別結果	K	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	Rb 分率	Mn 分率	Fe 分率	Sr 分率	logFe/K
201406	531	558	使用痕のある剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	64.5	23.6	559.3	308.7	94.9	124.9	212.2	41.7	4.2	12.8	0.9
201406	532	566	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	63.7	23.3	571.2	311.2	94.3	129.8	216.2	41.4	4.1	12.5	1.0
201406	541	561	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	73.2	26.4	617.0	340.2	101.0	136.6	226.7	42.3	4.3	12.6	0.9
201406	550	565	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	65.3	24.9	573.3	315.1	96.1	127.0	213.8	41.9	4.3	12.8	0.9
201406	565		剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	65.8	25.8	563.3	309.4	93.9	129.4	219.1	41.2	4.6	12.5	0.9
201406	566		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	65.8	24.9	612.2	320.8	97.4	129.0	221.8	41.7	4.1	12.7	1.0
201406	1174-1		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	60.2	22.9	514.1	296.7	90.2	125.0	204.7	41.4	4.4	12.6	0.9
201406	1174-2	591	石核	黒曜石 A2群	腰岳系	70.1	24.6	587.7	312.2	95.5	128.1	212.9	41.7	4.2	12.8	0.9
201406	1174-3	593	残核	黒曜石 A2群	腰岳系	65.8	23.1	548.2	302.1	91.0	126.6	208.4	41.5	4.2	12.5	0.9
201406	1174-4		剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	66.2	22.9	564.1	310.6	94.4	130.8	215.6	41.3	4.1	12.6	0.9
201406	1174-5	583	剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	68.3	23.5	589.1	313.4	93.6	130.4	222.9	41.2	4.0	12.3	0.9
201406	1174-6	564	剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	63.0	22.8	543.4	307.9	92.6	128.3	226.4	40.8	4.2	12.3	0.9
201406	1174-接ア-1		石核	黒曜石 A2群	腰岳系	72.3	26.4	599.6	320.1	96.4	133.4	216.3	41.8	4.4	12.6	0.9
201406	1174-接ア-2		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	72.6	25.1	609.3	324.3	101.1	129.7	223.6	41.7	4.1	13.0	0.9
201406	1174-接ア-3		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	70.3	25.2	618.5	322.8	97.9	131.9	224.6	41.6	4.1	12.6	0.9
201406	1174-接ア-4	582	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	73.7	24.6	598.4	308.0	95.1	127.2	213.7	41.4	4.1	12.8	0.9
201406	1174-接ア-5	560	使用痕のある剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	62.5	22.5	535.6	302.2	91.4	126.5	215.7	41.1	4.2	12.4	0.9
201406	1174-接ア-6		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	66.4	24.3	586.3	316.7	95.7	130.3	216.0	41.7	4.1	12.6	0.9
201406	1174-接ア-7		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	67.6	25.2	633.2	319.2	100.3	132.8	224.8	41.1	4.0	12.9	1.0
201406	1174-接ア-8		剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	64.0	24.2	563.7	314.9	97.5	131.9	219.0	41.3	4.3	12.8	0.9
201406	1174-接ア-9		剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	71.3	26.4	619.1	338.0	102.4	136.8	228.0	42.0	4.3	12.7	0.9
201406	1174-接ア-10		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	71.4	27.0	630.8	323.7	97.3	128.9	214.2	42.4	4.3	12.7	0.9
201406	1174-接ア-11		剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	58.7	19.4	479.2	262.3	81.3	109.9	186.7	41.6	4.0	12.7	0.9
201406	1174-接ア-12	586	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	64.0	21.6	510.7	290.5	88.9	124.2	208.6	40.8	4.2	12.5	0.9
201406	1174-接ア-13	563	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	64.4	21.6	524.7	285.6	87.2	120.2	203.2	41.0	4.1	12.5	0.9
201406	1174-接ア-14		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	64.6	23.2	559.6	309.5	97.2	130.7	221.7	40.8	4.1	12.8	0.9
201406	1174-接ア-15	570	剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	63.5	22.2	516.7	288.9	91.9	127.3	223.8	39.5	4.3	12.6	0.9
201406	1174-接ア-16		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	72.9	25.4	644.6	340.7	104.0	137.4	231.0	41.9	3.9	12.8	0.9
201406	1174-接ア-17	585	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	66.9	23.6	569.2	302.3	91.6	126.1	213.0	41.2	4.2	12.5	0.9
201406	1174-接ア-18		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	64.8	23.4	561.5	312.2	94.9	127.6	217.3	41.5	4.2	12.6	0.9
201406	1174-接ア-19		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	69.5	24.3	606.4	319.4	97.4	130.7	220.4	41.6	4.0	12.7	0.9
201406	1174-接ア-20		砕片	黒曜石 A2群	腰岳系	57.8	21.5	488.0	289.5	91.5	127.6	213.3	40.1	4.4	12.7	0.9
201406	1174-接ア-21		剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	62.7	23.1	529.8	299.7	91.9	124.6	208.6	41.3	4.4	12.7	0.9
201406	1174-接ア-22		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	71.8	23.9	579.9	296.6	91.4	121.6	203.4	41.6	4.1	12.8	0.9
201406	1177-1	587	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	78.9	26.3	617.5	323.8	96.0	130.0	217.8	42.2	4.3	12.5	0.9
201406	1177-2	559	使用痕のある剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	71.4	24.0	576.8	314.9	97.1	130.8	222.8	41.1	4.2	12.7	0.9
201406	1177-3	569	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	63.4	22.5	549.8	293.5	91.3	127.9	215.7	40.3	4.1	12.5	0.9
201406	1177-4		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	62.2	21.1	524.7	302.2	92.6	128.3	210.4	41.2	4.0	12.6	0.9
201406	1177-5		剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	71.2	28.2	655.8	337.4	104.0	142.1	229.5	41.5	4.3	12.8	1.0
201406	1177-6		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	63.0	23.2	542.6	298.2	90.5	125.1	208.4	41.3	4.3	12.5	0.9
201406	1195-1	562	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	77.5	25.9	611.5	319.1	96.0	131.8	217.2	41.8	4.2	12.6	0.9
201406	1197-1		石核	黒曜石 A1群	腰岳系	66.9	23.2	607.0	311.0	95.3	128.3	218.8	41.3	3.8	12.7	1.0
201406	1197-2	592	石核	黒曜石 A2群	腰岳系	69.7	25.7	581.7	323.0	96.6	135.1	223.4	41.5	4.4	12.4	0.9
201406	1197-3		石核	黒曜石 A2群	腰岳系	61.9	22.6	529.8	296.3	92.0	122.9	203.7	41.4	4.3	12.9	0.9
201406	1197-4		石核	黒曜石 A2群	腰岳系	65.1	23.8	588.2	313.3	95.3	129.8	215.9	41.5	4.1	12.6	1.0
201406	1197-5		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	61.2	22.2	503.3	289.4	88.8	123.8	206.5	40.8	4.4	12.5	0.9
201406	1197-6		剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	77.6	27.1	630.3	328.0	99.0	130.8	223.2	42.0	4.3	12.7	0.9
201406	1197-7	572	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	65.0	21.3	523.3	299.5	90.8	126.0	208.5	41.3	4.1	12.5	0.9
201406	1197-8	575	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	67.9	23.8	552.5	307.0	93.1	127.6	212.8	41.5	4.3	12.6	0.9
201406	1197-9		剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	65.1	20.8	503.3	295.9	90.8	125.4	213.5	40.8	4.1	12.5	0.9
201406	1197-10	568	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	66.5	22.7	541.6	294.3	91.7	123.9	211.0	40.8	4.2	12.7	0.9
201406	1197-11		剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	75.7	24.3	605.6	323.5	99.7	136.4	226.3	41.2	4.0	12.7	0.9
201406	1197-12		剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	70.8	25.0	576.9	323.7	97.5	131.5	219.9	41.9	4.3	12.6	0.9
201406	1197-13	580	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	65.9	22.6	519.7	296.3	90.5	125.6	216.1	40.7	4.3	12.4	0.9
201406	1197-14		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	62.6	23.0	536.4	302.9	92.9	125.2	212.8	41.3	4.3	12.7	0.9
201406	1197-15		剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	66.6	24.1	583.1	324.9	99.6	137.2	222.4	41.4	4.1	12.7	0.9
201406	1197-16		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	65.8	23.3	546.3	303.7	92.2	128.2	218.5	40.9	4.3	12.4	0.9
201406	1197-17		剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	61.4	22.6	547.8	296.5	92.7	121.5	204.6	41.4	4.1	13.0	1.0
201406	1197-18		剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	73.0	24.2	571.9	315.9	97.5	128.7	217.8	41.6	4.2	12.8	0.9
201406	1197-19		剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	74.0	25.3	596.2	318.7	96.3	130.2	219.3	41.7	4.2	12.6	0.9
201406	1197-20		砕片	黒曜石 A1群	腰岳系	67.2	23.9	586.3	308.3	95.6	126.3	211.0	41.6	4.1	12.9	0.9
201406	1197-21		剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	69.7	26.1	620.7	330.8	99.3	135.6	231.8	41.5	4.2	12.5	0.9
201406	1197-22	578	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	68.1	23.4	572.6	311.7	95.5	125.5	209.9	42.0	4.1	12.9	0.9
201406	1197-23	571	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	69.6	24.8	568.1	300.9	92.8	126.2	210.3	41.2	4.4	12.7	0.9
201406	1216-1	554	石器未製品	黒曜石 A1群	腰岳系	68.7	23.3	538.8	303.1	92.6	127.2	208.2	41.5	4.3	12.5	0.9
201406	1216-4	577	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	71.4	23.8	552.0	311.0	95.2	129.1	215.0	41.4	4.3	12.7	0.9
201406	1216-5		剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	67.8	24.8	597.4	328.2	97.4	135.1	221.1	42.0	4.2	12.5	0.9
201406	1256-1	574	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	74.7	24.9	583.9	313.3	93.6	130.3	213.3	41.7	4.3	12.5	0.9
201406	1256-2		砕片	黒曜石 A2群	腰岳系	73.4	26.2	651.9	340.4	103.1	138.7	232.7	41.8	4.0	12.7	0.9
201406	1256-3	584	剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	79.0	24.5	578.2	326.0	100.3	133.7	222.0	41.7	4.2	12.8	0.9
201406	1256-4	573	剝片	黒曜石 A2群	腰岳系	64.9	22.6	514.1	291.6	90.2	125.0	214.5	40.4	4.4	12.5	0.9
201406	1256-5		剝片	黒曜石 A1群	淀瀬系	51.3	23.8	673.7	199.4	179.1	91.8	340.1	24.6	3.5	22.1	1.1
201406	1256-6	567	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	74.6	25.4	597.6	321.1	98.2	132.4	220.2	41.6	4.3	12.7	0.9
201406	1258-1	579	剝片	黒曜石 A1群	腰岳系	78.9	26.1	619.6	336.3	101.9	139.1	227.7	41.8	4.2	12.7	0.9

第25表　判別データ②

調査区	遺物番号	図版番号	器種	肉眼鑑定	判別結果	K	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	Rb 分率	Mn×100/Fe	Sr 分率	logFe/K
201406	1258-2	576	剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	74.0	26.7	625.4	326.2	99.9	131.8	219.4	42.0	4.3	12.8	0.9
201406	1258-3		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	63.6	23.7	564.8	300.3	92.4	126.8	209.2	41.2	4.2	12.7	0.9
201406	1259-1	590	石核	黒曜石 A2類	腰岳系	69.1	25.9	609.2	321.9	95.8	133.1	220.7	41.7	4.3	12.4	0.9
201406	1276-1		原石	黒曜石 A1類	腰岳系	66.4	23.5	584.4	316.2	95.0	129.6	214.8	41.9	4.0	12.6	0.9
201406	1276-2	557	使用痕のある剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	66.6	22.4	522.9	293.4	90.6	122.0	206.3	41.2	4.3	12.7	0.9
201406	1276-3	591	剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	69.4	24.5	571.9	311.8	95.3	128.3	213.2	41.6	4.3	12.7	0.9
201406	1276-4		剥片	黒曜石 B1類	淀姫系	64.4	27.3	843.7	235.2	206.9	107.1	414.1	24.4	3.2	21.5	1.1
201406	1332-1		石鏃	黒曜石 A1類	腰岳系	67.2	23.3	585.8	310.5	94.1	127.0	216.4	41.5	4.0	12.6	0.9
201406	1332-2		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	69.5	24.5	584.8	316.5	95.3	133.5	216.0	41.6	4.2	12.5	0.9
201406	1332-3		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	70.2	25.2	582.9	320.0	96.6	130.5	223.3	41.5	4.3	12.5	0.9
201406	1370	555	掻・削器	黒曜石 A1類	腰岳系	62.9	23.7	611.4	306.4	93.3	128.5	216.0	41.2	3.9	12.5	1.0
201407	705	649	石鏃	黒曜石 A1類	腰岳系	62.1	24.0	549.0	301.0	92.0	125.7	212.0	41.2	4.4	12.6	0.9
201407	706	648	石鏃	黒曜石 A1類	腰岳系	67.0	23.6	561.0	311.1	94.4	128.5	216.6	41.4	4.2	12.6	0.9
201407	707	650	石鏃	黒曜石 A1類	腰岳系	72.4	24.5	564.5	311.1	95.6	129.5	221.0	41.1	4.3	12.6	0.9
201407	708		石鏃	黒曜石 A1類	腰岳系	69.5	23.0	548.9	307.1	93.2	125.4	212.3	41.6	4.2	12.6	0.9
201407	711		石核	黒曜石 A1類	腰岳系	68.7	25.7	610.9	321.1	97.1	128.5	216.7	42.1	4.2	12.7	0.9
201407	1187-1		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	64.9	23.9	550.0	308.9	92.9	127.1	208.9	41.9	4.3	12.6	0.9
201407	1187-2		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	61.5	22.3	539.8	299.1	90.7	122.9	208.4	41.5	4.1	12.6	0.9
201407	1187-3		剥片	黒曜石 B1類	淀姫系	56.8	24.3	722.9	211.1	187.8	99.7	347.6	24.9	3.4	22.2	1.1
201407	1187-5		使用痕のある剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	67.0	25.2	574.9	317.3	97.2	128.4	221.5	41.5	4.4	12.7	0.9
201407	1187-6		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	66.6	24.2	567.2	311.6	96.0	129.2	215.2	41.4	4.3	12.8	0.9
201407	1192-1		石核	黒曜石 A2類	腰岳系	76.0	25.9	626.8	312.6	95.8	128.2	212.8	41.7	4.1	12.8	0.9
201407	1192-3	665	剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	71.3	25.1	571.6	314.9	93.1	128.9	211.0	42.1	4.4	12.4	0.9
201407	1192-4	661	剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	70.0	25.2	583.2	323.5	98.6	134.2	222.1	41.6	4.3	12.7	0.9
201407	1192-5	663	剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	59.5	21.2	516.4	295.7	93.6	124.4	207.7	41.0	4.1	13.0	0.9
201407	1192-6	671	剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	54.6	19.4	457.8	263.5	82.0	113.5	194.0	40.4	4.2	12.6	0.9
201407	1192-7	670	剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	73.7	23.8	603.9	321.4	94.5	134.9	219.5	41.7	3.9	12.3	0.9
201407	1192-8	668	剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	70.1	23.8	557.9	318.9	96.7	128.8	217.9	41.8	4.3	12.7	0.9
201407	1195	667	剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	63.7	23.1	547.7	305.7	91.4	127.3	214.9	41.3	4.2	12.4	0.9
201407	1214-1		石核	黒曜石 B2類	針尾Ⅰ群	61.8	24.2	691.1	242.3	167.2	107.7	336.3	28.4	3.5	19.6	1.0
201407	1214-2		石核	黒曜石 A1類	腰岳系	61.2	21.8	514.5	297.6	90.5	124.9	208.8	41.2	4.2	12.5	0.9
201407	1225-1	662	剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	66.7	22.7	566.7	301.5	92.2	124.3	209.1	41.5	4.0	12.7	0.9
201407	1225-2		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	72.7	25.0	575.5	315.7	95.7	128.6	213.5	41.9	4.3	12.7	0.9
201407	1225-3		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	73.7	25.0	584.0	324.6	98.4	130.8	224.2	41.7	4.3	12.6	0.9
201407	1235-1		石鏃未製品	黒曜石 A1類	腰岳系	73.8	24.7	578.4	319.8	95.9	132.6	220.3	41.6	4.3	12.5	0.9
201407	1235-2		加工痕のある剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	66.3	23.2	553.9	311.6	93.1	128.7	216.7	41.5	4.2	12.4	0.9
201407	1236-1	652	掻・削器	黒曜石 A1類	腰岳系	101.3	21.2	496.3	304.7	88.0	122.3	199.9	42.6	4.3	12.3	0.7
201407	1236-2	658	剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	77.3	27.8	631.0	322.9	98.1	133.0	224.0	41.5	4.4	12.6	0.9
201407	1236-3		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	70.2	21.8	544.4	301.6	91.5	125.2	217.6	41.0	4.0	12.4	0.9
201407	1238		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	76.6	25.4	565.6	325.6	98.6	137.5	226.1	41.3	4.5	12.5	0.9
201407	1246-1		石核	黒曜石 A1類	腰岳系	62.5	23.4	542.6	293.3	89.6	125.2	204.9	41.1	4.3	12.6	0.9
201407	1257-1		残核	黒曜石 C 類	椎葉川系	62.1	28.7	595.0	245.3	345.5	94.0	244.9	26.4	4.8	37.2	1.0
201407	1257-2		使用痕のある剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	62.3	23.5	551.9	309.3	93.8	130.2	218.3	41.2	4.3	12.5	0.9
201407	1260	669	剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	68.1	24.8	597.2	320.4	95.3	132.3	218.2	41.8	4.1	12.4	0.9
201407	1279-3		石核	黒曜石 A1類	腰岳系	69.1	24.5	583.2	315.9	94.0	128.0	213.0	42.1	4.2	12.5	0.9
201407	1287-1		石核	黒曜石 A1類	腰岳系	66.8	24.0	575.1	300.8	92.0	123.4	209.2	41.5	4.2	12.7	0.9
201407	1287-3		石核	黒曜石 B1類	淀姫系	65.5	26.7	800.8	230.5	202.8	105.2	393.1	24.7	3.3	21.8	1.1
201407	1293-1		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	65.3	24.3	553.3	315.8	95.2	129.8	221.1	41.4	4.4	12.5	0.9
201407	1303-1		石核	黒曜石 A1類	腰岳系	60.8	22.2	499.8	300.4	93.2	128.0	217.8	40.6	4.4	12.6	0.9
201407	1315-2	659	剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	68.5	22.3	528.5	295.8	90.9	122.9	204.5	41.4	4.2	12.7	0.9
201407	1317-1		石核	黒曜石 A1類	腰岳系	66.6	24.1	572.2	311.2	94.4	129.1	211.7	41.7	4.2	12.6	0.9
201407	1317-2		石核	黒曜石 A1類	腰岳系	61.8	25.3	557.8	307.0	92.7	130.2	219.2	41.0	4.5	12.4	1.0
201407	1317-3		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	66.8	25.2	578.3	312.2	95.3	128.6	218.6	41.4	4.3	12.6	0.9
201407	1317-4	666	剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	65.9	23.5	567.0	298.0	89.1	123.6	206.4	41.6	4.1	12.4	0.9
201407	1317-5		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	56.3	20.7	500.6	288.6	91.7	124.9	209.7	40.4	4.1	12.8	0.9
201407	1317-6		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	68.4	24.4	592.3	320.6	96.8	132.2	218.1	41.8	4.1	12.6	0.9
201407	1317-7		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	63.8	22.6	545.6	303.8	90.3	123.9	211.9	41.6	4.1	12.4	0.9
201407	1317-8		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	65.7	23.7	576.0	315.0	93.1	127.0	216.3	41.9	4.1	12.4	0.9
201407	1317-9		石核	黒曜石 A1類	腰岳系	59.4	22.5	531.9	290.2	89.3	122.1	206.9	41.0	4.2	12.6	1.0
201407	1317-10		石核	黒曜石 A1類	腰岳系	63.1	22.8	580.5	307.3	96.9	128.9	215.5	41.1	3.9	12.9	1.0
201407	1317-11		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	88.9	25.2	614.6	322.6	96.4	132.2	219.6	41.8	4.1	12.5	0.8
201407	1317-12		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	70.0	24.5	574.7	321.7	99.0	135.5	225.1	41.2	4.3	12.7	0.9
201407	1317-13		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	67.7	24.1	573.0	322.6	98.2	131.4	217.9	41.9	4.2	12.8	0.9
201407	1317-14		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	71.1	24.9	617.7	332.1	99.9	136.5	225.7	41.8	4.0	12.6	0.9
201407	1317-15		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	73.9	27.4	647.9	329.5	97.9	133.6	223.4	42.0	4.2	12.5	0.9
201407	1317-16		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	69.7	24.3	588.7	315.8	95.3	132.4	215.2	41.6	4.1	12.6	0.9
201407	1317-17		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	62.9	22.0	559.8	304.1	94.8	130.1	213.0	41.0	3.9	12.8	0.9
201407	1317-18		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	72.8	26.1	639.8	331.5	99.9	133.3	225.7	41.9	4.1	12.6	0.9
201407	1317-19		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	69.3	24.8	576.3	330.0	98.1	138.1	231.8	41.4	4.3	12.3	0.9
201407	1317-20		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	59.8	22.2	518.8	292.2	88.5	122.5	203.5	41.3	4.3	12.5	0.9
201407	1317-21		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	70.5	25.5	594.7	327.4	99.8	135.0	258.7	39.9	4.3	12.2	0.9
201407	1317-22		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	65.3	23.7	571.8	301.7	92.8	125.9	209.0	41.4	4.1	12.7	0.9
201407	1317-23		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	65.9	23.7	549.8	306.8	96.4	129.4	215.9	41.0	4.3	12.9	0.9
201407	1317-24		剥片	黒曜石 B2類	針尾Ⅰ群	68.3	28.2	788.3	261.9	182.8	115.4	353.4	28.7	3.6	20.0	1.1

第26表　判別データ③

調査区	遺物番号	図版番号	器種	肉眼鑑定	判別結果	K	Mn	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	Rb 分率	Mn×100/Fe	Sr 分率	logFe/K
201407	1317-25		石核？	黒曜石 A1類	腰岳系	68.9	25.3	607.0	335.6	100.1	138.2	230.6	41.7	4.2	12.4	0.9
201407	1317-26		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	83.3	23.5	577.9	328.6	100.4	133.9	229.6	41.5	4.1	12.7	0.8
201407	1317-27		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	67.1	26.0	579.1	300.6	89.1	122.5	207.1	41.8	4.5	12.4	0.9
201407	1317-28	655	加工痕のある剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	73.4	26.2	613.9	332.4	99.7	135.8	225.5	41.9	4.3	12.6	0.9
201407	1329-1		石核	黒曜石 A1類	腰岳系	43.4	17.7	365.7	230.5	73.8	103.0	170.2	39.9	4.8	12.8	0.9
201407	1329-2		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	59.4	24.4	632.9	294.4	92.6	126.3	207.7	40.8	3.8	12.8	1.0
201407	1329-3		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	65.3	24.1	583.6	308.6	95.0	127.6	213.1	41.5	4.1	12.8	1.0
201407	1329-4		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	59.5	21.7	529.2	293.8	90.6	124.2	207.4	41.0	4.1	12.7	0.9
201407	1329-5		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	63.2	21.4	557.5	305.5	92.6	128.3	216.8	41.1	3.8	12.5	0.9
201407	1329-6	656	加工痕のある剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	64.3	24.5	575.6	306.9	94.5	127.5	212.7	41.4	4.3	12.7	1.0
201407	1329-7		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	67.7	24.7	582.4	311.7	95.7	128.3	215.7	41.5	4.2	12.7	0.9
201407	1329-8		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	62.9	23.2	546.0	301.8	91.0	125.8	211.3	41.4	4.2	12.5	0.9
201407	1329-9		掻・削器	黒曜石 A1類	腰岳系	66.5	25.4	577.2	318.1	96.5	132.5	224.1	41.3	4.4	12.5	0.9
201407	1329-10		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	68.1	23.9	628.0	311.9	93.2	126.1	209.5	42.1	3.8	12.6	1.0
201407	1329-11		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	62.6	23.2	532.8	306.0	92.5	126.1	208.6	41.7	4.3	12.6	0.9
201407	1329-12		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	64.2	22.6	535.6	308.9	93.4	132.9	219.4	40.9	4.2	12.4	0.9
201407	1329-13		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	65.3	23.8	548.9	302.1	91.5	123.9	206.1	41.8	4.3	12.6	0.9
201407	1329-14		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	63.1	22.6	543.9	301.1	92.7	126.3	211.7	41.1	4.2	12.7	0.9
201407	1329-15		掻・削器	黒曜石 A1類	腰岳系	64.4	24.0	560.7	306.6	93.6	125.9	217.4	41.2	4.3	12.6	0.9
201407	1329-16		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	62.7	23.1	555.3	299.2	94.0	125.9	213.4	40.8	4.2	12.8	0.9
201407	1329-17		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	63.2	23.7	568.2	302.5	89.3	123.1	209.7	41.7	4.2	12.3	1.0
201407	1329-18		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	67.5	22.4	549.7	303.9	91.2	126.3	208.4	41.6	4.1	12.5	0.9
201407	1329-19		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	69.8	25.6	619.8	327.8	100.8	137.0	226.6	41.4	4.1	12.7	0.9
201407	1329-20		石核	黒曜石 A2類	腰岳系	57.2	21.2	501.0	288.9	87.4	119.9	203.0	41.3	4.2	12.5	0.9
201407	1329-21		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	63.7	21.5	502.0	294.3	87.8	121.8	202.2	41.7	4.3	12.4	0.9
201407	1329-22		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	65.7	23.6	570.1	302.2	92.6	126.2	210.3	41.3	4.1	12.7	0.9
201407	1329-23		石核	黒曜石 A2類	腰岳系	65.9	23.3	555.9	293.4	90.0	122.7	206.7	41.2	4.2	12.6	0.9
201407	1329-24		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	60.2	22.4	538.9	305.1	92.6	127.2	212.4	41.4	4.2	12.6	1.0
201407	1329-25		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	66.3	23.0	565.3	311.0	95.9	129.7	218.3	41.2	4.1	12.7	0.9
201407	1329-26		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	74.3	26.7	627.4	343.7	105.0	140.4	235.6	41.7	4.3	12.7	0.9
201407	1329-27		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	64.0	23.2	548.8	307.6	93.5	128.8	214.7	41.3	4.2	12.6	0.9
201407	1333-12		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	64.5	23.0	558.6	309.7	95.6	125.9	215.7	41.5	4.1	12.8	0.9
201407	1335-1		石核	黒曜石 A2類	腰岳系	65.6	23.8	583.7	321.3	97.8	132.9	222.4	41.5	4.1	12.6	0.9
201407	1335-2		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	67.4	23.1	552.1	315.5	94.3	131.7	215.8	41.7	4.2	12.5	0.9
201407	1335-3		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	58.4	24.9	553.6	291.5	88.8	122.2	209.4	40.9	4.5	12.5	1.0
201407	1335-4		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	60.8	23.9	553.0	301.2	93.0	125.8	212.4	41.1	4.3	12.7	1.0
201407	1335-5		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	66.5	24.4	582.8	316.8	95.7	128.3	216.8	41.8	4.2	12.6	0.9
201407	1335-6		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	74.2	25.8	579.9	327.0	99.4	134.0	226.9	41.5	4.4	12.6	0.9
201407	1335-7		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	98.9	21.4	494.0	298.8	87.9	123.7	203.1	41.9	4.3	12.3	0.7
201407	1335-8		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	63.4	23.1	554.4	298.1	94.5	126.9	221.7	40.2	4.2	12.7	0.9
201407	1335-9		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	68.2	25.4	604.0	329.1	102.7	136.4	229.4	41.3	4.2	12.9	0.9
201407	1335-10		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	107.2	24.1	604.8	327.4	96.0	129.6	214.4	42.7	4.0	12.5	0.8
201407	1335-11		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	65.5	24.7	574.4	322.3	96.9	133.5	222.6	41.6	4.3	12.5	0.9
201407	1335-12		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	67.8	23.8	563.5	307.4	92.0	127.4	214.4	41.5	4.2	12.4	0.9
201407	1335-13		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	63.9	24.1	565.4	298.9	93.1	124.4	215.2	40.9	4.3	12.7	0.9
201407	1335-14		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	67.4	24.3	578.1	318.7	94.8	131.1	218.9	41.7	4.2	12.4	0.9
201407	1339-1		石核	黒曜石 A1類	腰岳系	63.8	22.9	553.9	299.1	91.0	124.3	204.8	41.6	4.1	12.6	0.9
201407	1339-2	657	剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	74.1	28.0	659.5	339.8	104.2	137.1	228.5	42.0	4.2	12.9	0.9
201407	1339-3	660	剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	54.5	20.4	483.3	280.6	88.0	122.8	203.8	40.4	4.2	12.7	0.9
201407	1339-4		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	63.2	23.9	539.9	312.8	95.6	131.2	222.7	41.0	4.4	12.5	0.9
201407	1339-6		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	60.8	22.7	530.9	304.5	91.0	128.7	211.3	41.4	4.3	12.4	0.9
201407	1339-7		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	75.5	26.3	628.4	327.0	97.7	130.1	215.7	42.4	4.2	12.7	0.9
201407	1339-8		剥片	黒曜石 A1類	川棚大崎①	72.9	19.9	609.6	287.1	66.0	129.2	285.5	37.4	3.3	8.6	0.9
201407	1339-9		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	59.0	21.2	514.6	293.5	89.7	122.9	203.1	41.4	4.1	12.7	0.9
201407	1339-10		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	61.6	22.8	525.5	287.4	89.0	121.4	204.1	41.0	4.3	12.7	0.9
201407	1339-11	654	掻・削器	黒曜石 A1類	川棚大崎①	72.1	20.8	622.3	299.9	69.6	136.1	316.7	36.5	3.3	8.5	0.9
201407	1339-12		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	58.0	20.7	485.1	276.7	84.2	118.2	198.2	40.9	4.3	12.4	0.9
201407	1339-13		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	66.7	23.7	569.2	305.3	91.1	128.8	210.6	41.5	4.2	12.4	0.9
201407	1339-14		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	59.2	21.8	513.9	288.8	87.9	122.3	205.0	41.0	4.2	12.5	0.9
201407	1339-15		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	74.9	24.8	580.6	323.9	96.1	131.0	219.6	42.0	4.3	12.5	0.9
201407	1339-16		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	68.5	26.6	610.0	325.3	98.1	135.3	223.2	41.6	4.4	12.5	0.9
201407	1339-17		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	71.2	25.4	618.4	334.6	100.1	136.9	237.7	41.3	4.1	12.4	0.9
201407	1339-18		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	65.2	22.6	557.9	317.1	97.1	129.0	216.0	41.8	4.0	12.8	0.9
201407	1339-19		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	59.9	23.3	525.4	286.4	89.3	119.3	200.4	41.2	4.4	12.8	0.9
201407	1339-20		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	65.8	24.5	602.1	320.7	96.7	135.2	218.1	41.6	4.1	12.5	1.0
201407	1354		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	68.5	25.0	588.3	324.0	98.1	129.2	219.0	42.1	4.2	12.7	0.9
201407	1382-1		石核	黒曜石 A1類	腰岳系	70.1	24.7	569.5	312.4	98.8	128.8	212.9	41.5	4.3	13.1	0.9
201407	1384-1		石核	黒曜石 A1類	腰岳系	66.2	24.4	577.1	308.5	93.5	128.5	215.9	41.3	4.2	12.5	0.9
201407	1384-2		石核	黒曜石 A1類	腰岳系	61.2	22.6	524.5	297.1	90.5	124.9	207.3	41.3	4.3	12.6	0.9
201407	1386	664	剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	88.0	23.0	532.0	330.3	96.5	132.1	218.4	42.5	4.3	12.4	0.8
201407	1393-1		石核	黒曜石 A1類	腰岳系	67.1	23.2	574.6	306.2	92.5	125.0	208.3	41.8	4.0	12.6	0.9
201407	1396-1		剥片	黒曜石 A2類	腰岳系	63.6	22.8	554.7	305.5	94.1	126.1	211.0	41.5	4.1	12.8	0.9
201407	1396-2		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	68.0	26.2	616.3	322.0	100.5	135.7	234.5	40.6	4.3	12.7	1.0
201407	1396-3		剥片	黒曜石 A1類	腰岳系	64.7	23.1	568.7	316.8	95.2	129.3	217.2	41.8	4.1	12.5	0.9

(6)小結

①石器組成

各調査区における石器群の概要について述べる。

TAK201403調査区

本調査区では、縄文時代石器群は出土量が少なく、多くを語ることはできない。剥片石器の出土点数をみると18点に過ぎない。剥片自体に至ってはわずかに3点で、石鏃の11点と比較するとその差が際立つ。調査において回収されなかった可能性は低いと思われるので、もともとの姿であろう。石核が存在しないことや剥片が少ないことからみて調査区内で石器製作が行われた可能性は低い。石斧類は5点出土している。なかでも環状磨製石斧は、破損しているものの、全面を丁寧に研磨した美品である。

石鏃のなかには、早期の岩下Ⅴ層タイプの局部磨製石鏃や後期に主体的に出現する剥片鏃などが存在する。こうしたことから本調査区の石器群は、早期～晩期にかけての所産と考えられ、固有の包含層をもたないことから混在と判断できよう。

TAK201404調査区

本調査区の石器群の最大の特徴は、石鏃と扁平打製石斧の出土量が極めて多いことである。石鏃は、64点を数え、全体の7割を超える。形態からみて、早期の押型文土器に伴うものや後期の剥片鏃、晩期の指標となる五角形鏃など多様であり、複数期の石器群が混在している。石核・剥片も量的に保障されており、調査区内で剥片剥離が行われたと思われる。蛇紋岩を素材とする磨製石斧の中には、前期の曽畑式土器に伴うものも見受けられる。このように本調査区では、早期から晩期の石器群が連綿と出土しているが、主体となるのは晩期である。

扁平打製石斧の出土量は、他調査区を凌駕しており、生業において「農耕」という側面が強いことを物語るものであろう。その一方で、石鏃の面からは「狩猟」活動が窺われる。本調査区では、竪穴建物跡などの遺構が検出されており、石器群のあり方と照らし合わせると、「半農半猟」という生業システムのもとに定住生活をおくっていた姿をみることができよう。

TAK201405調査区

本調査区は、TAK201403調査区と同様、石器の出土量が極めて少ない。器種的にも偏在している状況ではない。遺物では、凹石と併用した石錘が1点出土している。結晶片岩を素材としており、晩期の所産と考えられる。石材において、石英(水晶)・メノウが素材となる点は他調査区との違いとして指摘できる。

TAK201406調査区

本調査区における石器の出土量は大量で、TAK201407調査区と双璧をなす。石鏃の数が、TAK201404調査区に比べて少ない。剥片と石核の量は他調査区を凌駕する。石核とそれに伴う剥片は、形態からみて晩期の所産と考えられるものが大部分である。つまり本調査区では、石器の素材(剥片)製作が盛んに行われたことを物語る。それに見合うだけの黒曜石製の定型石器の量とは言い難い。剥片生産が目的化しているようにも見える。これについては後述する。

特異な遺物では、円刃掻器(ラウンド・スクレイパー)の存在がある。皮革加工に使用されるというこの種のスクレイパーの出現時期は、寒冷期とされ、北部九州では草創期後半の条痕文土器期(ヤン

ガー・ドリアス)とされている。

扁平打製石斧が、他調査区に比べて少ないことや石核・剥片の量からみて、本調査区は石器製作にシフトしていたと想定できよう。

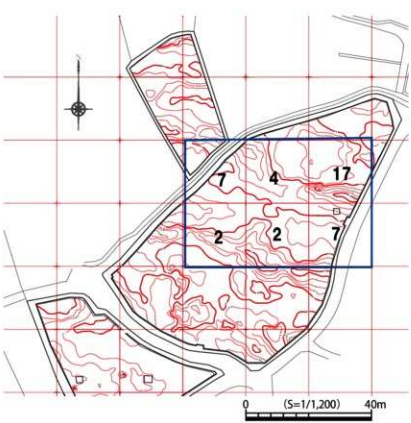
TAK201407調査区

本調査区の遺物の量は、TAK201406調査区と並んで非常に多い。扁平打製石斧は、TAK20104調査区に次ぐ出土量である。石核・剥片の出土量も、TAK201406調査区に次ぐ。本調査区では、石器の素材生産も行うと同時に、「農耕」という生業システムが成り立っていたと想定される。

第27表　石器組成表

器種	1403	1404	1405	1406	1407
石鏃	11(1)	49(4)	3	4	10
石鏃未製品		4		6	2
局部磨製石鏃	1	6			
剝片鏃	1	3	1		
石匙	1				
掻・削器	1' (1)	15(11)	1	16(3)	17(3)
石錐		2			
彫器				1	1
楔形石器	1			1	
礫器					
加工痕のある剝片				12(3)	4(1)
使用痕のある剝片		3	7	4	10
剝片	3	125(8)	2	312(11)	245(10)
石核		12	1	55	44
原石		2		2	
磨製石斧	1	13	2	11	1
局部磨製石斧		2			
打製石斧	1	17	1		1
扁平打製石斧	2	77		12	40
環状磨製石斧	1				
凹石	1	1	1	1	3
石皿		7	1	2	1
石錘			1		
全面磨製石器			1		
両端抉入石器		1			

特に重要な点は、扁平打製石斧の出土状況である。4層の最下部、5層の礫層の直上から40点が出土している。4層最下部からは、縄文時代晩期の精製・粗製土器、刻み目突帯文土器が出土しており、それとの共伴が考えられる。この層が晩期の包含層であれば、扁平打製石斧の原位置性も保障されよう。石斧の出土点数をグリッド単位で、5層(礫層)の地形図に入れ込んだのが第102図である。これをみると、東から西へ延びる小さい谷(落ち込み)の肩にあたる平坦面から多く出土していることがわかる。ここから出土する石器は、扁平打製石斧のみであったというから、想像をたくましくするとここが「農耕」の現場であった可能性は十分考えられる。



第102図　TAK201407調査区における扁平打製石斧の地域別分布

②縄文時代晩期の剥片剥離技術

竹松遺跡では、TAK201406・07両調査区から大量の黒曜石を素材とした剥片・石核が出土している。大半が縄文時代晩期の所産と考えられ、本地域の普遍的なあり方として理解されている。こうした縄文時代晩期の剥片剥離技術について一定の道筋を示したのが橘昌信である(橘1984)。福岡県早良区十郎川遺跡石器群の分析は、今日でもその輝きを失わない。橘は、十郎川遺跡の石核をⅠ類～Ⅳ類に分類する。

Ⅰ類：打面を礫面に固定し、作業面は一面で、上端からの一方向の剥離を行うもの

Ⅱ類：高さ・幅・厚さがほぼ等しく、多面体となるもので、2回以上の打面転移を行うもの

Ⅲ類：単設打面で作業面が複数面に渡るもの

Ⅳ類：上下両端に打面を設定する両設打面をもつもの

とし、Ⅰ類・Ⅱ類が大半を占めるとした。剥片については、目的的に剥離されたと考えられる使用痕のある剥片を分析の対象としている。その結果、最大の長さ5.8cm、幅2.9cm、最小はそれぞれ1.4cm、2.3cmであり、全体として長さで2.5～3.5cm、幅で2.0～3.0cmに集中するとした。そして剥片の幅と石核に残された剥離面の幅の齟齬に言及して次のように述べる。「・・・この差については、限られた大きさの原石から、単設打面・両設打面・打面転移という方法によって、アトランダムに剥離作業を行い・・・」とし、剥片のなかから適当な大きさの剥片の選択利用を考えている。そして十郎川剥片剥離技術を、後期の鈴桶型剥片剥離技術と対比し、非能率的ともいえる剥片剥離技術と評価した。

竹松遺跡に隣接する黒丸遺跡の晩期石器群を稲富裕和が分析している(稲富1980)。稲富は、石核をⅠ型～Ⅳ型に分類する。

Ⅰ型：剥片剥離は打面を転移しながら、多方向より行われるもので、打面調整がないもの

Ⅱ型：亀の甲状に表裏に剥片を剥離するもの

Ⅲ型：一つの方向に、一定方向から剥片剥離が行われるもの

Ⅳ型：いずれにもあたらないもの

とした。橘分類に当てはめると、稲富のⅠ型は、橘のⅡ類に、Ⅱ型は該当なし、Ⅲ型はⅠ類になる。剥片についても興味深い見解が述べられている。石核に残された剥離面の大きさより、小さな石器がほとんど存在しないとし、「何故ここまで剥片を剥離しなければならないのだろうか」と問題提起した。さらに剥片を、遺跡内から発見される同質の剥片石器と比較して、それらを製作しうる大きさ、厚さを持つものと規定した上で、黒丸遺跡の砕片に注目する。砕片を前述の条件を満たさないものとした上で、図示した砕片より石核の最終段階の剥離面の大きさは同等か小さいとし、石器の素材とならない剥片があろうかと疑問を呈する。

以上、橘・稲富両氏の晩期の剥片剥離技術を検討してきた。これ以降、晩期の黒曜石製石器生産が、場当たり的で適当に剥片剥離を行う非能率的な技術という評価が一般化し。21世紀初頭まで続くことになる。

これに疑問を呈したのが渡邊康行の南島原市権現脇遺跡の報告での分析である(渡邊2006)。渡邊は石核を5つに分類する。

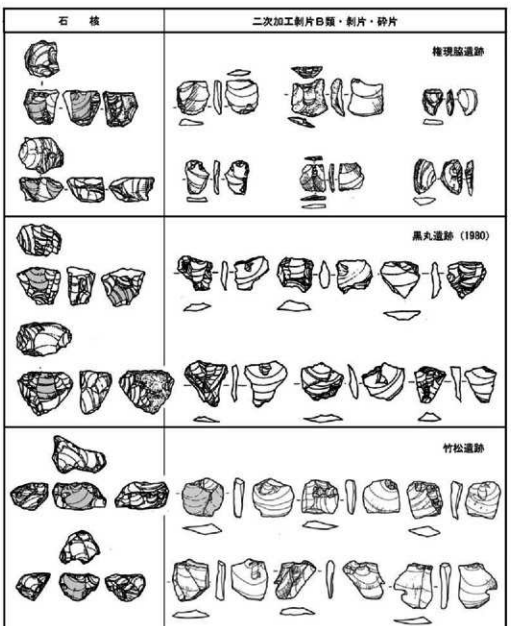
Ⅰ類：打面を1箇所に設定し、同一方向に連続剥離をおこなうもので、作業面は1面ないしは打面の周辺にまで及ぶもの。角錐、サイコロ状を呈するもの

Ⅱ類：両設打面で180度の方向で作業面の剥離が切り合うもの。作業面は1面で、打面には礫打面と調整打面がある。

Ⅲ類：ランダムな打面転移を繰り返し、多方向からの作業面で覆われるもの。

Ⅳ類：Ⅰ～Ⅲ類に分類できないもの

Ⅴ類：分厚い剥片を素材とするもの



第103図　縄文晩期の小型石核と小型剥片

とした。石核の分類の定義の精度は向上している。渡邊の分析で最も重要な点は、二次加工剥片B類の設定であろう。二次加工剥片B類とは、渡邊によれば、剥片の側縁や末端部にブランティング状の急角度加工を施したものをいい、長さ1～3cm程度の縦長剥片・台形状剥片・不定形剥片が大半を占め、加工は限定的なもので、石材はすべて黒曜石A(腰岳系)であるという。報告されている25点の二次加工剥片B類の長さは、1.0～3.3cmの範囲にあり、平均値が2.11cmである。TAK201404調査区のSC2(縄文晩期の竪穴建物跡)の覆土から出土した剥片類と比較すると、SC2出土の黒曜石A1類の剥片は、石器素材に転用できるものを除いて59点で、長さは1.18～3.72cmの範囲にあり、平均は2.07cmであった。さらに黒丸遺跡で稲富が砕片として報告した一群(第103図)を並べてみると、3者の相似性は際立つ。石核においても同様のことがいえる。高さ(作業面の長さ)で比較すると、権現脇遺跡では、15点で平均が2.31cm、竹松遺跡では33点で2.29cmとなり、ほぼ同じと言ってよい。

こうした石鏃等の石器素材には適さない大きさの小型剥片の生産は、その量の多さからアトランダムに剥離した結果であるとか、非能率的と評価されてきた。そこに発想の転換を迫ったのが、渡邊による「二次加工剥片B類」の提唱である(渡邊2006)。縄文後期に出現し、晩期に隆盛するこの種の石器の用途に触れ、その大きさから単体での使用ではなく稜線・バルブ付近の擦痕・磨耗痕からから組み合わせ道具と考えられるとし、一つの案としてトルコの民族例にある木板にフリント石刃を嵌め込んだ脱穀具を想定した。

北部九州では、縄文後期から晩期の時期は、剥片剥離技術にも大きな変化がみられる(神川2010)。後期前半には、鈴桶技法が成立し、隆盛する。後期後半には衰退し、晩期前半にかけて小型石核からの十郎川型剥片剥離技術に移行していく。打面調整を入念に行い押圧剥離によって流麗な縦長剥片を生産する鈴桶技法から、後期後半になると打面調整は簡略化され、晩期に至ってついには平坦打面・礫打面へと収斂し、硬質ハンマーによる直接加撃による十郎川型剥片剥離技術へと移行する。十郎川型剥片剥離技術の真意は、打点部が厚く、上部で折れにくい剥片生産にあるのではないか。この時期は、小畑のいう「狩猟・栽培民」の生業システムによる定住化が進行する時期でもある。土堀具とされる扁平打製石斧の大量生産・大量消費と軌を一にする小型剥片の大量生産は、「栽培」に軸足を置いた集団が採用した「栽培」という生業システムが要請した農耕型剥片剥離技術と呼べる側面をもつものであろう。

③縄文時代晩期の黒曜石にみられる被熱痕跡

竹松遺跡の縄文時代晩期の黒曜石製石器を観察中に、ガラス光沢を消失した剥離面をもつ剥片・石核に気づいた。当初は研磨痕かとも考えたが、実体顕微鏡で観察した結果被熱痕と判断した。黒曜石製石器が多く出土しているTAK201404調査区では、石器の総点数263点のうち126点、06調査区では406点中192点、07調査区では333点中240点であった。その割合は、順に47.9%、47.3%、07調査区は実に72.1%を占める。ガラス光沢の消失原因としては、研磨によるもの、礫面(自然面)、風化(パティナ)などがあり、それらとの誤認も当然考えられるが、それにしても異常に高い割合である。

黒曜石の被熱についての先行研究としては、奥水・福岡(1991)、中沢(2000)、御堂島(2018)などがある。いずれも電気炉を使って、温度、加熱時間等細かく設定している。奥水らは、光沢の失われる条件として木灰との接触が欠かせないとした。中沢は、千歳市メボシ川2遺跡の被熱痕分析と加熱実験を行った。対象となったメボシ川2遺跡の資料は、細石刃石器群のメボシⅠ群で、実体顕微鏡を使っ

て、6種の被熱によるとみられる形態を明らかにした。1は3種のヒビである。1a：表面に走る曲線のヒビ、1b：表面化に形成される魚のウロコ状のヒビ、1c：表面に走る格子状・蜂の巣状の微細なヒビ。2：発泡。黒曜石の内部が白色のスポンジ状になり、軽量化する。3a：平坦な折れ面。バルブやリングが発達せず、折れ面が平坦になるもの。同心円状のリングや波打つものもある。折れ面の光沢は強い。3b：凹凸のある折れ面。剥離面と接する面が不規則の凹凸となるもの。リングはほとんどなく、光沢は強い。この6種の形態が、4963点中2225点(45%)に認められるとした。

次いで、電気炉を使い、温度と時間・木灰の付着を変数として、被熱痕生成の実験を行っている。その結果、1cと3aのみが確認され、他は確認できなかったという。さらに中沢は、被熱痕跡を有する黒曜石石器を、道具として用いられる細石刃などの器種を目的製作物、砕片や削片などを非目的製作物として、石器群の形成過程を検討している。石器製作、石器使用、石器廃棄というカテゴリーを設定し、それぞれの脈絡で被熱黒曜石石器が形成されることを論証したが、いずれに妥当性があるかは、石器群の形成過程・空間の利用状況・火の利用期間の三者間の関係を考慮したモデルの構築が必要であるとした。

御堂島正は、こうした先行研究を踏まえ、石器のライフヒストリー推定のため、加熱実験を行い、被熱痕跡とその生成条件を詳細に検討した(御堂島2018)。御堂島は、実験に当たって、温度、時間、木灰の有無、急熱・急冷など条件を細かく設定しており、その結果、6種15類という多くの被熱痕跡を明らかにした。中沢がメボシ川2遺跡の資料から認識した3種6類に加え、4：変形、5：表面の変化、6：付着物を新たな痕跡として追加した。それらの多くは顕微鏡下で観察されるとしているが、肉眼で観察可能なものとして、1a類：曲線状亀裂、1b類：うろこ状亀裂、2b類：肉眼的気泡、2c類：全体的発泡、3a類：平坦な折れ面、3b類：凹凸のある折れ面、4　類：変形、6b類：塊状付着物の5種8類をあげるほか、5a類は光沢消失部として認識でき、2a類は多数形成された場合は白濁として、1d類、5c類、6a・6b類も密集する場合は光沢消失部として観察が可能とした。

この御堂島論文に依拠して、竹松遺跡の被熱痕跡をみていく(**第104図**)。**510**は、剥片の表面に格子状の亀裂が走る1c類である。**531**・**592**・**593**・**527**は、石核である。**531**・**592**は、ともに表面下にうろこ状の亀裂が走る1b類である。**593**は、3a類の平坦な折れ面の一種と考えられる同心円状のリングをもつもの。この面はポジ面である。こうした同心円状の弱いリングをもつ剥離面をもった石器はほかにも数例ある。**527**は、礫面を保持した石核であるが、全体が発泡しており、本来の色調を喪失している。あわせて発泡によって大幅に重量を減らしている。2c類に該当する。**38**は、晩期の遺構SC2の覆土から出土した貝殻状剥片である。表面の2面の剥離面に曲線状の亀裂が密に走る1a類である。**328**は、被熱面を大きく残した使用痕のある剥片である。斜めに打点のない平坦な折れ面である3a類が看取される。**356**の主要剥離面は、通常の貝殻状のリングは認められず、波打つようなオーロラ状の凹凸をもつリングがみられる。中沢のいう3aに該当するか。

電気炉という人工的な環境下での管理された実験ではないが、自前の実験を試みた。炭火による加熱実験のため、温度管理ができない条件で腰岳産黒曜石を4時間加熱した。素材は、原石を荒割りしたもので、石核様・分厚い剥片・薄い剥片24点である。その結果、肉眼レベルで、平坦な折れ、変形、全体の発泡による白濁化および軽量化、表面のザラつき、亀裂、表面の流動化など多くの被熱痕が観察でき、先行研究と同様の成果を得ることができた。

510

10 倍

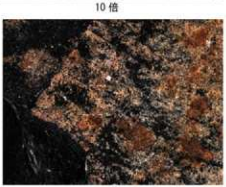
50 倍

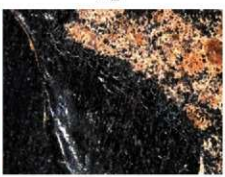
531

10 倍

20 倍

592

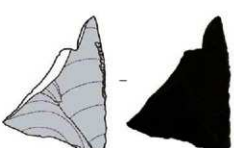

20 倍

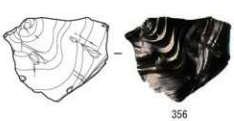

50 倍

593

527

38


328


356

第104図　縄文時代晩期の黒曜石製石器の被熱痕

竹松遺跡で出土した被熱石器について、製作→使用→廃棄という石器ライフヒストリーのいずれの段階で被熱するかを検討したい。器種別の被熱率をみていくと、石鏃・石鏃未製品76点中8点(内未製品5点):10.5%、掻・削器などの石器類42点中20点:47.6%、加工・使用痕のある剥片49点中23点:46.9%、剥片718点中415点:57.8%、石核117点中92点:78.9%であった。剥片および剥片を素材とする石器の主要剥離面には被熱痕が認められない。石鏃も同様である。石核は、総じて被熱面積が大きく、作業面を除く部位に被熱痕が残るものが多い。石核の被熱率は8割に迫る高い頻度である。

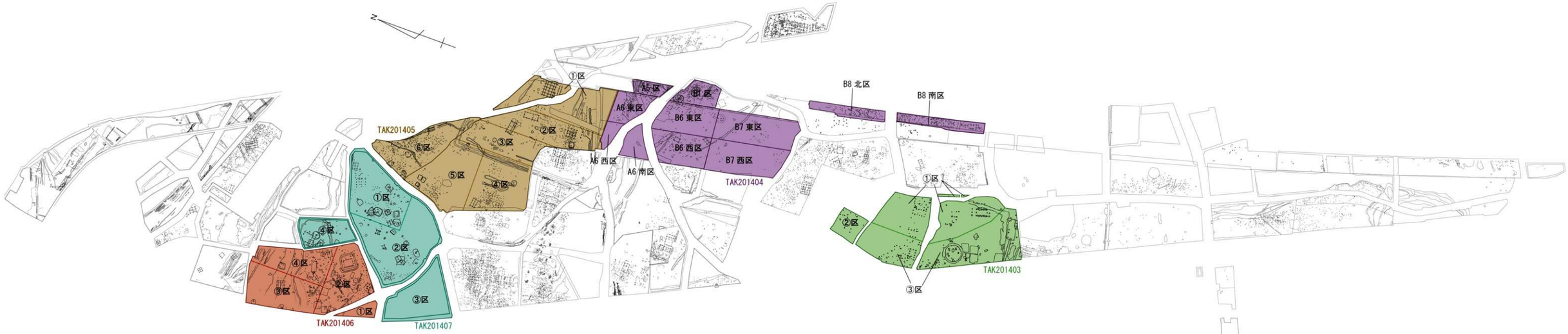
こうした事実から、原石もしくは石核の段階で、炉・焚き火へ投入され、被熱したことは容易に推測される。その後の剥片剥離においては、剥片等に全面被熱の例がないことから、炉・焚き火の周辺からは離れた場所が想定される。こうした石核段階での加熱行為は、石器製作工程の一部として行われたものであり、偶発的とは考え難い。黒曜石の加熱処理が、有効かどうかは見解が分かれているらしい(中沢2000)。縄文晩期の竹松遺跡に突如出現した「黒曜石の加熱」が、何のための行為か、本遺跡のみにみられる特異事象かなど、今後の検討課題である。

竹松遺跡における晩期石器群については、黒曜石石材の獲得という課題もあるがこれについては稿を改めて論じることとする。

※黒曜石の被熱に関して、大正大学教授御堂島正氏のご教示を得た。謝意を表します。

【引用・参考文献】

稲富裕和編1980『黒丸遺跡』大村市黒丸遺跡調査会。
神川めぐみ2010「九州の縄文時代後晩期における石器石材利用と集団間関係」熊本大学大学院社会文化科学研究科博士課程後期学位請求論文。
奥水達司・福岡孝1991「黒曜石の表面光沢消失に関する熱の影響」『考古学と自然科学』第24号、日本文化財科学会。
橘昌信1984「縄文晩期の石器－西北九州における縄文時代の石器研究(6)」『史学論叢』15、別府大学。
中沢祐一2000「黒曜石石器群に認められる被熱痕跡の生成実験と量的評価」『第四紀研究』第39巻第6号、第四紀研究会。
御堂島正2018「黒曜岩の被熱痕跡」『旧石器研究』第14号、日本旧石器学会。
渡邊康行2006「第Ⅳ章　まとめ　第2節　石器について」『権現脇遺跡』深江町文化財調査報告書第2集、深江町教育委員会。



第105図　竹松遺跡全体遺構配置図(1／1500)

0　(S=1/1,500)　100m

報告書抄録

ふりがな	たけまついせき　よん　じょうかん　きゅうせっき・じょうもんへん
書名	竹松遺跡Ⅳ　上巻　旧石器・縄文編
副書名	九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	ＸⅠ
シリーズ名	新幹線文化財調査事務所調査報告書
シリーズ番号	第11集
編著者名	川道　寛・村川逸朗
編集機関	長崎県教育委員会
所在地	〒850－8570　長崎県長崎市尾上町3番1号　TEL095－824－1111
発行年月	西暦2019年7月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
竹松遺跡（たけまついせき）	長崎県（ながさきけん） 大村市（おおむらし） 竹松町（たけまつまち） 676番地 3他	42205	086	32° 57′ 15″	129° 56′ 45″	20140528～ 20150306	35,323㎡	九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）に係る車両基地建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
竹松遺跡	包含地	旧石器 縄文	竪穴建物跡 竪穴状遺構 埋甕	旧石器 縄文土器 縄文石器 環状石器 打製石斧	

新幹線文化財調査事務所調査報告書　第11集
九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書ＸⅠ

竹松遺跡Ⅳ（上巻）旧石器・縄文編

令和元年（2019）年7月発行

発行者　長崎県教育委員会
〒850－8570　長崎市尾上町３番１号
TEL095－824－1111

印刷所　株式会社　昭和堂
長崎県諫早市長野町1007－２
TEL0957－22－6000